



月次	枚數	交換金額	交換差額	平均金額	手形一枚平均金額	
					昭和五年	昭和六年
一月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
二月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
三月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
四月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
五月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
六月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
七月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
八月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
九月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
十月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
十一月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
十二月	二四	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
合計	二四〇	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
昭和五年	二四〇	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇
昭和六年	二四〇	五、四〇・三〇〇	一六、〇九六・六〇〇	四三、四二〇	二一六	一、五〇、二七四・四九〇

盛岡商工會議所

大正十二年八月三十日盛岡市を地區とする商業會議所の設立發起人が認可となり爾後農銀代表の大矢馬太郎氏を始め金田一國士氏等が設立の運動に奔走し大正十四年二月二日會議所設立が認可となる、次いで議員選舉は大正十四年三月盛岡市役所樓上に施行し三十名の議員成り、此處に商業會議所の組織なる、同年四月第一回臨時總會を開

會頭金田一國士副會頭大矢馬太郎氏其他各常議員選任を終る、大正十四年五月には特別議員選舉の結果六名の定員成り、更に昭和三年一月から名稱を改め盛岡商工會議所となつたこれと同時に特別議員も顧問とされ昭和四年三月第二回の議員改選あり會頭金田一國士、副會頭山邊英太郎氏に決定したが同七年兩氏共に辭任し、現在會頭は佐々木德太郎氏、副會頭龜島重治氏である

△事務所 盛岡市役所内  
理事 内村正治郎  
書記 佐藤多七  
○經費 盛岡商工會議所經費は一ヶ年一萬三千圓内外で營業收益税十五圓以上の納付者に對し百分の十二を賦課してゐる、なほ建築準備金として一萬圓の積立金がある  
○選舉權者 盛岡商工會議所議員は八年三

盛岡商工會議所議員名簿

月改選されるが選舉人及び被選舉人は名簿調製期日たる六年十一月一日現在で左の通り

一級選舉人 六五名 被選舉人 六二名  
二級選舉人 六〇九名 被選舉人 五三〇名  
計選舉人 六七四名 被選舉人 五九二名

にして前年に比し選舉人において一六七名被選舉人において一〇四名の減少である

氏名	職名	住所	被選舉人	業種	被選舉人
大矢馬太郎	米、雜穀	岡田源太	被選舉人 六二名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
岩手林業株式會社代表者 小泉多三郎	造林種苗木販賣	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
盛岡製綿株式會社代表者 阿部源次郎	製綿	岡田源太	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
株式會社盛岡貯蓄銀行代表者 小野崎篤造	銀行	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
池野藤兵衛	紙、文具、打刃物商	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
照井重治	旅人宿業、鐵瓶、茶商	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
龜島重治	吳服、太物商	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
齋藤仁助	綿糸、毛糸、木綿織物製造業	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
川村清助	製造業	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
平野金八	吳服、太物商	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
中野興吉	紙、文具、茶商	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
盛岡高等農林學校長	顧問	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
盛岡運輸事務所長	顧問	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
盛岡市長	顧問	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
會頭 佐々木德太郎	株式會社代表者	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
副會頭 上村勝爾	株式會社代表者	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
常議員 高田敏雄	株式會社代表者	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
同 中村謙藏	株式會社代表者	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名
同 佐々木德太郎	株式會社代表者	池野三郎	被選舉人 五三〇名	砂糖、油、電氣器具	被選舉人 五三〇名

岡田源太	盛岡製綿株式會社代表者	阿部源次郎
池野藤兵衛	佐々木德太郎	株式會社岩手商會代表者
株式會社盛岡貯蓄銀行	石川伊助	株式會社盛岡貯蓄銀行
株式會社小野商店代表者	小野崎篤造	株式會社小野商店代表者
岡田善助	村井與三郎	岡田善助
工業部	盛岡電燈株式會社代表者	坂水潔
福田春治	吉田他人	福田春治
齋藤仁助	池野三次郎	齋藤仁助
福士善太郎	照井亦八	福士善太郎
交通部	田村儀兵衛	吉田勇次郎
川村清助	中村與吉	川村清助
岩手林業株式會社代表者	小泉多三郎	岩手林業株式會社代表者
盛岡合同運送株式會社	成瀨武助	盛岡合同運送株式會社

借入金	三、七三、八六六
貯蓄金	四、〇七、二八
貸付金	六、七九、三二七
販賣高(一月以降累計額)	一、五二、六三二
購買高(一月以降累計額)	一、一五、四八六
利用高(一月以降累計額)	五、〇八、四
預金	六、七、七三四
中央信託	二、四、四二
中央金庫	四、三、三六
銀行	一、〇四、一七四
其他	七、三二
有價證券	一、八、〇六六
現金	一、八、〇六六

購買品	三、六四、四八〇
未收入購買品代金	四、九、五九、五〇〇
假出金	七、四、五〇〇
立替金	四、〇〇〇
未收延滞利息	五、七、六一、一五〇
未經過支拂利息	三、九、九〇、〇〇〇
合計	七、八、八〇、七、二六八
借方の部	
出資金	八、五、八〇、〇〇〇
準備金	一、三、〇三、二一五
特別積立金	五、〇三、九二〇
別途積立金	二、七〇、〇〇〇
役員退職給與基金	一、二〇〇、〇〇〇
全購聯未濟出資金	一、四、九、五七、一九〇
中央金庫未濟出資金	七、一、八〇〇
全販聯未濟出資金	四、〇〇〇、〇〇〇
借入金	二、九、四、八〇〇、〇〇〇
當座借越	一、五、八七〇、二五〇
未拂購買品代金	三、三、八七、三二〇
假預り金	四、〇八、二七〇
本年度剩餘金	八、二、七四、〇三三
合計	七、八、八〇、七、二六八
役員	
會長理事	黒澤喜一郎
專務理事	内川喜一郎
理事	高橋繁造

△縣下產業組合情況 (昭和七年六月三十日現在)

組合員數	二、八三
組合員數	三、七〇一
出資總額	三、六、五、三、五
拂込濟出資金	二、三、一、五、四
準備金及諸積立金	一、三、六、三、〇〇

産業組合

拂込未濟出資金	四、八、四、五、二八
中央金庫出資金	一、〇〇〇、〇〇〇
全購聯出資金	一、九、五、〇〇、〇〇〇
全販聯出資金	五、〇〇〇、〇〇〇
信聯出資金	六、〇〇〇、〇〇〇
什器	七、〇〇、七五〇
預け金	四、五、六、七、一〇
振替口座基金	一〇、〇〇〇
販賣假渡金	九、七、六、四、二五〇
販賣掛賣金	九〇、二、六、〇、三〇

貸借對照表 (昭和七年六月三十日現在)

借方の部	
手形貸付金	五、〇、八、七、三、九〇
保證貸付金	二、三、〇、五、三、六、四〇
立替金	一、二、一、四、一〇
未經過借入金利息	一、〇、二、九、六、〇〇
現金	二、四、一、二、九、四〇
合計	三、八、五、八、五、八、七〇
貸方の部	
出資金	三、五、九、六、〇〇、〇〇〇
準備金	二、二、六、一、六、八、五三
特別積立金	八、八、〇、〇、四、八
建物積立金	四、〇〇〇、〇〇〇
貸付金回收準備積立金	五、〇〇〇、〇〇〇
役員退職給與基金	二、三、五、〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	一、七、二、七、三〇
政府低利資金借入金	二、三、三、九、三、四、五〇
産業組合中央金庫借入金	九、〇〇〇、〇〇〇
轉貸資金借入金	八、七、八、〇、〇〇〇
産業組合中央金庫當座借越金	四、五、五、四、一、一〇
保證借入金返	二、三、六、〇、五、三、六、四〇
定期貯金	四、〇、四、三、〇、〇〇〇
通知貯金	二、六、九、二、四、〇〇〇
特別當座貯金	三、三、四、三、三、〇〇
當座貯金	九、六、八、四、五、〇
据置貯金	四、八、九、五、四、〇
未拂借入金利息	二、三、八、五、五、〇
未經過貸付金利息	二、七、四、〇、五、四〇

貸借對照表 (昭和七年六月三十日現在)

未拂貯金利息	八、四、三、七、〇〇
剩餘金	一、二、一、五、九、三、〇
合計	三、八、五、八、五、八、七〇
役員	
會長理事	黒澤喜一郎
專務理事	内川喜一郎
理事	高橋繁造

理事	吉田論
同	高野俊治
同	福士進
同	佐々木休次郎
同	田中銑一郎
同	山内喜左衛門
同	及川右衛門
同	谷村千代太
同	千田稻城
同	淺利壽一郎
同	千葉小平太

手形貸付金	五、〇、八、七、三、九〇
保證貸付金	二、三、〇、五、三、六、四〇
立替金	一、二、一、四、一〇
未經過借入金利息	一、〇、二、九、六、〇〇
現金	二、四、一、二、九、四〇
合計	三、八、五、八、五、八、七〇
貸方の部	
出資金	三、五、九、六、〇〇、〇〇〇
準備金	二、二、六、一、六、八、五三
特別積立金	八、八、〇、〇、四、八
建物積立金	四、〇〇〇、〇〇〇
貸付金回收準備積立金	五、〇〇〇、〇〇〇
役員退職給與基金	二、三、五、〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	一、七、二、七、三〇
政府低利資金借入金	二、三、三、九、三、四、五〇
産業組合中央金庫借入金	九、〇〇〇、〇〇〇
轉貸資金借入金	八、七、八、〇、〇〇〇
産業組合中央金庫當座借越金	四、五、五、四、一、一〇
保證借入金返	二、三、六、〇、五、三、六、四〇
定期貯金	四、〇、四、三、〇、〇〇〇
通知貯金	二、六、九、二、四、〇〇〇
特別當座貯金	三、三、四、三、三、〇〇
當座貯金	九、六、八、四、五、〇
据置貯金	四、八、九、五、四、〇
未拂借入金利息	二、三、八、五、五、〇
未經過貸付金利息	二、七、四、〇、五、四〇

未拂貯金利息	八、四、三、七、〇〇
剩餘金	一、二、一、五、九、三、〇
合計	三、八、五、八、五、八、七〇
役員	
會長理事	黒澤喜一郎
專務理事	内川喜一郎
理事	高橋繁造

經濟——產業組合——專賣局——郵便貯金

什器	四、〇五三・三九〇	借入金	七〇九、九七六・一四〇
岩手銀行特當	一、七九六・八〇〇	中央金庫未済出資金	一、三三三・五八〇
安田銀行特當	五五五・七五〇	絲聯未済出資金	二、九五〇・〇〇〇
中央金庫出資金	二〇〇・〇〇〇	縣絲聯未済出資金	三、四〇〇・〇〇〇
信聯特當	三、四六八・一九〇	未拂借入金利息	八、二〇八・〇〇〇
郵便振替貯金	一〇〇・八九〇	未拂借入金利息	四、九八八・三三〇
縣信聯出資金	四、〇〇〇・〇〇〇	販賣假受金	一九、二五〇・〇〇〇
絲聯出資金	五、〇〇〇・〇〇〇	販賣假受金	六、四三三・二六〇
生絲假渡資金	七、五七五・〇八〇	假受代金	六、九一六・六九〇
屑物假渡資金	九、七七三・〇〇〇	工場假受金	一、七四〇・〇〇〇
假渡出資金	三〇、九九三・六九〇	本年度剩餘金	四、八〇一・四八〇
假渡部利益金	六、〇〇〇・〇〇〇	合計	一、六九二、二四九・〇〇〇
未收入假渡利息	二、〇〇〇・〇〇〇	役員	
未經過割引料	五、一六六・六五〇	會長理事	佐々木保五郎
分工場設備費	七、九八〇・〇〇〇	理事	村上順平
口號假出金	七、〇〇〇・〇〇〇	同	高橋繁造
蠶種部勘定金	一、八四二・五七〇	同	高野晴一
蠶手前貸金	一、四九二・二七〇	同	高橋善三郎
賄品殘高	一、一四九・二七〇	同	坂本勝三郎
消耗品殘高	一、一三三・一五〇	同	梅津善次郎
燃料殘高	一、〇六八・六九〇	同	
未收入加工料	一、七三三・三三〇	同	
現繰損失金	二、四八九・六五〇	同	
繰越損失金	四、九二〇・五二〇	同	
合計	一、六九二、二四九・〇〇〇	同	
出資金	二、五三〇、〇〇〇・〇〇〇	同	
準備金	一、一〇〇・〇〇〇	同	
當座借越金	七、四三四・七九〇	同	

滿洲事變と聯盟

齋藤兼攝外相演說

第六十二臨時議會—七年六月三日貴衆兩院においてなせる齋藤兼攝外相の外交演説は左の如くである  
最近に於ける帝國の重要外交案件に關し茲に報告を兼ね所見を開陳致しまするは私の欣幸とする所であります

日支關係

先づ日支關係に付きましては上海方面の情勢は五月五日上海に於て日支兩軍の停戰協定成立し同地方平靜回復の緒に就きましたのは御同慶の至りであります、本協定の調印を見まする迄には種々なる迂餘曲折があつたのであります、幸にして其の成立を見るに至りましたのは我方の公正なる態度に加ふるに英國公使を始め友好國代表者の非常なる盡力が多大の貢獻をなしたのであります、尙ほ此の機會に私は上海方面に於て奮闘し克く其の大任を全うしたる我陸海軍將兵に對し衷心感謝の意を表するものであります、又四月二十九日同地に於ける爆彈事件の爲め危禍に遭遇せられたる我が陸海軍及外

滿洲事變と聯盟——齋藤兼攝外相演說

種別	口數	金額	口數	金額
貯金受	七四七、五九六	四八〇、三五四・二〇〇	七九七、〇二七	一三、五五七、七四〇・一四〇
貯金拂	二二三、二四九	五、九三〇、〇四七・七四三	三〇九、三三七	九、一四一、三六八・四一九
新規人員	二六、九三三		三六、三三三	九、四一九

岩手縣昭和五年度及六年度貯金受拂調書	差引増減 (黒増)
五年度	七、九七六・一四〇
六年度	一、三三三・五八〇
合計	九、三〇九・七二〇

務官憲並に民國關係者等に對し深厚なる同情の意を表するもので殊に白川派遣軍司令官の薨去は寔に痛恨に堪へない次第であります  
×  
今次の停戰協定に依りますれば支那軍は上海より一定距離に止まるのみならず上海の周圍に於て其の統制の及ぶ限り總ての敵對行爲を停止することゝなつて居り且支那軍の行動に關し疑を生ずる場合に於ては英、米、佛、伊四國代表者が之を確かむることゝなつて居るのであります、かかる右規定が能く守らるゝ限り差當り支那軍隊に依つて上海附近の治安の擾亂さるゝが如きこととはない筈であります、從つて我陸軍は五月十一日陸軍大臣聲明の通り本協定の運用と上海地方平靜確立に關する關係友好國側の今後の活動とに信頼し其の全兵力の内地歸還を行はしめらるゝことゝなつたのであります、右は上海附近に對する皇軍の出動が何等の政治的意圖に出づるものにあらずとの帝國政府累次の聲明を如實に證するものであります、然しながら停戰協定は日支兩軍の停

戰を規定するに止まるのであります、上海附近の恒久的平靜を回復する方法を確定したるものではありませぬ、從つて過去數十年に亘る外支人の平和的努力の結晶たる此の盛大なる國際都市の繁榮を維持するが爲には更に一步を進めて内外人が安全に居住し圓滑に營業し得る状態の確立せらるゝこと極めて肝要であります、斯くして上海地方が過去十數年間屢々各種の不祥なる事件を繰返し來れる不安なる状態より永久に脱却することが出來ますならば之は單に上海地方居住の外支人の幸福のみに止らず實に支那及支那に利益を有する列國の幸福であります、此の趣旨に於きまして私は夙に帝國政府の希望せる所であり又本年二月二十九日支那側同意の下に成立しました聯盟理事會決議に豫想せる所謂圓卓會議が速かに開始せられ且成功を遂げむことを期待するものであります、滿洲に於きましては滿洲國は鞏固なる決意と革新の理想の下に新國家として徐々に發達の道程を辿りつゝあるものと認めらるゝのであります、私は我國民が同國政府の前途に對し多大の希望を懸けて居ることを確信しますると共に滿洲事變に伴ふ國際關係の處理に付きまして右新國家の存在と云ふことは現實

の事實として無視することを許さないものと存するのであります、同國が今後益々健全なる發達を遂げますことは曾に同地方の治安及繁榮の回復増進の爲のみならず東洋平和の確保の爲にも肝要と思考するのであります、同地方に於ける兵匪等不逞分子の跳梁は外部よりする煽動等もありまして容易に鎮靜せぬのであります

が新國家は創立早々のことにもあり未だ充分に治安の回復に當り得る状態に達して居ないのであります、従つて在滿帝國軍は新國家の警備力に對し必要の協力を與ふる外帝國臣民の生命財産が危殆に瀕するとか又は一般治安に動搖を來すと云ふが如き事態の發生を見ます場合には自ら之が鎮定に任ぜざるを得ざる状況にあるのであります、私は滿洲各地に治安維持の爲日夜生命の危険に晒され絶大の犠牲を拂ひつゝある我將兵並に警察官に對し此機會に衷心感謝の意を表したいと思ひます

由來今次滿洲に於けるが如き政治的變動の場合には外部よりする煽動等がなくも反動派又は不逞分子等の跳梁を免れないのであります、新國家の庶政が其の整頓を見るに至る迄には相當の日時を要すること諸外國の實例等に徴しましても明で

あります、從て現下の滿洲に於ける事態の成行に付き紊りに燥急なる態度を以て臨むが如きは私の強く反對せざるを得ざる所でありまして要は假に時を以てし堅實に問題の解決に向つて歩を進むるにあらんと信するのであります

滿洲事變の發展に伴ひまして北滿に於ける我居留民の保護の爲め帝國軍隊は同方面に出動して兵匪に當ることとなりまして其の間該地方に於ける「ソウイェト」聯邦の正當なる權益は常に之を尊重し之に損害を及ぼすが如きことなき様十分の注意を拂つたのであります、此の事實は我軍隊の行動の跡に徴すれば明瞭に觀取せらるゝ所であると存じます、尙帝國政府は「ソウイェト」聯邦政府に對し我軍の北滿出動の目的は居留民の生命財産の保護であつて他に何等の意圖を有するものではないと云ふことを屢々聲明致しましたから同聯邦政府に於ては必ずや帝國政府の眞意のある所を了解して居ること、確信する次第であります、然るに世間滿洲事變を契機として日「ソ」兩國間に戦争の危険あり等と誠にやかに吹聴するもの、あるのは甚だ遺憾でありまして我國民が斯る言説に迷はされざらむことを希望する

ては現下の世界的政治經濟の不安輕減の問題であります、該會議は去る二月以來開催中であり、該會議は陸海空三軍に亘る最初の大會議であり從て會議の期間は相當長引くことと思はれますが帝國政府としては既定の方針に基き我主張の貫徹を期すると同時に本會議が相當の成功を収めむ事を禱つて居る次第であります、又國際經濟關係に付きましては今や世界の各國は何れも自國産業保護等の見地から從來に見なかつた種々の方策を採用するに至りまして之が爲め國際通商上に於ける支障著しきものある次第であります、我が政府に於きましては出來得る限り我對外通商上の支障を少くすることに努力を怠らぬ次第でありまして特に本年に入りましてからも從來多年の懸案でありました我國と葡萄牙國及佛領印度支那との通商協定又は稅率協定の成立を見るに至つたのであります、葡萄牙國とは明治四十四年以來無條約の状態に在りまして不利なる待遇を受け來つたのであります、種々折衝の結果本年三月兩國間に通商協定締結せられ同協定は既に實施を見るに至つて居ります、又佛領印度支那は御承知の通り地理上我國とは極めて近

隣の關係に在り乍ら同方面との通商貿易上重要な關係ある關稅問題に付きまして今日迄何等の取極がなく明治二十九年以來日佛兩國當局の多年の苦心努力も種々の事情に妨げられて其の成果を擧ぐるに至つて居なかつたのであります、然るに昨年頃から交渉の機運漸く動き途に本年五月十三日協定調印の運びと相成りました本協定實施の上は日本と印度支那との通商貿易は從來に比し容易となり彼我の經濟關係は漸次密接を加ふること、存じます、此等協定の成立は前記兩國との國交親善の爲めにも誠に慶賀に堪えない所であります、今や世界は各方面とも種々不安なる状況にありまして就中經濟上の不況は極めて深刻なるものがあります、我國も列國の一員として此の世界的狀況の影響を受けることを免れないと同時に國際的に解決を要する幾多の重大案件を有して居る次第でありまして此の間に處する帝國外交の前途は固より多事多難なるべきを豫期しなければなりません、而して此の帝國外交の重大時期に善處するが爲めには國民的の一致團結が最も重要であるは申迄もありません、私は諸君と共に全國民の支持に依り此の難局の打開に向つて最善の努力を盡したいと思ふの

次第であります

國際聯盟に於きまして上海事件の推移を注視して居た次第は御承知通りでありまして上海に於ける日支停戰交渉一時停頓の際支那側が問題を聯盟に提出しました結果種々紛糾を來したのであります、現地に於て前述の如き停戰協定成立の見込が略々付きましたので聯盟に於ても右の事實に即して其の難局を切抜くこと、四月三十日臨時總會開催の上上海に於ける交渉の促進を慫慂することを大體の趣旨とする決議を採擇し茲に一段落を告げるに至つたのであります、尤も帝國政府は聯盟規約第十五條の適用に異議の留保を致して居ります關係上右決議の採擇に關しましても我方の立場を闡明して棄權したのであります、尙目下現地に在りて調査に従事して居りまする處の聯盟支那調査委員に對しましては我方は其の任務の遂行の爲め出來得る限りの便宜を供與すると共に同委員が支那及滿洲の實情に付き正確公正なる認識を把握せむことを希望して已まないであります

一般外交

日支關係以外の重要外交問題と致しまして

滿洲事變

▲張學良政權の不法なる排日行爲は昭和六年に入つて甚しく、滿鐵包圍、不當課稅等に依つてわが滿洲の特殊權益は全く侵害され、日支間の感情を悪化しつゝあつたが、七月萬寶山の鮮農壓迫事件、次で中村大尉虐殺事件が発生し、わが國論を極度に激發せしめた、たま／＼九月十八日午後十時半王以哲部下の奉天軍が奉天北郊、柳條溝においてわが滿鐵線を爆破し、遂に日支の正面衝突となり滿蒙大動亂の幕が切つて落された。

▲隱忍自重せるわが軍は已むを得ず自衛權の發動となり、その神速なる行動は十八日深更より十九日午後にかけて北大營、奉天城外、兵工廠、飛行場、東大營等を占據し治安維持に當る一方、わが長春部隊は九月十九日激戦の後寛城子、南嶺を占據し、更に吉林、鄭家屯、洮南、撫順、安東等の各主要地點をも占據した

▲この間、張學良舊政權の壓制に反對する東北各地の支那人間に獨立運動擡頭し九月廿八日、熙洽氏の吉林省獨立を魁に、洮南の張海鵬氏、ハルピンの張景惠氏等、相次いで獨立を宣し奉天においても袁金鏡氏を中心に地方維持委員會が組織され舊政權より離脱した



◇日支遂に衝突：一月廿七日村井總領事から上海市長吳鐵城に對し「日連僧に對する暴行事件に關する正式抗議の回答を廿八日午後六時までにせよ」との期限附通牒を外交した、廿八日午後五時吳市長は村井總領事に對し、わが要求全部を承認する旨回答して來た。一方わが陸軍は各國との協定に基きその擔當區域の警備につかんとするや午後十一時開北駐屯の支那軍から挑戦され、こゝに忽ち日支衝突の端を開く

廿九日夜半から午前七時まで開北、租界境界線一帶に亘り激戦又激戦わが軍遂に虬江路の東北全部を占據し北四川路の最前線警備を完全にす、國民政府は開戦を決議せるものゝ如く大部隊を上海に急派南京は戦時状態となつた、夜に至つて停戦協定成立したが三十日支那側はこれを無視して租界砲撃を開始したのでわが軍斷乎應戦した。この日國民政府は洛陽に遷都し、蔣介石、王洪銘等南京を去る

支那側の態度は依然として改らず、砲撃便衣隊の策動等挑戦行爲を繼續し、十九路軍の主力上海集中、義勇軍戦線加入等に伴ひ、漸次我警備線を包圍の状あり、事態は益々重大となつて來たので、廟議は二月二日陸兵派遣と極つた。

海軍でも臨時第三艦隊を編成し野村中將を司令長官に任じて、上海方面全海軍の指揮を取らしめた

◇事變日誌：◇

- 二月
- 三日 日本軍の上海總攻撃開始さる
- 四日 上海第二次總攻撃開始
- 五日 第三次上海總攻撃開始さる
- 七日 日本陸、海、空三軍の吳淞總攻撃開始さる
- 八日 日本軍吳淞右岸の敵を撃退占據した
- 九日 日本軍は上海北停車場の一角を壊滅した
- 十二日 在上海の英米佛駐支三公使は和平解決に關し重光公使を中心に非公式に折衝を開始し、一月三十一日の五項目調停案と別個の調停案を作成することになつた
- 十四日 上海派遣を命ぜられた第九師團は植田○團長以下堂々上海に上陸した
- 十五日 植田○團長は第十九路軍に對し二十四時間内に上海を距る三十キロの地帯に撤退すべき旨要求した
- 十八日 植田○團長は十五日の要求に對する十九路軍回答の暴慢なるため遂に最後通牒を發した
- 二十日 最後通牒に對する支那側回答なき

爲め日本軍は午前八時半總攻撃を開始、直ちに江灣鎮を占據した

廿二日 爆彈三勇士廟行鎮を抜く

廿七日 日本軍開北砲撃を開始、江灣鎮を陥落せしめた

廿八日 英駐支公使ランブソン氏は南京に到着、外交部長羅文幹氏等と會し上海衝突の調停に關し意見を交換し、英、米、佛伊等の圓卓會議實現の可能性を増加せしめた

廿九日 上海在泊の英旗艦上に日支代表、列國官憲出席の下に停戦豫備會議が開催された

三月

- 一日 白川大將は上海派遣軍司令官として上海附近に上陸。上海、大場鎮方面總攻撃開始され、敵軍早くも動搖す
- 二日 大場鎮遂に陥落、長驅真茹を抜く
- 三日 一舉南翔、嘉定の線まで躍進した上海派遣軍に對し停戦命令下る、吳淞砲臺を陸海軍協力完全に占據す
- 十四日 上海附近の事態漸次静康に復し得たるに鑑み、第十一師團、混成二十四旅團及若干の特殊部隊に對し、内地歸還命令下る
- 十九日 上海停戦豫備會議は日支兩代表の

意見著しく接近した、め愈々本國政府に請訓正式會議開催の段取りとなつた

二十日 上海方面戦局一段落を告げた、め海軍第三艦隊より第三戰隊、第一水雷戰隊、第二水雷戰隊、第一航空戰隊を除かるゝこととなり内地歸還を命ぜらる

▲四月

廿九日 上海新公園における天長節祝賀式において君ヶ代合唱中、突如式臺上の我首騰部めがけて手りう彈を投じたものがあり、白川大將、植田中將、野村中將、重光公使、村井總領事の諸氏は負傷す。犯人朝鮮人尹奉吉(二四)外十三名は直ちに逮捕された

▲五月

五日 上海停戦最後の本會議は上海イギリス總領事館に開會、停戦協定の調印を終る。上海派遣軍司令部は國軍は六日より撤收を開始の通告を公布す

十日 日支停戦協定が成立し、我が上海派遣軍の目的が達成せられたので「上海地方平靜確立に關する關係友好國代表の活躍に信賴し」上海派遣軍を全部歸還せしむることに決定した

廿六日 上海派遣軍司令官白川大將は爆彈事件の豫後思はしからず容體急變午前五時逝去

事變と聯盟

第一次通告

昭和六年九月二十二日附聯盟理事會議長スペイン外相レルー氏より幣原外相宛通告

滿洲に於ける事態に關する聯盟規約第十條に基く支那政府の訴への爲め二十二日の會議に於て理事會は全會一致を以て左の處置をとる事を余に許可したる事を閣下に通告する光榮を有す

- 一、現状を悪化し問題の平和的解決を害する恐ある一切の行爲をなさざるべき緊急通告を支那及日本政府に送る事
- 二、各自の國民の安全及びその財産の保護が危険ならしめらるゝ事なくして兩國が各自の軍隊を直に撤退し得べき適當なる手段を支那及び日本の代表と意見交換の上探求する事
- 三、當理事會は本條に關する理事會議事録及び書類を參考の爲北米合衆國政府に送

の必要範圍の最大限度に迄撤退したるものにして事態今後の改善に伴ひ更に能ふ限り鐵道附屬地内に復歸せしむる方針なるを以て右日本政府の誠意ある態度を信頼ありたし

理事會の決議(九月三十日)

- 一、理事會議長が日支兩國に致せる緊急通告に對する右兩國の回答及該通告に從ひ爲されたる措置を了承す
- 二、日本が滿洲に於て何等領土的目的を有せざる旨の日本政府の聲明の重要なを認む
- 三、日本政府は其住民の生命の安全及其財産の保護が有効に確保せらるるに從ひ日本軍隊を鐵道附屬地内に引かしむる爲に開始せられたる軍隊の撤退を出來得る限り速に續行すべく最も短期間内に右の意向を實現せんことを希望する旨の日本代表の聲明を了承す
- 四、支那政府は日本軍隊の撤退の續行並支那地方官憲及警察力恢復の成就に從ひ鐵道附屬地外に於ける日本臣民の安全及其財産の保護の責任を負ふべき旨の支那代表の聲明を了承す
- 五、兩國政府が兩國間の平和及良好なる了解を攪亂する虞ある一切の行爲を避けんことを欲するを信じ兩國政府は各自に事

件を擴大し又は事態を悪化せざる爲の必要なる一切の措置を執るべしとの保障を日支兩國代表より與へられたる事實を了承す

- 六、兩當事國に對し其間の通常關係の恢復を促進し且之が爲前記約定の履行を續行且速に終了する爲兩國が一切の手段をつくすべきことを求む
- 七、兩當事國に對し事態の進展に關する完全なる情報を屢々理事會に送らんことを望む
- 八、緊急會合を余儀なくするが如き未知の事件發生せざる限り十月十四日同期日に於ける事態審査の爲更に壽府に會合す
- 九、理事會議長が其同僚特に兩當事國代表の意見を求めたる後事態の進展に關し當事國又は他の理事會員より得たる情報に依り前記理事會召集の必要なきに至れりと決定する場合は右召集を取消すことを議長に許可す

米國僑民者招請案可決

十月十五日【ジュネーブ發電】 國際聯盟理事會は十五日午後五時半日支紛争審議に關し米國のオウザワグアアを招請すべきや否やにつき投票により採決を行つた結果、日本代表芳澤大使が本國政府の訓電に基き反對の票を投じたる外全員賛成の投票をな

し十三對一でオウザワグアア招請案を可決した、右は本議題を議事手續き上の問題と見なし滿場一致を要せず多數決にて決定してよい問題なりとの解釋の下に行はれたものである

決議案を可決

十二月十日【パリ發聯合及電通】 日支紛争問題處理に關する第三聯盟理事會の最終公開會議は、いよ／＼十日午後四時四十二分(日本時間十一日午前一時四十二分)よりフランス外務省時計の間に開會、席上わが芳澤代表は日本の理事會決議案を受諾する意向なる旨を聲明し、引續き支那代表施肇基も同じく決議案受諾を宣明した、かくして決議案は全會一致をもつて可決された

理事會決議(假譯)

理事會は

- 一、兩當事國は嚴肅に遵守する旨宣言し居れる一九三一年九月三十日理事會全會一致可決の決議を再び確認す、依て理事會は右決議の定むる條件により日本軍の鐵道附屬地内撤収が成るべく速かに實行せられんが爲日支兩國政府に對し右決議案を確保するに必要な一切の手段を講ぜんことを要請す
- 二、十月二十四日の理事會以來事態更に重大化したるに鑑み、理事會は兩當事國が

此上事態の悪化するを避くるに必要な一切の措置を執り、又此の上戦闘又は生命の喪失を惹起することあるべき一切の主動的行爲を差控ふべきを約することを了承す

- 三、兩當事國に對し情勢の進展に付引續き理事會に通報せんことを求む
- 四、其他の理事會に對し其關係地域に在る代表者より得たる情報を理事會に提供せんことを求む
- 五、上記諸措置の實行とは關係なく本件の特殊なる事情に顧み日支兩國政府による兩國間紛争問題の終局的且根本的解決に寄與せんことを希望し、國際關係に影響を及ぼし日支兩國間の平和又は平和の基礎たる良好なる諒解を攪亂せむとする虞れある一切の事情に關し實地に就き調査を遂げ理事會に報告せんが爲五名より成る委員會を任命するに決す

日支兩國政府は委員會を助くる爲め各一名の參與委員を指名するの權利を有し、兩國政府は委員會が其必要とすべき一切の情報を實地に就き入手せんが爲の各般の便宜を委員會に供與す

兩當事國が何等かの交渉を開始する場合には右交渉は本委員會所定任務の範圍内に屬せざるべく、又何れかの當事國の軍

事的措施に苟も干渉することは本委員會の權限に屬せざるものと諒解す、本委員會の任命及審議は日本軍鐵道附屬内地撤収に關し九月廿日の決議に於て日本政府の與へたる約束に何等影響を及ぼすものに非ず

- 六、現在より一九三二年一月二十五日に開かるべき次回通常理事會期迄の間に於て本件は依然理事會に繫屬するものにして議長に於て本件經過を注意し若し必要あらば新に會合を招集せんことを求む

日本理事會留保宣言(假譯)

理事會に提出せられたる決議草案第二項に關し右は日本軍に於て滿洲各地に猖獗を極むる匪賊並に不逞分子の活動に對し、日本臣民の生命財産を直接保護する爲に必要なべき行動を執ることを妨ぐるの趣旨に非ずとの諒解の下に日本政府の名に於て本項を受諾するは本理事會の欣幸とする所なり、而して右の如き軍事行動は滿洲現下の特殊狀況に基く例外的措置にして同地方に於て正常状態が回復せらるると共に自然其の必要なきに至るべし

英米正式抗議を提起す

二月一日、米國大使フォオプス氏は一日午後三時英國大使リンドリー氏は同五時外務省に芳澤外相を訪問しそれ／＼本國政府

の訓令に基き口頭をもつて上海事件に關する正式抗議を提起した、右は英米兩國政府の協議の結果に基く共同抗議なること疑ふべからざることであつて兩國の對日態度は果然いよ／＼露骨に表面化するに至つた

右はいづれも相當に強硬なる意思表示でその主要部分に次の諸點である

- 一、日本軍の軍事行動は正當防衛的自衛手段の範圍を越え必要以上の處置に出でたる點ありと認められる
- 一、上海共同租界は日本一國の租界に非ずして列國それ／＼權益を有する特殊の性質を帯びたる地帯であるこの共同租界を日本が軍事行動の根據地となしたるため租界が戰禍を蒙り英米居留民の生命財産は危機にひんしつつかあるこれは日本の責任である
- 一、日本は單獨の行動は取らず共同租界の性質に合致するが如き行動において租界の防衛に當るべきものである
- 一、しかして租界を速かに常態に回復せしめるため一切の處置を取るやう要求する
- 一、日本軍は空軍の爆撃によつて支那の武装なき非戦闘員に危害を加へた、かゝる行動は第三國として到底黙視し得ざるところである

佛國も對日注意喚起

二月一日【ワシントン發聯合】 佛國政府は



一日米國政府に對し今回日本によつて惹起された上海の事態に對し英米伊各國と共に抗議すべき旨の正式通牒を送つた

伊太利政府の聲明

二月二日【ローマ發聯合】伊太利政府は上海への軍隊並に軍艦派遣に關し二日次の如き聲明を發表した

他の各國と同様伊太利は上海に艦艇を派遣するに決したが之は専ら在留民保護の目的に出づるものである、上海の情勢に關する伊太利政府の懸念は既に駐日大使ジヴァンニツエサーレマイオーニ氏を通じてこれを日本政府に通じた

伊太利艦艇の出動は此の懸念の表明に他ならず何等抗議の意味を有するものではない

日本政府の回答全文

昭和七年二月四日付在本邦英米佛各國大

使あて回答

以書簡啓上致候陳者貴國政府の訓令に基き本月二日付貴簡を以て上海事件に關する提議御通報に相成り敬承致候同提議に對する帝國政府の所見左の通なるに付右に御承知相成度

(一)支那軍の挑戦並に騷擾的行爲を即時かつ完全に停止せしむるを要す、右にして確保せらるゝにおいては帝國軍においても戦闘行爲を中止す

(二)支那側(正規軍たる便衣隊たるを問はず)にして挑戦もしくは騷擾的行動ある場合帝國軍の取るべき行動については完全にその自由を留保す

(三)支那側從來の不信なる行動並現在の重大なる形勢に鑑み我方としては動員又は戦闘の準備をなさざることは不可能なり

(四)支那双方交戦者の離隔及び必要に應じ關北付近中立地帯の設定に關し領事及軍隊指揮官をして取極の交渉に當らしむるに異存なし

(五)所謂兩國間に現存する一切の紛争中には滿洲事件を含むものと解せらるゝ處同事件は上海事件とは全然別固の問題なるのみならず滿洲事件については客年十二月十日の理事會決議も存しをり、かつ又同伴の解決につき第三國監視者又は參與

者の援助を受諾し得ざるは帝國政府の既定方針なるを以てかたゝ本項は我方の同意し得ざる所なり

右回答かたゝ本大臣はこゝに重ねて閣下に向つて敬意を表し候 敬具

一九三二年二月四日

世界の動き(昭和六年七月より七年七月まで)

イギリス

金本位停止 一九三一年九月二十一日金本位制停止に關するコムミニケを發表した理由は七月中旬以來二億ポンド以上がロンドン市場より引揚げられ更に最近數日に於ける外國勘定の引揚は極めて甚大となり政府はこの決定をなすに至つた(聲明書)

イングランド銀行は廿一日より公定割引歩合を四分半より一舉に一分半引上六分丁度に改定した

擧國一致内閣 英國の財政状態は容易ならぬ危機に直面し一九三二年度に十二億の赤字を出すべしとの節約委員會の報告があつたが教師、警官の俸給に大削減を加へたり失業保險を減額する事は至難であつたので八月廿日マツク首相は保守黨のネヴィルチェンバール及自由黨のハーバート・サムエル氏を招き五割節約五割増税案を説明したが保守黨は七割五分節約、二割五分新設案を出し、妥協の望みなく遂に廿四日マツク首相は參内して辭表を捧呈したが、陸

下は再び内閣組織の大命をマツク氏に下したとして勞、保、自三黨首領の御前會議が開かれて五日遂に擧國一致の新内閣が成立したのである

- 首相 マクドナルド(勞)
樞府議長 ボールドウィン(保)
藏相 スノーデン(勞)
内相 サミュエル(自)
大法官 サンキー卿(勞)
外相 レイデング卿(自)
印度事務相 サミュエル・ホーア(保)
殖民地相 ジェー・エッチ・トーマス(勞)
保健相 ネヴィル・チェンバール(保)
商相 カンリフリストア(保)
(以下閣外大臣)
文相 マックリーン(自)
労働相 ベタートン(保)
工部相 ロンドンデリー侯(保)
ランカスター公領尙書
陸相 クリウ侯(保)
農相 ギルモア(保)
航空相 アムルリー卿(勞)
海相 オースチン・チエンバール(保)
スコットランド相 シンクレア(自)
かくて九月十日議會に於て所得税一割増

世界の動き——イギリスドイト大統領選挙

率、娛樂税一割六分六厘引上、教師一割五分以内、裁判官一割以上二割、閣員も同率、議員の歳費一割減の節約案が下院に提出され二十九日上院を通過した

總選挙 十月二十七日を期して總選挙が行はれたが開票の結果左の如し

議員總數 六一五

政府與黨 五五一

内譯

保守黨 四七二名

國民労働黨 一三名

自由黨 六六名

反對政黨 五九

内譯

労働黨 五二名

自由黨 四名

其他 三名

内閣改造 十一月五日黨派的にあらず擧國一致になつた、閣僚を二十名とした

首相 マクドナルド(國民勞)

藏相 ネヴィル・チェンバール(保)

外相 サイ・ジョン・サイモン(國自)

海相 サイ・ポルトン・アイヤース・モンセル(保)

商相 ダブルユー・ランシマン(國自)

自治領相 (留任)

殖民地相 カンリフリストア(保)

- 印度事務相 (留任)
陸相 (ールシャム卿(保)
航空相 ロンドンダリー卿(保)
内相 (留任)
樞府議長 (留任)
國爾玉尙書 スノーデン(國勞)
文相 (留任)
農相 (留任)
労働相 (留任)
工部相 オームスビー・ゴア(保)
大法官 (留任)
スコットランド相 (留任)
保健相 サイ・ヒルトン・ヤング(保)
(留任)

ドイト大統領選挙

ドイト大統領選挙は一九三二年三月十四日開票の結果

ヒンデンブルグ 一八、六二、七三

ヒトラー(國粹社會黨) 二、三六、五二

テールマン(共產黨) 四、九二、〇七九

デュステルベルヒ(鐵甲派) 二、五七、八七六

ヴァインター(革命黨) 二、二、四三三

ヒンデンブルグ元帥は憲法規定の絶對多數(他の候補者の得票合計數に一票以上を加へたもの)に達せざる事三二八、二四三票で當選しなかつたので四月十日第二回選挙を行つた結果ヒ元帥は當選した

ヒ元帥 一九、三七、六八八

ヒトラー  
テールマン  
一三、四九、六〇三  
三、七〇五、八八九

### チリとシヤムの革命

一九三二年六月四日サンチャゴ市に革命軍進入大統領官邸を占領、軍事委員会は社會主義共和國の樹立を宣言した  
同六月廿二日シヤム王國に軍部を中心とした革命勃發し獨裁君主制が覆り立憲君主制が確立せられるに至つた、死者一名丈

### 一般軍縮會議

一九三二年二月二日ジュネーブに一般國際軍縮會議が開かれたが参加するもの五十八ヶ國であつた、審議を重ねたが、各國は軍事費に苦しみ乍らも依然として武裝的平和以外に平和手段なしといふ調子で各自勝手な事のみ主張して止まる處がなかつた  
六月廿二日フーヴァは突然に左の三分一天引案を提案した、各國が厄介扱したが妥協行はれて一般委員會に英、米、佛、伊の共同提案として軍縮決議案が掛けられる事になり七月二十三日の本會議で採擇一先づ閉會となつた、米國案は例によつて日本の軍縮を要求し自國には軍擴を意味する  
米國の三分一軍縮案 余は次ぎの諸原則が軍備の縮小に關する我々の指導原理たるべきことを提案する  
一、ケロッグ・ブリアン不戰條約は全世界

の國家が自國の兵備を専ら防禦のためのみ使用すべきことに同意したることを意味するに他ならない  
二、この軍備縮小はひとり廣はん且一般的軍備の削減によつてのみならず、攻撃力を減少し、かくして比較的防禦力を増加することによつて遂行されるべきものである  
三、國際間の軍備は一般的且相互的關係において相互に増加した、しかしてこれを一般的にいへばかゝる相關々係は軍備の縮小に關しても保持されるべきものとす  
四、軍備の縮小は實質的にして且積極的なを要す、且經濟的救済を實現せざるべからず  
五、こゝに處理すべき三箇の問題がある、陸軍、空軍及び海軍これである、しかしこの三者はすべて相互に相關聯し余がなす諸提案のいづれの部分もその一を他より分離することが得ない  
これらの諸原則を基礎として余は世界の軍備が約三分の一だけ減少されるべきことを提案する

△陸軍 一切の陸軍の防禦的性質に對してその攻撃的性質を縮小する見地より一切の戰車、一切の大科學的戰爭方法及び一切の大型遊動重砲の全廢案の採擇をこゝに提案する  
間際に於ける戰艦、航空母艦の相對的航海軍兵力はワシントン條約によつて既に確定されてをり巡洋艦、驅逐艦及び潜水艦における相對的兵力は日、英、米三國に關する限りロンドン條約によつて確定されて居る、本提案の諸目的のためには佛伊兩國の巡洋艦及び驅逐艦における兵力は兩國が大體いはゆる一九三一年三月一日の佛伊協定を基礎としてロンドン條約に参加したものと測定する

△空軍 擧撃機は一切廢止するべきものとす、この結果一般市民に對する攻撃能力を有する軍時に空中よりの一切の擧撃を全然禁止すべきものとす  
△海軍 條約所定の戰艦の隻數及び總噸數を三分の一だけ縮小し條約所定の航空母艦、巡洋艦及び驅逐艦の總噸數を四分の一だけ縮小し條約所定の潜水艦の噸數を三分の一だけ縮小し何れの國家も三萬五千噸以上の潜水艦噸數を保有せざるべきことを提案する。日、英、米、佛、伊主要五海軍國の

する、但し右提案は國境又は海岸防禦のためにする如何なる性質の要塞の構築乃至その増大を防げるものではない、右提案は攻撃力に對比しこれ等要塞の防禦力を増加する結果とならう、余は更にいはゆる警察力以上及び以外の一切の陸上軍隊の力を三分の一だけ縮小する事を提案する。多數國家の陸上軍備は國內秩序維持のために必要な「警察力」と、外國攻撃に對する防禦的目的のために必要な「防禦力」と兩個の機能を有つ、余はこゝにこれ等陸軍の相異なる構成要素が分離されるべきことを提案するのではなないが、陸軍の縮小に關する具体案を提案するに當つてはこれ等の機能に關する以上見解を考慮に容れる必要がある。ヴェルサイユ條約及び其の他の講和條約の下にドイツ、オーストリア、ハンガリー、ブルガリアの陸軍は國內秩序の維持に適當と思推される大いさに縮小された、就中ドイツはその人口約六千五百萬に對し十萬の軍隊を割當られた、かくドイツ並にこれ等の諸國に許容された平均に比例した基礎的警察構成軍をすべての國家に割當てる事を提案する、この公式に對して更に殖民地を領有する諸國の場合必要な修正を施せば、全世界の諸國がその國內秩序維持のために必要な軍隊を得ることが出来るよう、これ等再構

成要素をかく分せきした結果余は上述の如く警察力以上及び以外の一切の陸軍力を三分の一だけ縮小することを提案す  
△空軍 擧撃機は一切廢止するべきものとす、この結果一般市民に對する攻撃能力を有する軍時に空中よりの一切の擧撃を全然禁止すべきものとす  
△海軍 條約所定の戰艦の隻數及び總噸數を三分の一だけ縮小し條約所定の航空母艦、巡洋艦及び驅逐艦の總噸數を四分の一だけ縮小し條約所定の潜水艦の噸數を三分の一だけ縮小し何れの國家も三萬五千噸以上の潜水艦噸數を保有せざるべきことを提案する。日、英、米、佛、伊主要五海軍國の

第二次五年計畫  
勞農聯邦は一九三二年末を以て完了する第一次計畫に引續き更に尨大なる第二次計畫を編成し一月三十日よりモスコに於て開催の第十七回共產黨大會に上程可決した

## 軍 事

### 第八師團

所在地 青森縣弘前市富田町  
管轄區域 青森縣、秋田縣、岩手縣、山形縣及び宮城縣下栗原、登米、本吉の三郡  
統轄部隊 軍法會議、弘前衛戍拘禁所、青森聯隊區司令部、盛岡聯隊區司令部、秋田聯隊區司令部、山形聯隊區司令部、步兵第四旅團司令部、步兵第五聯隊、步兵

第三十一聯隊、步兵第十六旅團司令部、步兵第十七聯隊、步兵第三十二聯隊、騎兵第三旅團司令部、騎兵第八聯隊、騎兵第二十三聯隊、騎兵第二十四聯隊、野砲兵第八聯隊、工兵第八大隊、輜重兵第八大隊、弘前衛戍病院、秋田衛戍病院、青森衛戍病院、盛岡衛戍病院、山形衛戍病院 衛 戍 各 隊  
本縣は第八師團管下で盛岡市に聯隊區司令

部あり、徵兵召集在郷軍人に關する一切の事務を司り、兵事行政は縣學務部社寺兵事課で司る  
騎兵第三旅團司令部  
創立年月日 明治四十三年七月一日  
所在地 岩手郡厨川村  
騎兵第二十三聯隊  
創立年月日 明治四十二年七月十日  
所在地 岩手郡厨川村  
騎兵第二十四聯隊  
創立年月日 明治四十三年七月十日  
所在地 岩手郡厨川村  
工兵第八大隊  
創立年月日 明治四十年六月十五日  
所在地 岩手郡厨川村  
盛岡衛戍病院  
創立年月日 明治四十一年六月卅日  
所在地 岩手郡厨川村  
盛岡憲兵分隊  
創立年月日 明治四十一年十月十日  
所在地 盛岡市仁王小路  
盛岡聯隊區司令部  
創立年月日 明治二十二年五月十三日  
所在地 盛岡市内丸  
滿洲事變と本縣  
鈴木混成旅團出動  
昭和六年九月十八日！ 支那正規兵が奉

天北大營西南側の我が満鐵本線鐵道を爆破し、柳條溝の我が鐵道守備隊を攻撃す、これを端緒に日支兩軍遂に干戈を交へ、こゝに滿蒙の天地は俄然大動亂の巻と化した。が事變勃發するや我等東北健兒は第一線に立つてあらうと、我が東北健兒等の血は躍動、切齒扼腕、その出動を期待してゐた。

我が政府はその後の北滿の形勢重大なるに鑑み十一月六日滿洲方面に於ける朝鮮部隊と交替すべき部隊を内地の兩師團より編成すること、又兩師團以外より特科部隊若干を派遣することに決定し、朝鮮より出動の混成旅團は原隊に復歸することになつたが同日弘前師團より混成一ヶ旅團を滿洲に派遣する具體的の上奏案成立し、上奏御裁可の上發令せられた、依つて弘前師團司令部では參謀本部動員課森田中佐を迎へ西師團長以下、小林參謀長、鈴木旅團長以下首腦部は緊張裡に熟議、議定るに及んで猛然出動準備に着手した。

◇出發の情況 我等が弘前歩兵第三十一聯隊よりの滿洲派遣部隊は十一月十四日未明午前零時不時呼集の喇叭の音に床を蹴起し戦友の暖かき手助けも藉らず、總て眞新らしき戦時第一裝の軍衣袴裝具に身を固め日頃練武の銃劍に武裝凛々しく同三十分霜は地に凍る夜半の營庭に肅として整列を終つた派遣部隊は小泉於兎彌工兵大尉の指揮する〇〇名と決定、十一日軍裝檢査を施行、十二日午前七時盛岡驛を出發、青森にて西師團の主力と合し、いよゝ、四月十三日未明より青森港に碇泊の運送船に乗船を開始、西師團長以下の各幕僚と共に青森、岩手兩縣民の熱狂的な歡送の裡に午後二時四十二分出港、一路大連に向つた。

懷しの盛岡を後に 小泉派遣隊は出發當日の十二日午前三時半營庭の間に整列して人員點呼、輪送中船車暈ひ、急病等應急手當のためクレオソール丸其他藥品の分配等を行ひつゝ、出發時間を守つたが午前四時小泉隊長は輪送中に關する注意を述べ同四時廿分上原隊長に對し敬禮を以つて最後の別れを告げ前進を開始、宮田中尉の第一〇隊、山田中尉の第二〇隊、野々垣少尉の第三〇隊、金子一等軍醫の衛生班續きりうれうたる進軍喇叭に歩武堂々營門を出で懐しき兵舎に別れを告げた。午

つた、一方派遣部隊を見送る二年兵、殘留兵等は各先任下士官の引率にて營門より弘前停車場に至る富田町に整列して之を待つた。やがて零時四十分派遣部隊は行進を起し營門に差掛るや勇ましき進軍ラッパと之を送る營兵のラッパに歩武堂々各隊長の軍刀色寒く眞に軍威四隣を拂うて首途の第一歩に上つた、沿道各商店では特に軒提灯をつるして店頭を開放各種團體學校生徒は沿道に堵列し國旗を振りつゝ、萬歳の歡呼を浴びせる、かくて一旦弘前停車場前に小憩後混成旅團長鈴木美通少將以下旅團司令部幕僚、通信、衛生隊等と共に臨時軍用列車に乗車、午前一時〇五分衛戍地弘前に別れて鐵路東行の途に就いた。

滿洲守備の交代兵として選ばれたわが第八師團の混成旅團司令部と郷土の生める歩兵第三十一聯隊の勇士の乗れる列車は十一月十四日午前十一時五分鈴木旅團長に率ゐられて盛岡驛に到着した、盛岡驛に四十五分間停車、この間驛頭に地方から出盛した家族との面會を許され、互ひに名残りを惜しみつゝ、同十一時五十分、軍用列車は萬歳歡呼に送られて驛を離れた、岩手山も晴れやかにわれらが勇士を見送るかに見える六萬の盛岡市民は萬歳！ 萬歳！ のども

前四時廿分營門を出發した工兵派遣隊は小泉隊長の指揮のもとに夕顔瀨、材木町、仁王、内丸通りを経て午前四時五十分縣社櫻山神社に到着、告別の祈願を籠め、同五時三十分公園下より大通りに出て行進を起し沿道黒山の如き見送りの市民の萬歳連呼を浴び、打ち振る幾千の日章旗に祝されつゝ、五時五十分盛岡驛到着、臨時面會所にて最後の面會、市民祝賀會場にて鯛、勝栗に出陣の酒を祝ひ六時五十分再び隊伍を整へ、上原隊長に告別して歩廊に進み、七時二十七分列車到着、増結手配完了するや直ちに乗車を開始、かくて定刻七時三十五分青森に向け晴れの首途に上つた。

盛岡〇隊の滿洲派遣將校は左の通りである  
工兵大尉小泉於兎彌、工兵中尉堀井龍司、工兵中尉阿部永之進、工兵中尉宮田健二、工兵中尉山田藤之助、一等軍醫金子辰夫

滿洲事變本縣戰死者並戰傷者

(昭和七年七月二十六日迄)

戰 死	傷 場	所	戰死傷月日	所屬部隊	籍	兵科官等	氏 名
南嶺の戰闘に於て戰死	昭六・九・九	獨歩一	神貫郡矢澤村矢澤二ノ一三四	歩 伍	小 原	兵科官等	氏 名
拉房子の戰闘に於て戰死	昭六・二・二四	獨歩一	(小樽市稻穂町五ノ一現住)	歩 伍	若 江	兵科官等	氏 名
四家子附近の戰闘に於て戰傷	昭六・二・二三	獨歩五	下閉伊郡磯鷄村高澤五ノ二	歩 伍	川 畑	兵科官等	氏 名
軍 事——滿洲事變と本縣——滿洲事變本縣戰死者並戰傷者	昭六・二・二三	獨歩五	氣仙郡越喜來村東濱崎七九	歩 伍	三 浦	兵科官等	氏 名
			東磐井郡小梨村天神一二九	歩 伍	喜 一	兵科官等	氏 名
				一七五			

さけよと歡呼するのである。重大責務を帯びた我れらの勇士はこのどよめきに感激と、昂奮に胸もはち切れんばかりである。かくて我が郷土兵を乗せた軍用列車は沿線各驛の熱誠なる歡送を受けて南へ！ 南へ！と進み十六日午後六時三十分出發港たる宇品に到着、翌十七日三雙の運送船に乗じて同午前十時威風堂々と出港した。

◇盛岡〇隊も出動

我滿洲派遣部隊は渡滿後、昂々溪の大戦闘あり、我が軍大勝してチチハル入城を完了したが、匪賊の集團、便衣隊の横行益々激甚に、居留民保護と滿蒙の平和のため斷乎錦州方面の出動を敢行、昭和七年新春早々東北全軍をして山海關内の撤退を余儀なくせしめた。進んで四月五日に至つて我が政府は、懸案たりし滿洲出動の朝鮮軍師團司令部及混成一個旅團の原隊歸還と在滿部隊の警備區域の擴大に伴ふ指揮機關の必要上、弘前、姫路の殘部及若干の特殊部隊の滿洲派遣に就いて上奏御裁可を得、直ちに出發命令を發した。

此處に榮えある弘前師團は西師團長以下急遽出發準備に入つたが盛岡〇隊もその一部派遣されることになつた、各部隊の士氣大いに振つて既に滿洲を呑むの概あつた。出發命令を受けた盛岡〇隊は八日編成を

二等主計茂原

△上原隊長メッセージ

上原〇兵隊長は此度麾下の小泉派遣隊を北滿に出發せしむるに際し本縣民に對する挨拶として左のメッセージを本社に送つた。此度の事變出來以來國民各位の熱誠なる御後援は我々軍人を驅つて一の法悅裡に死地に赴かしめまます茲に麾下の小泉派遣隊を出發せしむるに當り今や余自身が當事者となり大命降下以來此處數日間縣民各位より言語に盡されぬ御後援を得何とも感謝に堪へませんこれを日露役當時に考へて見ましても第一線兵士の士氣の振興は實に銃後の國民各位の熱誠の賜物でありまして大日本帝國軍人の強きは實に其處に淵源があるのであります何卒一層の御後援を御願ひ致します。

◇鯉澤記者派遣

本社では六年十一月鈴木混成旅團の渡滿に際して鯉澤忠雄記者を特派從軍せしめ、滿洲における東北健兒の活動を迅速に報道した。

軍 事——滿洲事變本縣戰死者並戰傷者

Table listing military casualties and wounded soldiers from the Manchurian Incident. Columns include names (e.g., 和賀郡笹間村中村五九), ranks (e.g., 歩三), and locations (e.g., 和賀郡笹間村中村五九). It details deaths and injuries from various battles like the Battle of Harbin and the Battle of Shanghai.

上海事件本縣戰傷者

Table listing casualties from the Shanghai Incident. Columns include names (e.g., 江刺郡愛宕村字中谷), ranks (e.g., 第一遣外), and locations (e.g., 江刺郡愛宕村字中谷). It lists individuals who were killed or wounded during the conflict.

了す、本縣は壯丁の体格全國に冠絶するものなれども前年若くは數年前に比較するに著しく低下し學力またその修業せし處のものを低下し居る者多し。然れ共青年訓練所の教育の普及に伴ひ且滿洲事變勃發以來時局柄態度言行等は向上を見、又適齡未滿者の現役志願者は激増せり。郡別体格等位表左の如し(本籍地受檢壯丁のみ)身長はメートル、体重はキログラム

Table showing physical statistics for conscripts in the county. Columns include county names (e.g., 盛岡市, 岩手郡), average height (平均身長), average weight (平均体重), and percentages of conscripts (人員百分率). It provides a statistical overview of the physical condition of the young men in the region.

軍 事——上海事變本縣戰傷者——昭和七年度徵兵検査

# 教育

## 本縣教育概観

本縣の教育は近時益々隆進に向ひ、官立實業專門學校一、私立醫學專門學校一、縣立師範學校二、公私立の中學校七、實業學校十三、高等女學校十一、實科高等女學校四校を算し、尙中等教育機關擴張の機運に向つてゐる。實業補習學校は二百五十二校で殆ど全町村に沿く公私立小學校四百五十校、又特殊教育機關として縣立盲啞學校あり、その他私立各種學校は其の數二十一にして、公立幼稚園は十四である。

員教	類別	校數		公立	私立	計
		尋常高等	高等			
本科正	公立	1	0	1	0	1
本科正	私立	0	0	0	0	0
本科正	計	1	0	1	0	1
專科正	公立	0	0	0	0	0
專科正	私立	0	0	0	0	0
專科正	計	0	0	0	0	0
准	公立	0	0	0	0	0
准	私立	0	0	0	0	0
准	計	0	0	0	0	0

種別	校數	児童數		校數	教員	生徒
		公立	私立			
高等農林學校	1	73,242	7,297	1	3	392
醫學專門學校	1	7,044	1,035	1	7	499
師範學校	2	14,377	7,700	2	30	755
中學校	7	5,611	1,035	7	30	755
中學校	7	14,377	7,700	7	30	755
高等女學校	11	14,377	7,700	11	30	755
實科高等女學校	4	14,377	7,700	4	30	755
商業學校	11	14,377	7,700	11	30	755
女子商業學校	11	14,377	7,700	11	30	755
女子職業學校	11	14,377	7,700	11	30	755
各種學校	21	14,377	7,700	21	30	755

## 縣立學校一覽

設立區別	校名	定數		現數		修業年限	授業料月額	入學料	入學料
		部	部	部	部				
公立	第一師範學校	第一	23	22	29	4年	500	100	100
		第二	23	22	29	4年	500	100	100
公立	第一女子師範學校	第一	12	11	15	4年	500	100	100
		第二	12	11	15	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	8	7	10	4年	500	100	100
		第二	8	7	10	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一	15	14	18	4年	500	100	100
		第二	15	14	18	4年	500	100	100
公立	第一中學校	第一							



教育—縣立學校一覽—不況農村の生活狀況

科	日	食費一人月額	生徒手當一人月額	軍事講習手當一人平均額	修學旅行費一人平均額
宮古高等女學校	八	一、四〇〇	九	五	五
高田實科高等女學校	八	一、四〇〇	八	五	五
盛岡農學校	六	一、五〇〇	八	五	五
花卷農學校	六	一、五〇〇	八	五	五
水澤農學校	六	一、五〇〇	八	五	五
盛岡農學校	六	一、五〇〇	八	五	五
久慈農學校	六	一、五〇〇	八	五	五
工業學校	五	一、六〇〇	八	五	五
水産學校	五	一、六〇〇	八	五	五
蠶業學校	九	一、八〇〇	八	五	五
盛岡商業學校	六	一、五〇〇	八	五	五
水澤商業學校	三	一、八〇〇	八	五	五
盲啞學校	九	一、八〇〇	八	五	五
備考 武ハ武道教師ナリ					
師範學校生徒給與					
男 一 部	四年以前入學 五年以後入學	四 五	六 五	一 部	五 部
女 一 部	四年以前入學 五年以後入學	五 六	五 七	一 部	五 部

り難きも昭和六年の販賣肥料消費高(數量一、一五七、五二五貫價格二、四八六、九三〇圓)に比し數量に於て一割一分方の増加を示しあるもの、如し之れは昨年の凶作善後策として縣が施肥宣傳に努めたると産業組合が豫め肥料購買に付便宜の方法をとり斡旋したるとに依るものと認めらる然れども右は凶作に依る減收を今秋の收穫期に於て取り返さんとする寧ろ悲壯なる農民の決意がこの結果を齎したるものにして決して潤澤なる肥料資金を豫め所持しありたりとは認め難し然して大正十三年、大正十五年昭和四年の大旱害及昭和六年の凶作並沿岸漁業たる鮑昆布等の貿易品が支那事變により輸出絶し農林産物の價額年を逐うて激落し更に昭和六年十一月二十五日岩手盛岡九十の地方三銀行の支拂制限に次で今春三月遂に營業停止又は休業となりたる爲一般縣民の生活を脅威したること洵に甚大なるものあり之れが爲商取引は不活潑となり諸事業は衰微し延て租税その他の公課の滞納頓に増嵩し市町村その他の諸團體の財政は極度に逼迫し(註の三)諸般の經理順調に執行し能はざるもの多く從來の姑息なる手段にては到底之を匡救し得ざる状態となれり

一、施肥其他生業上に蒙れる影響

① 地方銀行が支拂制限爲したる當時の市

七年度縣教育費豫算一覽表

科	目	男子	女子	計	盛岡	一ノ關	福岡	遠野	黒澤尻
同 二 部	專攻科								
同 一 部	師範學校、中學校費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	師範學校	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	中學校費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	校長給	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	教諭給	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	訓導給	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	保母給	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	書記給	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	舍監加俸	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	生徒諸費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	校費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	附屬小學校費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	計	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	〇高等女學校費	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	盛岡	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	花卷	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	水澤	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	遠野	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	一戸	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	岩谷	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	黒澤	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	宮古	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇
同 一 部	高田實科高等女學校	三、二六三、一八七、三〇四	一、九三、三六六	四、一九〇、五五三、八〇二	二、五八〇	二、七〇〇	二、三三〇	二、一五〇	二、〇〇〇

町村預金高は定期預金二、六一七、七七九圓、當座預金六〇九、三三八圓内歳計現金三九一、一八二圓にして、この大部分は本年三月よりの營業停止又は休業に依り引出不能となれるものなり(一般預金者の分は省略す)

(2) 岩手縣昭和六年度の歳入欠陥は二十萬圓にして翌年度繰上補充により歳出を經理せり

(3) 市町村税の納税成績は昭和三年度は調定に對する収入歩合五割四分四厘、昭和四年度は六割三分六厘、昭和五年度は五割一分なりしも昭和六年度は四割以下となる見込

(4) 滞納處分を爲すも購買力衰へある爲之れを換價するに至らず止むなく納税者の任意納付に據らしむるか又は月賦若は日掛分納等により納付せしむるもの多き狀況なり

(5) 吏員職員に對し定日に給料を支拂ふこと能はざる爲豫め通帳を交付し置き米、醬油、家賃その他の生活必需品の必要の都度その必要品の最低限度に於て給料額を分割し幾回にも支給しあるものあり(稗貫郡大迫町)

(6) 自作農維持資金の回收は生産物の價格低落の爲採算立たず滞納者續出す之れが





教育界一年

中等學校長會議

本縣中等學校長會議は六年十月廿八日午前十時から縣公會堂第二ホールに開會出席校長は縣下各中學校高女實科農工商校長等四十名に久保知事真崎學務部長奥田學務課長佐藤視學官等にて開會劈頭知事訓示あり終つて眞崎部長議長席に着き左記事項を指示した

- △御影奉護に關する件
- △學則改正に關する件
- △生徒の學資節約に關する件
- △教科書採用に關する件

知事訓示

現下の我國情は内外洵に重大なる時機に際會致しまして國民の齊しく緊張覺悟を要するの時でありませし此時に當り本日茲に各位の御參集を得まして現下教育の重要な問題に關し所見を述べ且各位の御意見を拜聽するの機會を得ましたことは私の最も欣幸とする所であります

今日教育上に於て第一に申上げたい事は職員生徒の思想問題であります從來此の種の問題は大學及專門學校の學生々徒間の問題として社會の指彈を受けて居たのであります

すが今や中等學校の生徒にまで及び其の數も漸次増加の傾向を示して居るのであります殊に私の最も意外とし遺憾とするところのものは現在及將來に於て國家教育の重大なる責任を有する師範學校生徒及小學校中等學校の教員の間に於て不穩なる危険思想に感染し進んで之が實行運動に投ずるもの隨所に生ずるに至つたことであります

既に本縣に於きましても斯様な思想問題を發生せしめたる苦い經驗を有して居るのでありますして國家社會のため洵に憂慮に堪へざる次第であります此の問題に就きましては屢々通牒を致し各位の注意を促して居たのでありますから既に夫々適切なる措置を講じ居らるゝこと、考へます其の關係する所漸次擴大の傾向にある今日の情勢に顧み今後一層此の點に留意せられ部下職員に對しては常に指導監督を怠らざると共に生徒の行動思想傾向に對しては職員を督勵し一致協力周到なる注意を拂ひ事件の真相は十分明瞭ならしめ更に進んで之等危険思想の防止健全なる思想の涵養の爲適切なる施設をなすと共に教育全般に亘り知見に偏することなく德育を重視し以て建國の精神に基き國体の擁護國威の發揚の爲最善を盡されんことを希望する次第であります

次に現時國民の傾向は稍もすれば權利の主張に急にして義務責任の感に乏しく至る所に利害の衝突を見るに至りしは國家社會の健全なる發達の爲洵に遺憾とする所であります従つて政治、經濟、社會の健全なる發達を圖り國運の進展を期せんとせば須らく國民に公民的教養を施し社會生活、經濟生活、政治生活の公正穩健なる智徳を涵養し共存共榮相互依存の實を擧ぐることは最も肝要なること、信ずるのであります

故に文部省に於きましては本年學則を改正し師範學校、中學校、實業學校に公民科を設け公民的教養の徹底を圖つて居るのであります然し單に公民科のみでは十分なる成果を收め難いのであります公民科が教ふる所は他の諸學科目の教授とひ補連絡し又學校生活の諸々の機會に於て實地に生徒を訓練する必要がありませし又公民科の設けなき學校に於きましても此の精神を以て訓練に當らるゝ事は尤も望ましきことであります各位は此の公民訓練が如何に重大なるかに想を致し適切なる施設をなし之が教養に努め兼ねて社會淨化に貢獻せられんことを希望する次第であります

田山村小學校兒童の悲痛な作文

二戸郡田山村兒畑分教場は凶作山村のまつたなかに放り出されてゐる分教場だが同部落の人達は明日の食資にさへ窮するもの半數以上、餘裕のあるものと云つても僅か三ヶ月の日數しか維持し得ない状態であり大人は云ふに及ばずいたいけな小學校兒童さへ生きんがための必死の努力を續けて居り八才にもなれば男の子も女の子も眞暗い火の氣のない爐邊にうづくまりながら細なひやすごあみ(炭俵)そして夜なべもする、尋常五六年生にもなれば大人と一つしよに尺餘の雪をふみしめて炭焼きに出かける、木炭の大暴落、凶作の波は分教場在學兒童百四十人中缺食兒童は三十八人を數へ尙増加の模様であつて在學中の佐藤一郎君(尋五假名)が生活を語つた一文を本社に寄せて來た

私の家

私の家には田も牛も馬もありません、たゞ煙が僅かあるばかりです。そのためにお米を買つて食つてゐるのです。今年のやうに不作の年には私の家ではわづかばかりの畑から稗一粒もとれません。兄さんが、又北海道へ行つて働いてこなくてはごはんをたべることができませんから、北海道にいつてくるといつてみます。けれどもみんなのお話をきくと田山

村よりも北海道の不作はひどいのでお米やその外の作物が少しもとれないために大變困つてゐるさうです。だから行つて働いても、いくら位金をとつてくるによいかは分らないでせう。お父さんはすみやきをしてゐます。元木代が高くてとても分らないさうです。お母さんは「すごあみ(炭俵あみ)をしてゐるし私はなわなひをしてゐます。私の家には四つになる妹と二つになる弟と二人ありますので、とてもせわしなくて、一日になわをやうやく「三ば」しかなへません。お母さんは「すご」を一日に六枚(一枚二錢五厘)しかあめません。またお米がなくなるところです。お父さんはいつも「いくら働いてもどうにもならない」と口ぐせのやうにいつてゐます。どこの人もこんな毎日々々苦しんでゐるでせうか。みんな誰でも仲よく面白く生きて行くやうな國はないでせうか

- 第一條 視學官及視學は縣内公私立各學校市役所並町村役場につき各般の教育を視察す
- 第二條 視學官及視學の視察すべき事項の概目左の如し

- 第一條 視學官及視學は縣内公私立各學校市役所並町村役場につき各般の教育を視察す
- 第二條 視學官及視學の視察すべき事項の概目左の如し
  - 一 狀況、同衛生の狀況、同經濟設備管理の狀況、關係職員の職務功績風紀並修養の狀況、學校とその所在地との關係、社會教育その他教育學藝に關する諸施設、就學事務、同教育統計事務その他事務處理、寄宿舎、校友會の狀況、特に指令を受けたる事項その他教育に關する一切の事項
  - 第三條 視學官及視學は視察上必要と認めたる時は日課を變更して授業をなさせしめ若くは自ら之をなし又は生徒兒童の學力を考查する事を得
  - 第四條 視學官及視學は第二條の各號に關し關係者に對し既定方針に抵觸せざる範圍に於て意見を述べ長所は之を推賞し改良すべき點は之を指示し法令若くは通牒等に抵觸し又は手續上の誤及廳議の決定に反したる事項に對しては注意を與ふべし
  - 第五條 視學官及視學は關係者に對し直接推問をなし又は教育上の意見若くは必要な調査材料を徴することを得
  - 第六條 視學官及視學は學校に於て特に視察したる事項及指示注意したる事項並視學日時を學校の記録に留め之に認印すべし
- 指定學校設置
  - 一 教育の郷土化實際化に就いての研究調査をなし本縣教育の振興を期するため縣では七

年五月十日郡市小學校十一校を研究學校に指定した指定の研究學校は研究調査に關する施設の徹底は勿論一般經營に就いても他校の模範としての學校經營を試みるものである。指定研究校左の如し

◇郷土教育の實際的研究

△江刺郡玉里尋高校△下閉伊郡宮古尋高校△紫波郡志和村片寄尋高校

◇郷土に立脚せる農村教育の研究

△和賀郡二子尋高校△上閉伊郡達會部尋高校△氣仙郡廣田尋高校△下閉伊郡船越尋高校

◇託兒教育の研究

△上閉伊郡宮守村塚澤尋校

◇學校衛生体育施設の研究

△西磐井郡一關尋高校

◇複式教授の研究

△二戸郡浪打村岩館尋校

◇職業指導の研究

△盛岡市盛岡校

研究學校設置要項

◇目的 縣下教育の振興を期するため研究學校を指定し教育の郷土化實際化等に關する調査研究を委嘱す

一、郷土教育の實際的研究

二、郷土に立脚せる農村教育に關する研究

- 三、郷土に立脚せる農村教育の研究
- 四、學習訓練の研究
- 五、託兒教育の研究
- 六、複式教授の研究
- 七、職業指導に關する研究
- 八、その他の研究

◇學校数は適宜之を定む

◇研究學校に於ては特に左の點を留意するものとす

- 一、施設計畫を定め縣に報告すること
- 二、指定事項に關しては調査研究の上實施徹底を期すること
- 三、研究調査はその都度縣に報告する事
- 四、指定事項以外一般教育に就ても他校の模範となる様努力すること

◇研究學校は視察參觀人の便宜を圖ること

實業學校長懇談會

實業學校長懇談會は五月三十一日開會理科的設備、交換教授、家内工業獎勵、生徒をして日本人たるの自覺せしむる適當なる方法、以上二日間に互る懇談會の中心問題になつた四項に關し左の如き申合せをなし知事に答申した

一、理科的設備を共通ならしめ郷土博物館的ならしむる具体的方法如何

(1)同一地方に數個の中等學校ある所は勿論單一なる所も小學校と連絡し新に

購入するものは其何れにもなきものを設備し適當の方法を設けて互に貸し合ふこと

(2)盛岡市においては第一項の外高價にして重要なものは縣にて購入保管し適當の方法を設けて各校に使用せしむること

(3)將來理科博物館(郷土博物館を兼ねたる)を設け各校は時間割を協定して教授を實施すること

二、縣下學校を單一のものと思し各學校に特色あらしめ生徒及び教員の交換教授を行はしむる適切なる方法如何

(1)縣下に同種の學校數校ある實業學校はその地方の事情に應じて特色ある學校となすこと

(2)當該學校協定の上生徒及び教員を或期間交換してその特色を交換すること

(3)その他の學校にありては必要の特色ある教師の出張を乞ひ又は生徒を派遣し學校と豫め協定して或期間講義實習等を實行すること

(4)以上の實施のため年度内に必要と認むる講師派遣費を前年度内に要求すること

三、家内工業獎勵に關する具体的方法如何(種類及びその指導方法)

年十月二十八日の中等學校長會議の答申によること

(3)我國美俗の保存に努むること

イ、男子は勿論女子に對しても武士道の美點を涵養すること

ロ、日本特有の優雅なる趣味の養成に努むること

(4)國際事情特に隣接せる諸國の國情に關する明瞭なる觀念を扶植すること

イ、これが爲には教職員生徒の海外派遣の方法を講ずること

ロ、これに關する研究資料を蒐集すること

ハ、講演映畫の利用すること

縣下小學校女教員協議會は六月十日午後一時から女子師範講堂に郡市並びに兩師範附屬代表教員

縣下小學校女教員協議會

▲下閉伊郡嶽ヶ崎校熊谷彌生、織笠校竹内はな▲紫波郡古館校加藤千代、彦部校千葉いつ▲江刺郡伊手校小野きよせ▲和賀郡鬼柳校龜ヶ森よし、江釣子校小澤せつ▲膽澤郡姉妹校佐々木その、水澤校千葉都▲東磐井郡猿澤校千葉文、黃海校大信田たか▲稗貫郡花城校菊池よし、八幡校高橋利▲上閉伊郡釜石校大信田きよ、栗林校及川きぬ子▲岩手師範附屬校菊池

青年教育研究會

青年教育研究會は六月十一日午前九時から公會堂第二ホールに實業補習學校青訓郡市代表二十八名に番外

聯隊區宮原中佐、猪狩農試場長、工藤盛岡農學校長、瀨谷師範校長、鈴木少佐、縣から石黒知事、湯本學務部長、奥田教育課長、佐藤視學官、佐藤社會教育主事等に文部省より永野社會教育官出席 石黒知事より

(1)その材料 現時の文化、生徒の趣味、販路等より考慮しその地方に適當の種類を撰擇すること

備考 本縣内において目下可能と考へらるゝ種類左の如し

氣仙……竹細工、魚網、味リン干、人工茸

水澤……魚網、草履

前澤……同前

山田……水産物加工(例へば味リン干)

大槌……同前

釜石……同前

福岡……真綿細工

(2)方法 必要なるものには講師を頼みて講習會を開催し教師を派して修得せしむ

イ、課外を本體として必要な場合には正課の一部として教授實習せしむ

ロ、縣、町村當局と聯絡をとりその販路の周旋をなす

四、生徒をして日本人たるの自覺を喚起せしむる適當なる方法如何

(1)學校校長及教職員先づその自覺に生き不言之間に感化を生徒に及ぼすこと

(2)建國の精神に瀾り國體觀念の涵養に努むること

備考 國體觀念の涵養につきては昭和六

青年教育の重要性は本縣に於て殊に痛感する現實の岩手縣は且つてなかつた困難なる諸問題に逢着し生活を脅かされてゐるこの現状を打開するには小策では如何ともなし難い又中年以上の縣民に求むるのも困難であるまさに青少年に待つの外ないのである十年十五年の後を期待するのだ青少年教養の實をあげ本縣が獨立活歩し東北の雄者たり日本の新進氣鋭の構成分子たる事を希つてやまないこの意味に於て本日の研究會は本縣の復興と振興に第一石を投ずるものでありその氣持を忘れてはならぬ討議する事項はすべて實行でなければならぬ信念の教育を高調するにある青訓教育の目標は國防の觀念を培養し一旦緩急あれば第一線にたつての覺悟を養ふ外禮節を尊び規律を重んずる勤勞青年を養ふべきだ最後に一言したい事は日本人の根本精神を青年に打ち込んで行く岩手縣の難問を打開するにはこゝ十年間の臥薪嘗膽の覺悟を要すると考へる又青年の教養は男ばかりではなく女子の教育についても十分の考慮を拂はれたい研究と熱心と力ある指導を進められたい

縣教育會總會は六月十三日午前十時二十分石黒會長の岩手縣の復興は十年十五年を期さねばならぬ、心を一にしこの難局に當る事だ殊にも諸子は教育の衝に當る人達である最も光榮ある業務に従事する諸子は十二分にその光榮ある天職を發揮せしむべきだ縣當局と共に手を携へ一段と努力縣の復興と國難打開に當るべく實踐奮行の範を垂れて貰ひたい

銀行預金の要求決議案については三田花城校長より委員會報告あり報告通り可決確定し佐藤南都田校長より青年教育振興に關する建議案を上提説明しこれに阿部二子、菊池徳田、小野寺釜石嶺山の三校長より青年道場の建設によつて勤勞青年を養成し本縣の復興開發に努むべきである更生の源泉はまさにこれに求むべき最も時宜に適した良案である

本縣缺食兒童 文部省普通學務局長から本縣欠食兒童數を電命して來たので教育課に於て七月十二日現在數を基礎とし電報を以て回答した。これによると五千四百七名に達し學校數四百四十七校で殆んど町村小學校全部に亘つて居り郡市別兒童數は左の通りである

三一五(三七)△下閉伊七一七(四七)△九戸七九五(六二)△二戸九六〇(三七)△盛岡六四二(二)△合計五、四〇七名(四四七校)二百三十六ヶ町村

し、諸君が其の實績を上げらるゝことに努め郷土更生に雄々しく門出せられんことを望む

の意見書を提出した 近く制定交付される市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法の施行に關して補助の交付時期を従来の例によらず、市町村の歳入最もとほしき四月、五月頃にこれを交付し教員俸給不拂一掃の實を挙げたいから以上御賢察の上何分の御裁量を仰ぎたし

尙欠食勝兒童は九千余名に達した 中堅青年修養機關六原修養道場の入場式は九月六日午前十一時石黒知事臨場同所皇太神宮内において舉行された前夜來の雨は名ごりなくはれて初秋の風、曠野にそよいで、縣下各郡から選ばれた五十餘名の潑瀾たる青年參列、石黒知事の勅語誦讀並に訓辭あり、奥田課長の農林大臣祝電朗讀、上村高農校長、中村市長、國崎司令官、田村子の祝詞があつた

千喜良岩師範頭轉任問題 縣立師範學校教頭兼監于千喜良英之助氏が沖繩縣に轉任を命じられたがこの報一度傳はるや千喜良氏は本縣教育界の大立物として敬慕されて居ただけに各方面にセンセーションを捲起し在校生徒は大いに義憤したので學校當局は萬一のことあるを憂ひて本紙にこのこと報道翌日の九月二十三日には生徒に對し外出を禁じたが生徒間の熱意堅く遂に自重論に傾く一部專攻科生、尋生講習生を除く三百二十名の生徒は留任運動の嘆願書を作成し二十四日午前四時までかかつて之等生徒がいづれも悲壯な決意で血判を押して一部四年、五年及二部の級長副級長、寄宿舎室長十名の代表は校規を破つて二十四日朝ひそかに上京し師範學校長會議に列席中の瀨谷校長に留任運動を試みた。二十三日夜は内密に職員會議を開いて對策を講じた事實もあり更に二十三日から二十五日の祭日、日曜日にかけて千喜良氏を慕ふ教へ子が續々盛岡市に來着し成行注目されて居る

縣教育指導精神 本縣教育の指導精神を縣は日本精神の發揚國民性の振作創作的精神の涵養公民的思想の養成郷土教育の獎勵海外發展思想の涵養勤勞教育の獎勵宗教精神の陶冶體育の獎勵以上九事項に求める事となり縣是となし縣教育行政に反映せしめる事となつた事項左の如し

六原青年道場 本日六原青年道場を開くに際し謹みて祝意を表す、近時我國における情勢はあらゆる方面に憂慮すべきものあり就中農村問題の全國的重大化は刻下の難問題たりこれが解決は一朝一夕にあらざるも惟ふに單に政府の施設のみにて爲す能はず寧ろ郷土の中心人物の精神活動を基調と

教育補助金に知事意見書 石黒岩手縣知事は文部大臣に左の如き内容を

一、縣民性の振作 進取の氣象を養成し機敏活潑の習慣を養成すること正直にして重厚堅忍持久の精神を助長すること

一、創作的精神の養成

事を處するに計画的科學的なるべく教授に當りては自學自習工夫創作に努め教ふる教育よりも寧ろ考ふる教育に力を致すべきこと

一、公民的思想の涵養

共存共榮の精神を涵養するより急務なるはなし政治經濟に於ける社會の事情著しく變化せる今日國民に公民的思想を普及せしむるは喫緊の事に屬す縣民に協同の精神に欠くる所あるは健全なる自治の發達のため遺憾とする所なり之が涵養に努め明るき郷土の建設並に國家社會の淨化に努め健全なる發達を期すること

一、郷土教育の奨励

本縣の産業その他百般の事業にして發達の未だしきものあるは素より地勢及交通の不便にありと雖も主として教育の地方化に努めざるにありと信ず宜しく舉村一致町村是を確立して之が教育に活用すると共に之が實行に努め郷土の振興開發を計るべきこと

一、海外發展思想の涵養

縣民は殖民開發の念に乏しく既に移住せるもの甚だ稀なり宜しく海外思想を鼓吹すると共に新天地開拓に任じ得る體力と氣魄鍛練と勇氣とを有する人物を養成す

議等を行ふ

口、小學校方面にありては郡部會及區會中心となり各科の教授研究会を開く

- 4、複式教授研究会 部會単位に行ふ
- 5、思想問題對策に關する施設
- 6、縣教育會、師範學校、視學委員等の指導上の打合せ
- 7、講習會講師の統一を圖る
- 8、校長會、首席會、教員會

- イ、校長會は小學校長會、中等學校長會は師範、中學、實業、女學校の各部に分つ
- ロ、首席會 郡部毎に之を行ふ
- ハ、教育會總會 郡部會總會

其他農學校實習教員中學校作業科教員の打合せ、社會教育に關する施設、體育獎勵、學校衛生に關する施設を講ず

- 三、研究調査
- 1、教育評議會
- 2、思想問題協議會
- 3、教育資料各種調査研究會
- 4、縣教育の一般調査
- 5、管外視察

義教國庫交附金(特別町村分)

- ▲岩手郡淺岸一七四、中野四七三、御所一、四九三、雫石三七四、川口五四七、大更五七〇▲紫波郡乙部七四四▲稗貫郡大迫三五

ることに努むること

一、勤勞教育の奨励

教育に當りては體験を重じ實驗實習を奨励し良き國民良き公民として勤勞を愛好し誠實勤勉社會文化向上の爲め一意専心働きて得る實行的人物を養成すること本縣開發はかかる教育によつて始めてその目的を達成し得べし

一、宗教精神の陶冶

大宇宙の大精神を胸に宿して暖く力強き生活を生活とする様導くこと

一、體育の奨励

本縣は運動競技旺盛に趣きつゝあるは體育の振興上喜ぶべきものなりと雖も一面之に伴ふ弊害も尠からざるを以て之が指導奨励に當りては技術の練磨にのみ偏することなく常に運動精神の涵養と運動の一般合理化に努め特に虚弱兒童の健康増進に留意すると共に武道を奨励して身心の鍛練と日本精神の作興に努むること

中小學校指導施設

學校經營の完璧を期するため縣では指導施設の確立を圖り視察指導、指導奨励、研究調査の三方面に力を傾注すべく施設實施案は左の通り決定した

一、視察指導

1、視學官及び視學の視察は視察規程によ

つて毎月一回以上視學交代に視察す。三分の二は擔任郡三分の一は擔任郡以外を視察す臨時視察は特別調査指導のため視察す

- 2、合同視察 部長、課長、視學官、視學社會教育主事、衛生技師、師範學校長、同附屬小學校主事合同にて第一學期始めに於て學校を指定し二學期又は三學期に視察す、教育の全般に亘りて視察する
- 3、視學委員の視察は中小學校に分ち視察後復命書により縣廳側と打合せを開く
- 4、師範學校長視察復命書により縣と打合せを開く
- 5、文部省督學官並に視學委員の視察
- 二、指導奨励
- 1、研究學校指定
- 2、研究發表會

- イ、郷土教育研究發表會(第一學期豫告第二學期又は第三學期に實施)
- ロ、教員の研究調査並農作品展覽會
- ハ、縣教育會の研究發表會 小學校の部(附小合同)、中學校の部一回、社會教育の部一回

- 3、一般教授研究會
- イ、中等學校方面にありては縣下を凡そ三分し各地方に於て各科の研究教授を行はしむ。此の際併せて研究發表、協

- 七、内川目四二六、外川目六二四▲和賀郡谷内八三七▲膽澤郡金ヶ崎一、一三二、若柳七〇七、永岡五八五、相去一、四三三▲江刺郡黒石八三九、田原七一八、藤里三九二、伊手一、二六〇、米里一、四〇四、玉里一、〇六四、梁川五九四、福岡五五五、廣瀬四四九▲西磐井郡永井五七一、金澤五三一、日形三六三、眞瀧八五九、萩莊八六七、殿美八三一、山目一、一一二、平泉八八二▲東磐井郡千厩八一八、折壁一、一三七、矢越八二七、八澤四六九、奥玉六七四、磐清水六四七、生母五六、田河津七〇二、長坂一、〇八六、猿澤一、〇二五、瀧民六三八▲氣仙郡盛五四七、高田八五一、氣仙一、六一四、大船渡一、五四三、末崎二、〇九四、廣田二、五四一、米崎一、六五〇、矢作二、八五八、竹駒七七〇、横田八八七、世田米一、九三三、下有住一、一三六、上有住一、二七〇、日頃市一、五三六、立根六〇八、猪川一、〇八六、赤崎三、三三三、綾里二、二八三、越喜來一、四五〇、吉濱八九六、唐丹一、三二九▲上閉伊郡遠野一、三四二、釜石二、四九一、大槌四、〇五六、鱒澤三四九、宮守七六〇、達會部三七六、松崎三三八、土淵五五一、青笹一、〇一一、甲子一、〇二九、鶴住居二、五九六、栗橋一、九六六、金澤九五四▲下閉伊郡山田八五二、岩泉二、〇五三、崎山五六四、田老一、六

義教國庫交附金(前段規程分)

- ▲岩手郡 沼宮内三、四一七、玉山藪川三、六六六、淺岸一、〇二三、中野三、三九九、本宮二、五二五、太田三、六九八、御所三、六二〇、御明神二、六五六、西山二、九六五、雫石二、〇七二、瀧澤四、九八〇、厨川三、三一一、川口三、六八〇、巻堀三、一三三、瀧民三、三八〇、大更三、二八九、田頭二、六九七、松尾三、四一五、平館二、〇九四、寺田二、四一一、方井二、三三一、御堂

四、一七九、築川二、二二三、計六九、一七二  
 ▲紫波郡 日詰二、〇四二、古館一、七二七、  
 德田三、六六二、見前三、二一七、飯岡三、  
 六七七、煙山三、一三八、不動三、一五三、  
 水分二、三六三、志和四、八七九、赤石二、  
 七七九、彦部二、三八一、佐比内一、八二六、  
 赤澤二、三八六、長岡一、八三一、乙部三、  
 八八五、計四二、九九一  
 ▲稗貫郡 花卷一二、三一九、大迫三、一三  
 一、石鳥谷三、八六二、内川目二、七一六、  
 外川目一、七一〇、龜ヶ森一、四八八、新堀  
 一、九九一、八重畑二、一三四、矢澤四、四  
 四八、八幡二、〇五九、湯本三、七〇六、宮  
 野目二、六九九、湯口五、三四〇、太田二、  
 八六〇、計四九、三六六  
 ▲和賀郡 黒澤尻七、七四六、鬼柳三、〇六  
 一、岩崎五、〇一三、横川目三、九六〇、藤  
 根三、〇三九、江釣子五、〇六一、笹間四、  
 二五〇、飯豊三、三〇八、二子二、八九九、  
 更木一、九七五、立花二、五五二、中内二、  
 三二六、谷内三、九五三、十二鋪三、六一五  
 小山田二、〇一〇、湯田七、七二〇、澤内  
 五、七九四、計六七、二九四  
 ▲膽澤郡 水澤九、八八八、前澤五、六六三、  
 金ヶ崎六、二〇〇、佐倉河四、六九三、真城  
 三、二五四、姉体二、五二一、白山一、九八

三、古城二、六五九、衣川五、八〇八、小山  
 五、〇八七、南都田三、八三六、若柳三、八  
 四六、永岡二、八六五、相去三、三一、  
 計六一、六二一  
 ▲江刺郡 岩谷堂五、七三二、愛宕三、九六  
 三、羽田二、六三九、黒石二、一九七、田原  
 三、三四四、藤里二、二二四、伊手三、〇三  
 三、米里三、五四三、玉里二、六五〇、梁川  
 二、六七六、福岡二、五八六、廣瀬二、三〇  
 七、稻瀬四、七二二、計四一、六二二  
 ▲西磐井郡 一關七、七一六、永井二、九四  
 六、浦津二、六〇〇、油島二、一四七、花泉  
 二、三二六、金澤二、六二六、老松一、六七  
 三、日形一、九五三、彌榮一、六一三、眞瀧  
 四、一三四、萩莊四、六〇二、嚴美四、一五  
 二、山目五、〇五三、中里三、四一四、平泉  
 四、一七六、計五一、一三八  
 ▲東磐井郡 千厩四、一四五、大原六、四三  
 七、藤澤四、〇三四、折壁二、八三二、矢越  
 二、〇七九、小梨三、二二二、八澤二、五三  
 五、大津保三、八五二、黄海三、八三六、薄  
 衣三、七四五、奥玉三、二八二、磐清水一、  
 五三二、門崎一、七三三、松川二、七一三、  
 舞川三、四八五、長島三、〇七〇、生母二、  
 八九三、田河津一、九六九、長坂二、七六六  
 猿澤二、五四六、摺澤二、九四六、澁民三、  
 二九九、興田六、〇三八、計七五、〇〇六

▲氣仙郡 盛二、三〇七、高田三、六七七、氣  
 仙三、九〇一、大船渡三、五六一、末崎二、  
 九三〇、小友一、八二一、廣田三、五四〇、  
 米崎二、二七六、矢作三、四三二、竹駒一、  
 一八、横田二、〇三九、世田米四、九四九  
 下有住一、五九七、上有住三、五八〇、日頃  
 市二、六五二、立根一、六五七、猪川一、四  
 九九、赤崎三、四七一、綾里三、四四〇、越  
 喜來三、三〇八、吉濱二、〇一八、唐丹三、  
 一〇七、計六一、七九一  
 ▲上閉伊郡 遠野五、九七八、釜石一三、〇  
 六六、大槌九、六三七、綾織二、一一五、小  
 友二、四六五、鱒澤一、六七一、宮守三、二  
 三三、達曾部一、八二五、附馬牛二、一八三  
 松崎一、六九〇、土淵二、五八六、青笹二、  
 四四五、上郷三、九三六、甲子二、五五〇、  
 鶴住居三、七一、栗橋三、〇三四、金澤  
 一、六六一、計六三、七九五  
 ▲下閉伊郡 宮古一五、〇六六、山田四、八  
 〇五、岩泉五、九一三、崎山一、二二六、田  
 老五、二〇〇、小本二、六六九、田野畑四、  
 二四六、普代二、九九七、有藝一、二九〇、  
 安家一、一二七、小川三、九六三、大川二、  
 五五〇、山口二、一二七、千徳一、六七五、  
 花輪二、八七〇、茂市二、二四五、刈屋二、  
 四二七、川井門馬四、七二九、小國二、六七  
 四、磯鷄二、八五一、津輕石二、九〇三、重

茂二、四七四、豊間根二、六九六、大澤一、  
 一七七、織笠三、一三五、船越三、一八三、  
 計八七、二二一  
 ▲九戸郡 久慈六、一八一、輕米六、四三四、  
 長内三、五一三、宇部二、七一一、野田三、  
 五六四、山根一、二九〇、山形四、八五八、  
 大川目二、一八五、夏井二、〇五九、侍濱  
 二、〇一一、中野二、四九二、種市六、五八  
 八、大野四、二八一、小輕米三、三四一、晴  
 山三、五六八、江刺家一、五〇九、伊保内  
 二、五五一、戸田二、一〇九、葛巻五、五三  
 二、江刈三、〇五三、計七〇、三四二  
 ▲二戸郡 福岡四、一八六、一戸四、〇四五、  
 爾薩体二、五三八、金田一四、六三七、斗米  
 三、九八三、石切所二、四七五、浪打三、二  
 三七、鳥海四、一七五、小鳥谷五、三四六、  
 姉帯田部三、二五〇、御返地二、六九二、淨  
 法寺五、二二六、荒澤四、七八五、田山二、  
 七四五  
 ▲盛岡市 四三、五六一、五五  
 義教國庫交附金(後段規程分)  
 ▲岩手郡 沼宮内二、〇二八、圓三七錢、玉山  
 藪川二、二四九、一五、淺岸六〇九、三二、  
 築川一、一一七、八六、中野一、四一四、一  
 九、本宮一、五〇〇、五〇、太田二、二一九、  
 七〇、御所二、二二六、五二、御明神一、五  
 〇三、八一、西山一、七七二、二四、雫石一、

二二六、六〇、瀧澤二、九四二、四〇、厨川  
 一、八五九、一七、川口二、〇六九、二〇、卷  
 堀一、八二一、二三、澁民一、八七九、四三、  
 大更一、九六三、五六、田頭一、六二一、五  
 四、松尾二、〇二六、二八、平館一、二一四、  
 三〇、寺田一、四一七、九二、一方井一、四  
 九三、二六、御堂二、五四九、四二、計四、  
 〇七一、九七  
 ▲紫波郡 日詰一、二三一、六六、古館一、〇  
 四七、三七、徳田二、〇七九、一三、見前、  
 八六三、四一、飯岡二、一一九、九五、煙山  
 一、八〇八、九三、不動一、九二一、一八、水  
 分一、四二六、四九、志和二、九四二、一九  
 〇、佐比内一、一四四、一四、赤澤一、四〇  
 一、六九、長岡一、〇八六、〇二、乙部二、三  
 四七、五五、計二五、六七九、二〇  
 ▲稗貫郡 花卷川口七、一二九、七九、大迫  
 一、二四九、四四、石鳥谷二、二八〇、七八、  
 内川目一、五四五、七八、外川目九七三、  
 七七、龜ヶ森八二四、六三、新堀一、一八  
 七、九四、八重畑一、二八六、三四、矢澤二、  
 五五九、九六、八幡一、二二八、一四、湯本  
 二、二一九、七〇、宮野目一、四五四、六一  
 湯口三、一八九、九五、太田一、六七〇、三  
 三、計二八、八〇、一、一六  
 ▲和賀郡 黒澤尻四、五三三、八七、鬼柳一、

二二八、三五、岩崎三、〇〇九、一七、横川  
 目二、四二一、三五、藤根一、七二一、二八、  
 江釣子三、〇三二、〇一、笹間二、五三七、  
 一二、飯豊一、九八四、二四、二子一、六八  
 〇、八七、更木一、二〇一、七九、立花一、  
 五二八、二一、中内一、三七九、〇五、谷  
 内二、三五二、六二、十二鋪二、二二一、  
 四六、小山田一、一六三、三四、湯田四、  
 六〇一、七八、澤内三、一八九、五四、計三  
 九、七八六、〇五  
 ▲膽澤郡 水澤五、八八一、五〇、前澤三、四  
 二三、二四、金ヶ崎三、七〇六、一四、佐倉  
 河二、六三三、七六、眞城一、六九九、七八、  
 姉体一、五二六、四五、白山一、一二四、六  
 八、古城一、四八〇、九七、衣川三、五二二、  
 七八、小山三、〇四六、四九、南都田二、四  
 〇〇、二七、若柳二、二二一、六六、永岡一、  
 八〇五、四二、相去二、〇〇八、六三、計三  
 六、四八一、七六  
 ▲江刺郡 岩谷堂三、七〇八、八三、愛宕二、  
 三一四、三八、羽田一、四五四、八二、黒石  
 一、二五四、五〇、田原一、九九四、七八、藤  
 里一、四四七、五八、伊手一、八二八、二六、  
 米里二、〇四四、一八、玉里一、五五一、〇  
 五、梁川一、六一七、六一、福岡一、六三三、  
 四三、廣瀬一、三七三、七八、稻瀬二、八三  
 五、二二、計二五、〇五八、四二

▲西磐井郡 一關四、五一三、四〇、永井一、七七七、五一、涌津一、五八七、七四、油島一、一五三、八〇、花泉一、四五六、一七、金澤一、五八七、七四、老松九八〇、八〇、日形一、一四五、七七、彌榮九七七、五〇、眞瀧二、四〇六、八九、萩莊二、五三一、八五、嚴美二、五九八、四二、山目二、九四九、〇二、中里一、七六五、四二、平泉二、三七四、一二、計二九、八〇五、一五

▲東磐井郡 千厩二、一二五、二二、大原三、五五六、七九、藤澤二、三〇三、六二、折壁一、八八二、七三、矢越一、二四五、七二、小梨一、八六六、七一、八澤一、三五二、九〇、大津保一、三〇八、六九、黃海二、一六四、八一、薄衣二、三三三、七一、奥玉二、〇五六、〇八、磐清水九五七、九六、門崎一、〇六一、四二、松川一、六一五、八六、舞川二、〇三一、六八、長島一、九二八、二一、生母一、六八二、六三、田河津一、一六六、六四、長坂一、六九四、七二、猿澤一、五四七、五四、摺澤一、七九五、〇九、澁民一、九三八、五六、興田三、五六八、六七、計四四、一八五、九六

崎一、二七五、五九、矢作二、〇六四、八六、竹駒六八七、七九、横田一、三〇三、四九世田米二、九七五、七九、下有住九〇三、七〇上有住二、一七九、二八、日頃市一、六一二、七五、立根一、〇〇五、二〇、猪川八三八、六八、赤崎一、九五四、五七、綾里一、九五二、六一、越喜來一、八四五、八三、吉濱一、一九八、〇六、唐丹一、七九二、九一、計三六、三二五、三〇

▲上閉伊郡 遠野三、五一四、二〇、釜石七、四〇七、六三、大槌五、七〇六、一九、綾織一、一八二、六七、小友一、三六八、五一、鯉澤九九一、一四、宮守二、〇〇二、〇一、達曾部一、一〇一、〇二、附馬牛一、一六八、六一、松崎九四二、一五、土淵一、五二九、九七、青笹一、四六三、一九、上郷二、二六八、四八、甲子一、五〇五、一六、鶴住居二、二二一、〇四、栗橋一、八四九、一四、金澤九三〇、〇五、計三七、一六〇、七六

七、茂市一、三二八、〇九、刈屋一、四七五、六九、川井門馬二、六三六、八七、小國一、四五二、六五、磯鷄一、七八二、三七、津輕石一、七八七、八九、重茂一、四〇六、九七、豊間根一、六三五、一九、大澤六九三、〇五、織笠一、二七二、〇七、船越一、八二八、二六、計五〇、八〇六、五二

▲九戸郡 久慈三、六二二、一四、輕米三、六九五、一八、長内二、一四三、九三、宇部一、六九六、六九、野田二、〇五六、二八、山根一、〇七一、七六、山形二、七三一、五四、大川目一、三四三、九一、夏井一、二四五、七二、侍濱一、二二二、三三、中野一、五二二、一四、種市三、九三七、二六、大野二、六一九、五〇、小輕米二、〇〇五、三三、晴山一、九九三、〇三、江刺家八五八、〇一、伊保内一、五一九、六二、戸田一、二八〇、八六、葛卷三、三〇九、二四、江刈一、七三一、八三、計四一、五九八、三〇

一、二二、計三一、八九一、四八、合計四六八、二九六、〇三

時局匪教育補助金

市町村尋常小學校臨時國庫補助法による七年度の町村補助配當額は十三萬六千二百二十一圓四十五錢で各町村の配當は左の如くである

▲岩手郡(一一、八七五、五七) △沼宮内五八五、六七△玉山藪川組合村六二七、五七△淺岸一七七、三九△築川三八〇、八〇△厨川五七一、二六△川口六三三、四七△巻堀五三六、七五△澁民五七九、九五△大更五六四、八八△田頭四六三、七五△松尾五八六、九七△中野四一一、七三△本宮四三四、四六△太田六三四、七六△御所六二〇、三三△御明神四五五、七四△西山五〇九、〇九△雫石三五六、〇八△瀧澤八五四△平館三六〇、〇一△寺田四一三、六九△一方井四〇〇、五九△御堂七一七、四〇

▲稗貫郡(八、四六九、一八) △花巻二、〇九八、六九△大迫三六六、三九△石鳥谷六六一、九三△内川目四六五、五〇△外川目二九二、七六△龜ヶ森二五四、六三△新堀三四一、八五△八重畑三六六、八八△矢澤七六一、七三△八幡三五二、九七△湯本六三六、二三△宮野目四六二、四五△湯口九一六、三九△太田四八九、七八

▲和賀郡(一一、五三六、二二) △黒澤尻一、三二八、四四△鬼柳三五四、一一△岩崎八六〇、一〇△横川目六八〇、二六△藤根五二一、一九△江釣子八六八、四四△笹間七二九、〇二△飯豊五六六、二子四九六、六五△更木三三八、二四△立花四三七、五七△中内三九八、九六△谷内六七六、九九△十二鋪六一一、一八△小山田三四五、二八△湯田一、三二二、二三△澤内九九一、〇三

▲膽澤郡(一〇、五六九、二六) △水瀨一、六九七、四五△前澤九七二、一九△金ヶ崎一、〇六五、三〇△佐倉河八〇四、七九△眞城五五七、二〇△姉休四三二、一七△白山三三九、七二△古城四五五、五八△衣川九九四、一三△小山八七四、六五△南都田六五八、一七△若柳六六〇、七八△永岡四九〇、七六△相去五六六、三七

▲紫波郡(七、三六九、〇九) △日詰三五〇、〇三△古館三九五、七〇△徳田六二七、七三△見前五五二、四七△飯岡六三一、九八△煙山五三七、七三△不動五四〇、一八△水分四〇五、三四△志和八三八、△赤石四八〇、七七△彦部四〇七、六三△佐比内三一三、三七△赤澤四〇八、六一△長岡三一三、八七△乙部六六五、八五

三、三二△愛宕六七九、六〇△羽田四五二、七九△黒石三七六、三八△田原五七二、九一△藤里三八一、九三△伊手五二〇、二一△米里六〇七、七六△玉里四五四七五△梁川四五八、五三△福岡四四三、四六△廣瀬三九五、五二△稻瀬八〇九、〇四

▲西磐井郡(八、七六三、五一) △一ノ關一、三二四、八三△永井五〇五、六五△涌津四四五、二七△油島三六七、五四△花泉三九八、九六△金澤四四九、六九△老松二八七、〇三△日形三三四、三二△彌榮二七七、三七△眞瀧七〇七、一〇△萩莊七八七、二九△嚴美七一、八四△山目八六四、五三△中里五八五、一八△平泉七一六、九二

▲東磐井郡(一一、八五二、〇九) △千厩七〇九、七一△大原一、一〇三、四四△藤澤六九一、二三△折壁四八六、六六△矢越三五六、四一△小梨五五二、四六△八澤四三三、四六△大津保六五九、三二△黄海六五五、七二△薄衣六四三、一〇△奥玉五六二、一一△磐清水二六二、四九△門崎二九七、六七△松川四六四、九一△舞川五九六、八一△長島五二六、五九△生母四九五、六七△田河津三三七、二六△長坂四七四、二三△猿澤四三六、五九△摺澤五〇九、六五△澁民五六五、〇五△興田一、〇

三四、三八  
 ▲氣仙郡(一〇、五八六、四八) △盛三九五、  
 五二 △高田六二九、五二 △氣仙六六八、  
 八〇 △大船渡六一〇、〇六 △末崎五〇二、  
 〇五 △小友三一三、〇五 △廣田六〇七、二  
 七 △米崎三九〇、一二 △矢作五八七、四八  
 △竹駒一九一、六三 △横田三四九、五三 △  
 世田米八四八、八〇 △下有住二七三、七八  
 △土有住六一四、一四 △日頃市四三七、五  
 七 △立根二八三、四三 △猪川二五六、六〇  
 △赤崎五九四、三五 △綾里五八八、九五 △  
 越喜來五六六、五三 △吉濱三四四、九六 △  
 唐丹五三二、三三  
 ▲上閉伊郡(一〇、九三八、七八) △遠野一、  
 〇二四、七三 △釜石二、二四四、四九 △大  
 館一、六五四、四一 △綾織三六二、七九 △  
 小友四二二、三六 △鱒澤二八五、八九 △宮  
 守五五五、〇七 △達曾部三一、八八 △附  
 馬牛三七三、九二 △松崎二八九、三二 △土  
 淵四四三、四六 △青笹四一八、九二 △上郷  
 六七四、〇四 △甲子四三六、四四 △鶴住居  
 六三五、四二 △金澤二八五、〇七  
 ▲下閉伊郡(一四、九四三、六四) △宮古二、  
 五八五、三七 △山田八二四、四三 △岩泉  
 一、〇一〇、九九 △崎山二〇八、八一 △田  
 老八八九、四〇 △小本四五六、四〇 △田野

畑七二七、三九 △普代五一三、八三 △有藝  
 一九三、一〇 △安家一九三、一〇 △小川六  
 七九、六〇 △大川四五六、四四 △山口三六  
 四、一一 △千徳二八七、五二 △花輪四九  
 二、四〇 △茂市三八四、七二 △刈屋四一  
 六、六三 △川井門馬組合村八〇八、七二 △  
 小國四五七、三八 △磯鷲四八八、三〇 △津  
 輕石四九八、二九 △重茂四二三、一八 △豊  
 間根四六一、九六 △大澤二〇一、九四 △織  
 笠三六六、二三 △船越五四五、五八  
 ▲九戸郡(一一、〇五六、四四) △久慈一、  
 〇五九、四一 △輕米一、一〇二、九五 △長  
 内六〇一、七一 △宇部四六五、五五 △野田  
 六一〇、五五 △山根三〇五、八五 △山形八  
 三一、三〇 △大川目三七五、〇六 △夏井三  
 五二、九七 △待濱三四四、六三 △中野四二  
 七、九二 △種市一、一九、九五 △大野七  
 三四、四二 △小輕米五七二、四二 △晴山六  
 一〇、三八 △江刺家二五九、二一 △伊保内  
 四二八、二三 △戸田三六一、八一 △葛巻九  
 四八、四七 △江刈五二三、六五  
 ▲二戸郡(九、一四五、〇八) △福岡七一七、  
 七三 △一戸六九三、一九 △爾薩体四三五、  
 一二 △金田一七九四、九七 △斗米六八  
 三、〇四 △石切所四二四、九八 △浪打五五  
 四、二五 △島海七二七、五六 △小島谷九一  
 六、七二 △姉帯、田部五五七、三六 △御返

地四六二、一二 △淨法寺八九八、〇六 △荒  
 澤八一八、五四 △田山四七一、四四

社會教育と社會事業

社會教育

本縣立圖書館は大正十年十月十四日の創  
 立で、之れを機會に管下町村に對し公立圖  
 書館の設立を懇請したが、大正十三年、今  
 上陛下の御成婚を記念とし、多數の設置を  
 見ることゝなつた、爾來其の數を増し尙縣  
 下各圖書館を以て岩手縣圖書館協會を組織  
 し、各圖書館の聯絡研究に努めてゐる。  
 男女青年團は各市町村に設置され、之を  
 包括して郡市男子及女子聯合青年團を組織  
 し、更に各郡市聯合青年團を以て縣聯合青  
 年團を組織し又少年團も逐年其の數を増加  
 するの趨向である。  
 青年訓練所は大正十五年四月、青年訓練  
 所令の發布せらるゝと共に極力之が設置を  
 奨励したので縣下各市町村普く設置を見る  
 に至つた、又鑛山、農場或は各種學校に對  
 し之が設置を感應した結果、鑛山地に私立  
 青年訓練所を設置したるもの二、青年訓練  
 所規程第六條に依り認可したるもの三、同  
 規程第八條に依り認可したるもの二を見る  
 ことゝなつた。  
 成人教育機關として大正十五年以來縣下

數個所に縣及文部省主催の下に成人教育講  
 座を開設したが、逐年良好の成績を收めて  
 ゐる。

映畫教育機關として映寫機二臺、ワイル  
 ム二十四種、五十七卷を備へ地方の求めに  
 應じ巡回映畫會を開催し、各地共良好の成  
 績を收めつゝある。

公衆体育獎勵の目的を以て体育運動主事  
 を設置し斯道の指導助成に努めつゝある。  
 岩手縣佛教會は思想善導民風の作興に盡  
 瘁し、岩手縣教化團體聯合會は教化運動を  
 起し、其の實行に努むると共に郡市町村教  
 化網の完成に努めてゐる。

縣下の男女青年團

男女青年團の現状について縣は調査を行  
 つた結果左の如し

- ◇男子青年團体
  - 二八三團体四萬八千七百六十七名(内二  
 十歳以上二二、六四五名、二十歳以下二六、  
 一二二名)團長團員外二百十八名、團員  
 六十四名、團經費總額四萬二千五百二十  
 七圓、同上年一人當八十七錢二厘、資産  
 七萬一千四百二十二圓
- ◇女子青年團体
  - 三〇五團体二萬八千八百四十三名(内二  
 十歳以上八、五八五名、二十歳以下二〇、  
 二五八名)團長團員外二百八十八名、團  
 員十七名、經費總額一萬二千八百六十圓、

教育—社會教育と社會事業

同上一人當四十四錢六厘、資産九千六十  
 八圓

優良青年團

男子 江刺郡梁川村青年團、西磐井郡萩  
 莊村青年團、東磐井郡奥玉村青年團、岩  
 手郡太田村青年團、和賀郡笹間村青年團  
 女子 岩手郡太田村女子青年團、盛岡市  
 厨川女子青年團

社會教育委員設置

本縣社會教育の振興を圖るため縣は市町村  
 に豫ての懸案であつた社會教育委員を設置  
 する事となり七年九月五日設置規程を告示  
 した規定中

- 第一條 社會教育の普及發達を圖るため市  
 町村に社會教育委員を置く
- 第二條 社會教育委員は名譽職とし市町村  
 長の推薦により知事之を囑託す
- 第三條 社會教育委員數は町村に在りては  
 十名以内市に在りては二十名以内とす。  
 但し土地の情況により若干の増員をなす  
 事を得
- 第四條 社會教育委員の任期は四ヶ年とす
- 第五條 社會教育委員は左記の範圍より之  
 を選ぶものとす

- 一、圖書館、博物館、實業補習學校、青  
 年訓練所、小學校、中等學校等職員
- 一、市町村吏員、市町村會議員、學務委

員

- 一、在郷軍人會關係者
- 一、男女成人團體關係者
- 一、男女青年團體關係者
- 縣では文部省構内社會教育會若手支部を設  
 置し社會教育の普及に資する事になつた。  
 事務所は縣廳教育課内に置き支部長に湯本  
 學務部長理事長奥田教育課長理事佐藤社會  
 教育主事外に委員十名を擧げる事になつて  
 居り支部事業としては
- 一、社會教育に關する講習講演
- 二、社會教育に關する講師の紹介
- 三、公私社會教育施設の助成
- 四、本會事業の紹介斡旋
- 本支部委員は左の各項に該當するもの、中  
 から支部長之を推薦する
- 一、社會教育事務従事者
- 二、社會事業事務従事者
- 三、學校教育關係者
- 四、男女青年團青年訓練所教化團體幹部  
 又は指導者
- 五、その他社會教育篤志者
- 尙支部は縣で即時創立したるものと認め五  
 日本部に報告すると共に五十餘名の會員を  
 支部長より推薦した

聯合婦人會發會式

縣聯合婦人會創立總會は七年九月二十五日

教育——社會教育と社會事業 社寺・宗教——主なる神社縁起

二〇〇

午前十時半から縣公會堂に加盟九十七團體會員五百餘名出席舉行した、佐藤教育主事の開會の辭があつて一同起立、皇居遙拜國旗掲揚、君ヶ代二唱を行ひ、湯本委員長の教育勅語捧讀あり、委員長から聯合婦人會創立の經過に就いて挨拶、役員を選定をなし、會長石黒知事夫人議長席につき協議に入り、會則、大日本聯合婦人會加盟に關する件を附議原案通り可決し、又會の名を以て左記宣言決議を行ふ。

私達は現下の世相に鑑み、縣下婦人團體の聯絡提携を一層緊密にし、協力一致施設内容の充實を圖り、相率ゐて左記事項の徹底を期します。

一、家庭教育の振興を圖り善良なる家風の發揚に努めませう

社寺・宗教

主なる神社縁起

△國幣小社 駒形神社 膽澤郡水澤町に在り祭神は天照皇大神或は豊受大神又一説には大己貴神の御子御井神なりと稱されてあるが延喜式に載せられてあるもので明治四年五月國幣小社に列せらる

部藩祖南部三郎光行及び中興の祖南部大膳大夫信直及利直利敬の四公を合祀す三十三代利祖の時建立す

總裁石黒知事、會長石黒知事夫人、副會長田村子爵夫人、湯本學務部長、理事奥田教育課長、佐藤社會教育主事

△縣社 八幡宮 盛岡市八幡山に在り品陀和氣命を祀り延寶七年に創る

志和稻荷神社 紫波郡水分村に在り宇迦御魂命を祀り天喜五年源頼義安部頼時を伐ち陣ヶ岡に濯在中建立したもので後賴朝之

を再建す 志賀理和氣神社 紫波郡赤石村にあり延喜式神名帳の載する所は猿田彦命を祀つたといふが創建年月詳かでない

大神を祀り平城天皇の御宇大同二年の建立にかゝる 鎮守府八幡宮 膽澤郡佐倉河村大字八幡宮に在り延暦二十年征夷大將軍坂上田村麿の勸請したもので譽田別尊、雅日靈尊、素

蓋雄尊を祀る 室根神社 東磐井郡折壁村にあり伊非那美命を祀り正和二年に創る

主なる神社祭日

Table with columns for shrine names (e.g., 駒形神社, 八幡宮), locations (e.g., 膽澤郡水澤町), and festival dates (e.g., 九月十八日, 九月十五日). Includes a section for '社寺・宗教' with dates like 八月七日 and 八月十五日.



主なる寺院佛堂

宗名	名稱	本尊	所在地	創立年月
宗名	東禪寺	釋迦牟尼如來	盛岡市三ツ割	建武年中
時宗	教淨寺	阿彌陀如來	同	正慶二年
真宗	本願教寺	同	同	寛喜三年
曹洞宗	報恩寺	釋迦牟尼如來	同	永應廿六年
同	東顯寺	同	同	同二十年
真宗	大谷派本誓寺	阿彌陀如來	同	建保三年
天台	正覺寺	北川山十一面觀世音	同	大同二年
真言	光勝寺	大聖不動明王	岩手郡御堂村	大同二年
時宗	光林寺	阿彌陀如來	神貫郡八重畑村	承和三年
曹洞	大興寺	釋迦牟尼如來	八幡村	弘安三年
真言	自性寺	大日如來	石鳥谷町	永徳元年
天台宗	清水寺	清世音菩薩	花卷町	貞觀二年
同	長谷寺	不動明王	太田村	大同年中
同	松林寺	地藏大菩薩	石鳥谷町	延暦元年
無村	格社		仁壽元年	真言
計				元

  

種別	數	神職	種別	數	住職	種別	數	布教者
國幣	一	三	曹洞	三	一	日蓮	二	二
縣社	二	三	天台	三	一	其他	七	七
郷社	三	六	真言	三	一	其他	一	一
村社	四	一六	真言	三	一	其他	一	一
無格	九	二五	真言	三	一	其他	一	一
計	一九	五九	真言	三	一	其他	一	一

日本基督教  
同組合基督教  
同聖公會  
同メソヂスト教會  
其他

種別	數	神職	種別	數	住職	種別	數	布教者
計	三	三	實習	三	一	其他	一	一
天理	一	一	計	三	一	其他	一	一
教	一	一	計	三	一	其他	一	一

産業

六年中縣生産總覽

昭和六年中に於ける本縣生産物總價額は七千九百八十二萬七千八百四十八圓で現住戸數十六萬五千七百九十九戸に對し一戸當り四百九十七圓十三錢昭和六年十月内閣發表に依る推計人口九十九萬三千三百人に對する一人當り八十圓六十一錢である、之を前年に比較すると生産物總額に於て千六百四十萬九千二百四十七圓即ち(八分三厘)を減少し従つて一戸當り百二圓十八錢一人當り十六圓五十七錢の減少を示した尙既往五ヶ年間に於ける生産の趨勢を觀るに昭和二年以降漸減し本年に至りては物價の低落に伴ひ其價額最も減少し各生産物中産額最も多いのは

産業——六年中縣生産總覽

農産とし次に工業礦産水産林産畜産の順序なり今各種別生産狀況を示すと左の如し  
△農産物 生産高三千九百四十七萬八千八百八圓にして生産物總價額の三割八分を占め米麥大豆藪等その主なるもので前年に比し七百二十九萬一千五百六十圓を減じたるは主として米價の不振凶作其他一般農産物價格下落の結果にして米は前年より二十萬二千八百五十九石(二割五厘)價格において三百七十七萬五千七百四圓(二割四分五厘)夫々減少一萬四千四百五十六石即ち二分七厘の減收を觀た  
△畜産物 生産高は二百二十八萬四千四百七十六圓總生産額の二分八厘に當り馬、

家禽、牛豚等その主要なるものとす前年に比し二十八萬四千三百十六圓の減少を觀たるは牛馬市價下落は勿論一般家畜の安價に基因する  
△林産物 九百九萬八千二百二十圓の生産高にして總生産額の一割一分に當り木炭薪炭材用材等主要なる物とす前年に比し百七十二萬八千八百八十五圓の減少を觀たるは價額の低落に伴ひ生産數量亦減少したためである  
△礦産物 生産高九百七十九萬一千八百八圓總生産額の一割二分に當り鐵、鑽石販賣高硫黃等その主なるものとす前年に比し百九十五萬六千三百三十一圓の減少を觀たるは一般財界不況に伴ひ事業不振の結果に基因  
△水産物 生産額九百三十五萬二千六十二圓にして總生産額の一割一分に當り遠洋漁業最も多く水産製造物、沿岸漁獲物、水産養殖之に亞ぐ前年に比し二百三十萬六千四百六十九圓の減少を觀たるは主として不漁と價額の下落に依るものなるが支那方面の主要輸出品たる鮑の不採捕もその一因と見ることが出来る  
△工業物 生産高一千八百三十五萬四千八百十四圓にして總生産額の二割二分に當りその主要なるものは酒、醬油、味噌、麴、



産 業——米と麥——六年の米實收——六年の麥作

二〇六

産 別	陸 稻		合 計	
	作付	收穫高	段 別	計 價額
盛岡	五〇・九	二八	二九・二	六、〇一一
岩手	五〇・一	二八	二九・二	六、〇一一
紫波	二五・三	二九	二五・三	六、〇一一
種貫	一三〇・〇	一、〇八五	一、〇八五	一、〇八五
和賀	一〇〇・〇	六〇・八	一、〇八五	一、〇八五
膽澤	一九・五	九七・七	一、〇八五	一、〇八五
計	一、〇八五	一、〇八五	一、〇八五	一、〇八五
江刺	二二・九	一・九	二二・九	一、〇八五
西磐	三三・一	一・九	三三・一	一、〇八五
東磐	一三・九	一・九	一三・九	一、〇八五
氣仙	一九・八	一・九	一九・八	一、〇八五
上閉	四・〇	一・九	四・〇	一、〇八五
下閉	五・五	一・九	五・五	一、〇八五
九戸	三・四	一・九	三・四	一、〇八五
二戸	二・一	一・九	二・一	一、〇八五
計	五七・六	一、〇八五	五七・六	一、〇八五

六年の麥作

六年の麥作は播種後十一月中旬迄の天候は高温且つ降水量多く概ね適順な爲め發芽整一にして伸長分蘗共に促進せられたが十二月初旬以降積雪期に入り三月上旬迄は氣温著しく低下し加ふるに近年稀なる夥多の積雪量あつた爲め隔雪期も亦例年に比し著しく遅延し爲めに大小麥共些少なる苗核病の被害を觀るに至つた春分以後三月中は平年

に比し氣温高かつたが四月以降は氣候不順にして氣温低く搗て肥料薄の感あり秋数は例年と大差なきも草丈短く生育緩徐なりき立夏以降に於ては五月中旬より六月下旬に亘つて氣温例年に比し低温且つ降水量比較的多かつたので出穂は何れも十日乃至二週間の遅延を來し就中小麥に於ては銹病の發生多かりしのみならず七月上旬に入つて連日曇天にて甚しき低温並に多濕等近年稀なる變調的天候引續きたるため大小麥共に成

熟期著しく遅延を示し殊に小麥晩生種にあつては之等前記障害に依り倒伏を來し稔實を害せるのみならず乾燥充分ならざりしを以て收量品質何れも悪影響を及ぼした其の收穫高五三八、六三五石にして、前年收穫高に比し一四、四五六石即ち二分七厘の減收なり、尙ほ之を前五ヶ年平均收穫高に比し七、八五〇石即ち一分四厘の減收を示せるに至つた、今累年比較表並に郡市別を掲ぐれば別表の如し。

麥作累年比較表

年 次	作付段別		收穫高		價 額	
	作付	反歩	收穫高	價 額	收穫高	價 額
大正十五年	三三、二五七	一、七三三	六、九三三	七、九三三	三、三〇〇	五、四七二
昭和二年	三三、八五〇	一、四八五	五、〇九六	〇、八六六	一、七五〇	四、六三一
同 三 年	三三、一九七	一、七二七	五、八〇〇	五、五三二	一、七〇〇	三、五五二
同 四 年	三三、三四七	一、五九一	五、四七二	一、五九一	一、五九一	五、三七八
同 五 年	三二、六〇〇	一、五三〇	五、三〇〇	一、五三〇	一、五三〇	五、三七八
前五ヶ年平均	—	—	—	—	—	—
昭和六年	三二、四九七	一、七〇〇	五、三八〇	一、七〇〇	一、七〇〇	三、五五二

六年麥作郡市別表

○印は田作を示す

郡 市 名	作 付		反 別		收 穫		高 價	
	大麥	稗麥	小麥	燕麥	大麥	稗麥	小麥	燕麥
盛岡	七六・五	—	三三・九	四・八	一、六三三	—	五・七	八四
岩手	七六・〇	—	三三・九	四・八	一、六三三	—	五・七	八四
紫波	一、〇三三	—	五九・四	一七・二	一、七三三	—	一、八〇〇	—
種貫	一、三〇四	—	六四・一	七・五	一、九五五	—	二、五七二	—
和賀	〇、六八五	—	〇、〇	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇	—
膽澤	〇、八五	—	〇、〇	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇	—
江刺	〇、一八	—	〇、〇	〇、〇	〇、〇	—	〇、〇	—
西磐	一、一七四	—	一、〇〇一	—	二、六八三	—	一、四三三	—
東磐	〇、一三	—	二、八〇三	一、八七三	四、七八三	—	三、六六七	—
氣仙	二、〇六	—	二、六	—	四、七八三	—	三、六六七	—
上閉	一、四九九	—	七・四	—	二、二七二	—	二、九九九	—
下閉	二、二八九	—	六・八	—	二、八七三	—	三、五三三	—
九戸	一、三九八	—	二、一	—	二、五五九	—	三、三九八	—
二戸	一、〇四〇	—	九・九	—	二、〇三三	—	一、七〇三	—
計	〇、一四六	—	一、〇三三	—	一、〇三三	—	一、〇三三	—

産 業——米と麥——六年麥作郡市別表

二〇七

産業—米と麥—穀物検査

穀物検査

昭和六年穀物検査成績

出張所名	移出検査			生産検査			合計	普通小作計	總計
	玄米	精米	計	小麥	大豆	合計			
福戸岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沼内	—	—	—	—	—	—	—	—	—
好摩	—	—	—	—	—	—	—	—	—
盛岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—
矢幅	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日詰	—	—	—	—	—	—	—	—	—
石谷	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花巻	—	—	—	—	—	—	—	—	—
土澤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
遠野	—	—	—	—	—	—	—	—	—
黒尻	—	—	—	—	—	—	—	—	—
金ヶ崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水澤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岩堂	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前谷	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一ヶ澤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花泉	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和五年度	八七、七三三	一、九〇〇	一、九〇〇	三、八五〇	—	三、八五〇	—	—	—
昭和四年度	七六、三六五	一、九七二	一、九七二	三、八二二	—	三、八二二	—	—	—
昭和四年度	八八、九七五	二、三六四	二、三六四	三、九三九	—	三、九三九	—	—	—

穀物作付反別、生産高並價格累年表

年次	米		小麥		大豆		一石價格	
	作付反別	生産高	作付反別	生産高	作付反別	生産高	米	小麥
大正四年度	五〇、一六三・四	八五二、七六〇	九、七四四・七	六二、四五四	二、五三三・二	二〇、九七三	一一〇・六	—
大正五年度	五〇、三三三・二	八五二、八四三	九、八六七・二	六八、三八三	二、七〇五・六	二〇、〇二六	一一〇・五	—
大正六年度	五〇、八四三・三	一、〇三三、五三六	一〇、七一九・七	一八、八八九	二、七五〇・六	二八、〇四五	一一〇・五	—
大正七年度	五〇、八二〇・〇	一、〇三三、一七〇	一〇、〇七二・七	一三、四〇〇	二、八八四・一	三二、一四五	一一〇・五	—
大正八年度	五二、三三〇・三	一、〇七六、八二六	一一、〇九五・一	一四、四四八	二、九一七・二	三三、六三四	一一〇・九	—
大正九年度	五一、七九五・八	一、〇八五、九九四	一一、四八六・〇	一四、四四五	二、八六六・八	三三、三三五	一一〇・七	—
大正十年度	五三、三〇七・五	一、〇九四、三七一	一二、四〇四・三	一五、一〇九	二、八六三・三	三三、七一九	一一〇・四	—
大正十一年度	五三、八六四・九	一、〇六二、四八五	一二、三四五・六	一四、二八三	二、八六八・六	三三、六五五	一一〇・三	—
大正十二年度	五三、五三三・〇	一、〇四三、〇〇八	一一、一六八・六	九、七五三	二、八九七・九	三〇、八五八	一一〇・四	—
大正十三年度	五四、三九三・三	一、〇六五、八六六	一一、一〇三・三	一四、五六一	二、八〇七・四	三二、四八三	一一〇・三	—
大正十四年度	五四、〇一四・七	一、〇四七、七四四	一一、〇三三・八	一六、二九二	二、八一六・一	三三、四〇一	一一〇・三	—
昭和元年度	五四、八〇四・九	九四七、四七二	一一、〇七二・〇	一七、七七八	二、七三三・六	三三、三六八	一一〇・三	—
昭和二年度	五四、九〇四・〇	一、〇六、五七八	一一、三三六・五	一三、四七二	二、七三三・六	三三、〇三六	一一〇・三	—
昭和三年度	五四、六五四・八	一、〇四六、四一四	一一、三三六・八	一四、四七二	二、七三三・六	三三、〇三六	一一〇・三	—
昭和四年度	五七、六五八・一	一、〇四四、〇四一	一一、三三六・〇	一四、四七二	二、七三三・六	三三、〇三六	一一〇・三	—
昭和五年度	五九、四四三・五	一、〇九二、〇六一	一一、二六五・四	一四、一七二	二、六八三・八	三二、八〇七	一一〇・三	—
昭和六年度	六〇、〇〇〇・〇	九九九、二〇二	一一、四三九・四	一四、三三二	二、六八三・〇	三二、三三六	一一〇・三	—

本縣は地域廣瀾にして山岳丘陵に富み、原野遠く連りて天然の牧場を形成す、本邦翼北の稱ある塞に偶然ではない、本縣牧畜の畜産者

業は遠く藩政時代重要な施設として畫策せられ「南部馬、南部牛」の名風に天下に冠たるものである、六年の管内飼養馬匹は八萬七千二百七頭、其の飼養戸數五萬三千三

示して居る

百七十九戸、畜牛一萬四千九百八十三頭、飼養戸數六千四百九十七戸であつて其の他、養豚、養鶏、養豚等々増加發達の趨勢を

家畜飼養戸數

馬	五、三九九
牛	六、四九七
豚	一〇、三三三
鶏	一七、〇九
山羊	一、〇六
山羊	一、〇九

畜産業—穀物作付反別、生産高並價格累年表 畜産

二〇九

六年二歳牡馬糶賣

組合別	總頭數	價格		平均	最高	最低
		總	平均			
盛岡	七五二	八七、〇六〇	二五、九〇四	二、八〇〇	八、四七〇	五九、二〇〇
沼宮内	六〇九	八五、〇六二	一九、六七五	二、八〇〇	八、四七〇	五九、二〇〇
和賀	一七一	七、一五〇	四、八一三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
江刺	一五二	七、六三三	五、〇六三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
山ノ目	一三三	六、六〇四	五、〇三〇	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
東磐井	二二四	一〇、六四〇	四、九八三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
氣仙	二二〇	一〇、六六〇	五、〇六三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
上閉伊	六五四	六、一六五	五、〇六三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
下閉伊	二〇三	九、二二一	四、九八三	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇
合計	四、八七〇	四、八七〇	四、八七〇	一、〇〇〇	二、八〇〇	五九、二〇〇

六年二歳牡馬、農林省、陸軍省、購買

組合別	頭數	價格		平均	最高	最低
		總	平均			
盛岡	七	二五、五〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	八、〇〇〇	一七〇、〇〇〇
沼宮内	六	二二、七〇〇	一、三〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	一八〇、〇〇〇
和賀	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
江刺	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
山ノ目	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
東磐井	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
氣仙	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
上閉伊	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
下閉伊	一	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇
合計	二二	二八〇、〇〇〇	一、二七〇	一、二七〇	二八〇、〇〇〇	二八〇、〇〇〇

郡市名	飼育戸數	白藪種	黄藪種	計
盛岡	九七	一、九七五	一、一八五	三、一六〇
岩手	一、九〇七	三、五七〇	一、一八五	四、七五五
紫波	一、三〇四	二、七八四	一、三〇〇	四、〇八四
和賀	二、七七八	二、九四五	六、五八四	九、五三九
胆澤	一、四三三	二〇、六八九	八、一七三	二八、八六二

六年夏秋蠶

本縣昭和六年に於ける夏秋蠶は飼育戸數二六、七五七戸、掃立數量五、一七、四五二瓦にして、此の收滿高二五七、四八四貫、價額六〇二、五五八圓である。之を前年に比すれば飼育戸數一、七三七戸(六分九厘)、掃立數量六貫(五割六分) 價額二五、六五九圓(六割四)

郡市名	飼育戸數	掃立數量		收滿		價額	
		白藪種	黄藪種	白藪種	黄藪種	白藪種	黄藪種
盛岡	九七	一、九七五	一、一八五	七〇四	一、六二八	一、六二八	一、六二八
岩手	一、九〇七	三、五七〇	一、一八五	一四、八六八	三、五二五	一、八三五	三、七三〇
紫波	一、三〇四	二、七八四	一、三〇〇	六、一四三	九〇八	一、三五一	一、四九三
和賀	二、七七八	二、九四五	六、五八四	一四、二九六	四、二五三	一〇、八三三	一五、四五四
胆澤	一、四三三	二〇、六八九	八、一七三	一七、四九五	五、七二七	四〇、三〇三	四三、〇〇八
合計	一、七三七	一、七三七	一、七三七	二、七六九	二、七六九	二、七六九	二、七六九

産業—養蠶—六年夏秋蠶

業——六年夏秋蠶

江 西 東 氣 上 下 九 二  
井 井 井 伊 伊 伊 閉 閉 閉 計

Table with columns for municipalities (江, 西, 東, 氣, 上, 下, 九, 二) and rows for metrics: 飼育戸數, 白繭種, 黃繭種, 計, 收, 高, 價, 額. Includes comparison with previous year and price changes.

一一一

七年春蠶

昭和七年本縣春蠶飼育戸數二萬九千八百七十一戸蠶種立數量白繭種六十六萬三千五百七十七瓦(縣內製一七九,七八三瓦,縣外製四八三,七九四瓦)黃繭種六十一萬四千五百廿九瓦(縣內製一七五,一七〇瓦,縣外製四三九,三五九瓦)計百廿七萬八千六百六十六瓦

春 蠶

(昭和七年)

九十九萬二千九百六十一圓である、之を前年と比較し觀るに飼育戸數に於て千二百七十三戸(四分四厘)を増し蠶種に於ては黃繭種二萬三千五百四十六瓦(三分七厘)減じたが白繭種廿萬七千五百十六瓦(四割五分五厘)増したので結局十八萬三千九百七十五瓦(一割六分八厘)を増し掃立された隨つて收滿高に於ても黃繭種四千九百六貫(一分一厘)を減じ白繭種十三萬七千四百十六貫(四割三分八厘)を増したる結果十三萬二千五百十貫(一割四分七厘)を増收し又價額に於

て黃繭種三十六萬八千六百六十一圓(二割七分)を減じ白繭種九萬千七百四圓(一割)を増し總價額にて二十七萬六千九百五十七圓(一割二分二厘)を増した。右の如く増したのは前年末不況凶作並縣下の金融梗塞に鑑み養蠶實行組合の活動に依り蠶種の掃立を増したに由る而て本年の蠶況は掃立以來天候順調にして稚蠶壯蠶期を通じて蠶兒の飼育經過頗る良好上簇後の天候も亦適順にして繭質概して良好である 尙都市別に示せば次の通り

盛 岡 岩 手 紫 波 稗 貫 和 賀 膽 澤 江 井 刺 西 井 東 井 氣 井 上 伊 下 伊 閉 閉 計

Table with columns for municipalities (盛, 岡, 岩, 手, 紫, 波, 稗, 貫, 和, 賀, 膽, 澤, 江, 井, 刺, 西, 井, 東, 井, 氣, 井, 上, 伊, 下, 伊, 閉, 閉, 計) and rows for metrics: 養蠶戸數, 白繭種, 黃繭種, 計, 收, 高, 價, 額.

一一三

業—水産—沿岸漁獲物—遠洋漁業—水産製造物

九戸	一、四三二	一四、四七三	三三、九〇八	四七、三八一	一〇、二六一	二五、七六七	三六、〇四八	三三、三八八	六一、二五五	八四、六〇三
二戸	三、〇七七	三〇、八九三	七九、五三三	一一〇、四二五	一九、五九六	六〇、三三四	七九、九三〇	四四、四四六	一四九、七三七	一九四、一九三
計	二九、八七一	六三、三六六	一五三、四四一	二二〇、八五〇	二九、八五二	八五、一〇一	一一五、九七八	七七、八三四	二六〇、〇五二	三〇九、七九六

水産

沿岸漁獲物

種類	数量	金額
イワシ	一〇、八七五、六三五	四六、三三三
カツヲ	四四、六六四	二二、九八二
サバ	七、七六八、八六九	三三〇、〇五九
マグロ	四三、三六八	三〇五、九四五
カサキ	四四、七六五	五五、八二二
ブリ	七〇、八七一	三四一、八八五
タラ(スケトウタラ)	二六、四四三	五、〇二六
タカ	三六、五〇八	四一、二八〇
カレヒ、ヒラメ	九六、四九五	七三、三〇二
サケ	三六、四四四	三三九、二四一
マサ	一三、九六〇	一〇三、八九三
アメマス、ボラ、ワカサギ其他省略	一一、七八〇、七五四	一、六四一、七七八
貝類	八九、三三一	八一、五五四
アワビ	一七、三三〇	四、三六〇
ホクキガヒ	一七、九六〇	三、一五〇
アサリ		
其他省略		

計

其他の水産物 一、四〇四、二五三  
イカ、エビ其他省略 一、六七〇、八四〇  
藻類 一、四四四、二五三  
コナブ 一、四四四、二五三  
其他アマノリ、ワカメ、フノリ類省略 二、五八八、二四四

水産製造物

昭和六年に於ける本縣水産製造物の總價額は前年に比し百九十五萬三千九百四十二圓(三割九分)の減にして三百五萬四千八十八圓である

遠洋漁業

六年中遠洋漁業漁獲物の主なるものは  
△マグロ一、七一四、八九七貫一、〇三二、七〇三圓 △サバ一五、〇〇〇、〇〇〇貫  
六、〇〇〇、〇〇〇圓 △カレヒ、ヒラメ五九七、八三九貫二六四、四八九圓 △イカ五九一、四一〇貫 一六〇、六四七圓  
△タラ七〇九、九八四貫二〇、八八六圓  
其他省略 總計八、六六七、一三六貫三、〇〇二、九五二圓  
△遠洋漁業漁船 四八九隻、同總噸數六、五七二噸、同漁撈従事者六、四九一人

漁油

百四萬三千九百五十六貫  
九十一萬六千七百六十七圓  
十五萬九千二百六十三圓

にして之を郡市別に觀れば最も多いのは下閉伊郡の百十六萬九千十三圓にして總價額の三割八分を占め上閉伊、氣仙、九戸及盛岡の順序である之を更に種類別に觀れば食料にあつては上閉伊の八十六萬二千九百二十一圓首位を占め下閉伊、氣仙、九戸及盛岡の順序、肥料にあつては下閉伊の五十萬八千九百五十八圓首位を占め氣仙、上閉伊及九戸の順序、漁油にあつては上閉伊の十萬三千九百九十二圓首位を占め下閉伊、氣仙及九戸の順序である

郡市別水産製造物

郡市	カサヲ	マダロ(シビ)	サバ	ワカメ
上閉伊	六八、一九〇	七〇〇	一、六九五	二、三九九
下閉伊	一〇、七三八	五二四	六二、二三五	四、〇六六
計	五、四〇〇	八、四〇〇	四、七〇二	四、九三三
仙	一七六、八〇〇	八六〇	一、六九五	二、三九九
伊	三三、八六五	二、七〇四	六二、二三五	四、〇六六
伊	一八、七〇〇	一、七二五	四、七〇二	四、九三三
計	三九、六六八	九、六一四	二〇、八八八	五、二九七

農作物作況

昭和七年二十日夏作作況(九月一日) 縣立農事試験場

品名	昭和七年	平年比較増減
早稲三種	三、六〇〇	一、八六六
早稲三種	三、六〇〇	一、八六六
草丈	三、六〇〇	一、八六六
莖數	三、六〇〇	一、八六六
草丈	三、六〇〇	一、八六六
莖數	三、六〇〇	一、八六六

昭和七年二十日夏作作況(九月一日) 縣立農事試験場

二一五

農業—農作物作況—林産物

つゝあり、而して伸長は晩稻を除く外平年に大差なきも分蘗は何れも平年より多く作況稍良好と認む

一、水稻

Table with columns for rice types (早稻, 中稻, 晚稻), years (昭和七年, 比較増), and metrics (草丈, 莖数, 草丈分枝数).

大暑以降の氣象は七月下旬に於て高温多照且つ降水量少かりしを以て生育順調に進んだ爾後八月月上旬に於て稍々低温寡照なりしも中下旬は概して氣温適順なりしたため稻の生育順調に進み出穂期は平年に比し大差なく且つ八月中の降水量稍々少きに拘らず降水日数は比較的多かりしため稍々軟弱に生育せる傾向ありと雖も目下の作況は前表に示す如く草丈莖数共に増加を示せるを以て平年に比し稍々良好の見込である

一、水稻

Table with columns for rice types (早稻, 中稻, 晚稻), years (昭和七年, 比較増減), and metrics (草丈, 莖数, 草丈分枝数).

大暑以後の天候は氣温概して高く日照時數亦多かりしを以て生育順調なりしも七月三十一日より八月八日に至る穂孕期に於て低温寡照なりしを以て九日以降一週間の氣候適順なりしにも不拘出穂遅延し早稻は八月十八日、中稻は二十二日、晩稻は二十八日前後穂揃となれり、其後稍々低温なるの外概して適順なるを以て開花登熟順調にして目下作柄良好

二、大豆

Table with columns for soybean types (早生, 中生, 晚生), years (昭和七年, 比較増), and metrics (草丈一株枝数, 草丈一株枝数).

林産物

昭和六年に於ける林産雜類の價額は一、八四八、三八六圓即ち三割一分八厘の激減

を示す之れ一般經濟界不振の影響を承け林産物の單價低落の結果前記の如き減少を示した

林産物郡市別表

(昭和六年)

一圓一割四分三厘、莖の 一六六、九〇五圓 ○割九分二厘、製材其他一二五、六〇〇圓 ○割六分九厘之に亞ぎ以下漆液、山葡萄、自然生蔬菜諸菌類其他は何れも四萬圓未滿である更に之を郡市別に觀れば下閉伊郡の三八一、四六五圓最多とし總額の二割一分一厘を産し盛岡市の一六七、一七七圓

Main table with columns for city names (郡市名), categories (丸及角材, 板, 鐵道枕木, 其他計, 山葡萄, 諸菌類, 合計), and sub-columns for quantity, price, and amount.

業—林産物郡市別表







司法・警察——七年登記事件前中期比較表——警察——消防——結社

一一二

小川	一八七	二二一	一、一〇三	一、五五五	五九八六	一、〇八七三	水澤區	四、三〇〇	四、三三七	二、八三三	一三、〇〇四	一七、四三二	一七、五九六	一七、五九六
一關區	四、〇〇一	四、三二七	一八、五二二	一七、六三七	三三、二九〇	一七、八三四	前澤	二、一八七	二、六七四	七、八六九	八、三七一	七、四〇三	九、五三三	九、五三三
浦津	一、五〇四	一、五五六	七、九七八	六、四〇〇	六、三〇〇	六、〇九二	岩谷堂	二、五〇〇	二、九三三	二、三〇七	九、五二一	八、五〇〇	一〇、七〇一	一〇、七〇一
藤澤	六三四	一、〇〇八	三、九七四	四、〇四九	二、一五三	三、一九七六	米里	九六六	一、四三九	三、九六六	六、三五八	三、六三〇	三、六三〇	三、六三〇
千厩	二、二〇二	二、三三九	八、八四一	九、一五三	六、七五四	七、七五五	合計	六、八六六	七、三九七	三〇、七三三	三〇、七三三	三〇、七三三	三〇、七三三	三〇、七三三
大原	一、四八八	一、七五〇	五、八三一	六、八八六	六、四八六	七、三三三								

警察

警察事務執行の爲に縣下各地に警察署一七を置き、其の下に警部補派出所四、巡查部長派出所一五、巡查派出所一九、巡查駐在所二一七を設け警察部之を統轄してゐる、警察部は高等警察、特別高等警察、警務、保安、刑事、衛生、健康保険の七課に分ち、又警察教習所を置いて警察官の教養を司らしめて居る、警察官の定員は警察部長の下に地方警視三、警部二四、警部補以下巡查部長巡查五一八名で尙ほ請願により巡查部長一、巡查六名を配置してある

消防

組数 組員  
 組頭 小頭 消防手 計  
 二〇 三五 八三 二六、九八二 二六、〇八〇  
 消防用 消防用 消防用  
 腕用 蒸汽 カッリン 自動車 其他 計  
 七五 二五 六 二五 二 八三

結社

政友會岩手支部 盛岡市櫻小路  
 民政黨岩手支部 盛岡市紺屋町九四番戸  
 岩手青年政友會 盛岡市油町三一〇番  
 盛岡政友クラブ 盛岡市櫻小路  
 赤心聯盟會 盛岡市下厨川 井上孫吉方  
 床次會 同市大澤川原 小笠原徳兵衛方  
 田子一民後援會 同市本町 森徳松方  
 岩手青年聯盟 同市 貯蓄銀行内  
 政友會神貫クラブ 花巻町 高瀬新太郎方  
 民政黨神貫クラブ 花巻町 成田實方  
 和賀政友クラブ 黒澤尻町十一ノ十六  
 和賀政友クラブ 同町大字町分一五八  
 民政黨澤友クラブ 水澤町 壺蓋寺小路七  
 澤友政友クラブ 同町大町五一  
 江刺政友クラブ 岩谷堂町 館下及川千藏方  
 江刺政友クラブ 戊辰會 同町男石七九  
 西磐同志會 一關町地主町 菅原藤太郎方  
 兩磐政友クラブ 同町下街 阿部時一方  
 郡南同志クラブ 花泉村 花泉  
 東磐同志會 千厩町字町二五 白石博方

東磐西部各村聯盟 松川村字一市町三〇  
 伊藤伴藏方  
 東磐東南部政友クラブ 千厩町一四六金  
 野養之進方  
 東磐北部政友聯盟 摺澤村 觀音堂八九ノ六  
 菊池清兵衛方  
 氣仙民政クラブ さかり町 木町二八  
 氣仙郡東部政友クラブ さかり町 十九番ノ  
 い號 今野松次郎方  
 民政黨上閉伊クラブ 遠野町 十四ノ三二  
 上閉伊政友クラブ 遠野町 裏町 細越吉五郎方  
 民政黨上閉伊東部クラブ 釜石町 三ノ一二三  
 上閉伊東部政友クラブ 釜石町 三ノ一二三  
 下閉伊政友クラブ 宮古町  
 巖會 宮古町  
 民政黨下閉伊クラブ 宮古町 十七ノ五ノ一  
 下閉伊政治研究會 宮古町 向町 十二ノ二  
 岡田孝平方  
 新正會 宮古町 新地 六  
 下閉伊青年政友會 宮古町 築地 六一

下閉伊交友クラブ 宮古町 新地 四三ノ二二三  
 岩手東部青年革新聯盟 宮古町 澤田 四三ノ三  
 昭和クラブ 岩泉町 佐藤平吉方  
 交友會 同町 中村俊三方  
 北九戸民政クラブ 輕米町 上館 十八ノ十一

二戸田子一民會 一戸町 本町  
 縣北三郡民政クラブ 福岡町 五日町  
 柏田後援會 福岡町 五日町  
 二戸郡政友クラブ 福岡町 田町 十三  
 (無産陣營)  
 社會大衆黨盛岡支部 盛岡市 八日町

同黨東磐支部 千厩町 千葉七郎方  
 同黨九戸支部準備會 九戸郡 久慈町  
 日本國家社會黨支部準備會 盛岡市 肴町  
 水原友次郎方  
 同黨九戸支部準備會 九戸郡 久慈町

衛生

醫師 (昭和六年) 診療ニ従事スル醫師數

郡市別	性別	大學卒業	官公私立指定醫學專門學校卒業	外國學校卒業	試驗及第	奉職履歷	從業年限	限地開業	合計	市部	町部	村部	合計
盛岡	男	元	三	一	九	一	一	一	二七	二	一	一	二七
岩手	男	一	八	一	四	一	一	一	二二	一	一	一	二二
紫波	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
稗貫	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
和賀	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
膽澤	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
江刺	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
西磐	男	一	一	一	二	一	一	一	三	一	一	一	三
合計		元	三	一	九	一	一	一	二七	二	一	一	二七



衛生—産婆 交通・運輸—縣の交通網

郡市別	上閉		下閉		合計	
	男	女	男	女	男	女
和賀	1	1	1	1	2	2
稗波	1	1	1	1	2	2
紫波	1	1	1	1	2	2
盛岡	1	1	1	1	2	2
岩手	1	1	1	1	2	2
郡市別	1	1	1	1	2	2
指定學	1	1	1	1	2	2
校者ク	1	1	1	1	2	2
ハ講習	1	1	1	1	2	2
所卒業	1	1	1	1	2	2
(試験)	1	1	1	1	2	2
校卒業	1	1	1	1	2	2
及第	1	1	1	1	2	2
開業	1	1	1	1	2	2
開業	1	1	1	1	2	2
計	1	1	1	1	2	2
江刺	1	1	1	1	2	2
西磐井	1	1	1	1	2	2
東磐井	1	1	1	1	2	2
氣仙	1	1	1	1	2	2
上閉伊	1	1	1	1	2	2
下閉伊	1	1	1	1	2	2
計	1	1	1	1	2	2

交通・運輸

縣の交通網

北上、馬淵兩河川は最も重要な交通路を成し、中部平地に於ける交通はこの兩川に負ふ所頗る多く、東北本線は之に沿うて縦貫して居る、海岸地方は海岸道路と船舶と

に依つて相互の交通に便益を得て居るが、背後に峻峻なる山地を負うて居るので、中央部と隔絶の状態にあり、繞に南北の隣縣を通じて其の便を得て居つたが、今や中央、花巻、釜石間の輕便鐵道及八戸、久慈間並に好摩、花輪間の鐵道に依り交通の

鐵道

線名	區域	盛岡運輸所管區域		橋場線	自盛岡
		停車場數	信號場計		
東北本線	自前澤居間 自陸中折居間 自北高岩間 自尻内間	24	5	2	2
横黒線	自黒澤尻 自陸中大石間 自陸中川尻	7	1	1	1
花輪線	全通す	7	1	1	1
計		38	7	4	5

管内各線別營業成績 (昭和六年度)

線名	管內延長	營業	橋場	自盛岡
山田線	180,000	274,100	4	4
花輪線	274,100	29,800	1	1
計	454,100	303,900	5	5

花輪線は東北本線好摩驛(岩手縣岩手郡卷田村)に起り私設秋田鐵道陸中花輪驛(秋田縣鹿角郡花輪町)に通ずる延長六十九軒

八百七十九米の線路は昭和六年十月十七日全通した、この鐵道は大正七年第四十一議會の協賛を經同八年三月鐵道院告示第十六號で盛岡建設事務所管に編入され同年五月開始して好摩平館間の測量に着手してより今日に至るまで十二年六ヶ月の星霜と約五百五十五萬圓の工費を投じて竣功したものである

線名	種別	乘車人員	貨物發送		運賃		旅客		貨物	
			越數	收入	平均收入	百分入	平均收入	百分入		
東北本線	線	2,716,936	2,951,855	1,370,089	1,297,455	33	87%	33	87%	
横黒線	線	1,721,339	25,544	36,502	110,742	3	2%	3	2%	
橋場線	線	1,591,966	26,460	85,775	133,855	4	2%	4	2%	
山田線	線	98,055	16,414	65,917	133,455	3	3%	3	3%	
花輪線	線	169,788	16,373	68,550	59,518	3	3%	3	3%	
計		3,344,844	499,976	1,999,888	3,615,082	33	87%	33	87%	

備考 一、貨物發送越數には無貨扱を計上せず

交通・運輸—鐵道

六年中盛岡縣主要貨物發着品(噸)

品名	數量	品名	數量
米	一、〇〇〇	生野菜	八三三
木材	九、〇〇〇	木炭	一、三三六
石炭	六三三	鐵及鋼	一、〇三三
煙草	三三三	清酒	三三三
肥料	三三三	鐵及鋼製品	九〇六
牛馬	八〇〇	馬	一、五三三
其他	三、五九九	合計	三、六四九

(到著)

米	一、〇〇〇	果物	一、四四五
木材	三、五九六	炭	二、五三二
薪炭	三、五九六	石炭	九、二四一
石油	一、三〇七	鐵及鋼	一、〇三三
食鹽	一、六〇〇	介類魚	一、五五五
介類魚	一、八七二	小麥粉	九〇三
砂糖	一、三三八	葉煙草	一、六三七
清酒	六三三	肥料	二、三三四
飼料	六六一	鐵及鋼製品	六三三
セメント	一、三〇〇	馬	一、八四三
其他	三、八三二	合計	三、三九九

輕鐵買收候補線に

鐵道省では七年五月十一日午後省議を開き

協議の結果岩手輕便鐵道(自花卷至仙人峠六十五キロ四)を買收候補線に追加を決定した、而して同鐵道の建設費は約百八十四萬圓で最近三ヶ年間の平均益金割合は四分四厘であるから價格算定方法は買收の日に於ける建設費に右益金の割合を乗じ之を二十倍したる額と、買收の日に於ける建設費を公債市價に換算したる額の兩者を合計二分して定むるものである、尙岩手輕便鐵道と同じく候補線と目されてゐた釜石大橋間の釜石嶺山鐵道は今回の選定から洩れた右決定に依つて本案はいよいよ六月の臨時議會に提出される段取となつたが政友會内閣が代つて遂ひに實現を見ずに至つた、通常議會には提案されるだらうと言はれてゐる。本鐵道は明治四十四年笠井知事の時代に會社創立されたものである

道路

國道	縣道	市道
一九、八二	二、〇七六	三三三、六四三
計	二、〇七六	三三三、六四三
町村道	計	
一、三三三、二〇〇	一、八八八、六三三	
自盛岡至東京	五五、三三三	至仙臺 一八三、三三三
至青森	二〇、七三三	

新縣道六十線

大正十二年以來中斷されてゐた町村道の縣

編入に付て久保知事は五年の通常縣會に於て六十一線を採擇したが七年十月右の中六線縣道として認定され淨法寺一戸線だけは廢止された旨の通牒が縣に對し通達された。認定された六十線左の如し

- △大原津谷線(七里五町) △廣田高田線(三里六町) △一關岩谷堂線(八里二六町) △土澤岩谷堂線(六里一七町) △矢幅停車場不動線(一里二町) △姫松岩泉線(三里二町) △石鳥谷花卷溫泉線(二里三〇町) △藤澤米谷線(二里二九町) △花泉驛狼川原線(四里一八町) △水分石鳥谷驛線(二里三〇町) △一關若柳線(一里三二町) △大迫岳線(四里二〇町) △山目大原線(八里一〇町) △盛岡柳澤線(四里一三町) △盛岡淺民線(五里一〇町) △梁川土澤線(一里三二町) △摺澤驛興田線(二里三二町) △達會部宮守線(一里二一町) △岩谷堂金ヶ崎驛線(一里三〇町) △前澤長坂線(五里八町) △盛岡岩谷堂線(二〇里三四町) △一關若ヶ崎線(四里一〇町) △葛卷野田線(一里三三町) △宮古重茂線(五里二四町) △岩泉松草驛線(一五里一四町) △一戸八木港線(八里一三町) △大野侍濱驛線(三里二四町) △平館驛卷城線(三里三一町) △繁仙北町驛線(三里三五町)

- △花卷臺線(二里二五町) △金ヶ崎横川目驛線(六里) △遠野附馬牛線(三里八町) △米里遠野線(八里六町) △楮川大植線(二二里一三町) △川井山田線(一三二里二七町) △盛綾里線(五里) △金澤有壁驛線(三四町) △久慈驛線(一町) △陸中夏井驛線(五四町) △種市驛線(六七町) △田山驛線(一五町) △荒屋新町驛線(五七町) △赤坂田驛線(一八町) △平館驛線(一五町) △大更驛線(五町) △厨川驛線(四〇町) △好摩驛線(一〇町) △大釜驛線(七町) △小岩井驛線(一五町) △上盛岡驛線(一

- 五町) △江釣子驛線(二町) △藤根驛線(二九町) △陸中大石驛線(一五町) △平泉驛線(二一町) △山目驛線(二八町) △摺澤驛線(五町) △折壁驛線(三三町) △瀧澤驛線(一七町) △澤内花卷線(一四里) △湯口花卷川口線(四里三三町) △一關巖美線(二里四町) △葛卷八戸線(一二里二七町) △輕米八戸線(二里)

汽船	船舶及諸車	帆船	汽船	馬車	人力車	自動車	自転車	牛車
七	七	七〇七	七〇七	三五	三五	二六、三三	八、七三	二〇
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
汽船	汽船	汽船	汽船	馬車	人力車	自動車	自転車	牛車
七	七	七〇七	七〇七	三五	三五	二六、三三	八、七三	二〇

學藝

縣下新聞雜誌一覽表

(昭和七年八月現在)

題號	發行時期	發行場所及發行人氏名	有保證金
岩手日報	日刊(夕刊を含む)	盛岡市內丸 下村 恒彌	三八
岩手毎日新聞	同	盛岡市日影 豐田 毅	同
岩手朝報	同	門外小路 中川 里市	同
岩手新報	同	同仁王小路 宮永 佐吉	同
東北評論	月一回(二十五日)	實業之東北 同	同
旬刊實業新報	月一回(十五日)	旬刊實業新報 月一回(十五日)	同
岩手教育	月一回(五日)	岩手教育 月一回(五日)	同
岩手慈光	年四回(三、五、八、二各月一日)	岩手慈光 年四回(三、五、八、二各月一日)	同

縣下新聞雜誌一覽表

學藝——縣下新聞雜誌一覽表

生々々々	一月一回(八日)	盛岡市北山	四戸熊藏	花巻温泉	一月一回(十五日)	前川喜太郎
溪聲	一月一回(不定時)	盛岡市清養院	稲田泰堂	岩手民論	三月三回(五、五、五)	安原賢三
岩手中央新聞	日刊(日曜大祭日の翌日休刊)	碑貫郡花巻町	鎌田彦兵衛	胸形タイムス	三月三回(三、三、三)	水澤町大町
和賀新聞	月六回(三、六、二、六、二、六)	和賀郡黒澤尻町	小原勇右衛門	岩手公論	月二回	盛岡市加賀
共存共榮	月一回(五日)	和賀郡黒澤尻町	澤藤幸治	三陸毎日新聞	日刊	野久保田
岩手民友新聞	月二回(五、二〇日)	膽澤郡水澤町	齋藤太郎	週刊黒澤尻タイムス	週刊	盛岡市加賀
夕刊いさ	日刊(日祭休)	西磐井郡一關町	山岸憲章	快光	月一回(十日)	上閉伊郡釜石町
三陸新聞	月三回(五、五、五)	氣仙郡盛岡町	佐藤吉次郎	我等の聲	月一回(一日)	和賀郡黒澤尻町
河北新報號外	(不定時)	盛岡市内丸二	伊藤央	東京朝日新聞	(不定時)	盛岡市役所内
東北民論	日刊	上閉伊郡釜石町	佐藤利八	號外	(不定時)	盛岡市大通り朝日新聞通信部
宮古新聞	日刊	下閉伊郡山口村鴨崎	小國善平	無保證金		盛岡市八幡
三陸タイムス	日刊(日祭休)	下閉伊郡山口村鴨崎	高山キヨ	岩手消防	月一回(休刊)	盛岡市岩手
岩手民聲新聞	月二回(一〇、二五)	岩谷堂町川原町二三	織笠養一郎	岩手水産會報	年四回	同岩手水産會内
北岩手	月三回	九戸郡久慈町	上山重三	岩手商工新報	月三回	盛岡市加賀
かまいたし	月三回以内(不定時)	釜石町	狩野伯	愛國新聞	月三回	野盛岡市八幡
磐井毎夕	日刊	釜石町	阿部時一	岩手公論	月一回	盛岡市東中
		大槻街		杉山式農會報	月一回	和賀郡岩崎

岩手自動車	隔月一回	保安課内	三浦啓次郎	岩手經濟新報	月三回(一、二、三)	盛岡市八幡	柳引徹男
煤孫戸主會報	月一回	和賀郡岩崎村	高橋徳松	杜陵新報	月三回(五、五、五)	同	山内義夫
岩手毎日新聞	月一回	盛岡市	金濱巖男	モダン北日本	月一回	同	菊池啓三郎
日曜いはて	(毎月曜)	盛岡市不來方町二〇	信夫源一	眞友	年四回(不定時)	和賀郡藤根村	高橋峰次郎
あゆみ	月一回(十日)	釜石町只越	港榮藏	岩手時事新聞	月三回(七、七、七)	盛岡市鷹匠小路	池本初太郎
民衆政治新聞	月三回(一、二、三)	盛岡市仙北組町五四	烏田勝義	羊の群	月一回(廿五日)	盛岡市内丸	土田熊治
岩手國粹新聞	月三回(一、二、三)	盛岡市八幡町片原三	森田祐太郎	宗教新聞	月二回(一、一五)	同三ツ割三	沼田正穂
岩手廣告新聞	月三回(不定時)	盛岡市油町七	巖文二郎	岩手振興新聞	月三回(一、二、三)	同新馬町	春日長之助
岩手醫事	年四回(三、六、九、十二)	盛岡市仁王小路三〇	石井峰吉	岩手評論	月三回(一、二、三)	同八幡片原	森田清三郎
志和稻荷	年四回(各月廿五日)	紫波郡水分局竹澤	鱒澤一	青訓月報	月一回(不定時)	同八幡町三	佐藤興七
岩手民報	月三回(五、五、五)	盛岡市神子田一三三	柳田貞藏	東磐新報	月二回(一、一五)	東磐井郡千厩町	高橋伊之助
盛岡新聞	月三回	盛岡市油町	山本健二郎	郷調	月刊(十一日)	膽澤郡水澤町	石原義廣
夏草	月一回	同	宮野藤吉	東北通信新報	月刊(廿五日)	盛岡市水原町	井出典作
みちのく	隔月一回	同	大窪峻	萬葉タイムス	旬刊	同三ツ割一二七	千葉亭
商業時報	月一回	福岡町	工藤利一郎	ながをか	月一回	紫波郡長岡村	七木田勝見
岩手縣青年團體聯合會報	年二回	縣内	菊池萬藏	釜石商工會報	月刊(不定時)	上閉伊郡釜石町	谷澤忠平
岩手縣聯合女子青年團報	年二回	上閉伊郡釜石町	木村茂	東北産業新報	月三回(不定時)	東磐井郡千厩町	西條房之助
よろこび	月一回(十五日)	石町		女性岩手	月一回(十日)	花巻町東裏	多田ヤス

學藝——縣下新聞雜誌一覽表

大船渡商工會 年四回

氣仙郡大船渡町

志田武之助

學校と家庭

月二回(不定時)

同 上 小野 敏

出版

縣關係の六年九月以後の出版目録左の如し

◇國語論(一)

金田一京助 東京 刀江書院

◇啄木追懷(一)

土岐 善鷹 東京 改造社

◇風園集(二)

太田孝太郎

◇盛岡碑文集(一)

太田孝太郎

◇日本林制史資料(盛岡藩) 農林省

◇岩手詩集(一)

千々岩富士夫

◇花の盛岡(一)

北島喜代志

◇昭和三年

陸軍特別大演習記録(一)盛岡市役所

◇松尾夜話(一)

小田島孤舟

△帝展特選(六年十月)

橋本八百二「晝休」

△美術展覽會

清水七太郎個人展(六年一九四、五、六商陳)

全岩手美術展(同 二〇六—三〇)

白陽會美術展(同 二〇六—ク)

金野芝路遺作展(同 三三三—三樓上)

八重樫勇次郎(同 三三三—宮古)

音樂

一九三二年の杜陵樂壇に特筆すべき最大記録は何んといつても十何年振りか日本に歸つて來た日本が生める世界的聲樂家三浦環女史を迎へたことであらう、それから盛岡出身の女流三樂人を中央樂壇に送つたことも記録すべき事である、即ち

ピアノ佐藤由紀子(上野音樂學校出身)

ソプラノ海野初江(國立東京高等音樂院)

ソプラノ稻荷場キタ(東洋音樂學校出身)

の三嬢でその將來を囑望してゐる。盛岡洋樂協會の創立を見たのもこの年である、主なる演奏會記録は左の通り

◆六年◆

△ベルトラメリー能子獨唱會(九・一八・公會堂) ピアノ伴奏 松浦智恵子

△單獨オーケストラ演奏會 小松祐教(一〇・一五・同)

◆七年◆

△慈善音樂會(二・二七・盛岡善隣館)

出演者 (ソプラノ)横山きよ子(パリトン) ミスター・レガレー (ピアノ) ミス・ハーノルド (バンジョー) ドクトル・ゾーグ (伴奏) ミセス・クリーテ

△爆彈三勇士の歌發表音樂映畫會(四・一三・公會堂)

出演者

(ソプラノ)船越富美子(同)青木晴子

(パリトン)内田榮一、外漫談家 西村樂天

△東京齒科醫專演奏會(七・一一・公會堂)

指揮 丹羽廣志

特別出演 (ソプラノ)松島詩子

△三浦環女史獨唱會(七・二六・公會堂)

伴奏 エンリコロッシー

△本多信子(八・六・公會堂)

小唄の夕 特別出演

藝術名家鑑

△洋 畫

橋本八百二 東京市世田ヶ谷代田一ノ六

同 はな子 同 (上野第一高女教諭)

小笠原寛三 東京市戸塚諏訪四〇

及川 吳郎 東京市西大久保七九

及川 文吾 東京市西荻窪六四七

鎌田 次郎 東京市杉並阿佐ヶ谷八九

上野 廣一 神奈川縣葉山町山口

吉川 保正(彫型) 盛岡市内丸商工館

高橋 吉雄 東京市麴町區富士見町二ノ三

菊池 知勇 東京市大崎町一四七〇

小原 節三 東京

小田 觀雲 北海道小樽中學

小田島孤舟 盛岡市新馬町松尾前

關 德彌 神戶郡花巻町

山口 青邨 東京市西大久保九一

岩動 炎天 東京市青山區北町四ノ一三

照井 詠三 東京市駒ヶ谷八四四

(パリトン) 東京市牛込區市ヶ谷三ノ二二

伊藤 敦子 東京市下谷區谷中清水町一五

(ソプラノ) 杉山方

瀨川 良隆 東京市下谷區谷中清水町一五

(ピアノ) 瀨川佐喜子

(ソプラノ) 右同

宮 操子 東京市高田せいで子舞踊團内(洋行中)

娛樂と趣味

本縣の新作小唄

地方民謡小唄全盛時代——「盛岡小唄」がレコードに入つて新生命を拓き、宣傳効力百

學藝—藝術家名鑑 娛樂と趣味—本縣の新作小唄



小唄、繫温泉小唄、偉人小唄、煙火音頭等續々として發表される、又岩手日報社主催で「岩手民謡」が募集される、六年から七年にかけ岩手縣は正に小唄全盛期の觀があつたレコードに吹き込まれた小唄の歌詞のみを左に紹介しやう

新民謡「盛岡小唄」

北島喜代志作詞  
古賀政男作曲並編曲

▽春

花の盛岡 朝日がさせば  
京にもまさるあで姿

お山片肌ぬいだ 岩手富士  
解けはせぬ サンサエー

▽夏

なかぬ日のない 河鹿でさへも  
しのぶ戀路は中津川

おや君まつ宵は 鈴蘭も  
露の情にヤツコラサツトキタコラ  
咲き匂ふ サンサエー

▽秋

黄金花咲く みち細くとも  
おとに聞えた 馬市に

おや都とのがが 買ひに来る  
南部の胸はヤツコラサツトキタコラ  
三國一 サンサエー

▽冬

冬はスキ一の アノ岩山に

こゝろはをどるテレマーク

オヤ兩杖ふつて高々と  
ジャンプをすれば

ヤツコラサツトキタコラ  
雪げむり サンサエー

新民謡「展勝地小唄」

郡司信太郎 作詞  
武田忠一郎 作曲  
野村宣直 編曲

ハア、奥州立花さくららの名所  
ハア、ヨイシヨイ

雪のまだらに花が咲く  
ヨイシヨイ

ハア、青葉がくれの山ほととぎす  
ハア、ヨイシヨイ

河岸の鮭瀬に月が出る  
ヨイシヨイ

ハア、燃ゆる紅葉に煮えたか鍋よ  
ハア、ヨイシヨイ

きのこいもの子 鮭のあら  
ヨイシヨイ

ハア、雪に埋れて夢見る山は  
ハア、ヨイシヨイ

染井吉野の花盛り  
ヨイシヨイ

ヨイシヨイ 花盛り

(以上コロムビア六年十一月新譜)

新民謡「南部火消音頭」

伊藤行人 作詞  
武田忠一郎 作曲  
大村能章 編曲

ヤレソレヨイヨイヨイ  
南部片富士や火消しの名取り

音頭ヨイヨイヨイヨイヨイ  
早鐘の

ヤレコノドツコイヨイヤサノサ  
鐘はヨイヨイ南部の

鐘は南部の守り鐘

ヤレソレヨイヨイヨイ

いとしお主は南部の火消し

鐘にヨイヨイ宵寝の鐘に宵寝の腕を

解く

ヤレコノドツコイヨイヤサノサ  
解いたヨイヨイ其の手に

解いた其の手に命綱

ヤレソレヨイヨイヨイ

屋根にや煙よ火の粉に映えて

振れやヨイヨイ命の振れや命の金馬麩

ヤレコノドツコイヨイヤサノサ  
鐘がヨイヨイ鳴るぞい

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

鐘が鳴るぞい鐘が鳴る

ヨウイサノサ

俚謡「須川小唄」

安田雅夫 作詞  
野村宣直 作曲

一、須川温泉の出どこは何處よ  
雪にからだの安ノ五千尺

呼んだ山彦谷間にひびく  
ひびく谷間にア花も咲く

二、樹の間の光よ何處までつづく  
千古入れざるアノ斧の音

呼んだ山彦静かに消へて  
消へてなくなりア閑古がなくぞ

三、河鹿なくなく三日月アくだく  
架けた釣り橋アあぶなげな

呼んだ山彦とわけよ戀と  
戀と噓ちたらあぶなげな

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ヨウイサノサ

ふかしませうかおいらん風呂で

深山鶯ヨ きなながら  
ヨイヨイサテヨイ

須川よいとこ湯桁をてらす  
月にちらりとヨ 仇姿

須川通ひの荒馬さへも  
おに花畑でヨ 夢を見る

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

ヨイヨイサテヨイ

岩手山曇れば 早池峰晴れる  
あひの姫神山 涙か 雨か  
道瀬ない身よ 七時雨山  
永の出船に 今宵は入港  
灯影嬉しや 岬は とどか  
濱にや漁火 胸の灯よ  
男 出稼ぎ 岩手の風習  
香る鈴蘭 妹か 嫁か  
いとし 可愛ゆし 野邊姿  
△貳 等

岩手縣盛岡市仙北町下川原 淺沼 善三郎  
行けば淡雪 戻れば椿  
あねこ戀しや 山家の育ち  
南部片富士ア 風便り  
まよ馬コでひとはしり  
馬は二才の南部駒  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

鷗ほろりと淨土ヶ濱よ  
磯の娘の合圖に鳴いた  
ひとり待つ身の日は暮れる  
参差さら／＼日は暮れる  
まぐる山なす戻り舟

宮古港は大漁節  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

松尾 釜石 粗鱈 湯鱈  
胸は躍るよ 腕は鳴るよ  
鑛坑(あな)は若衆の度胸試し  
参差さら／＼度胸試し  
主は鐵瓶 わしや美人  
共に南部の花と咲く  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

静か いとしや衣の箱よ  
亡ぶさだめはあきらめましょが  
戀の關所は開きやせぬ  
参差さら／＼開きやせぬ  
雨がふるふる 光堂  
末の松山 仇紅葉  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

千鳥何なく 白砂満れた  
高田松原 三ヶ月ア細い  
松の小枝に落ちかゝる  
参差さら／＼落ちかゝる  
憎や今宵は十三夜  
むせぶ浪音 國の果  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

温泉花巻 紅葉の戀が  
湯の香戀しと 湯里に燃えて  
逢ふ瀬二人の肩に散る  
参差さら／＼肩に散る  
湯煙にうする月影に  
参差踊りの笛の聲  
(おいでみさんせ)  
岩手はよい國ドッコイナ)

△參 等

東京市小石川區久堅町六 平野 直  
春は わびしや 岩手の在所  
花に満れてる 月もある  
サツサ 濡れてる 月もある  
閑古 なくかよ 不來方城跡に  
昔しのべの 宵あかり  
サツサ しのべの 宵あかり  
秋は 旅寢の あの衣川  
雁も渡るか 夢の跡  
サツサ 渡るか 夢の跡  
戀の スロープ スキーにのせて  
さまといで湯の 冬を聴く  
サツサ いで湯の 冬を聴く  
柳 なよなよ 北上川に  
新酒 水くむ 里もある

サツサ 水くむ 里もある  
來ねと さびしい 來たとて寂し  
お前 おがせの 瀧しぶき  
サツサ おがせの 瀧しぶき  
沖は 冴えざえ 湖の香り  
春の港の 大漁船  
サツサ 港の 大漁船

△小唄と舞踊の夕(八・六公會堂)  
小唄 ビクター 東京霞町 勝太郎、  
童謡 本多信子、舞踊 藤間喜典惠

△藤間勘幸舞踊會 (六年一〇・二六 盛劇)  
△長唄と舞踊の會 (同 一一・七 盛劇)  
會主 杵屋勝壽郎  
△教育舞踊音樂會 (同 一一・二二 公會堂) 舞踊 谷島 伸  
△滿洲派遣兵慰問の夕 (同 一一・二五 公會堂) 岩手日報社主催  
△歳末同情デー (同 一一・一八 公會堂) 同

△石井漢舞踊會 (七年五・一四 公會堂)  
△田川洽舞踊會 (同 七・一二 公會堂)  
△都山流創始三十五周年祝賀演奏會 (六年一一・三三 公會堂) 八木甫山、細田揚山、鳴原松園、佐々木佐喜豊

△琵琶と謡曲

△水藤錦積の夕 (七年五・六 公會堂)  
△盛岡觀世素謡大會 (六年一〇・一一 秀清閣) 田村久吉、田村一郎出席  
△岩手觀聖大會 (同 一一・八 多賀)  
△喜多流能樂大會 (同 一一・一二 盛劇)

レコード

△盛岡小唄發表舞踊演奏會(一〇・二四公會堂)  
△展勝地小唄發表會(一〇・一一 黒澤尻壽座)  
▲七年▼  
△南部火消音頭發表會(一一・一一 公會堂) 特別出演舞踊 仙臺名妓 桃吉  
△水澤小唄發表舞踊演奏會(三・二〇 水澤當立座)  
△ハイドン生誕二百年祭記念レコードコンサート(四・九 盛岡善隣館)  
△洋樂レコードコンサート(六・四 公會堂)

レコード

△小唄と舞踊の夕(八・六公會堂)  
小唄 ビクター 東京霞町 勝太郎、  
童謡 本多信子、舞踊 藤間喜典惠

△藤間勘幸舞踊會 (六年一〇・二六 盛劇)  
△長唄と舞踊の會 (同 一一・七 盛劇)  
會主 杵屋勝壽郎  
△教育舞踊音樂會 (同 一一・二二 公會堂) 舞踊 谷島 伸  
△滿洲派遣兵慰問の夕 (同 一一・二五 公會堂) 岩手日報社主催  
△歳末同情デー (同 一一・一八 公會堂) 同

△石井漢舞踊會 (七年五・一四 公會堂)  
△田川洽舞踊會 (同 七・一二 公會堂)  
△都山流創始三十五周年祝賀演奏會 (六年一一・三三 公會堂) 八木甫山、細田揚山、鳴原松園、佐々木佐喜豊

ラヂオ

縣關係のラヂオ放送記録左の通り  
▲六年▼  
△講演「新興國民の氣力」子爵 齋藤實(九・一 東京)  
△趣味講座「鳴く虫の話」 佐々木喜善(九・二 仙臺)  
△講演「生活と民謡」渡邊波光(九・九 仙臺)  
△俚謡「木遣音頭其他」唄 盛岡 吉田仁右衛門、囃子鈴木榮造(九・二三 仙臺)  
△獨唱 歌劇「ジャンキスキツキ」外一曲、ソプラノ伊藤敦子(一〇・一四 東京)  
△子供の時 お話「動物を大切にしませう」農學博士新渡戸稻造(東京)  
△講演「傳書鳩普及の必要」 盛岡高農教授 小西 要 一一・仙臺  
△箏曲「松風、新高砂」等 横田伊久井、同杉本喜久井、同小野松子、尺八八木甫山、三絃佐々木佐喜豊(一一・一四 仙臺)  
△趣味講座「柿の話」佐々木喜善(一一・二二 仙臺)  
△子供の時間「滿洲に使ひして」少年團盛岡地方聯盟橋本勇、少年團盛岡地方聯盟歌(仙臺中央少年團員)(一二・一九 仙臺)  
△滿蒙事情特別講座「太平洋會議に現はれる滿蒙問題」新渡戸稻造(一二・二六 東京)

△食料講座「自家用改良納豆の製造について」 縣農事試験場長猪狩源三(一二・二八仙臺)

七年

△清元「杜都四季眺」盛岡小唄「南部音頭」三味線清元喜久芳、同喜久榮 唄清元喜久清、同喜久志、同喜久照、同喜久歌、鳴物望月久吉、同清時、同清香、同丸榮(一〇各局の午後 仙臺)

△獨唱と齊唱 花城小學校兒童 ビアノ伴奏 奏高橋範房、指揮千葉運孝(二・三仙臺) △大偵神樂 神貫郡内川目村有志 指揮藤原直人(二・四 仙臺) △獨唱 マリアノ子守唄、レীগー曲(其他) ソプラノ伊藤敦子(四・一〇 東京) △新民謡 南部火消音頭 丸山和歌子(四・一六 東京)

△新民謡水澤小唄、膽澤音頭、唄小文、三味線文矢、太鼓榮龍外四名(四・一八仙臺) △不良少年問題座談會 東京帝大教授小野清一郎(五・一三 東京)

△趣味講座 戰爭に出られた神々の話 佐々木喜善(五・一五 仙臺) △子供の時 ヴァイオリン獨奏 武田澄獨唱武田巧、ピアノ伴奏武田忠一郎(五・二一 仙臺) △獨唱、パリーの屋根の下「外六曲 照井詠

三(六・一五 東京) △放送歌劇「カルメン」 新交響樂團 ホセの婚約の娘ミカエラ 伊藤敦子(六・一九 東京)

△オリムピック大會派遣選手送別會「祝辭」 内閣總理大臣子爵齋藤實 (六・二一 東京) △新民謡「薄衣小唄」 いっ子外五名(七・五 仙臺)

△講演 内閣總理大臣子爵齋藤實(七・六 東京) △農村副業座談會 岩手縣副業主任猫塚一郎(七・七 仙臺) △ソプラノ獨唱「サンタルチア」 外數曲 瀨川佐喜子(七・二八 仙臺) △夏期兒童講座「高野長英先生」 菅野義之助(八・二五 仙臺)

映畫

△トリーキー入る▽

映畫界の一年—内丸座が正月興行からトリーキーを入れた、第一陣に松竹の「マダムと女房」を上映し、續いて毎週洋物、邦畫トリーキー一本乃至二本立にて華々しい活躍振り示した、盛岡出身蒲田の俳優となつた田子明がその主演映畫「滿洲行進曲」上映に先立つて内丸座に御挨拶した、レビューも

次ぎ／＼に入つたが元松竹の諸口十九等が來演したことは特筆すべきであらう、御園座はマキノから東活へ、七下半期からは洋物を入れた、盛岡市内丸座(松竹)、紀念館(日活)、御園座(東活)、藤澤座(新興)の各館が上映したもの、内主なるものを左に掲記す

主なる上映種目

六年

△九月 高田稔、若水絹子「有愛華」(内) 鳥耕二、入江たか子「ミス・ニッポン」(紀) ハロルド・ロイド「足が第一」(内) 大河内傳次郎 梅村馨子「侍ニッポン」(紀) 田中絹代、高田稔「朗かに泣け」(内) 松林清三郎「神よ裁け」(御) ゲーリー・クーパー「モロッコ」(内) 鈴木澄子「未亡人」(藤) 岡田時彦、井上雪子「美人哀愁」(内) 琴糸路「女工」

十月

エミールヤニングス「嘆きの天使」栗島すみ子、街のルンペン」(内) 森靜子「嘆きの都」(藤) 中野英治「煙れる太陽」(藤) 八雲惠美子「暴風雨の薔薇」(内) 川崎弘子「この母に罪ありや」(内) 明石緑郎「大保水滸傳」(藤) 片岡千恵藏、山田五十鈴「嶮の母」(紀) メー・マーシユ「彼女

五月

川崎弘子「七つの海」(内) 大河内傳次郎「仇討選手」(紀) シュアリー「陽氣な中尉さん」、林長二郎、田中絹代「金色夜叉」(内) 大日方傳、梅村馨子「戀のスパイダル」(紀) 森靜子、水原玲子「丸の内五人女」(藤) 田中絹代「生活線ABC」(内) 片岡千恵藏「彌太郎笠」(紀)

六月

ウオーレス・ピアリー、マリー・ドレストラ「慘劇の波止場」(内) 嵐寛壽郎「なりひら小僧」(御) 中野英治、森靜子「鐵の花環」、城田二郎、井上雪子「春は御婦人から」、阪東妻三郎「月形半平太」(藤) コーリンムーア「微笑の女王」(御) デジョジ・バンクローフト「鐵壁の男」(内) 鳥耕二、夏川静江「鳩笛を吹く女」(紀) 尾上菊太郎「御場段切れ異變」(御) 栗島すみ子「デパートの姫君」(内)

七月

コルレン・デイトリツヒ「上海特急」(内) 羅門光三郎「薩南大評定」(御) 水谷八重子、大日方傳「浪子」(内) 結城一郎、田子明「滿洲行進曲」(内) 岡田嘉子「人狼」(内) ウイリーフリツナ「ハンガリア狂想曲」(御) リチャードアーレン「征服群」(内) 高津慶子、徳川良子「火

の母を知る頃」(御) リリアン・ギツシュ「幸福の涙」(御) 澤蘭子「愛の園ひ」(内) 栗島すみ子、田中絹子「姉妹」(内)

十一月

ソツエート映畫「大地」(内) 片岡千恵藏「元祿十三年」(紀) ジョーンギルバート「曉の偵察」(内) ジョーヂ・バンクローフト「放浪船」(内) 片岡千恵藏「金忠輔」(紀)

十二月

雲井龍之助「幻の鷹」(御) 井上雪子「何が彼女を裸にしたか」(内) 大河内傳次郎「大忠臣藏」(紀) 松林清三郎「鑼鳴甲州路」(御) 梅村馨子「しかも彼等は行く」(紀) 田中絹代、伊達里子トリーキー「マダムと女房」(内) 英百合子「母なればこそ」、青柳龍太郎「愛情双丸譜」(御)

七年

△一月 鈴木傳明、及川道子「野に叫ぶもの」(内) キートンの決死隊(内) 廣瀬恒美、夏川静江「ゴールイン」(紀) 鈴木澄子「おいらん長屋」(藤) ラモンナヴロア「月光の曲」(内) 松林清三郎「恨神おさく」(御) 小杉勇、夏川静江「海のない港」(紀) アルベール・クレザンス、コーナーエール「巴里の屋根の下」 富士幸三郎「さんざ時雨」

△二月 結城一郎、花岡菊子「女の求むる男」(内) 小倉井勝「相馬大作」(御) メトロ作品「マダムサタン」(内) 川崎弘子「若き日の感激」(内) マルレネ・デイトリツヒ「間蝶X二十七號」(内) 淺岡信夫「輝く我等が行くて」、津村博「曙の歌」(藤) 大河内傳次郎「續大岡政談」(紀) ゲーリークーパー「結婚草紙」

三月

マルレネ・デイトリツヒ、ゲーリークーパー「モロッコ」(内) 夏川静江「白い姉」(紀) 片岡千恵藏「冬木心中」(紀) バスターキートン「戀愛指南番」(内) 小倉井勝「股旅仁義」(御) 市川玉太郎「旅枕松平長七郎」(藤) 栗島すみ子「想ひ出多き女」(内) 水原玲子「丘を越えて」(藤) 入江たか子「心の日月」(紀) 青柳龍太郎「赤穂浪士」(御) 日活「日本廿六聖人」(紀)

四月

澤田清「辨天小僧」(紀) 阪東妻三郎「牢獄の花嫁」(藤) 結城一郎「人生の風車」(内) チャネット・ゲーナー「再生の港」(内) 城田二郎、川崎弘子「青春圖會」(内) 澤田清「源太時雨」(紀) ミツチイ・グリーン、ロバート・クーガン「スキビイ」(内) 小川雪子「紅唇なやまし」(御)

の翼(藤)

八月
メトロ社「燃ゆる海原」(内) 山本嘉一
「異色水戸黄門」(紀) 阿部九州男「名金」
(御) 坂東好太郎、千早品子「生き残った
新撰組」(内) 原阿佐緒「佳人よ何處へ」
(藤) 市川春代「細君解放記」(紀)

映畫に送つた縣人

一九三二後期蒲田スクリーンを彩る輝しい「イワテ」の名二つ一人は田子明と呼び一人は北上亮一と云ふ共に縣出身の新人だ
◇傳明秘の脱退騒ぎに松竹蒲田撮影所は廣く一九三一年型美男を募つた、馳せ参ずる者に城田二郎、江川宇禮男、水上幸男そして吾が田子明、北上亮一の名を見出す事が出来る、第二世傳明を目指し、明日の繪を狙ひ、更に若くして逝ける毛利輝夫の後に來る者を襲はんとする輝かしい若人

◇田子明君は本名田子康徳、盛岡市大澤川原の出身である、盛中時代から明大まで陸上競技(中距離ランナー)、水上競技、ラグビー等にスポーツマンらしい明朗さによつて彩つて居た。蒲田では高田稔の後継者として殊にも望みを囑して居ると云ひ、一九三二年華々しくデビューすべき吾等のゲリラクーパーであらう
◇北上亮一の名をキャストに見出だす日も

遠い事ではないだらう。身長五尺六寸盛中時代は柔道部の選手だった、相撲、拳闘もお手のもので、堂々たるスポーツマンであらうと期待されて居る、本名は昆正志(二四)君

昆君は紫波郡徳田村、某地主の二男坊に生れ昭和三年盛中卒業後、明大に入り過般脱退した鈴木傳明に師事し、今春明大卒業後蒲田で滿六ヶ月間見習ひとして忍従の日をおくつてゐたが、今回松竹蒲田の元老水島亮太郎氏の紹介で、北上亮一で正式入社した譯である。
外に石島谷出身、盛岡農學校出身鎌田耕司君も蒲田に入社した

演藝

七年の演藝界は全く淋しいものであつた。記録すべきもの殆んどない

◆六年
木村時子 (九・二〇—三日間 御園座)
澤モリノ、林寛レヴユウ(一〇・二—二日間 盛劇)
女優市川牡丹 (一〇・一〇—初日盛劇)
砂川拾丸 (一〇・二七—八 盛劇)
片岡松燕 (二・二五—六 盛劇)
加茂川心中、合邦、五月雨双紙、辻斬

リ権八、野崎村(お染・久松)

◆七年
林正夫、櫻麗子 (四・一八 盛劇)
松旭齋天勝 (六・ 盛劇)

舞踊邦楽の主なる會

師交會(望月久吉) 歌清會(中田英太郎)
錦聲會(竹本錦司) つばめ會(佐々木リサ)
すゞめ會(若柳力代) 竹友會(豊澤仙勝)

各流師匠

舞踊 若柳力代 若柳吉初 藤間勘幸 藤間勘恵 若柳吉鶴
長唄 柗屋勝壽勇 柗屋三代福 柗屋勝毛
壽 柗屋六歌 柗屋勝可壽

清元 清元喜久芳
常盤津 宮古路文字岡 宮古路文字久

歌澤 歌澤寅勇美
鳴物 望月久吉 望月仙太郎

箏曲 石田清宵 上關登美井 森田龜井
横田伊久井 横澤登代
尺八 八木甫山(都山流) 川村誠三(琴古流)

義太夫 鶴澤勝三・豊澤仙勝
琵琶 田中洵水 諏訪櫻慶 吉田旭蘭

盛岡幡街本街藝妓中名取は左の如くである
△舞踊 若柳壽童、才八(吉華女) 梅奴(吉奴) 小照(吉照)、若柳吉藏、あづま(吉妻)

第一日 (六月二十四日・金曜日)

第一競馬 縣内産新馬繋駕速歩競走(距離三二〇〇米) 四頭立

1 ホウショウ(淺沼)六分三二秒八 的中

六三票 一圓八十錢

2 ウインナー三馬身 3 シャックリ大差

第二競馬 内國産新古馬繋駕速歩競走(距離三二〇〇米) 五頭立

1 ビックリ(布谷)六分三八秒F 的中

五票 九圓十錢

2 第二コゼット大差 3 ダイアナ大差

第三競馬 内國産新古馬競走(距離一八〇〇米) 四頭立

1 アニメーション(平村)二分〇秒二 的中

中二四一票 一圓三十錢

2 セントウダイヤ半馬身 3 ボリ一五馬身

第四競馬 縣内産新古馬繋駕速歩競走(距離三二〇〇米) 四頭立

1 チョヒメ(八角)七分四秒 的中二〇三票 一圓九十錢

2 ビックリ三馬身 3 第二ミシマ大差

第五競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 三頭立

1 パンリウ(淺沼)一分五〇秒五 的中

一八票 一圓五十錢

2 第五ブライトリ一 大差 3 第三チグ

さわ子(吉取) 富香(吉佐女) 萬榮(吉葛)
△長唄 柗屋六四郎、小竹(六芳) 梅八(六梅) 五郎(六田鶴) 巳代吉(六富)
△囃子 望月朴清、萬次(清次) 藤助(清花) 永次(清永) 叶(清香) 次子(清時)
喜代丸(清丸) 駒龍(清龍) 等子(清等)
小園(清園) 友奴(清友)
△清元 清元喜久太夫、かや(喜久幸) 俠次(喜久榮) きよ子(喜久清) 今勇(喜久志) やま子(喜久照) みち子(喜久歌)
彩兒(喜久駒) 八千代(喜久千代) 菊丸(喜久富)
△義太夫 鶴澤榮三 俠次(榮光) (豊澤仙勝) 彩兒(仙彩)

活花師匠

盛岡市 佐藤米壽(瑞穂流) 船山秀惠(東池の坊) 吉田清次郎(龍生派池の坊)
河村雲峰(梶井宮御流) 梅澤伯水(青山御流) 千葉千壽軒(龍生派池の坊) 阿部倉三(池の坊) 日戸秀之助(盛花投入)
星山徳治(花廻本流) 肥塚菊子(池の坊) 藤村かね子(同) 寺井とし子(龍生派池の坊) 川村愛子(家元池の坊) 工藤みち子(同) 野邊可笑齋(微笑流)
花 卷 窪田ゆい子(龍生派池の坊) 小原はや子(家元池の坊) 瀬川ます子(古流)
黒澤尻 上田まつ子(家元池の坊) 大和春

江(家元池の坊)

水 澤 鈴木武子(家元池の坊)

一の關 鳴海欽子(家元池の坊)

一戸 松本仲子(家元池の坊)

△梶井宮御流盛岡華道會一如齋河村素峰社中では七年五月廿六、七兩日間縣公會堂において同流家元一晴齋藤原素朝、顧問一抱齋高崎素璞、一感齋江原素懷、一陽齋中村素城の諸氏を迎へて陳列會を催した

茶道

△宗匠(表千家)

塵中庵 橘 不染

方閑庵 菊池 宗 爲

競馬

△盛岡春競馬

主催 岩手縣産馬畜産組合聯合會

期日 六月二十四、二十五、二十六日

場所 盛岡市上田黄金競馬場

主催者側都合に依り例年より會期一ヶ月遅延せるため馬主中には他縣に出向いたものもあり登録馬匹三十九頭に過ぎず聊か寂寥の感無きにもあらず、早石春藏氏主催

番外三才馬速歩出場六頭一日一競走の他、

今回より杜陵乗馬俱樂部主催にて紳士騎乗

復活して人氣を呼べり。三日間記録左の如し

娛樂と趣味——競馬

- サ三馬身
- 第六競馬 縣内産新馬繋駕速歩競走(距離三〇〇〇米) 四頭立  
 1 ダイアナ(小野寺)六分三四秒四 的中  
 九三票 一圓七十錢
- 第七競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 二頭立  
 1 ライト(吉田)一分四八秒八 的中八九  
 票 二圓三十錢
- 第八競馬 縣内産新馬競走(距離一八〇〇米) 二頭立  
 1 ナスノ(櫻田)二分〇秒二 的中二七  
 〇票 一圓七十錢
- 番外 三歳馬騎乗速歩競走(距離二〇〇〇米) 五頭立  
 1 ミツヤ(井上慶二郎所有)四分三七秒七  
 2 キンセイ(吉田禎二郎所有)  
 3 第三眞榮
- 番外 紳士騎乗速歩競走(距離三二〇〇米) 十二頭立  
 1 イサム(堀井清騎乗)七分八秒二  
 2 コゼツ(松本貞一騎乗)  
 3 コザツク(山吉敬造騎乗)
- 第二日目(二十五日・土曜日)
- 第一競馬 縣内産新馬繋駕速歩競走(距離

- 三〇〇〇米) 三頭立  
 1 タマジンギ(平村)六分三二秒四 的中  
 三五票 一圓六十錢
- 第二競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 二頭立  
 1 第四ミツワ(淺沼)一分五四秒F 的中  
 七一票 一圓十錢
- 番外 三歳馬騎乗速歩競走(距離二〇〇〇米) 四頭立  
 1 キンセイ(吉田禎二郎所有)四分四三秒  
 五
- 2 カプリシース(零石春藏所有)  
 3 第三眞榮
- 番外 紳士騎乗速歩競走(距離三二〇〇米) 九頭立  
 1 マツノイ(松井長吉騎乗)六分四九秒二  
 2 シウン(桐葉一郎騎乗)大差  
 3 コザツク(山吉敬造騎乗)大差
- 第三競馬 縣内産新古馬繋駕速歩競走(距離三二〇〇米) 四頭立  
 1 第二コタカ(松井)六分五秒二 的中六  
 九票 一圓六十錢
- 2 ユーリスト大差 3 第二ミシマ大差
- 第四競馬 縣内産新馬競走(距離一六〇〇米) 二頭立  
 1 第五ブライトリ(吉田)一分五七秒

- 六 的中一〇九票 九十錢
- 2 第二チグサ四馬身
- 第五競馬 縣内産新馬繋駕速歩競走(距離三〇〇〇米) 二頭立  
 1 シヤツクリ(布谷)六分四三秒F 的中  
 五一票 一圓二十錢
- 2 ハナギマ 一ハロン半
- 第六競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 二頭立  
 1 ハツミドリ(淺沼)一分五五秒F 的中  
 五三票 二圓三十錢
- 2 セントウダイヤ五馬身
- 第八競馬 縣内産新古馬繋駕速歩競走(距離三六〇〇米) ハンデキヤツブ附八頭立  
 ハンデ距離チヨヒメ二三〇米ホウシヨウ  
 二〇〇米ビツクリ及びウインナー一八〇米  
 シヤツクリ一六〇米ダイアナ一三〇米  
 第二コタカ一〇〇米第二ミシマ八〇米  
 1 チヨヒメ(八角)七分三四秒四 的中九  
 二票 一圓九十錢
- 2 ホウシヨウ四馬身 3 ウインナー二馬身
- (第七競馬不成立)
- 第三日(二十六日・日曜日)
- 番外 三歳馬騎乗競走(距離一六〇〇米) 四頭立  
 1 第二フロリカルチユア(昆威夫所有)二

二四二

分九秒

- 2 ビユータ(田沼甚八郎所有)  
 3 タマテル(櫻田石藏所有)
- 番外 三歳馬騎乗速歩競走(距離二〇〇〇米) 四頭立  
 1 カツブシリ(石川兼八所有)四分五  
 八秒五
- 2 ケイアン(藤澤久次郎所有)  
 3 第三眞榮(佐々木重二郎所有)
- 第一競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 不成立
- 第二競馬 縣内産新古馬競走(距離一六〇〇米) 第三チグサ(平村)單走  
 番外 紳士騎乗速歩競走(距離三二〇〇米) ハンデキヤツブ附 九頭立  
 1 フクライ(吉田久治騎乗)七分五一秒
- 第三競馬 縣内産古馬繋駕速歩優勝競走(距離四八〇〇米) 三頭立  
 1 ビツクリ(布谷)九分四〇秒二 一着賞  
 八十圓 的中七八票 三圓二十錢
- 2 チヨヒメ(八角) 3 ユーリスト(平村)
- 第四競馬 縣内産新馬繋駕速歩優勝競走(距離三四〇〇米) 二頭立  
 1 ホウシヨウ(淺沼)六分三五秒六 一着  
 賞百圓 的中一〇六票 一圓十錢
- 2 シヤツクリ(布谷)二ハロン半
- 第五競馬 縣内産新古馬優勝競走(距離二

娛樂と趣味——競馬 スポーティー陸上競技

スポーツ

陸上競技

- 〇〇〇米) 三頭立  
 1 セントウダイヤ(吉田)二分一七秒七  
 一着賞百七十五圓 的中一三三票 二  
 圓四十錢
- 2 ライト(南)二馬身 3 第四ミツワ(淺沼)
- 第六競馬 縣内産四歳新馬繋駕速歩優勝競走(距離三二〇〇米) 三頭立  
 1 ウインナー(名久井)六分三四秒F  
 一着賞八十圓 副賞盛岡市長杯 的中  
 二〇九票 一圓五十錢
- 第七競馬 縣内産新古馬繋駕速歩優勝競走(距離三六〇〇米) 三頭立
- 陸上競技  
 六年九月から
- ◇高農優勝 高農對醫專第三回對抗競技は九月十三日高農トラックで舉行、四五・三對三八・六で高農優勝す
- ◇黒中對盛中對抗競技 九月二十四日 黒中グラウンド 四十三對二十九で黒中勝つ
- ◇縣下女子中等校陸上競技會は十月四日午前八時より盛女校庭で舉行、女子師範優勝

- 1 第二コタカ(松井)七分二七秒二  
 一着賞八十圓 的中二一四票 一圓三十錢
- 2 第二ミシマ(南)二馬身  
 3 タマヒメ(平村)大差
- 第八競馬 縣内産新馬優勝競走(距離一八〇〇米) 四頭立  
 1 ナスノ(櫻田)二分三秒五 一着賞百七十五圓 副賞東京競馬俱樂部純銀製大花盛器 的中二九〇票 一圓三十錢
- 2 パンリウ(淺沼)大差  
 3 第五ブライトリ(吉田)五馬身
- 景品券總賣上高金四千七百三十一圓也
- △五十米 1 市川(盛岡) 七秒五  
 △走巾跳 1 市川(盛岡) 四米三二  
 △三段跳 1 安原(黒澤尻) 九米二一  
 △百 米 1 小川(女師) 一四秒四  
 △二百米 1 小川(女師) 三一秒六  
 △四百米 1 レー1 黒澤尻(中田、阿部、安原、鬼柳) 一分二秒四
- △籠球 決勝戦  
 女 師 22-15 9-3 黒澤尻

二四三

△排球決勝戦

花巻 19 21 21 13 岩谷堂

◇福岡中學主催第七回北岩手南青森少年陸上競技大會は十月四日舉行 高等科劍吉校 尋常科八戸校優勝

◇第四回東北中等校陸上競技高農主催十月十一日舉行 青師六三點で優勝

◇縣下陸上選手權大會 縣體育協會主催 十月二十五日 高農トラックス 選手權保持者

- △百十米高障礙 田中(高農)十七秒F
- △二百米低障礙 館澤(教員)二十七秒F
- △千五百米 佐藤(岩師)四分三九秒一
- △八百米 佐藤(岩師)二分十一秒
- △百米 館澤(教員)十一秒五
- △一萬米 佐藤(政)(青年)三六分四秒五
- △二百米 吉田(教員)二四秒F
- △千六百米 岩師(瀨川、佐藤、早坂、田口)四分四八秒
- △八百米 岩師(齋藤、熊谷、館澤、及川)一分四一秒四
- △砲丸投 川村(教員)十米九六
- △圓盤投 漆原(盛中)三二米九五
- △走高跳 和賀(青年)一米七〇
- △走巾跳 櫻田(教員)六米一五

業、盛商各一點

◇岩手陸上競技聯盟發會 八月十四日夕顔瀨多賀に於いて、聯盟役員、總務荒川榮正、庶務企畫加藤昌得、會計菊地武雄、企畫五十嵐忠夫、館澤德榮、野間正義共の他

◇縣下實業校陸上競技大會 六月五日花巻鳥谷ヶ崎グラウンド 参加校盛商、花農、岩工、盛農、水農、水商、水産で結局花農三六點で優勝

◇東北帝大主催 關東々北高専陸上競技大會は六月五日行はれたが盛岡高農四等となる

◇東北高専陸上競技會 第八回同大會は岩手醫專主催で、六月十二日高農トラックスで舉行 参加校 福島高商、東北學院、盛岡高農、岩手醫專 福島高商優勝

◆競技結果

- トックス
- △八百米 1 木村(學院)二分十三秒
- △百米 1 田村(高商)十一秒八
- △四百米 1 氏家(學院)五七秒
- △百十米高障礙 1 坂本(醫)一七秒五
- △千五百米 1 木村(學院)四分四六秒八
- △二百米 1 栗林(高商)二四秒一
- △五千米 1 木村(學院)一八分四九秒四
- △八百米 1 木村(學院)一分四九秒六

フイールド

- △走巾跳 1 田村(高商)六米七〇
- △槍投 1 平塚(醫專)四五秒五五
- △走高跳 1 磯部(高商)一米六三
- △圓盤投 1 石倉(醫專)三一米二〇
- △棒高跳 1 平塚(醫專)三米三二A
- △三段跳 1 平塚(醫專)一二米九八
- △各校得點 福島四六 東北四三 岩醫四〇 高農二一

◆ドッチボール

◇盛岡體育研究會主催 市内兒童ドッチボール大會、六月十九日 山岸小學校

◇尋常科(男)決勝 大慈寺(820) 山岸(70)

同(女)決勝

城南 29 1010 9 10 27 大慈寺 8 9 10

青年團競技(七年)

- ◇二戸郡 七月三十一日 福中グラウンド 得點 福岡63 淨法寺53 石切所35 爾薩休19 姉帯16 斗米14 金田一10
- ◇上閉伊郡 八月一日 大槌小學校 得點 鑛山80 釜石56 大槌38 甲子13 鷺住居8 栗橋3 金澤2
- 個人 百米阿部(釜石) 二百米佐藤(鑛)

△棒高跳 佐藤(岩工)三米一〇

△槍投 住吉(高農)四四米六〇

△三段跳 和賀(青年)十三米〇三

七年の記録

◇縣下中等校陸上競技大會 縣體育協會主催 六月二十六日 高農グラウンド

参加校 岩師、盛中、關中、福中、遠中 黒中、岩中、工業、盛商で出場選手百八十名、接戦の結果常勝師範破れ福中優勝

△四百米 1 早阪(岩師)五五秒八 2 高橋(黒中) 3 小野寺(關中)

△二百米 1 加藤(黒中)二九秒 2 鶴飼(岩師) 3 木村(黒中)

△千六百米 1 福中(齋藤、國分、稻葉、木島)四分六秒 2 黒中 3 盛中

△三段跳 1 島崎(岩師)一二米八二 2 佐藤(岩師) 3 平(福中)十二米六(新)

△砲丸投 1 寺澤(岩中)十三米一四 2 吉田十二米三九(以上新) 3 照井(岩工)

△走高跳 1 阿保(盛中) 阿保(遠中) 工藤(福中)一米六五 タイ記録

◇得點 福中一九・五 岩師一八・五 盛中一〇 黒中一〇 岩中三 關中、工

四百米佐々木(鑛) 千五百米菊地(釜)

八百米リレー鑛山 一萬米村上(鑛) 走高跳八木(鑛) 砲丸投芳野(鑛) 走巾跳阿部(釜) 柔道岩間(大) 劍道小川(鑛) 相撲松村(大)

◇盛岡市 七月二十四日 高農トラックス 個人 百米島山(城) 二百米島山(城) 四百米柳村(厨) 千五百米佐々木(厨) 一萬米森田(城) 八百米リレー城南 走巾跳菊地(仁) 走高跳佐藤(山) 砲丸投山形(城) 劍道山本(厨) 柔道淺沼(城) 相撲昆(仙) ◇得點 城南57 厨川46 山岸13 仙北8 仁王7 櫻城4 下の橋1

◇稗貫郡 七月五日 花巻温泉グラウンド 得點 花巻52 湯本33 八重畑19 宮野目16 八幡8

個人 砲丸投中島(花巻) 柔道藤原(花巻) 劍道佐野(花巻) 走高跳三國谷(花巻) 百米佐々木(八重畑) 相撲清水(宮の目) 千五百米伊藤(湯本) 四百米伊藤(湯本) 一萬米高橋(太田) 八百米リレー花巻チーム

◇下閉伊郡 七月十日 宮古小學校 得點 鍛ヶ崎59 宮古47 田老36 織笠29 刈屋12 磯鷄7 其他

◇紫波青年對盛岡高農對抗競技 七月十日

高農トラックス 42對22で紫波勝つ

◇岩手郡 七月十七日 高農トラックス 得點 一區23 二區18 三區15 五區4

個人 百米小森(御明神) 二百米小森(御明神) 四百米大澤(巻堀) 千五百米石岡(松尾) 一萬米佐々木(松尾) 八百米リレー一區 砲丸投小阪(御明神) 走巾跳武田(瀧澤) 走高跳中村(太田) 柔道今松(平館) 劍道菅原(瀧澤)

◇和賀郡 七月十七日 黒中グラウンド 得點 湯田70 十二鐘42 立花36 笹間34 江釣子33

個人 砲丸投藤原(湯田) 走高跳和賀(黒澤尻) 百米宮田(湯田) 千五百米高橋(湯田) 二百米宮田(湯田) 四百米及川(十二鐘) 走巾跳和賀(黒澤尻) 一萬米高橋(湯田) 八百米繼走湯田チーム 柔道上田(湯田) 相撲佐藤(湯田) 劍道菅野(谷内)

◇西磐井郡 八月七日 關中グラウンド 得點 一關60.5 中里42 永井40 山目39.5 金澤33 巖美32 涌津眞瀧30 花泉27 油島萩莊23 平泉17 日形11 老松15 彌榮1

個人 百米鈴木(一關) 二百米三浦(中

スポーツ—陸上競技

里) 四百米加賀(一關) 千五百米木村(金澤) 一萬米鈴木(中里) 柔道今野(一關) 劍道岩淵(一關) 相撲齋藤(永井) 走高跳阿部(中里) 砲丸投小野寺(涌津) 走巾跳佐々木(殿美) 八百米リレー一關チーム

岩手縣青年團競技會

縣青年團聯合競技大會は八月二十八日盛岡高農競技場に於いて華々しく舉行、選手三百五十名は團旗を先頭に入場式を行ひ午前八時整列後今井社會課長の開會の訓示選手宣誓あり、近藤體育主事の注意があつて八時半陸上は百米豫選、九時半柔剣道、相撲、十一時水泳と漸次プログラムを追つて接戦を展開、結果左の如く陸上紫波郡、水上盛岡優勝す

陸上競技

得點 紫波52 稗貫30 二戸26 上閉伊24 和賀23 盛岡21 西磐井20 岩手8 江刺7 勝澤6 東磐井5

豫選成績

△百米 A組1小森(岩)十一秒五 2熊谷(東) B組1稻垣(紫)十一秒九 2佐々木(稗) C組鈴木(西)十一秒六 △四百米 A組1佐々木(上)五秒五秒(新記録) 2伊藤(稗) B組1八重島(紫)五

野球(七年)

遠中 6—5 盛中 (七月三日 盛中) 福中 7—2 八戸水産 (七月三日 福中) ◇盛岡實業惜敗 都市對抗野球東北豫選で決勝戦で仙鐵に敗る

盛岡 10—3 福島(第一回戦) 盛岡 4—0 秋田(第二回戦) 仙鐵 11—1 盛岡(決勝戦) 盛中 12—2 盛商 (七月十日 盛中球場) 關中 9A—8 黒中 (七月十日 黒中球場)

◇縣軟式野球 七月十日 川口荷札優勝 ◇大船渡線沿岸野球 岩手日報社主催 八月二十日 千厩球場 氣仙沼優勝

第一回戦 高田 12—0 大原 氣仙沼 7—3 横屋 決勝戦 氣仙沼 7—0 千厩 ◇縣體育協會主催 縣下中等學校野球大會は八月二十四日盛岡中學校球場に於いて開催、参加校、盛中、關中、福中、黒中、遠中、盛商で猛烈なる接戦の結果左の経過

スポーツ—野球—庭球

二四六

相撲

個人 1 工藤徳治(盛岡) 2 西(紫) 3 藤村(紫) ◇團體 1 紫波 2 盛岡 3 和賀 4 上閉伊 柔道 個人 1 堀野忠文(二戸) 2 荒谷(二戸) 3 藤原(稗貫) ◇團體 1 二戸郡 2 稗貫郡 3 西磐井郡 劍道 個人 1 田卷一壽(紫波) 2 山本(盛) 3 小原(上閉) ◇團體 1 紫波郡 2 二戸郡 3 勝澤郡 4 西磐井郡 水上競技

決勝記録

△百米 1 高橋(盛)一分二秒六(新) 2 菅野(江) 3 松田(下閉) 4 鈴木(紫) △四百米 1 袴田(盛)六分一秒四(新) 2 花坂(下閉) 3 小川(江) △百米背泳 1 内館(盛)一分三一秒一 2 前田(江) 3 芳野(上閉) 4 洞下(下) △二百米平泳 1 三浦(下閉)三分一秒四 2 荒川(盛) 3 三浦(和) △二百米繼泳 1 盛岡(内館、大森、高橋、岡田)二分七秒三(新) 2 下閉伊 3 江刺 4 上閉伊 ◇得點 盛岡36 下閉伊23 江刺13 上閉伊6 和賀3 紫波1

過で盛中優勝

第一回戦 福中 4A—1 關中 遠中 18—2 盛商 準決勝 盛中 7—6 福中 遠中 19—0 黒中 決勝戦 盛中 4A—1 遠中

◇全國東北中等校野球大會は八月一日より福島市營グラウンドで舉行、本縣より盛中遠中兩校出場の結果、遠中優勝

第一回戦 仙臺一中 11A—1 會津中學 宮城工業 8A—6 福島中學 遠野中學 8—0 磐城中學 盛岡中學 5A—2 福島商業 準決勝 宮城工業 8A—2 盛岡中學 遠野中學 12—4 仙臺一中 決勝戦 遠野中學 7—0 宮城工業 ◇全國中等校優勝野球戦は八月十三日より大阪甲子園で舉行、東北代表遠野中學は第一回戦で4對2で平壤中學に勝ち長野

商業に6A對0で敗る

◇全國軟式野球戦東京戸塚球場に於いて八月四日より舉行、本縣代表盛岡市川口荷札チーム第二回戦で東京代表を3對1で破り準決勝で長野代表に3對0で惜敗

庭球

(六年九月から)

◇縣下庭球大會、盛電主催九月十三日舉行 仙北吉田遠藤組優勝 決勝戦 吉田 1—3 遠藤(仙北) 3—0 吉田(盛門) 3—1 3—1

◇縣下教員庭球大會 水原俱樂部主催 九月二十四日 下の橋コート 杜陵校鈴木佐川組優勝 決勝戦 鈴木(杜陵) 4—1 竹野(仙北) 佐川(杜陵) 4—1 金田(仙北)

◇岩手庭球協會主催縣下選手権 十月四日 ダブルス決勝戦 菊地 4—4 藤 田澤 6—4 菅野 7—5 菅野(醫專)

二四七

スポーツ—庭球

シングルス決勝戦

金田一(仙北) 4—2 藤(醫専)

◇縣體育協會主催 選手権大會 十月二十五日 盛岡高農コート

◆第一部(三十歳以下)

長澤(水原) 4—2 菊地(盛門)

◇第二部(三十歳以上)

金田一(杜陵) 4—2 守屋(杜陵)

◇第一回縣下教員庭球 十月二十五日 下の橋コート

決勝戦

鈴木(盛岡) 4—2 金田一(仙北)

◇建設庭球大會 五月五日 建設コート

決勝戦

五日市(仙北) 4—0 佐藤(OB)

◇福中優勝 高農主催東北中等校庭球大會 十月十一日 高農コート

◇八戸連勝 八戸對盛岡庭球對抗戦 十月十一日 OBコート 八戸連勝す

◇七年の記録

◇太田庭球大會 太田ロソテニス主催

井手 4—2 吉田(盛門)

決勝

今野(醫専) 4—0 佐々木(美入野)

△實業組

準決勝

鈴木(仙鐵) 4—0 松島(仙北)

本間(仙鐵) 4—2 本田(鐵門)

鈴木(仙鐵) 4—2 本間(仙鐵)

水泳

(六年九月から)

◇第七回東北々海道中等校大會 九月十三日 岩手水泳協會主催 秋田中學優勝

◇市内中等學校水泳大會 八月七日 杉土手プール 岩手水泳協會主催 盛中優勝

△百米栗谷川(盛中)一分九秒 △二百米栗谷川(盛中)二分四二秒 △四百米名久井(江南)六分十八秒二 △八百米名久井(江南)十三分七秒四 △百米バツク内館(盛中)一分二八秒四 △二百米平泳佐々木(江南)二分三三秒 △二百米リレー盛

中二分十三秒 ◇得點 盛中55 江南37

◇市民水泳大會 岩手日報社主催 八月二十一日 杉土手プール

◇一般 百米1室岡(盛)一分一四秒 五十米1小笠原(城)三四秒六 二百米平泳1荒川(仙)三分二五秒二 百米背泳1内館(盛)

◇中等校 百米1栗谷川(盛中)一分九秒 縣下女子中等校 小學校水泳大會 八月二十八日 岩手水泳協會主催 杉土手プール(一部十三才以下) (二部十六才以下)

△五十米背泳(一部)小林(城南)五〇秒二 △百米(一部)千葉(岩谷堂)一分二九秒 (二部)沼田(岩中)一分二三秒八 △百米背泳(一部)内館(盛中)一分二七秒 △百米平泳(一部)菅原(仙北)一分五三秒三 △二百米(一部)中田(仙北)三分三二秒 △二百米平泳(一部)高野(盛中)三分四六秒三 △四百米自由型(二部)鈴木(盛中)六分三一秒 △二百米リレー仙北チーム二分五〇秒 (二部)盛中チーム二分二二秒九 ▲女子 △二五米鈴木(岩女)二七秒 △五十米小笠原(岩女)五〇秒八 百米平泳1内館(盛中)一分二七秒二

六月十一、十二日 太田協會コート 福中、醫専優勝す

準決勝 福田(福中) 3—1 黒沼(盛商) 玉懸(福中) 4—3 伊藤(盛農) 木村(福中) 4—3 菅原(盛農) 決勝戦は福中二組残つたので行はず 招待試合決勝戦

井手(醫専) 4—0 金田一(杜陵) 今野(醫専) 4—0 桐野(杜陵)

◇岩手庭球協會主催東北硬球大會 六月十一、十二日 高農コート、決勝行はず 小泉組優勝とす

ダブルス準決勝 小泉(二高) 6—2 野口(高農) 瀨川(二高) 6—2 菅原(高農) 田治米(二高) 8—6 富山(山高) 1—6 奥山(山高)

◇東北中等校庭球大會 岩手醫専主催 五月十九日 醫専コート 参加校十一校 決勝戦 女鹿(福中) 5—4 川村(盛中) 松本(福中) 5—4 今野(盛中)

二四八

盛岡	函館
○松島	○三池
○小技指	○古河
○境橋	○佐藤
○五日市	○高橋
○佐藤	○井上
○守屋	○岡本
○庄司	○橋本
○吉田	○赤石
○高橋	○前田
○大橋	○林田
○遠藤	○福田
○金田	○池田
○佐藤	○佐藤
○高橋	○池田
○村高	○上橋

勝

負

青森—函館(第二回戦)

青森—盛岡(第三回戦)

◇水澤優勝 齋藤カップ争奪庭球戦 八月十四日水澤緯度観測所コート 水澤勝つ

◇北日本庭球大會 花巻温泉主催 八月二十八日 温泉コート

△學生組 準決勝 佐々木(美入野) 4—2 關口(醫専)

百米平泳1佐々木(江)三分二三秒

◇小學校 五十米背泳1小森(城)五三秒 五十米1中田(仙)四一秒 二百米1中田(仙)三分四四秒八 百米平泳1菅原(仙)一分五七秒五

◇中等校(二部) 百米1森(盛商)一分三二秒六

◇女子オープン 二五米1高橋とし(岩女)二一秒四 二五米背泳1高橋榮子(岩女)二八秒六 二五米平泳千葉道子(岩女)二九秒一

◇二百米リレー 小學校1仙北二分五七秒 中等校1盛中二分九秒二 一般1學生チーム二分六秒二

武道

◇第四回縣下中等校振武會 六年十月十一日 公園下武徳殿で、参加校 盛中、福中、師範、工業、盛商、關中、岩中、江南、遠中、水商、花農の十一校

△柔道 福中 3—1 盛商

△劍道 盛中 5—4 福中

△弓道 遠中二六點で優勝

◇第二回縣下中等校 青年團相撲大會 岩手日報社主催 十月十九日仙北町相撲場で、参加校盛中、遠中、盛農、江南の四



スポーツ—武道—スケート

校 リーグ戦の結果十一點で遠中優勝、青年は乙部川(佐々木善助君)優勝

◇第四回東北中等校武道大會 高農主催 十月十八日 優勝校左の如し

△劍道 鷹の巣農林校  
△柔道 岩手師範校  
△弓道 遠野中學校

◇北岩手弓道大會 花巻温泉主催 十一月十七、十八日

1 宮城 2 岩手A 3 同B 4 秋田

◇縣下中等校相撲 縣體育協會主催 七年六月二十六日 高農

決勝戦

江南 4—1 盛中

◇高農主催東北中等校劍道大會 六月二十六日 高農で

決勝戦

小牛田 3—2 横手中學

農林 3—1 武徳會岩手支部主催 縣下團體對抗武道大會 八月一、二兩日 武徳殿

劍道優勝戦

盛岡青年 3—2 盛岡中學

柔道決勝戦

水澤支所 2—1 白亜A組

スケート

◇全國中等校氷上競技大會 インターカレ

ツチ氷上競技聯盟主催 昭和七年一月一日より二日間盛岡市郊外高松池リンクで舉行

參加校 岩師、盛中、盛岡農、八中、札幌師、北海中、諏訪蠶糸、苦米工業、慶應普通部、仙臺二中、今市中學、京城中

▲スピード(諏訪蠶糸優勝)

△千五百米決勝 1 濱(三)(諏蠶)三分〇秒五分の三(大會記録) 2 鈴木(苦工) 3 山田(諏蠶) 4 小阪(八中) 5 有岡(札師) 6 伊藤(札師)

△五千米決勝 1 濱(三)(諏蠶)十分三十三秒五分の三(大會新) 2 有岡(札師) 3 山田(諏蠶) 4 濱(省)(諏蠶) 5 荒井(慶普) 6 伊藤(札師)

△五百米決勝 1 加藤(札師)五三秒二 2 鈴木(苦工) 3 若松(札師) 4 安保(苦工) 5 小阪(八中) 6 濱(三)(諏蠶)

△一萬米決勝 1 濱(三)(諏蠶)二〇分五秒二 2 山田(諏蠶) 3 有岡(札師) 4 荒井(慶普) 5 伊藤(札師) 6 濱(省)(諏蠶)

◇各校得點 諏蠶41 札師21 苦工20 八中6 慶普5

二五〇

▲ホツケイ(札幌師範優勝)

◇選

札師 3—0 京城中  
岩師 2—1 八中  
盛中 6—0 盛農

決勝

札師 5—0 盛中

1.3 1  
0 0 0

野藤松崎田尾  
吉加若岩越鷲  
R W C L W D D K  
代條屋藤崎田  
盛中 太東山齋金吉

◇ファイギュア優勝校一位慶應普通部二位今市中

個人 1 渡邊(慶普)五點 2 黒澤(仙二中)十點 3 星野(慶普)十八點 4 八田(八中)十八點 5 星野(今中)廿一點 6 金子(今中)三十點

◇全國高等學校氷上競技大會 帝大氷上競技聯盟主催 昭和七年一月一日より二日間高松池リンクにて舉行

參加校 二高 松高 北大豫科 京城

豫科 學習院 成城高

◇スピード(京城大豫科優勝)

▲五十米 1 李(松本)一三分九秒四 2 梅津(京城) 3 大津(二高俱)

▲二千米リレー 1 京城(山住、李、川西梅津)四分三秒六

▲五百米 1 梅津(京城)五四秒 2 大津(二俱) 同 川西(京城) 同 李(松本)五八秒八

▲一萬米 1 梅津(京城)二四分十一秒六 2 李(松本) 3 大津(二俱)

◇得點 1 京城三八點三分ノ二 2 松本廿二點三分ノ二 3 二高俱一三點三分ノ二

◇ホツケイ(京城豫科優勝)

松本高 4—2 二高  
京城豫 34—0 成城高  
北大豫 7—0 松高

決勝戦

京城 5

1	2	2
1	1	1

2 北大豫

津西 住野  
李 梅川 山吉 進

嵐田 條原 山藤  
五十 千上 桑青 佐

北大

スポーツ—スケート

◇ファイギュア(二高俱樂部優勝)

個人競技 1 長谷川(學習院)三點 2 八木(二高)七點 3 高野(行)(二高)八點 4 高野(隆)(二高)一二點 5 岡田(北大)十三點 6 梅津(京城)十九點

インターカレツチ氷上競技大會

全國學生氷上聯盟主催第七回氷上選手權大會は一月三日より十日迄高松池リンクで行ふ豫定であつたが連日の好天と暖氣のため第一日の三日午前中ホツケイ二試合を行つたのみで中止となり其の後リンクは暖氣のため全く使用に堪えず中止一週間途ひに十日中止と決定し涙を吞んで各校選手は歸京す

參加校 岩手醫專 北大 東北大 立教 早大 慶大 京城大 東大 明大

◇ホツケイ豫選

慶應 6

3	1	2
0	0	0

0 北大

明大 4

2	1	1
0	0	0

0 岩 醫

京城大

2	2	0
0	0	0

東京大

◇日光チーム對盛岡軍ホツケイ戦 一月十五日午後一時二十分 高松池リンク 盛

岡敗る

日光

0	2	1
0	0	0

盛岡

野藤野地野田  
藤佐金菊平和  
L W C R W D D K  
本部分本山藤

日光 澤阿和岡神齋

◇縣下氷上選手權大會 縣體育協會主催 一月十七日 高松池

◇スピード

△二百米(高男) 1 田村(仁王)三一秒二  
△百米(尋女) 1 伊藤(城南)二一秒三  
△五百米(高男) 1 畑中(仁王)一分二秒四  
△八百米リレー(尋女) 1 城南校(二)二分二秒二  
△五百米(一般) 1 姜成津(醫)一分五秒四  
△二百米(尋男) 1 本館(仁王)三三秒  
△五百米(尋男) 1 本館(仁)一分三三秒  
△千米リレー(尋男) 1 厨川校三分二一秒一  
△千米リレー(高男) 1 仁王校三分一秒四  
△五千米(一般) 1 高橋(盛銀)一三分四秒二  
△千五百米(一般) 1 高橋(盛銀)三分四〇秒  
△二千米リレー(一般) 1 盛中四分四四秒一

◆ホッケー

準決勝

盛中 4—1 岩師B

醫専 1—0 岩師A

決勝戦

盛中 1—0 醫専

◆フイギユア 1 諏訪(盛中)50.5

2 同志(盛門)49.5 3 齋藤(盛中)25.5

スキー

◆七年二月三日より長野縣野澤温泉で舉行された第六回明治神宮スキー大會兼日本選手權大會で盛銀高橋源三君は壯年部でジャンプと複合で一着、十八キロで八等となり大奮闘した

◆縣下選手權大會 岩手スキー聯盟主催

二月十四日 田山スキー場

△三十キロ 1 島山猿松(田山)一時間四十分四分六秒 △十八キロ 1 岩城金也(田山)五四分八秒 △二八キロ 1 レー1 田山(關、安保、阿部、三浦)一時間五〇分四二秒  
△ジャンプ 1 住吉秀輝(高農)最長不倒距離二十一米二〇、合計點一〇〇點

追補

多議・學士院改選

貴族院の多額納稅者議員は七年九月十日、學士院議員は同二十日それぞれ満期改選されたがその結果左の如し

△多額納稅者議員

(定員六十六名)

北海道 板谷宮吉、同 金子元三郎、青森 宇野勇作、岩手 瀨川彌右衛門、山形 三浦新七、宮城 佐藤龜八郎、秋田 辻兵吉 福島 油井徳藏、同 金成通、茨城 大和田健三郎、同 青木才次郎、栃木 久保市三郎、群馬 澁澤金藏、千葉 濱口儀兵衛 同 三橋彌、埼玉 田中徳兵衛、同 松木眞平、東京 津村重舍、同 細田安兵衛 神奈川 平沼亮三、同 上野清助、新潟 白勢春三、同 高島順作、長野 小坂順造 同 宮坂作衛、富山 金岡又左衛門、石川 本多政樹、福井 飛鳥文吉、静岡 中村圓一郎、同 鈴木幸作、愛知 下出民義、同 磯貝浩、岐阜 上松泰造、山梨 名取忠愛、滋賀 吉田羊次郎、京都 大澤徳太郎、同 風間八左衛門、大阪 佐々木八十八、同 森平兵衛、奈良 山本米三、三重 小林嘉平治、和歌山 西本健次郎、兵庫

田村新吉、同 松岡潤吉、廣島 水野甚次郎、同 松本勝太郎、鳥取 米原章三、岡山 山上岩二、同 坂野鐵次郎、島根 絲原武太郎、山口 林平四郎、徳島 三木與吉郎、香川 大西虎之介、愛媛 仲田傳之助、高知 野村茂久馬、長崎 橋本辰二郎 福岡 大鐵守治、同 太田清藏、佐賀 石川三郎、熊本 山隈康、同 長野忠次、大分 久恒貞雄、宮崎 岩崎清行、鹿兒島 久米田新太郎、同 上野喜左衛門、沖縄 平尾喜三郎

△帝國學士院會議員

(定員四名)

小野塚 喜平次 三上 參次  
藤澤 喜太郎 田中館 愛橋

岩手日報社調査課編

全岩手縣職員錄

附 町村人名錄

今日の人々

(昭和七年八月末日現在)

全岩手縣職員錄

次 目

岩手縣廳	岩手縣警察部	岩手縣賣局	岩手縣稅務署	岩手縣第八師團留守隊	岩手縣並關係部	岩手縣司法觀測所	岩手縣教育觀測所	岩手縣林野觀測所	岩手縣種馬育成所	岩手縣馬種育成所	岩手縣郵便局	岩手縣鐵道關係所	岩手縣公共團體	岩手縣私立病院	岩手縣町村人名錄	今日の人々	
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八

全岩手縣職員錄——俸給表

○縣廳高等官及判任官俸給表

級名	職名		俸
	知事	書記官	
一級	地方事務官	地方視學官	五、三〇〇
二級	地方小作官	地方警視	四、九〇〇
三級	地方學校長	地方警視	四、六〇〇
四級	地方警視	地方警視	三、四〇〇
五級	地方警視	地方警視	三、〇〇〇
六級	地方警視	地方警視	二、七〇〇
七級	地方警視	地方警視	二、四〇〇
八級	地方警視	地方警視	二、一〇〇
九級	地方警視	地方警視	一、八〇〇
十級	地方警視	地方警視	一、六〇〇
十一級	地方警視	地方警視	一、四〇〇
十二級	地方警視	地方警視	一、二〇〇

○地方待遇職員俸給表

級名	待遇別	俸
特別	特別俸	四、六〇〇
一級	一級俸	四、〇〇〇
二級	二級俸	三、六〇〇
三級	三級俸	三、〇〇〇
四級	四級俸	二、七〇〇
五級	五級俸	二、四〇〇
六級	六級俸	二、一〇〇
七級	七級俸	一、八〇〇
八級	八級俸	一、六〇〇
九級	九級俸	一、四〇〇
十級	十級俸	一、二〇〇
十一級	十一級俸	一、〇〇〇
十二級	十二級俸	八〇〇

高等官俸給は縣廳の地方技師、鐵道營林局其他の地方技師はこの例に依る。  
判任官俸給は縣廳、司法關係、營林局、鐵道關係、稅務署、郵便局、教育關係の判任官は全部この例に依る。

○公立學校職員俸給表

職名	俸	
	俸	待遇別
一級	三、四〇〇	二、七〇〇
二級	三、〇〇〇	二、五〇〇
三級	二、七〇〇	二、三〇〇
四級	二、五〇〇	二、一〇〇
五級	二、三〇〇	二、〇〇〇
六級	二、一〇〇	一、八〇〇
七級	二、〇〇〇	一、六五〇
八級	一、八〇〇	一、四七〇
九級	一、六五〇	一、三〇〇
十級	一、四七〇	一、二〇〇
十一級	一、三〇〇	一、一〇〇
十二級	一、一〇〇	一、〇〇〇
十三級	一、〇〇〇	九七〇

○岩手縣有給吏員俸給表

職名	俸	待遇別
土木工師	四、一〇〇	一、八〇〇
營繕技師	三、八〇〇	一、四〇〇
診療所醫員	三、四〇〇	一、〇〇〇
診療所々長	三、〇〇〇	九〇〇
診療所補	二、七〇〇	八〇〇
診療所主事	二、四〇〇	七〇〇
診療所藥劑員	二、〇〇〇	六〇〇
診療所藥劑員補	一、八〇〇	五〇〇
診療所藥劑員	一、六〇〇	四〇〇
診療所藥劑員	一、四〇〇	三〇〇
診療所藥劑員	一、二〇〇	二〇〇
診療所藥劑員	一、〇〇〇	一〇〇
診療所藥劑員	九〇〇	以下

○盛岡市吏員俸給表 (一號表)

市長	助役	役收入	主事	技師	病院	書記	病院	醫師	技師	藥劑師	監督	掃除	掃除	看護	雇員
年俸	年俸	年俸	年俸	年俸	年俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸	月俸
4,000	3,000	2,000	1,500	1,000	800	600	500	400	300	200	150	100	80	60	50

(二號表)

職名	級俸	
	上俸	下俸
藥劑師	110	90
技師	120	100
書記	130	110
手記	140	120
一級	150	130
二級	160	140
三級	170	150
四級	180	160
五級	190	170
六級	200	180
七級	210	190
八級	220	200
九級	230	210
十級	240	220

○小學校教員俸給表

級名	本科正教員		專科正教員		准教員	
	上俸	下俸	上俸	下俸	上俸	下俸
一級	1,650	1,450	1,150	1,050	600	550
二級	1,350	1,250	950	850	500	450
三級	1,150	1,050	800	750	400	350
四級	950	900	700	650	300	250
五級	850	800	600	550	200	150
六級	750	700	500	450	100	50
七級	650	600	400	350		
八級	550	500				
九級	450	400				

營林署高等官俸給表

級別	勅任		奏任	
	勅任	奏任	勅任	奏任
一級	4,650	4,300	4,050	3,700
二級	4,300	3,950	3,650	3,300
三級	4,000	3,650	3,350	3,000
四級	3,650	3,300	3,000	2,650
五級	3,300	2,950	2,650	2,300
六級	2,950	2,600	2,300	1,950
七級	2,600	2,250	1,950	1,600
八級	2,250	1,900	1,600	1,250
九級	1,900	1,550	1,250	900
十級	1,550	1,200	900	550
十一級	1,200	850	550	200

警部補巡查俸給其他給與額表

職名	規定額		現給額	
	最低	最高	最低	最高
警部補	4,000	8,500	4,000	6,700
巡查部長	3,000	8,000	3,000	6,400
巡查	3,000	7,000	3,000	5,400
教習生	2,000	6,000	2,000	4,400
精勤加俸	10,000	以內	2,000	3,000
特別手当	20,000	以內	6,000	7,000

宿料給與表

宿料	種類	支給月額	
		課所署長	課所署警部補
宿料	課所署警部補	7,000	5,000
	課所署警部補	5,000	3,000

全岩手縣職員錄——俸給表







岩手縣廳

月四二 兼土木 佐々木市郎
月一五 屬 菊池政三
月一五 屬 小笠原清次郎
道路技手
三級 技手 奥田豊吉
四級 兼土木 及川榮介
四級 兼土木 佐藤清見
五級 兼土木 坂本謙介
五級 兼土木 玉田幸喜
五級 兼土木 高橋藤吉
六級 兼土木 武田眞
六級 兼土木 塚越塚太郎
月七〇 兼土木 松村重三郎
月六七 兼土木 小座間龜太郎
月六〇 兼土木 佐々木二郎
月五二 兼土木 川村茂

十級 兼土木 高橋政太郎
月四九 兼土木 吉國巽
月四九 兼土木 川村次郎
月四七 兼土木 小森和夫
月四七 兼土木 山野目惣次郎
月一 兼土木 立工業 千田幸之輔
月六九 兼土木 論 安保文之助
月三〇 兼土木 劃岩手 藤島德之助
月三〇 兼土木 劃岩手 藤島德之助
月三〇 兼土木 劃岩手 藤島德之助
月三〇 兼土木 劃岩手 藤島德之助
月三〇 兼土木 劃岩手 藤島德之助

營繕技師 川村清次郎
年一六〇 技手 川村清次郎
營繕技手
六級 大沼健浩
陸軍工兵少尉 菊地健祐
八級 正八 鈴木一郎
地方警 今初男
月四 察技手
(六級) 建築技手 川村大助
(五級) 建築技手 川村大助
月一 兼土木 補 佐々木惠太郎
月七〇 兼土木 補 動七 佐々木惠太郎
月六〇 兼土木 補 動八 藤原茂八
月五三 兼土木 補 動八 藤原茂八
月四八 兼土木 補 動八 藤原茂八
月四八 兼土木 補 動八 藤原茂八
月四八 兼土木 補 動八 藤原茂八

六 日二、三〇〇 坂木良平
日一、六〇〇 吉田タヨ
日一、二五〇 及川舜一
臨時土木雇
日一、四〇〇 小林誠一
日一、三〇〇 小原芳夫
日一、三〇〇 田沼匡
日一、三〇〇 菊池七郎
日一、三〇〇 杉山春男
日一、三〇〇 中澤謙次
日一、二〇〇 小田島貞固
日一、二〇〇 阿部琢治
日一、二〇〇 工藤政博
日一、二〇〇 古館政義
日一、二〇〇 田鎖高悦
日一、二〇〇 五日市美奈
日一、二〇〇 岩野昇二
日一、二〇〇 坂本千代
日一、七〇〇 坂本千代
(盛岡市内丸)
技手 主幹 雜賀大三
道路書記兼土木書記 長澤健吉
月五七 道路技手兼土木技手 雜賀大三
月五七 道路技手兼土木技手 雜賀大三
月五七 道路技手兼土木技手 雜賀大三

月五七 針谷高嘉
八級 五十嵐健藏
月四七 高橋久志
月四四 鈴木秀一
月四二 星野新一郎
土木技手補
月六〇 平澤徳也
月五二 工藤傳次郎
七級 佐藤榮實
清藤實
臨時土木雇
日一、五〇〇 昆野勇行
日一、四〇〇 佐々木正男
日一、四〇〇 福田武志
日一、四〇〇 晴山徳三
日一、四〇〇 櫻庭綱次
日一、四〇〇 馬場宗一
日一、四〇〇 高橋幸一
日一、三〇〇 山本正夫
日一、二〇〇 山口正
日一、二〇〇 菊池謙之助
日一、二〇〇 鶴田林藏
日一、〇〇〇 橋本正一郎
(稗貫郡花巻町)
技手 主幹 大坊富衛
道路技手 主幹 大坊富衛

四級 兼土木 大坊富衛
△月九七 兼土木 大坊富衛
七級 兼土木 曲仁之助
兼土木 技手 曲仁之助
月五四 兼土木 釜澤秀雄
土木技手 釜澤秀雄
月六〇 兼土木 動八(旭)及川幸之助
十級 兼土木 高橋義雄
兼土木 技手 高橋義雄
八級 兼土木 竹澤興惣吉
臨時土木雇
日一、〇〇〇 大卷憲造
日一、〇〇〇 高橋儀逸
日一、三〇〇 竹鼻正二
日一、二〇〇 藤原良次郎
(西磐井郡一關町)
技手 主幹 小泉敬吾
月一〇 兼土木 後藤新藏
道路書記兼土木書記 後藤新藏
月五九 兼土木 動八 佐藤己三郎
道路技手兼土木技手 遠藤貞吉
月六九 兼土木 遠藤貞吉
月六九 兼土木 阿部兵太郎
月六四 兼土木 山崎枝豊

月五二 兼土木 新山榮次郎
土木技手 新山榮次郎
△月九七 兼土木 小泉敬吾
兼土木 技手 小泉敬吾
月二〇 兼土木 後藤新藏
道路技手 後藤新藏
七級 兼土木 橋本孝次郎
七級 兼土木 小座間英藏
七級 兼土木 三浦秀夫
月三九 兼土木 片方鐵雄
月三九 兼土木 片方鐵雄
臨時土木雇
日一、二〇〇 島山瑞穂
日一、〇〇〇 松野莊三郎
日一、〇〇〇 伊藤樹次郎
日一、〇〇〇 岩崎正元
日一、〇〇〇 菅原美紀雄
日一、〇〇〇 瀧澤力
日一、〇〇〇 瀧澤力
(土閉伊郡遠野町)
技手 主幹 鈴木眞
道路書記 主幹 鈴木眞
月七三 兼土木 正一喜平
道路技手兼土木技手 正一喜平

四級 兼土木 鈴木眞
月四七 兼土木 高坂邦勝
土木技手 高坂邦勝
月六二 兼土木 菊池軍三郎
兼土木 技手 菊池軍三郎
七級 兼土木 宮本俊以
七級 兼土木 鈴木正治
臨時土木雇
日一、四〇〇 深倉幸吉
日一、二〇〇 小林兵庫
日一、二〇〇 大里實
日一、二〇〇 藤澤市彌
(下閉伊支廳内)
技手 主幹 太田米藏
道路書記兼土木書記 太田米藏
月六二 兼土木 田澤助太郎
道路技手兼土木技手 田澤助太郎
四級 兼土木 太田米藏
△月九七 兼土木 佐々木徳
月六三 兼土木 鈴木三郎
月五二 兼土木 瀧澤良之助
月四二 兼土木 瀧澤良之助
土木技手兼道路技手 瀧澤良之助
月四四 兼土木 後藤玄七
土木技手補 後藤玄七

岩手縣廳



岩手縣廳

六級 高橋謙藏
七級 瀨戸助
土木履 伊藤恭平
臨時土木履 和賀壬一
日一、四〇〇 大川四郎
日一、三〇〇 小原興之
日一、二〇〇 小山八郎
日一、〇〇〇 小野邦二

久慈土木管區 (九戸郡久慈町)

技手 主幹 武内晃
月一 道路書記兼土木書記 伊藤勇一郎
月四六 道路技手兼土木技手 武内晃
五級 技手 神崎利公
月七〇 森政藏
月七〇 勳八岩城三郎
月五八 勳七陸軍歩兵中尉 關口實
月六〇 勳六原彌男藏
六級 關口實
七級 佐藤時惠
八級 柏田四郎

臨時土木履 中村力
日一、五〇〇 飯塚一郎
日一、三〇〇 阿部正一
日一、二〇〇
〇二戸土木管區 (二戸郡福岡町)

技手 主幹 齋藤芳須慶
月一 道路書記 名久井末次郎
月四一 道路書記兼土木書記 名久井末次郎
(月三〇)
月二〇 道路技手兼土木技手 齋藤芳須慶
五級 技手 柴田喜市郎
月四八 細田勝男
十級 土木技手兼道路技手 加美山三郎
月六一 鈴木與七
月五二 鈴木一
六級 鈴木一
七級 金澤丙
七級 上田秀一
臨時土木履 桐明萬藏
日一、五〇〇

日一、五〇〇 村瀬節三
日一、四〇〇 吉田忠祐
日一、四〇〇 加美山軍司
日一、〇〇〇 高橋勝悦
〇臨時黒澤尻土木管區 (和賀郡黒澤尻町)

技手 主幹 遠藤靖
月一 道路技手兼土木技手 遠藤靖
四級 技手 菊池正男
△月九七 大久保善雄
六級 曾我吉郎
月七二 萩原喜三郎
月六二 小田島源八
月五七 安原健吉
月四八 市川貞治
八級 臨時土木履 田島三郎
日一、五〇〇 富澤勝藏
日一、四〇〇 松岡耕三
〇臨時水澤土木管區 (膽澤郡水澤町)

八 六級 川村秀三
月六七 鈴木寅之助
月六〇 町田佐千代
土木技手補 淺山隆
月六〇 岡本十郎
六級 青野孝次郎
七級 佐藤岩太郎
八級 村田康雄
土木履 及川雄一郎
日二、六〇〇
臨時土木履 井上義政
日一、五〇〇 梅原兵衛
日一、四〇〇 八角四郎
日一、三〇〇 小泉武一
日一、二〇〇 菅原州太郎

〇臨時盛土木管區 (氣仙郡盛町)

技手 主幹 菅原武美
月一 道路書記兼土木書記 菅原武美
土木技手 佐々木和助
月一 技手 菅原武美
七級 技手 菅原武美

月五九 兼土木 石塚留吉郎
月四八 兼土木 菊池孝吉
月四七 兼土木 坂下平二
土木技手補 佐々木和助
四級 居研駒一
四級 伊藤彌善治
臨時土木履 千田新一
日一、四〇〇 熊谷佐市
日一、四〇〇 菊池重夫
日一、三〇〇 高橋國衛
日一、二〇〇 似内孝
日一、二〇〇 室野長太郎

〇臨時釜石土木管區 (上閉伊郡釜石町)

技手 主幹 勤七 新田留吉
月一 道路書記兼土木書記 今野民彌
道路技手 新田留吉
六級 新田留吉
兼土木技手 長澤專次郎
月六一 兼土木技手 長澤專次郎

岩手縣廳

月六〇 兼土木技手 根田萬之丞
月四九 兼土木技手 佐藤義雄
土木技手補 今野民彌
月六〇 丸岡勝治
臨時土木履 飯岡信善
日一、六〇〇 澤多陸男
日一、二〇〇 工藤正夫
日一、〇〇〇

〇臨時岩泉土木管區 (下閉伊郡岩泉町)

技手 主幹 八角 斌
月一 道路書記兼土木書記 田口岩太郎
道路技手兼土木技手 八角 斌
月六八 及川二良
七級 田原賢隆
月四七 土木技手補 萱猛
月五四 田口岩太郎
七級 向井田仁志
月三八 池田三男
臨時土木履

日一、五〇〇 下川原恒吉
日一、四〇〇 菊池德治
日一、三〇〇 藤澤太郎
日一、〇〇〇 袴田孝造
〇零石川工管所 (岩手郡厨川村)

所長 道路技師 本庄信藏
道路書記兼土木書記 吉田政一郎
六級 道路技手兼土木技手 笠岡英男
四級 中山前三
△月九七 萱野勝三
月四八 田口隆五郎
土木技手補 萱野勝三
八級 臨時土木履 田口隆五郎
日一、五〇〇 大澤正
日一、〇〇〇
〇大船渡港工管所 (氣仙郡大船渡町)

〇釜石港工管所 (上閉伊郡釜石町)

土木技手兼道路技手 所長 小林末廣
四級 赤羽根 薰
月五四 赤羽根 薰
土木書記兼道路書記 金子秀治郎
月六〇 金子秀治郎
土木技手補 勳八佐藤藤三郎
八級 臨時土木履 澤田勘次郎
日一、五〇〇 澤田勘次郎
日一、二〇〇 鳥井修一
〇久慈港工管所 (九戸郡久慈町)

九

土木技手兼道路技手 小田進
月六〇 小田進
土木技手補 玉澤鶴壽
月四二 玉澤鶴壽
臨時土木履 三浦清淨
日一、四〇〇 三浦清淨
〇八木港工管所 (九戸郡種市村八木)

九

道路技手兼土木技手 渡邊政太郎
月六二 渡邊政太郎
土木書記兼道路書記 遠藤昌
月三五 遠藤昌
臨時土木履





岩手縣廳

六級 腹子政七  
 月五九 佐藤信四郎  
 月五四 船越市宜  
 月五三 高平光平  
 十級 坂本清吉  
 十一級 富野壽助  
 技手  
 六級 勳八 十日市惣治  
 月七二 漁業監 三浦 等  
 督吏員  
 農林技 伊藤 正孝  
 月七二 手  
 (無給)  
 月六六 高橋 祐吉  
 縣書記  
 月五六 小野寺 庸夫  
 月四二 川戶 與四郎  
 九級 島山 英作  
 十二級 近江 清藏  
 月五 雇月三 島田 德助

杜陵學園 (盛岡市三ツ割字田畑)

教諭  
 八級 園長事 西村 芳雄  
 移取 櫻田 智辨  
 月三〇 兼社會 勳八  
 兼教育主 櫻田 智辨  
 書記

岩手縣廳

三月〇 名久井 駿三  
 保母心得  
 月一五 西村 ハル  
 園醫  
 年手當六〇 秋葉 隆  
 ○盛岡測候所(岩手郡淺岸村)  
 測候技師 福井 規矩三  
 所長  
 測候書記  
 月四一 兼測候 川村 善太郎  
 技手  
 月六四 兼測候 辻 芳彦  
 書記  
 月五七 關 正二  
 八級 兼測候 二宮 三郎  
 書記  
 九級 古館 金藏  
 月三八 久保田 謙  
 測候所技手心得 藤澤 利一  
 月二二 雇  
 月二二 中谷地 美彌  
 月八 吉田 政吉  
 ○宮古測候所(下閉伊郡宮古町)  
 測候技師 福井 規矩三  
 (兼) 所長 候所長

一四

測候書記  
 月五六 兼測候 富野 五郎  
 技手  
 十一級 金澤 孫次郎  
 測候技手  
 六級 兼測候 佐々木 理助  
 書記  
 ○縣商工館(盛岡市内丸)  
 館長  
 事務取扱 高瀬 五郎  
 地方事務官 小川 文四郎  
 地方商工技師  
 商工主事補 佐々木 興惣吉  
 月六七 勳八 中村 浩次  
 月五四 陸軍歩兵少尉 捨巳  
 月四九 正八 佐藤 捨巳  
 (兼) 屬 內堀 末次郎  
 (兼) 屬 川村 吉五郎  
 (兼) 屬 似鳥 久一  
 月四三 商工技手  
 四級 △月七 吉川 保正  
 六級 兼商工 北田 德太郎  
 主事補 安部 信雄  
 七級 松尾 善市  
 月五一 藤田 清一  
 九級 事務盛岡商業 稻村 要八  
 事務盛岡商業 稻村 要八  
 鳴計學校長

一五

商工主事補 塙 公宜  
 八級 砂子澤平三郎  
 月三  
 ○縣立農事試驗場(岩手郡本宮村)  
 地方農林技師 猪狩 源三  
 場長 技師 福士 進  
 稻塚 權次郎  
 川上 幸治郎  
 工藤 藤一  
 農林主事補 縣出納  
 月六二 縣經濟 金澤 良雄  
 物品取 拔主任  
 農林技手 三浦 正治  
 兼農林 氣田 信  
 主事補 吉田 恭平  
 月五二 柴内 勇藏  
 月五二 大矢 勇  
 月四三 淺沼 清太郎  
 農林技手補 佐々木 政雄  
 月三六 岩本 武雄  
 月三二

鳴託

手當月三〇 阿部 芳文  
 ○膽江分場(江刺郡愛宕村)  
 地方農林技師 吉田 伊兵衛  
 場長 縣技手  
 農林主事補 縣出納  
 月五七 縣經濟 山口 大五郎  
 物品取 拔主任  
 農林技手  
 四級 兼農林 佐藤 丈藏  
 主事補  
 月七二 兼舍監 岡崎 義雄  
 (月手當三) 朴澤 次郎  
 農林技手補 佐藤 武雄  
 月三六 兼舍監 吉田 美佐雄  
 (月手當三) 佐藤 武雄  
 ○輕米農場(九戸郡輕米町)  
 農林技手 陸軍歩兵中尉  
 五級 從七 小澤 藤作  
 農林技手補 渡邊 文雄  
 月四三  
 ○縣水産試驗場(釜石町)  
 岩手縣廳

地方農林技師

場長 小安 正三  
 農林主事補 小林 忠次  
 七級 兼農林 山内 留次  
 技手 兼漁業監 木下 末松  
 無給 督吏員 稻川 治平  
 無給 督吏員 陸軍歩兵少尉  
 農林技手 陸軍歩兵少尉  
 五級 陸軍歩兵少尉 正幸  
 漁業監 正八 長岡 正幸  
 督吏員  
 月七三 漁業監 鈴木 權次郎  
 督吏員  
 月七〇 漁業監 花檀 盛一  
 督吏員  
 月七〇 漁業監 上田 正喜  
 督吏員  
 月六七 大槌野化 久保田 倉五郎  
 場在勤  
 月六〇 津輕石 原田 龜太郎  
 化場在勤  
 (兼) 漁業監督吏員 山内 留治  
 漁業監督吏員 富永 久雄  
 月一 督吏員  
 所屬船船長

地方農林技師

月二五 船長(岩手丸) 木下 末松  
 農林主事補(無給)  
 五級 兼船機關長 稻川 治平  
 所屬船機關長  
 月九〇 船機丸(池) 瀨賀 啓太郎  
 (岩手丸) 勳七  
 (機關長) 大澤 富太郎  
 (早池峰丸) 機關長  
 無線電信手  
 四級 陸軍歩兵少尉 正八 宇佐美 敏男  
 正八 菅原 俊雄  
 五級 菅原 俊雄  
 月七〇 (早池) 黑澤 虎太郎  
 (峰丸)  
 農林技手補 虎岩 透  
 月四七 大向 忠次郎  
 月四七 館洞 正一郎  
 八級 盛合 鳳一  
 月三九 津輕石 盛合 市平  
 津輕石 在勤  
 月三二 津輕石 盛合 市平  
 在勤  
 月二七 縣種畜場(岩手郡敷川村) 昆 益郎

地方農林技師

場長 足澤 勉  
 農林主事補 重田 恒輔  
 七級 兼農林 縣技手 德田 和一  
 技手  
 五級 兼農林 小松 可久  
 主事補 千葉 蓮一實  
 五級 兼農林 千葉 金吾  
 主事補  
 月四六 陸軍三等獸醫 八鎌 康次  
 正八 長岡 健  
 七級 遠山 慶郎  
 月五七 小林 正  
 十級 農林技手補 四戸 萬吉  
 月五七 鳴託醫  
 手當年五〇〇 加藤 平助  
 ○縣種畜場(岩手郡卷堀村)  
 地方農林技師 磯田 秀雄  
 場長(兼) 渡邊 萬吉  
 (兼) 農林主事補 小原 正二  
 (兼) 農林技手 屬

岩手縣廳

谷井宗忠

農林技手補

月三二

○縣警署取締所 (縣廳內)

地方農林技師

事務取扱手

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

月七二

農林技手

兼農林

農林技手

六級

監

小野寺源吉

六級

監

笹木政次

六級

監

龜井英男

六級

監

佐藤高雄

六級

監

原定雄

六級

監

菊池滋孝

六級

監

菊池恭三郎

六級

監

池田徹郎

六級

監

田代壯

六級

監

藤原善二

六級

監

小原綱紀

六級

監

金子克己

九級

監

小原健一郎

十級

監

齊藤政左衛門

八重樫清策

月六〇

農林技手

兼農林

月六〇

農林技手

兼農林

月六〇

農林技手

兼農林

月六〇

農林技手

兼農林

農林技手

月四八

農林主

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

農林技手

月三二

農林主

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

兼農林

月一

農林技手

農林技手

月六二 動七 佐野 巳代吉  
十級 佐藤 秀助  
九級 (宮守) 千葉 恭

○黑澤尻出張所 (和賀郡)

農林技手 櫻井 善三郎  
月五四 武藤 武夫  
月四二 櫻井 善三郎

七級

藤根兼 櫻井 善三郎  
岩崎派 櫻井 善三郎  
出所 櫻井 善三郎

九級

江釣子 及川 養作  
更木兼 高橋 敬治郎  
花派立 高橋 敬治郎

月三二

相去兼 昆野 通  
鬼柳派 吉田 稻造  
出所 吉田 稻造

月三二

横川目 高橋 萬治  
兼藤根 高橋 萬治  
出所 高橋 萬治

月六二

陸軍歩兵少尉 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治

月六二

陸軍歩兵少尉 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治

岩手縣廳

九級

稻瀨兼 大沼 繁喜  
出所 大沼 繁喜  
田原兼 菊池 久德  
田派 菊池 久德

月三二

藤里兼 清原 繁雄  
伊手派 清原 繁雄  
出所 清原 繁雄

十級

梁川兼 柳村 佐太郎  
福岡派 柳村 佐太郎  
出所 柳村 佐太郎

月三二

衣川 佐藤 岩雄  
派所 佐藤 岩雄  
出所 佐藤 岩雄

月二八

古城兼 齋藤 谷五郎  
白山派 齋藤 谷五郎  
出所 齋藤 谷五郎

月二八

關出張所 (西磐井郡) 松本 十藏  
農林技手 高橋 貢  
十級 高橋 貢

月三六

秋莊 八木 敷枝  
派所 八木 敷枝  
出所 八木 敷枝

月三六

小野寺武治郎  
八級 小野寺武治郎  
派所 小野寺武治郎

一九

月三三

眞瀨 高橋 順治  
派出所 高橋 順治  
平泉 栗原 惣四郎  
派出所 栗原 惣四郎

月三二

花泉出張所 (西磐井郡) 川村 喜兵衛  
農林技手 上野 佳雄  
月六二 上野 佳雄

月四二

金澤 平賀 源四郎  
派出所 平賀 源四郎  
油島 及川 嘉三郎  
派出所 及川 嘉三郎

月三三

永井 和賀 隆一  
派出所 和賀 隆一  
永井 和賀 隆一  
派出所 和賀 隆一

月六三

千葉 喜造  
月六三 千葉 喜造  
月六三 千葉 喜造

月六三

小野寺清七  
月六三 小野寺清七  
月六三 小野寺清七

月六三

淺沼 久  
月六三 淺沼 久  
月六三 淺沼 久

月六三

久慈出張所 (九戸郡久慈町) 片桐 信一  
七級 片桐 信一  
九級 片桐 信一

一九

農林技手

月六二 動七 佐野 巳代吉  
十級 佐藤 秀助  
九級 (宮守) 千葉 恭

○黑澤尻出張所 (和賀郡)

農林技手 櫻井 善三郎  
月五四 武藤 武夫  
月四二 櫻井 善三郎

七級

藤根兼 櫻井 善三郎  
岩崎派 櫻井 善三郎  
出所 櫻井 善三郎

九級

江釣子 及川 養作  
更木兼 高橋 敬治郎  
花派立 高橋 敬治郎

月三二

相去兼 昆野 通  
鬼柳派 吉田 稻造  
出所 吉田 稻造

月三二

横川目 高橋 萬治  
兼藤根 高橋 萬治  
出所 高橋 萬治

月六二

陸軍歩兵少尉 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治

月六二

陸軍歩兵少尉 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治  
月四二 正八 小田島 清治

岩手縣廳

農林技手十級

小原 喜市  
月三二 岩淵 善二  
○水澤出張所 (膽澤郡水澤町)  
農林技手 栗野 宏  
月五七 栗野 宏

月四七

陸軍騎兵少尉 正八 大塚 慶太郎  
月四七 正八 大塚 慶太郎  
月四七 正八 大塚 慶太郎

月四二

若柳兼 片ヶ瀬 興吉  
南都田 片ヶ瀬 興吉  
派出所 片ヶ瀬 興吉

月三七

小山 高橋 正二郎  
派出所 高橋 正二郎  
高橋 清一  
平野 隆三

月三三

眞城兼 田畑 良三  
姉体派 田畑 良三  
出所 田畑 良三

月三二

佐倉河 石母田 清司  
派出所 石母田 清司  
岩谷堂出張所 (岩谷堂町)  
岩谷堂出張所 (岩谷堂町)

月五二

菊池 達郎  
月五二 菊池 達郎  
月五二 菊池 達郎

月三八

玉里兼 佐々木 長榮  
米里派 佐々木 長榮  
出所 佐々木 長榮

月三八

三浦 善之進  
下閉伊郡宮古 三浦 善之進  
町駐在 三浦 善之進

月三六

水澤出張所 (膽澤郡水澤町) 佐々木 卓爾  
農林技手月五 佐々木 卓爾  
○一關出張所 (西磐井郡) 關 一

月三六

荒澤出張所 (二戸郡荒澤村) 河野 吾郎  
農林技手月三 河野 吾郎  
○沼宮内出張所 (岩手郡) 御堂 村

月三六

小鳥谷出張所 (二戸郡) 伊藤 喜一郎  
農林技手月三 伊藤 喜一郎  
○福岡出張所 (二戸郡) 石切 所村

月三六

金田一出張所 (二戸郡) 金田 村  
農林技手月三 金田 村  
○種市出張所 (九戸郡種市村) 青多端 喜七郎

月三六

久慈出張所 (九戸郡久慈町) 片桐 信一  
七級 片桐 信一  
九級 片桐 信一

月三六

野田出張所 (九戸郡野田村) 片桐 信一  
農林技手 (兼) 片桐 信一  
○普代出張所 (下閉伊郡) 普代 村

月三六

平井賀出張所 (下閉伊郡) 田野 畑村  
農林技手月九 田野 畑村  
○小本出張所 (下閉伊郡) 小本 村

月三六

田老出張所 (下閉伊郡) 田老 村  
農林技手月九 田老 村  
○宮古出張所 (下閉伊郡) 宮古 町

月三六

山田出張所 (下閉伊郡) 山田 町  
農林技手 (兼) 山田 町  
○大槌出張所 (上閉伊郡) 大槌 町

月三六

坂本 辰次郎  
月三六 坂本 辰次郎  
月三六 坂本 辰次郎

岩手縣廳

○遠野出張所 (上閉伊郡) 遠野町 藤尾新五郎 藤尾新五郎 臨時検査員 日〇、八〇

○吉濱出張所 (氣仙郡吉濱村) 安酒市議 検査員九級 大船渡出張所 (氣仙郡) 農林技手月三 高木倉吉

○縣立八幡病院 (盛岡市) 日〇、七三〇 日〇、六〇〇 日〇、三〇〇

名譽職 (手當) 神室 求馬 月三 八幡宮 (盛岡市志家)

○早池峰神社 (陸奥郡) 内川目村 山陸 廣司

○鎮守府八幡神社 (膽澤郡) 菅原 政男 菅原 政男

○吞香稻荷神社 (二戸郡) 菅原 政男 菅原 政男

○志賀理和氣神社 (紫波郡) 小保内 文彌 小保内 文彌

○配志和神社 (西磐井郡) 長谷川 三三 長谷川 三三

○奏任待遇ヲ受クル神職 和賀郡谷内村 小原 兄麿

岩手縣警察部

西磐井郡平泉 村社白山神 關宮 謙次郎

警察部

(盛岡市内丸)

警察部長 書記官 看護婦試驗委員 衛生技師

特別高等警察課 地方警視

課長 從七 後藤 吉五郎 課長 從七 中野 四郎

屬兼警部 五級 無給

無給 勤八 山陸 新作 無給 (兼) 鈴木 菊男

地方警察技手月今 初男 電話屋 北田 千五郎





岩手縣警察部

第四區受持 小原 九三
新田町派出所
第一區受持 大沼 正一
第二區受持 早坂 龜治
第三區受持 高橋 龍太郎
第四區受持 青山 東藏
道主任(精) 材木町派出所
第一區受持 水原 武
第二區受持 原 正
第三區受持 蜂谷 太門
第四區受持 千田 庄次郎
四ツ家派出所
第一區受持 西村 金三郎
第二區受持 朴澤 謙次郎
第三區受持 中村 政治
第四區受持(兼) 朴澤 謙次郎
紙町派出所

第一區受持 眞鳥 至誠
第二區受持(兼) 眞鳥 至誠
第三區受持 藤谷 直太郎
第四區受持 岩松 長治郎
肴町派出所
第一區受持 村上 長太郎
第二區受持 蒲生 貞喜
第三區受持 佐々木 太利藏
第四區受持 阿部 好壽男
第五區受持 千田 今朝治
新穀町派出所
第一區受持 佐藤 豊
第二區受持 佐々木 純雄
第三區受持 中島 忠雄
第四區受持(兼) 佐藤 豊
仙北町派出所
第一區受持 及川 美興
第二區受持 木村 元吉

第三區受持 佐々木 富太郎
上米内駐在所 吉田 盛榮
北山駐在所 加藤 保治
浅岸駐在所 小竹 良吉
中野駐在所 高橋 直人
築川駐在所 清川 清
木宮駐在所 菊池 好見
太田駐在所 加藤 勘助
月三駐在所 大竹 亥子造
大釜駐在所 福盛田 鼎
瀧澤駐在所 大湯 慶藏
玉山駐在所 齋藤 貢
戴川駐在所 柏木 正順
雪石巡査部長派出所 高橋 奥之助
雪石駐在所 鈴木 康兒
御所駐在所 長田 利三郎

御明神駐在所 傳野 武雄
西山駐在所 川村 重次郎
小岩井農場請願派出所 藤原 仁一郎
月四四加二(精) 岩手郡(沼宮内町)
沼宮内警察署 齋藤 賢三郎
署長月六三
巡查 齋藤 賢三郎
召集及 小山大之進
長月四特三 道主任(精)
加二特三 道主任(精)
巡查 渡邊 仲
部長 渡邊 仲
一類 渡邊 仲
二類 渡邊 仲
三類 渡邊 仲
四類 渡邊 仲
月三九 渡邊 仲
署長月三九 渡邊 仲
署長月三九 渡邊 仲
署長月三九 渡邊 仲
署長月三九 渡邊 仲

一方井駐在所 菅原 賢吾
月四二(精) 武田 達三
川口駐在所 角田 孝七
卷堀駐在所 辻市 安五郎
月三三 辻市 安五郎
道主任(精) 寺牛 仁兵衛
月五二加三(精) 山田 勝郎
平館駐在所 門馬 武三郎
大更駐在所 佐藤 嘉太郎
月四四(精) 動八 正清
松尾駐在所 動八 正清
寺田駐在所 築田 恒久
月五二加三(精) 宇部 繁藏
松尾嶺山請願派出所 宇部 繁藏
葛卷巡査部長派出所 宇部 繁藏
巡查部長 佐々木 十二
月三三(精) 佐々木 秀充
葛卷駐在所 佐々木 秀充
月四〇 佐々木 秀充
小屋瀨駐在所 川守 田福太郎
月四六加二(精) 川守 田福太郎

江刈駐在所 千葉 六郎
月三三 千葉 六郎
日詰警察署(紫波郡日詰町)
署長月五九 及川 常作
巡查 及川 常作
巡查部長 鈴木 繁次
長月四二 鈴木 繁次
六加二 小原 留吉
巡查部長 小原 留吉
巡查部長 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎
二加二 小野寺 慶一郎

見前駐在所 昆野 時夫
月四二(精) 島田 源三
飯岡駐在所 佐藤 三教
月四〇 佐藤 三教
不動駐在所 高橋 伍介
月三三 高橋 伍介
水分駐在所 佐藤 末吉
月四二 佐藤 末吉
上月澤駐在所 菊池 純一
月四一 菊池 純一
片寄駐在所 阿部 重泰
月三三 阿部 重泰
赤石駐在所 及川 亥三郎
月三三 及川 亥三郎
赤石駐在所 坂本 平太郎
月四一 坂本 平太郎
佐比内駐在所 吉岡 義夫
月三三 吉岡 義夫
赤澤駐在所 栗谷川 與八
月四〇 栗谷川 與八
長岡駐在所 齋藤 吉郎左衛門
月四〇 齋藤 吉郎左衛門
乙部駐在所 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎
月四〇 武田 勇太郎

署長四級 勳八 伊藤 儀一郎
警部補 佐々木 卯右衛門
月四六 佐々木 卯右衛門
巡查 佐藤 喜三郎
長月五 佐藤 喜三郎
六加四 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎
巡查部長 佐藤 喜三郎
二加三 佐藤 喜三郎





岩手縣警察部

末崎駐在所 大場 麒麟造
月四六
綾里駐在所 動七
月四八加二(精) 柏橋 今朝治
吉濱駐在所 千葉 克己
月五〇
越喜來駐在所 吉田 豊治
月四二
上有住駐在所 松村 萬吉
月四〇
世田米駐在所 伊藤 吉治
月四四加二(精) 伊藤 吉治
川口駐在所 伊藤 吉治
高田警部補派出所
(氣仙郡高田町)

梅木請願派出所 菊池 喜一
月四二
梅木請願派出所 阿部 太善
月三九
盛娼妓診療醫 佐々木謙之助
月手當八
高田娼妓診療醫 須知 六郎
月手當五
屠畜検査員 佐藤 善九郎
月手當一五
○遠野警察署
(上閉伊郡遠野町)
警部 小野 董
署長月五五
検査委員

巡査部長 消防、工
月四六 加藤 政美
六加 砲火藥類
二加 取締主任
巡査部長 三浦 勝見
月四二 衛生、風
部長 紀、交通
一 主任、檢
疫委員

三〇
綾織駐在所 大坂 長助
月五二加三(精)
樽澤駐在所 高橋 松吉
月四一
小友駐在所 工藤 久三
月三九
宮守駐在所 菅川 富人
月四一
達曾部駐在所 千葉 慶司
月四一
配當未定月三
電話月二六 柴田 賢次郎
娼妓診療醫 菊池 幸藏
年手當一〇〇 川上 秀一郎
○金石警察署
(上閉伊郡金石町)
警部 齋藤 光雄
署長月六三
警部補 小向 定雄
月五四
任(精)
加四
巡査部長 小野寺 勝雄
月四一

岩手縣警察部

巡査部長 (精) 佐藤 三郎
月五〇加三
内勤(庶務) 佐藤 勇
月四四(精)
内勤(會計) 小野寺 守實
月四四特三
刑事月四特四 小田島貞三郎
特務月四動八 福山 幸久
特務(兼) 佐々木巳太郎
署在地第一區受持 瀧田 喜八郎
月三五
署在地第二區受持 佐々木巳太郎
月三五
署在地第三區接續村落受持 高橋 善四郎
月三七
水上派出所第一區受持 高橋 富彌
月三七
水上派出所第二區受持 小野 源之進
月五六加三(精)
甲子駐在所 押切 勳
月四一
唐丹駐在所 (精) 三浦 正雄
月四四

同月三七 多田 光郎
大橋請願派出所 小野 貞進
月五二加三
大橋巡査部長派出所
月五二加二(精) 及川 靜夫
月五〇加二(精) 佐藤 泰藏
月四一 山本 庄太郎
鶴住居駐在所 佐藤 宇一
月四四(精)
栗橋駐在所 小野寺 貢
月三七
金澤駐在所 小田 守二
月三七
釜石娼妓診療醫 佐野 久米藏
月手當二八
大槌娼妓診療醫 大宮新右衛門
月手當六
○宮古警察署
(下閉伊郡宮古町)
警部 星 壽七
署長月六五
警部補 星 壽七
月四七 司法、
加二 消防主 平賀 金吾
任(精)
巡査 交通衛 佐々木 敬止
長月完 主任

巡査部長 統 金森 平作
長月五紀主任
六加三
巡査部長月三九 佐々木 三郎
内勤(主計) 動七
月四四特四 渡邊 勘兵衛
刑事月四七特四 佐々木 四郎
特務月三七 梁川 博
特務月三五 佐々木 作太郎
署在地第一區受持 福田 哲夫
月三五
署在地第二區受持 黒田 町派
署在地第三區受持 黒田 町派
署在地第四區受持 黒田 町派
署在地第五區受持 黒田 町派
署在地外第一區受持 接續村落
署在地第二區受持 接續村落
署在地第三區受持 接續村落
署在地第四區受持 接續村落
署在地第五區受持 接續村落
花輪駐在所 鈴木 武三郎
月五三加三(精)
茂市駐在所 龜山 兼雄
月三七
月四六加二(精) 阿部 文伍
山口駐在所 高橋 金太郎
月四六

三一
田老駐在所 照井 宇一郎
月四四加二(精)
重茂駐在所 木川田 直吉
月四四
津輕石駐在所 加賀谷 繁治
月四四加二(精)
川井巡査部長派出所
月四八加二(精) 和田 喜之助
月三七
川井駐在所 佐藤 鐵五郎
月三七
川內駐在所 村上 廣治
月四六加二(精)
門馬駐在所 佐藤 勝應
月四二
小國駐在所 尾形 梅治
月三九
山田警部補派出所
警部補 伊藤 松造
月四六加二(精)
山田駐在所 菊池 謹一
月三五
山田駐在所 打矢 精衆
月三七
山田駐在所 照井 彌太郎
月四一
豐間根駐在所 山家 兵四郎
月五三加三(精)
船越駐在所 土橋 長次郎
月四二













教育關係

盛岡地方裁判所檢事 岡沼 扶

從五勳六 小笠原 敬三

正八 兼次 忠藏

有勳 繁三

正七勳五 野呂 九二藏

書記 正七勳五 野呂 九二藏

三級 從七勳六 澤田 兼三

三級 從七勳六 澤田 兼三

五級勳七(旭) 功七 飯富 好次

六級 飯富 好次

九級 佐々木 吉雄

助 手 七 戶 博

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

助 手 山 村 美 久

九級 山 村 美 久

學校醫 動七 熊谷 吉太郎

後藤 尙五郎

杉立 義一

醫博 佐藤 三千三郎

動八 佐々木 長五郎

動九 齋藤 末吉

熊谷 熊次郎

江釣子 律見 紀正

池田 重節

動八 吉田 軍治

澤口 長助

小森 彦太郎

佐藤 潤

作 遠 烟 藤 馬

菅沼 宇吉

遠 烟 道

雪ノ浦 參之助

矢羽 彌七

世良 田房光

瀨川 謙一

高橋 廣

彌 田 中 正 己

遠 藤 精 一

細川 彌

田 中 正 己

佐々木 友次

臨 時 雇

渡邊 敏

中村 忠次郎

本館 金太

烟 中 清 見

木村 榮一

劉 屋

敏 夫

熊谷 次郎

小林 鶴松

醫學士 南 滿 小 泉 浩 吉

醫學士 遊 佐 良 雄

醫學士 工 藤 祐 三

醫學士 金 野 巖

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

醫學士 三 田 三 郎

體操科 從五勳四 功五 笹間 政吉

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻

體操科 從六勳五(兼) 及川 峻



教育關係

四級當分一〇七 村田幸之助
五級當分一〇二 菊池忠助
五級當分一〇二 黑沼忠亮
五級當分一〇二 長南健也
五級當分一〇二 眞砂雅雄
五級當分一〇二 浦川清美
六級當分九七 芳賀喜一郎
五級當分九七 田村光政
六級兼舍監(加俸月五) 石井嘉吉
六級當分九〇 三輪進一
六級當分九〇 大桃彦春
六級當分九〇 植浦寬
六級當分九〇 原寬
教諭心得 月九三兼舍監心得(手當月五) 勳七及川官藏
教師囑託 月四三 勳八 佐々木慶太郎
月三〇 勳七 佐藤純一郎
書記 九級當分四八 高橋綠
十級當分四八 勳八 佐々木慶太郎
學校醫 年手當三〇 佐藤純一郎
配屬將校 陸軍歩兵大尉 八木勇
○花巻中學校(稗貫郡花巻町)

校長 公立中學校長兼教諭 六等待遇 十級從五勳六 佐藤昌
教諭 五級當分二〇 從六 北澤庄兵衛
七級當分九〇 齋藤清次郎
七級 潮田勝一
八級當分八〇 佐藤岩之進
九級 森一
教師囑託 月六〇 渡部美津丸
月六〇 八木英三
月二〇 永井卯平次
月五 藤原嘉藤治
月五 勳八 小原末治
月五 勳八 小原末治
書記 三級 勳八 小原末治
學校醫 年手當三〇 大橋秀治
○岩手縣立盛岡高等女學校 (盛岡市新庄)
校長 五級 公立高等女學校長兼教諭 三等待遇 從五勳五 菅野義之助
教諭 八級 當分一、四三三 公立高等女學校教諭 六等待遇 正七 館下忠一郎
八級 當分一、三九二 公立高等女學校教諭 六等待遇 正七 堀内正巳

四級當分二〇兼舍監(加俸月五) 加藤るよ
五級 小田島理平治
五級 佐々木貞雄
五級 井上リッ
五級當分一〇二 濱田チヨエ
五級當分一〇〇 濱田チヨエ
五級當分九七兼舍監(加俸月五) 野澤イシ
五級當分九七 千々岩富士夫
六級當分九五 川島平八郎
六級當分九五 高橋くり
六級當分九〇 照井ハル
六級當分九〇 加藤昌得
六級當分九〇 星山三郎
六級當分九〇 佐藤喜藏
九級當分七〇兼舍監(加俸月五) 萩野美代
八級當分七〇 正八 館澤徳榮
教師囑託 月四〇 舍監囑託(月五) 吉田ミカ
月二五 竹中文治
月一六 菊池小八郎
八級當分五三 勳八 佐藤徳重郎
九級當分四八 竹中文治
學校醫 年手當三〇 竹内慶治郎

四六

○岩手縣立花巻高等女學校 (稗貫郡花巻町)
校長 公立高等女學校長兼教諭 五等待遇 從六 澁谷 義夫
教諭 五級 當分一、九三〇 公立高等女學校教諭 五等待遇 正六勳六 宮内 茂一
七級 公立高等女學校教諭 五等待遇 從六 中井 彌五郎
七級 當分一、四八九 公立高等女學校教諭 七等待遇 從七 吉澤 博倫
四級當分一、一四 平野キヨ
六級當分九七兼舍監(加俸月五) 菊池ワカ
六級當分九七 松浦三男示
六級當分九七 小原亮吉
六級當分九三 藤原嘉藤治
七級當分八二兼舍監(加俸月五) 佐藤藤惠
七級當分八〇 香月利傳
八級當分七七 遠藤とみ子
八級當分七七 黒崎きみ
教諭心得 月七七 大友しづい
月六七 兼舍監心得(月手當五) 淺野富美

教師囑託 月一〇 小原ハヤ
書記 七級當分五 勳七 村上丑之助
九級當分四八 千葉庄治郎
學校醫 年手當三〇 佐藤隆房
○岩手縣立一關高等女學校 (西磐井郡山目村)
校長 公立高等女學校長兼教諭 四等待遇 正六 渡會 良藏
教諭 七級 當分一、五八一 公立高等女學校教諭 五等待遇 從六 阿部 二
七級 公立高等女學校教諭 六等待遇 正七 石川 榮三郎
五級 武田 彩吉
五級 佐伯 敬紀
五級當分一〇二 八重柏三夫
五級當分一〇〇 阿部 芳吉
五級當分一〇〇 清水 鉄一
六級 田村 滋
七級當分八〇 森本 仁平
八級 佐々木 明
八級 神田 正八

八級當分七〇兼舍監(加俸月五) 鈴木木たり
八級當分七〇兼舍監(加俸月五) 岡田洋子
八級當分七〇兼舍監(加俸月五) 菊池澄子
教師囑託 月一〇 柄尾 八重
書記 七級當分五六 四 龜 謙平
九級 小野 民也
學校醫 年手當三〇 山本 弘行
○岩手縣立遠野高等女學校 (上閉伊郡遠野町)
校長 公立高等女學校長兼教諭 四等待遇 正六 毛馬内辯之介
教諭 八級 公立高等女學校教諭 七等待遇 正七 阿部 廣司
五級當分一〇二 中島 靜雄
六級當分九五 松崎 節雄
八級 小原 郁三
八級兼舍監(加俸月五) 鎌倉タイ
八級 阿部 正人
九級當分七〇 佐々木ミヨノ
九級當分七〇兼舍監(加俸月五) 武者 公子

教師囑託 月一五 那須 義美
月五 窪田 ゆい
書記 月五三 佐藤 徳次郎
學校醫 年手當三〇 佐々木 勇
○岩手縣立一戸高等女學校 (二戸郡一戸町)
校長 公立高等女學校長 五等待遇 從六勳六 羽田 正
教諭 七級 公立高等女學校教諭 七等待遇 從七 赤坂 三郎
三級當分一二二 梅垣 鼎三
六級當分九五 伊藤 キヨ
七級當分九五兼舍監(加俸月五) 橋本 タニ
六級 渡邊 稔
七級 多田 辰巳
八級兼舍監(加俸月五) 長門 二美
八級兼舍監(加俸月五) 長鳴 きみ
(兼) 助教諭心得 久慈 文治郎
(兼) 月二五 吾妻 シュン
教師囑託 月五 久慈 文治郎
兼助教諭心得 久慈 文治郎

學校醫 年手當三〇 山崎 喜久藏
○岩手縣立水澤高等女學校 (膽澤郡水澤町)
校長 公立高等女學校長兼教諭 四等待遇 正六 大矢 泰英
教諭 七級 當分一、五三〇 公立高等女學校教諭 六等待遇 從七 春日 佑幸
七級 當分一、五二四 公立高等女學校教諭 七等待遇 從七 千葉 眞一
三級當分一二二 田中 敏雄
五級 當分二〇兼舍監(加俸月五) 梅木 芬
六級 當分九〇 夢生 民次郎
八級當分八〇 加藤 武夫
八級兼舍監(加俸月五) 池上 泰彦
八級 鹽谷 フミ
八級當分七〇 大塚 シヅ
九級 江口 トミ
九級 鶴浦 フミ
教諭心得 月九〇 達下 鐵郎
月三〇 松野 清助
教師囑託 月五 鈴木 タケ

教育關係

教育關係

書記八級當分三 松野 清助  
 學校醫年手當三 佐藤 坦  
 ○岩手縣立岩谷堂高等女學校 (江刺郡岩谷堂町)  
 校長 公立高等女學校校長兼教諭  
 四級當分一〇 正六 高橋 理八郎  
 七級當分一、五七二 公立高等女學校教諭 六等待遇  
 從七 江 幡 顯  
 四級當分一〇 高橋 久次郎  
 六級當分九三 馬場 トク  
 六級當分九三兼舍監(加俸月五) 藤島 カヨ  
 七級 留守 孝之助  
 七級 田村 イキ  
 七級當分八三兼舍監(加俸月五) 高橋 美佐  
 八級 勝亦 君雄  
 教師囑託 月五 小原 ツル  
 書記 九級 遠藤 陸期  
 學校醫年手當三 及川 直  
 ○岩手縣立黒澤尻高等女學校 (和賀郡黒澤尻町)  
 校長 公立高等女學校校長兼教諭  
 六等待遇 正七 新井 正市郎  
 七級 當分一、五四四 公立高等女學校教諭 六等待遇  
 正七 中村 九郎  
 五級當分一〇二 中上 延次  
 六級當分九〇 菊池 キク  
 七級 小笠原長太郎  
 七級 箭原 元治  
 八級當分八〇兼舍監(加俸月五) 昆野 コト子  
 七級當分八〇兼舍監(加俸月五) 澁谷 幸子  
 教諭心得 月八五 平野 行一  
 教師囑託 小笠原 哲治  
 月二〇 江口 トミ  
 月二〇 窪田 ゆい  
 月五 星 桃太郎  
 書記 九級 三神 正藏  
 學校醫年手當三 三神 正藏  
 ○岩手縣立宮古高等女學校 (下閉伊郡宮古町)  
 校長 公立高等女學校校長 六等待遇  
 正七 伊藤 重藏  
 七級 當分一、五一六 公立高等女學校教諭 七等待遇  
 從七 佐々木 實  
 五級當分一〇二 一ノ波 儀作  
 六級當分九〇 入江 泰嶽  
 七級當分八〇兼舍監(加俸月五) 貝野 リヤウ  
 七級 山内 秀悦  
 八級 池田 キミ  
 八級當分七〇 遠藤 桂子  
 八級當分七〇 島守 タカ  
 八級當分七〇兼舍監(加俸月五) 松橋 靜江  
 教師囑託 月一〇 橋場 英治  
 書記 十級 高橋 政太郎  
 學校醫年手當三 盛合 光郎  
 ○岩手縣立高田實(氣仙郡)科高等女學校 (高田町)  
 校長 公立高等女學校校長 七等待遇  
 從七 藤澤 義夫  
 六級當分九〇 平野 三夫  
 七級當分八〇 松川 力  
 八級 山口 きぬ  
 八級 關 てい  
 八級 中川 さだ子  
 九級 千葉 美惠子  
 九級當分六〇 千葉 美惠子  
 教師囑託 千葉 金作  
 月九五 小林 ヒデコ  
 月五 小崎 淺之助  
 書記十三級 動八 須知 六郎  
 學校醫年三〇 須知 六郎  
 ○釜石實科高等女學校  
 校長 公立高等女學校校長 五等待遇  
 正六 動六 佐藤 源八  
 七級 當分一、五七二 公立實業學校教諭 五等待遇  
 從六 小川 和三郎  
 八級 公立實業學校教諭 七等待遇  
 從七 刈屋 吉郎  
 八級 當分一、三七五 公立實業學校教諭 七等待遇  
 從七 野邊地 三郎  
 三級當分一、一七 菅原甲子太郎  
 四級當分二〇兼舍監(加俸月三) 正八 小田 久耕  
 四級當分一〇八 步兵少尉 喜三  
 正八 動六 細田 勝次郎  
 五級當分二〇兼舍監(加俸月五) 陸軍三等獸醫 正八 山田 三郎  
 五級當分二〇兼舍監(加俸月五) 秋山 光幾  
 五級當分九七 盛 清彦  
 六級當分九五 河野 信夫  
 六級 桐野 薫  
 六級當分九三 陸軍一等獸醫 正六 動五 志鎌 清七  
 六級當分九〇 本郷 清  
 助教諭心得  
 校長 公立高等女學校校長兼教諭 五等待遇  
 從六 加藤 太郎  
 七級 當分九〇 大場 とみ  
 六級當分九〇 大垣 春吉  
 九級當分七〇 佐野 福子  
 九級 鈴木 つさと  
 十一級 田丸 哲次郎  
 十一級當分四八 齋藤 等學  
 十一級當分四五 藤井 千代  
 教諭心得 月三 小原 ミヤ  
 書記 無給 齋藤 等學  
 學校醫 無給 深見 三郎  
 ○大槌實科高等女學校 (上閉伊郡大槌町)  
 校長 月手當一〇 大槌尋常高等小學校訓導兼校長  
 教諭 鈴木 兼三  
 六級當分八七 上村 とよの  
 九級 中村 マサ  
 九級 關 キミ  
 士級當分三 正八 遠藤 金作  
 教師囑託 金崎 節郎  
 月五 高橋 長吉  
 月二 高橋 長吉

四八

(上閉伊郡釜石町)

月二 金野 エン  
 學校醫年手當三 古谷 彌四郎  
 ○山田實科高等女學校 (下閉伊郡山田町)  
 校長 月手當五 山田尋常高等小學校訓導兼校長  
 藤岡 悅郎  
 七級 福田 誠二  
 八級 御法川 敏  
 八級當分七〇 淺田 マツ  
 (兼)月手當五 山田實業專修學校教諭 菊池 辰晤  
 教師囑託 月二 川目 ミヨ  
 學校醫年手當三 松浦 敏也  
 ○福岡實科高等女學校 (二戸郡福岡町)  
 校長 月手當一〇 福岡尋常高等小學校訓導兼校長  
 千葉宗一郎  
 教諭 菅野 義雄  
 八級當分八〇 齋藤 けい  
 八級當分八〇 京谷 キクエ  
 九級當分七〇 阿部 マツ  
 十級 柴田 三百枝  
 十一級當分二〇兼書記 及川 庄三郎  
 教育關係  
 教師囑託 菊池 誠  
 月一五 丹野 ツル  
 月一五 瀨川 勇吉  
 月五 南館省一郎  
 書記(兼)月五教諭 及川 庄三郎  
 學校醫 年手當五〇 藤 祐  
 正七 動六 光 祐  
 ○前澤實科高等女學校 (膽澤郡前澤町)  
 校長 年手當二五 前澤尋常高等小學校訓導兼校長  
 小丸 正三郎  
 教諭 菅野 ツルコ  
 十級當分六〇 高橋 フキ  
 十級當分五五 阿部 キミ  
 十一級當分二〇 阿部 キミ  
 教師囑託 佐藤 廣吉  
 年二〇 山口 恭次郎  
 年一五 鈴木 ミキコ  
 年一五 遠藤 ヒサ  
 ○岩手縣立盛岡農學校 (岩手郡本宮村)  
 校長 公立實業學校校長兼教諭 三等待遇  
 從五 工藤 祐直  
 七級 當分一、六一七 公立實業學校教諭 五等待遇  
 正六 動六 佐藤 源八  
 七級 當分一、五七二 公立實業學校教諭 五等待遇  
 從六 小川 和三郎  
 八級 公立實業學校教諭 七等待遇  
 從七 刈屋 吉郎  
 八級 當分一、三七五 公立實業學校教諭 七等待遇  
 從七 野邊地 三郎  
 三級當分一、一七 菅原甲子太郎  
 四級當分二〇兼舍監(加俸月三) 正八 小田 久耕  
 四級當分一〇八 步兵少尉 喜三  
 正八 動六 細田 勝次郎  
 五級當分二〇兼舍監(加俸月五) 陸軍三等獸醫 正八 山田 三郎  
 五級當分二〇兼舍監(加俸月五) 秋山 光幾  
 五級當分九七 盛 清彦  
 六級當分九五 河野 信夫  
 六級 桐野 薫  
 六級當分九三 陸軍一等獸醫 正六 動五 志鎌 清七  
 六級當分九〇 本郷 清  
 助教諭心得  
 校長 公立高等女學校校長兼教諭 五等待遇  
 從六 茂田井 順平  
 九級 公立實業學校教諭兼舍監 六等待遇  
 正七 堀 籠文之進  
 五級當分九八 鈴木 久男  
 五級當分九六 木下 幸  
 六級當分九三 田中 信二  
 七級當分八〇兼舍監(加俸月五) 正八 邊見 芳夫  
 八級當分八〇兼舍監(加俸月五) 步兵少尉 正八 阿部 繁  
 教師囑託 照井 一郎  
 月一〇 照井 謙次郎  
 月五 照井 謙次郎  
 實習教師 月四五 千田 哲郎  
 四九



教育關係

月四五 藤井清治
月一〇 引地晋
書記 勳七藤井清治
十級 石川正夫
十二級 小幡隆
學校醫年手當三 陸軍輜重兵大尉
副屬將校 從六勳五平木秀次郎

○岩手縣立水産學校

(下閉伊郡宮古町)

校長 公立實業學校長兼教諭

六級 當分一、七六〇 公立實業

學校教諭 從五勳五龜井願一

三等待遇 從六富永盛治郎

六級 當分一、七六〇 公立實業

學校教諭 從六富永盛治郎

六級 當分一、五一〇 公立實業

學校教諭兼舍監(加俸年六〇)

六級 當分一、五一〇 公立實業

學校教諭兼舍監(加俸年六〇)

六級 當分九、〇兼舍監(加俸月五)

六級 當分九、〇兼舍監(加俸月五)

六級 當分九、〇兼舍監(加俸月五)

六級 當分九、〇兼舍監(加俸月五)

(私立中等學校)

○岩手中學校

校長事務取扱三田俊次郎 教諭

木勝二郎 同山口新 同大枝常

志 同白井文光 同五十嵐正躬

同吉田馬太郎 同秋山一 同谷

口定吉 同小田忠治 同吉田勳

教心志賀義雄 同山岸康麿 同

佐藤六藏 同佐藤秀治 同島軒

十次郎 教諭兼平保太郎 同龍

澤良吉 同武田忠一郎 主事只

野信護 書記島軒十次郎 同佐

羽内勇 副屬將校鷲尾正雄 校

醫工藤祐三

塾校長小保内弘四 囑託河野喜

藏 教師熊谷清 同荒川榮正

同永井芳正 同八木澤政夫 同

田鑽省藏 同高田七治 教師兼

書野中彌右衛門 教師岩泉安民

校醫阿部勇七 塾主校主菊地道

夫 副屬將校鴨澤恒二郎

○東北高等女學校

校長サン・ジョアニス 教務主

任浦田米治 教員毛藤勇 同佐

々木武次郎 同柳原信 同小野

寺キヨ 同外川豊 同加藤貞

教育關係

岩橋量一

長谷川勝藏

吉坂象二郎

小野貢

石垣節

步兵中尉

從七 中居善助

教師囑託

佐藤興一

小野貢

金澤重兵衛

古館留藏

川原田義男

練習船船員

宮古丸船長 月五 增田信太郎

宮古丸機關長 月五 豐崎新藏

宮古丸機關士 月五 野澤榮太郎

初音丸船長 月五 佐々木清六

初音丸機關士 月五 小田代理助

書記 中居善助

八級當分五三 石井勉

無給 松野松治

學校醫年手當三 陸軍歩兵大尉

副屬將校 向山達郎

○岩手縣立盲啞學校

(盛岡市平山小路)

校長 公立盲啞學校教諭兼公

立盲學校教諭兼舍監(加俸年

六〇)八等待遇 正八菊池林司

十三級 當分九〇〇 公立盲學

校教諭兼公立盲學校長 公立

雙啞學校長 四等待遇 步兵大尉

正六勳六(旭)功五柴内 魁三

教諭 正八菊池林司

十三級 公立雙啞學校教諭兼公

立盲學校教諭兼舍監(加俸年

六〇)八等待遇 正八菊池林司

十級當分五八兼訓導舍監(加俸

月五) 小川龜太郎

十級當分五五兼訓導 中山キツ

十級 同 長谷川榮三郎

十級兼訓導 高橋龍膽

十一級兼訓導 石田倉吉

十一級當分三〇兼訓導 飯島市郎

訓導 飯島市郎

十一級兼舍監(月五) 玉置のぶ

十一級 山本忠壯

十一級當分四七兼舍監(月五) 西館ウメ

助教心得 月四五 小川隆章

教師囑託 山本ハツコ

五二

書記

工藤七郎

八級當分五三兼教諭訓導(月手

當一五)勳七菅原榮議

學校醫年手當三 佐藤三千三郎

○岩手縣立圖書館

(盛岡市内丸)

館長事務取扱

司書 及川喜一

司書四級△九七 及川喜一

書記 月五八 小野次郎

雇 佐藤龍雄

月三二 及川智

月二五 小川一二

月一九 小川一二

○休職官吏及學校職員

岩手縣書記官 栗田五百枝

地方事務官 高山直通

岩手縣師範學校教諭 中川壽生

岩手縣立遠野中學校教諭 牧基

岩手縣立盛岡中學校教諭 佐藤眞一

岩手縣立水澤農學校教諭 名須川育

岩手縣立盛岡農學校教諭 海老澤三郎

樋口豊 同阿部清子 同穀田ツ

キノ 校醫小幡隆 幹事千葉政

重 榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

榎口豊 同阿部清子 同穀田ツ

五三

書記

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

同阿部清子

教育關係

○大原裁縫學校

校長富永しげよ 教師富永はつせ 囑託教師小山新九郎 同佐藤繁治 同佐藤たけ

○松川實習女學校

校長高橋ひさる 專任教師茂榮信子 學科擔任高橋喜與之助 農業擔任小野寺義雄

○岩手産婆看護婦學校

校長三田俊次郎 講師小暮健一郎 同多田清 同藤井敬三 同橋本敏雄 同福田鐵雄 同佐々木兵治 同小田原養喜 同三田テル 同今野ヤヘメ 同菊池マサ

○盛岡産婆看護婦學校

校長川村清一 講師小林茂雄 同一戸謙次 同矢幅梓 同中村幸一郎 同杉立義郎 同石井峰吉

○花巻産婆看護婦學校

校長佐藤隆房 教員草刈兵衛 同深町朗安 同氏家憲介 同飯田研三 同岡部正三 同岩間清同内山八十榮

(縣立感化院)

○杜陵學園

園長事務取扱西村義雄 教諭櫻田智辨 書記名久井駿三 園醫秋葉隆

(公立幼稚園)

○女子附屬幼稚園(前出)

○町立岩谷堂幼稚園 保姆宮里菊子 同本間とみ 同猪狩トヨ子

(私立幼稚園)

○仁王幼稚園

○盛岡幼稚園

○むつみ幼稚園

○泉幼稚園

○花巻幼稚園

○三田憲 保姆澤田ユウ

○黒澤尻幼稚園

○黒澤尻幼稚園

○黒澤尻幼稚園

齋藤アヤ

○高田幼稚園

園長兼保姆村上アヤ 代保秋山トシ 同吉田元

○遠野聖光幼稚園

園長アンネー・エヌブゼル 保姆三宅ハル 同青柳キミ

○釜石幼稚園

園長川村賢吉 保姆金澤テル 同佐藤照 代保佐々木マツ

○福岡幼稚園

園長黒澤覺堂 保姆吉田うめ 代保關とみ

小學校

(盛岡市)

○盛岡高等小學校 訓長波多野新助 訓北田越夫 同伊藤孝一郎 同高橋柳 同村井道三 專訓白澤儀右衛門 訓鈴木軍太 專訓立花ツネ 訓須貝クシ 同嘉村常三郎 同石澤春治 同福盛田實 同千葉茂 同千田フヂエ 同朝倉一二三 同本堂喜志 專訓川原田功 訓村松ミサ 同坂下喜之助 同晴山長悦 同樋口芳子 專訓伊藤竹松 訓黒沼幾代 學校醫季村一朗 學校看護婦田中サメ

○仁王尋常高等小學校

○山岸尋常小學校

訓長鳥取萬次郎 訓藤澤秀 同佐藤賢三郎 同千葉萬之助 同三田コヨ 同宮ミツホ 同中村哲夫 同川上ヨシ 同佐藤年徳 同川村象司 同内藤強造 同八木百 同若松榮子 同上田ゆき 子 校醫一戸謙次 看護婦柳原カツ

○大慈寺尋常小學校

訓長島田彬一郎 訓小山鶴治 同千葉忠一 同吉田章治 同佐藤徳藏 同福田末藏 同田沼友次郎 同野々村健 同及川トモ 同近藤クニ 同内藤スミ 同堀合秀 同佐藤ハツ 同赤坂成 學校醫中村幸一郎 學校看護婦菊池キクノ

○米内尋常高等小學校

訓長藤澤金治 訓川上雷太郎 同川原田正 同太田マサ子 庄ヶ畑分教場 訓佐藤佐市郎 訓佐藤マツ

(岩手郡)

○沼宮内尋常高等小學校

訓長太田清臣 訓久保六郎 同佐藤惠孝 同澤澤豊比古 同奥健夫 同青柳敬藏 同高橋芳枝

○山岸尋常小學校

訓長波多野新助 訓北田越夫 同伊藤孝一郎 同高橋柳 同村井道三 專訓白澤儀右衛門 訓鈴木軍太 專訓立花ツネ 訓須貝クシ 同嘉村常三郎 同石澤春治 同福盛田實 同千葉茂 同千田フヂエ 同朝倉一二三 同本堂喜志 專訓川原田功 訓村松ミサ 同坂下喜之助 同晴山長悦 同樋口芳子 專訓伊藤竹松 訓黒沼幾代 學校醫季村一朗 學校看護婦田中サメ

○仁王尋常高等小學校

○山岸尋常小學校

訓長鳥取萬次郎 訓藤澤秀 同佐藤賢三郎 同千葉萬之助 同三田コヨ 同宮ミツホ 同中村哲夫 同川上ヨシ 同佐藤年徳 同川村象司 同内藤強造 同八木百 同若松榮子 同上田ゆき 子 校醫一戸謙次 看護婦柳原カツ

○大慈寺尋常小學校

訓長島田彬一郎 訓小山鶴治 同千葉忠一 同吉田章治 同佐藤徳藏 同福田末藏 同田沼友次郎 同野々村健 同及川トモ 同近藤クニ 同内藤スミ 同堀合秀 同佐藤ハツ 同赤坂成 學校醫中村幸一郎 學校看護婦菊池キクノ

○米内尋常高等小學校

訓長藤澤金治 訓川上雷太郎 同川原田正 同太田マサ子 庄ヶ畑分教場 訓佐藤佐市郎 訓佐藤マツ

(岩手郡)

○沼宮内尋常高等小學校

訓長太田清臣 訓久保六郎 同佐藤惠孝 同澤澤豊比古 同奥健夫 同青柳敬藏 同高橋芳枝

五四

訓長附小主事及川俊次郎 訓佐藤匡 同高橋新平 同湖田斌 同久慈孫右衛門 同佐藤良一 同佐藤哲郎 同三船秀雄 同高橋修 同多田啓三 同佐々木勝之助 同千葉寛 同佐々木衷 同加藤廉平 同新田孝吉 同岩持祐三 同高橋一見 同及川慶郎 同熊谷坊 同三田地敏夫 同須藤清七 同多田勉 同菊池又男 同竹田伊三郎 同菅原キク 同鎌田ツヤ 同山内キユメ 同菊池キヨノ 同鈴木ハツ 同菊池岩子 同村川セキ 同白鳥ツヨ 同赤坂ツユ 同一方井ヒサ 學校醫佐藤三千三郎 學校看護婦角田ミヨ

○城南尋常小學校

訓長三田地勘治郎 訓千葉藤一郎 同千葉常助 同伊藤卓二 同中村權九郎 同佐賀眞平 同川村信一 同福田裕 同藤田テウ 同佐々木衣江 同外川次郎 同内村寅治 同館下チヨ 同及川利二 同早坂健 同雷久保巖 同中野ミツ 同小野寺耕作 同多田善子 同田中信 同齋藤セ

同鈴木ツタ 同八重良一 同齋藤修吾 同村田ヨネ 同森本きよ 同滝沼ミヤ 專訓三谷金雄 尋准千葉ワカ 學校醫猪狩見龍 學校看護婦小山文子

○沼宮内家政專修學校

長兼助教太田清臣 教小川カネ 助教佐藤惠孝 同高橋芳枝 助教心三谷金雄

○玉山尋常高等小學校

訓長本明從雄 訓佐藤安信 專訓島山隆太郎 訓枋内鑽吉 同谷藤ツヤ 尋訓松橋リツ

玉山分教場

訓荒濱榮悦 尋訓門脇武夫 代上野いし

川又分教場

尋准奥寺定義 代富岡マツノ

黒石野分教場

代村上辰三郎 專訓畑中トミ

○玉山農業補習學校

助教兼長本明從雄 助教枋内鑽吉 同谷藤ツヤ 同松橋リツ

玉山分教場

助教心門脇武夫 教嶋上野いし

○外山尋常小學校

訓長五日市英夫 准訓五日市リ

五五

教育關係

同淵本正 同清水カツメ

同安達敏子 同重石千佐 同菅木ユミ 同深倉佐喜代 同下斗米トク 代佐川キヨミ 學校醫西城久一郎 學校齒科醫佐藤作二郎 學校看護婦齋藤テル

○櫻城尋常小學校

訓長菅原隆太郎 訓但木秀夫 同加藤正男 同齋藤富夫 同枋山アイ 同深倉佐次郎 同及川元 專訓久田榮子 訓高橋かき

同千葉清 同馬場健次 同細越繁吉 同小林那彌 同藤井ナヨ 同瀧澤キン 同米倉進 同小野寺幸助 同高橋清松 同黒須ミヨ 同小倉季吉 同小原新三郎 同細川廣治 同松尾義雄 同鈴木イヨ 同岩持文江 同岩館チエ 同神マサ 同佐藤トミ 學校醫又重完吾 學校看護婦岩淵キヨシ

○厨川尋常高等小學校

訓長佐藤憲政 訓下田瑞穂 同高橋平吉 同佐々木正 同大村由太郎 同朝倉孫一 同小野寺哲郎 同宮三郎 同細川フサ 同村井ウメ 同佐藤とし 同高橋時次郎 同菅茂安 同神カツ

同遠藤スミ 同植木季彦 同長岡高人 同千葉良治 專訓佐藤徳榮 訓佐羽内妙 同早坂静恵 同山崎婉子 同船山米 同石川静子 同芳賀壽子 校醫田鑽右門 學校看護婦中村みき

○仙北尋常小學校

訓長金田一麿 訓千田辰治 同近藤潔 同鈴木静 同瀨川幸一 同吉田徳造 同上田友彌 同海沼官治 同福元タキ 同中澤マキ 同大矢トミ 同新田ミツノ 同太田ハツ 同吉田イト 學校醫菊池正三 學校看護婦多田イト

○杜陵尋常小學校

訓長盛合武夫 訓森喜久治 同遠藤種八 同藤原伊太郎 同千葉昌雄 同杉澤軒三 同小川口長 同中村孝一 同鈴木猛 同菊池鎌吉 同佐川勝美 同菊池新二 同佐々木信雄 同高野マス 同小田島タミ 同小笠原フス 同佐羽内キミ 同小野寺俊子 同川村いと 同奈良イト 學校醫中村幸一郎 看護婦高橋悦

同遠藤スミ 同植木季彦 同長岡高人 同千葉良治 專訓佐藤徳榮 訓佐羽内妙 同早坂静恵 同山崎婉子 同船山米 同石川静子 同芳賀壽子 校醫田鑽右門 學校看護婦中村みき



教育關係

ネ 代桐野尚奇 同阿部スガ  
 學校醫加藤平助  
 ○淺岸尋常小學校  
 訓長藤田孝一郎 代上村シゲ  
 ○川日尋常小學校  
 訓長村井秀麿 訓菅原正吾 訓  
 工藤四男 尋訓澤藤ユキ  
 築川分教場  
 尋訓太田正 代小山マキ  
 根田茂分教場  
 准千葉磨 代千葉千歳  
 砂子澤分教場  
 准對馬孝太郎 代對馬タマ  
 ○中野尋常高等小學校  
 訓長矢幅矢末人 訓立花勇太郎  
 同赤阪勇雄 同藤島伊八 同鳥  
 取俊夫 同平賀雄一 同福井言  
 子 同長岡ヒサ 同上館良子  
 同藤村アイ 同北館リチ  
 ○本宮尋常高等小學校  
 訓長工藤愛吉 訓上野雄一郎  
 同佐川トヨ 同鎌田定次郎 同  
 鹿野みよ 同植木薫 專訓德田  
 安藏 訓伊藤キミ 同重茂ミヨ  
 尋訓及川哲郎 訓藤原吉郎  
 ○太田尋常高等小學校  
 訓長龜山慈賢 訓瀬川誠 同千  
 葉忠雄 同熊谷アサ 同越場重  
 五郎 同武田留太郎 尋訓田上  
 三次郎 專訓須田德樹 訓立花  
 壽美 同平賀リキ 同高橋アエ  
 專訓佐藤虎太 代古川佐次郎  
 中太田分教場  
 尋訓中島文次郎 訓藤原詔子  
 尋訓高橋徳夫  
 ○安庭尋常高等小學校  
 訓長高橋作助 訓桐野聞二 同  
 津志田精次郎 同阿部多次郎  
 同飯岡ハナ 同安本アヘ  
 ○安庭農業補習學校  
 長兼教高橋作助 助教桐野聞二  
 同津志田精次郎 同阿部多次郎  
 助教心安本アヘ  
 ○南畑尋常高等小學校  
 訓長竹花庄藏 訓中村正男 代  
 細川甚右衛門 同石田フミ子  
 切留分教場  
 代木村萬  
 ○南畑農業補習學校  
 助教長竹花庄藏 助教中村正男  
 助教心細川甚右衛門 同石田フ  
 ミ子  
 ○擊尋常小學校  
 訓長高橋茂夫 訓天瀬政義 同  
 桐野テイ  
 ○大村尋常小學校  
 訓長佐藤勇八 代東根テル  
 ○上野尋常高等小學校  
 訓長和久井敬二郎 訓伊藤祐一  
 專訓古川正見 訓杉澤チヨ  
 尋訓安本廣靜 訓増尾三平 同  
 佐藤今朝夫 同瀬川ノシ 同小  
 森宗白 同高橋あい 校醫田口  
 博  
 橋場分教場  
 訓高橋吉三郎 代高橋ミキ  
 ○御明神農業補習學校  
 教長和久井敬二郎 助教伊藤祐  
 一郎 同増尾三平 同佐藤今朝  
 夫 同小森宗昌 助教心安本廣  
 靜 同高橋吉三郎  
 ○上長山尋常小學校  
 訓長藤原純藏 訓上野テル 同  
 小山田英一  
 ○上長山農業補習學校  
 助教心藤原純藏 同上野テル  
 助教小山田英一  
 ○下長山尋常高等小學校  
 訓長吉田良作 訓吉田サンコ  
 同熊谷禪 同菊池彰英  
 ○西根尋常小學校  
 訓長穴戸義雄 訓佐々木善躬  
 尋訓熊谷正 同細越俊三 訓穴  
 戸マツエ  
 ○西根農業補習學校  
 校長穴戸義雄 助教佐々木善躬  
 同穴戸マツエ  
 ○聖石尋常高等小學校  
 訓長藤枝忠雄 訓佐藤次雄 同  
 津田金助 同目時イサホ 同齋  
 藤潔見 同高橋成功 訓小野寺  
 友子 尋訓藤澤サノ  
 ○篠木尋常高等小學校  
 訓長高橋源吉 訓伊藤榮枝 同  
 河野正 同福田武雄 同主演ヒ  
 サ 同和久井敬三 同桐原浩太  
 郎 同中村ウタ 尋訓内山トヨ  
 同武田チヨ 校醫加藤平助  
 ○篠木農業補習學校  
 教長高橋源吉 教熊谷信二郎  
 助教河野正 同福田武雄 同和  
 久井敬三 助教心内山トヨ  
 ○鶴飼尋常小學校  
 訓長主演直治 訓武田源四郎  
 准訓齋藤スゲ  
 姥屋敷分教場  
 代太田國夫  
 ○瀧澤尋常小學校

五六

訓長菅原清 訓菅原たつ 同大  
 村次信  
 一本木分教場  
 訓高橋淑郎 同武田ウメヨ  
 川前分教場  
 代朴澤郁夫 同朴澤キヨ  
 柳澤分教場  
 代山内哲男 同山内エミ  
 ○土淵尋常高等小學校  
 訓長帷子甚四郎 訓若木省三  
 同小林平藏 同福田直 同吉岡  
 義夫 同五島ツカ 同川村利子  
 專訓駒場定 訓菅原千代  
 四十四田分教場  
 同大窪貞子 校醫田鎖右門  
 ○土淵農業補習學校  
 助教長帷子甚四郎 助教若木省  
 三 同小林平藏 同福田直 同  
 吉岡義夫 囑託田中鉄一郎 助  
 教五島ツカ 同川村利子 同駒  
 場定  
 ○川日尋常高等小學校  
 訓長菅原大吉 訓下河原只行  
 同岸源太郎 專訓千田正夫 訓  
 高橋清四郎 同工藤ヨシ 同高  
 橋靜枝 同田上ミヨ 代阿部タ  
 ツノ  
 北山形分教場  
 訓千葉泰午 尋准辛喜代治 小  
 准田村房  
 南山形分教場  
 尋訓駒嶺重義 小准潮田富世子  
 穀藏分教場  
 尋准奥村雲隆 代奥村フミ  
 ○川日農業補習學校  
 助教兼長菅原大吉 助教下河原  
 只行 同岸源太郎 同千田正夫  
 同工藤ヨシ 同阿部タツノ  
 同北山形分教場  
 助教心辛喜代治 同田村房  
 同南山形分教場  
 助教心駒嶺重義 同潮田富世子  
 同穀藏分教場  
 助教心奥村雲隆  
 ○卷堀尋常高等小學校  
 訓長井上嘉之助 訓高橋兵庫  
 尋訓久慈良夫 訓飯岡ミエ 同  
 佐藤光己 同佐々木健吉 同高  
 橋藤作 同上野孝二郎 同小林  
 初枝 同倉澤静子 尋訓菅原舜  
 平 代下山テル 校醫八角胖  
 尋准小綿金次郎 代小綿ナヲ  
 ○卷堀農業補習學校  
 助教長井上嘉之助 助教高橋兵  
 庫 同久慈良夫 同佐藤光己  
 同佐々木健吉 同飯岡ミエ 校  
 醫八角胖  
 ○澁民尋常高等小學校  
 訓長高橋彌右衛門 訓佐藤常愛  
 同加藤可久 同沼田静夫 同那  
 須富之 同梅木爾 同下田シゲ  
 エ 同菊池デン 同高橋重平  
 同瀬川ユウ 同水原チヨ 代瀬  
 川秀夫 訓内田長右衛門  
 松内分教場  
 尋正西川孝一 同照井キヌ  
 生出分教場  
 訓立花利章  
 ○澁民農業補習學校  
 助教長高橋彌右衛門 助教藤常  
 愛 同加藤可久 同沼田静夫  
 同那須富之 同梅木爾 同高橋  
 重平 同下田シゲエ 同瀬川ユ  
 ウ 助教心西川孝一 同照井キ  
 ヌ 同瀬川秀夫  
 ○大更尋常高等小學校  
 訓長田中富藏 尋訓三藤三男  
 同及川豊 同佐藤秀郎 同宮五  
 郎 同工藤ヨシノ 同上田愛子  
 同村井リキ  
 ○大更農業補習學校  
 助教兼長田中富藏 助教工藤三  
 男 同及川豊 同佐藤秀郎 助  
 教心工藤ヨシノ 助教上田愛子  
 同村井リキ  
 ○山子澤尋常小學校  
 訓長佐々木不二郎 訓工藤直輝  
 同田村興藏 同田中トシ 准訓  
 石川策次 代高橋タエ  
 ○田頭尋常高等小學校  
 訓長武田宗三郎 訓吉田谷五郎  
 同袖子田義衛 同谷藤トキ 同  
 藤原ケフ 同木村カヨ 尋准浦  
 田清  
 ○田頭農業補習學校  
 長兼助教武田宗三郎 助教袖子  
 田義衛 同谷藤トキ 同藤原ケ  
 フ 同木村カヨ 同三田村富治  
 ○平笠尋常小學校  
 訓長村山七郎 訓藤田功 尋訓  
 村山フミ  
 ○平笠農業補習學校  
 助教兼長村山七郎 助教藤田功  
 助教心村山フミ  
 ○寄木尋常小學校  
 訓長田鎖仙 訓立花秀一郎 同  
 戸塚トシ子 同松尾誠三 同北

教育關係

五七

教育關係

村テイ

烟分教場

准訓小原勝郎 代三田村スノ

○寄木農業補習學校

長兼助教田鑽仙 助教松尾誠三

同立花秀一郎 同戸塚トシ子

助教心三田村スノ 教鳴青木源

祐

○平館尋常高等小學校

訓長多田倉次郎 訓田沼善三郎

訓大久保誠 訓工藤定四郎 同

松浦操子 尋訓高橋悅良 訓龜

井イネ 同大林トミ 代刈屋恭

三

○平館女子實業補習學校

助長多田倉次郎 同松浦操子

同龜井イネ 同大林トミ

○寺田尋常高等小學校

訓長田村光之 訓佐藤正美 同

高橋三藏 同遠藤與治右門 同

小原ハナ 烟山兼郎 小野寺愛

子

荒木田分校

訓田村惣次郎 同伊藤テツ

○一方井尋常高等小學校

訓長北村巖 訓今淵忠郎 同西

田マサ 同中村義一 同曲谷地

武 同今松吉左衛門 同日野杉

忠藏 同川原與志多呂 同佐藤

トミ 尋准沼沼義忠 校醫猪狩

見龍

○久保尋常小學校

訓長三ヶ尻民次郎 訓菅原春雄

同千田徳四郎 同鈴木ミサヲ

○久保農業補習學校

助長三ヶ尻民次郎 同鈴木ミサ

ヲ 囑託佐々木彌右衛門

○五日市尋常高等小學校

訓長野田綾吉 訓工藤壽夫 同

及川保子 同菊池シゲ 專正關

良助 同田中ヤス 代高橋武男

岩瀬張分教場

訓佐藤金作 校醫猪狩見龍

○水堀尋常小學校

訓長伊藤岩太郎 訓伊藤フツ

同田頭勇作 同工藤絹子 同川

村七郎 同佐藤トミ

○松野尋常高等小學校

訓長山隆松雄 訓工藤勝雄 同

佐々木キミ 同山下清左衛門 訓

同松島ノブ 專訓今野澄人 訓

平賀キヨ 尋訓松尾ツタ

○松野農業補習學校

助教長山隆松雄 助教工藤勝雄

同佐々木キミ 同松島ノブ 同

今野澄人

○私立小岩井尋常

高等小學校

校長戸田務 訓宮悌次 尋訓荒

屋勇吉 訓宮サノ

○私立松尾嶺山尋常

高等小學校

校長佐藤要一郎 訓池野英智

同鎌田耕一 同高橋盛 同女鹿

卓 同村上俊 同小川千代 代

古川不二

(紫波郡)

○日詰尋常高等小學校

訓長遠藤祿郎 訓北條久人 同

下田勝三 同遠谷義雄 尋訓原

慶吉 代吉田實 訓富山マツヨ

同佐々木チヨ 同北村俊 代菊

池賢次 專訓佐々木孝一 校醫

木村政太郎

○日詰實業專修學校

教長遠藤祿郎 助教佐々木孝一

教福井三政子 助教北條久人

同下田勝三 助教心原慶吉 助

教富山マツヨ 同佐々木チヨ

助教心工藤小夜子

○古館尋常高等小學校

同菅川賢藏 同高橋ヒサノ 同

中野ユキ

○上平澤尋常高等小學校

訓長北條詔美 訓生内多藏 同

佐久山ムツ 同工藤正一 同高

瀨金之助 同阿部眞吾 同小林

貞治 同中野ソノ 同生内キノ

尋訓谷地政五郎 同淺利佐善

代浦田長十郎

○上平澤農業補習學校

教長北條詔美 教生内多藏 助

教佐久山ムツ 同工藤正一 同

高瀨金之助 同中野ソノ 教師

囑託淺利佐善 同浦田長十郎

○片寄尋常高等小學校

訓長彌勒地喜章 訓藤尾太郎

同北條ウメ 同金祝 同藤澤正

三 同遠藤益三 同作山福太郎

尋訓北村泰孚 專訓梅原イヌ

尋訓土川リツ 代田口興三 校

醫小原有造

○片寄農業補習學校

助教長彌勒地喜章 助教藤尾太

郎 同金祝 同藤澤正三 同遠

藤益三 同北條ウメ 同梅原イ

ス

○赤石尋常高等小學校

訓長藤尾壽治 訓藤原頼吉 同

烟山一男 同加藤チヨ 同川村

ヤエノ 同菊池喜一 裁專訓高

田ツネ 農專訓橋本博雄

○徳田尋常高等小學校

訓長菊池和生 訓千葉武志 同

多田謙二狼 同田畑耕一 同柴

田文一 同藤澤康太郎 尋訓高橋

捷夫 訓高濱イシ 同金田一忠

男 尋訓福田孝次郎 訓堀内ウ

メ 同佐藤愛子 准訓高橋キヨ

問野々分教場

訓高橋岩太郎 同藤田リツ 尋

訓念澤孝三

○徳田公民學校

教諭後藤眞 同木村ヒツ

○見前尋常高等小學校

訓長吉田政吉 訓佐々木甚一郎

同藤澤ヨシ 同長澤清之助 同

中野正興 同田卷一壽 同及川

貢 同水本貞仁 同西川あい子

同小川タイ 尋訓玉置喜美 代

宮川定衛

津志田分教場

訓猪苗代四郎 同小松代晴子

校醫吉田甚幸

○見前農業補習學校

訓長阿部徳右衛門 訓長谷川兵

治郎 同鈴木茂一 尋訓小川友

三 訓堀間榮 同葛西道之 同

箱崎アサノ 同吉田ハナヨ 同

北條ミサ 尋訓鈴木イト 同熊

谷マサエ 代中川好清

平澤分教場

尋訓金子吉三 訓下田トク 學

校醫木村不二男

○彦部尋常高等小學校

訓長旗福六太郎 訓橋本作内

同千葉イッ 尋訓佐藤市右衛門

訓菱川充夫 同阿部源十郎 同

赤坂シノ 尋准戸塚千鶴

○彦部農業補習學校

教長旗福六太郎 教佐藤市右衛

門 助教橋本作内 同千葉イッ

○星山尋常小學校

訓長岩動致夫 訓高橋吉正 尋

訓藤原アイ 校醫内城隆徳

○星山農業補習學校

助教長岩動致夫 助教高橋吉正

鳴小松高 鳴八重島光子

○佐比内尋常高等小學校

訓長石杜辰郎 訓阿部源吉 尋

訓堀切一三 專訓小原益雄 訓

工藤キイ 同伊藤ツマ 代蒲原

教育關係

長兼助教吉田政吉 助教佐々木

甚一郎 同長澤清之助 同藤澤

ヨシ

○飯岡尋常高等小學校

訓長佐藤泰次郎 訓鷹齋榮光

同佐藤謙三 同堀間昇光 同山

田壽郎 同江柄ハル 同大村ア

イ 同佐々木ツツ 同山屋ハナ

羽場分教場

尋訓淺沼甚太郎 訓村山キヨ

○飯岡農業補習學校

校長佐藤泰次郎 助教鷹齋榮光

同佐藤謙三 同堀間昇光 同江

柄ハル

○永井尋常小學校

訓長田村佐次郎 訓高村ハナ

同煙山ハ四男

○永井農業補習學校

長兼助教田村佐次郎 助教高村

ハナ

○煙山尋常高等小學校

訓長廣田勘次郎 訓佐々木繁郎

同工藤雨八 同遊坐テル 同伊

藤幸男 同橋ハヤ 同千葉喜一

郎 同八重島實 同菅原文左衛

門 同菊池音次郎 同松山チカ

同西野チエ 尋訓長沼正志 同

菅原進 准訓上田節 專訓西丸

隆雄

○煙山農業補習學校

教長廣田勘次郎 訓佐々木繁郎

同遊坐テル 同橋ハヤ 同菊池

音次郎 同松山チカ

○不動尋常高等小學校

訓長實木長次郎 訓野澤孫次郎

同千田耕次 同谷村康三 專訓

廣田フミ 訓千葉胤二郎 同松

田ミヨ 同遊座幾久子 尋訓村

井辰夫 專訓國分誠一 尋訓猪

去トミ 同北田善眞 同鷹木貫

一 同川村勳

○不動農業補習學校

助教長實木長次郎 助教野澤孫

次郎 同千田耕次 同國分誠一

同廣田フミ 同遊座幾久子

○水分尋常高等小學校

訓長藤井一三 訓生内小平 同

菅川賢藏 同大堂他人 同高橋

ヒサノ 尋訓菅原與一郎 訓中

野ユキ 同松本フミ 同佐々木

ツタ 尋訓高橋市五郎 校醫坂

本正喜

○水分農業補習學校

教長藤井一三 助教生内小平

教育關係

ウメノ

○佐比内農業補習學校  
教長石杜辰郎 助教阿部源吉  
同堀切一三 同小原益雄 同工  
藤キイ 同伊藤ツマ

○赤澤尋常高等小學校  
訓長佐竹仁太郎 訓城戸八兵衛  
同本間直藏 同島山孝三 同高  
田イネ 同大平クニ 專訓藤原  
藏右衛門

山屋分教場  
尋訓北田重次郎 教松木トラ  
遠山分教場  
尋訓福山知三郎 尋准遠山キノ

○赤澤農業補習學校  
校長佐竹仁太郎 助教島山孝三  
同北田重次郎 同松木トラ 同  
遠山キノ

○長岡尋常高等小學校  
訓長駒嶺高直 訓松木留藏 同  
市村康子 同中村政太郎 同吉  
田正孝 尋訓藤村福次郎 訓佐  
々木アイ 代佐藤詳吉

○乙部尋常高等小學校  
訓長阿部金右衛門 訓三浦義雄  
同工藤長四郎 同城戸アイ 同

佐藤トシ 代水野孝靜

○乙部實業公民學校  
助教兼長阿部金右衛門 教諭水  
野孝靜 助教小野省三 同葛岡  
芳郎 同三浦義雄 同工藤長四  
郎 同村田ナカ 同藤原トク

○大萱生尋常高等小學校  
訓長葛岡芳郎 訓高橋彌住 尋  
訓藤原典徳治 同城戸ミヨ 同  
佐々木キミ

○手代森尋常高等小學校  
訓長小野省三 訓佐藤正夫 同  
村田ナカ 同千葉徳彌 同室岡  
正孝 同藤原トク 代法領田光  
男

(稗貫郡)  
○花城尋常高等小學校  
訓長三田憲 訓菊池喜兵衛 同  
菊池サノ 同及川龜治 同川村  
愛志一 尋訓池池恭治 訓青木  
和三郎 同生内義忠 同小原キ  
× 同小原實義 同小原勇福  
同高橋範房 同村上重夫 同照

○外川日尋常高等小學校  
訓長鎌田佐代治 專訓細川忠八  
尋訓佐々木清吾 訓藤川トヨ  
澤崎分教場  
尋訓小田島源藏 代小田島ヨシ  
次ノ又分教場  
准訓佐々木平後 代佐々木キホ

○龜ヶ森尋常高等小學校  
訓長伊藤靜男 訓佐々木松之助  
同柳原昌悅 專訓川村勝郎 訓  
市田トミ 專訓穗積カツ 代阿  
部ミツ

○龜ヶ森農業補習學校  
助教兼長伊藤靜男 助教佐々木  
松之助 同柳原昌悅 同川村勝  
郎 同市田トミ 助教心阿部ミ  
ツ

○新堀尋常高等小學校  
訓長八重樫芳之丞 訓山田銚三  
同古澤忍 同千葉安 同牛崎留  
五郎 同八重樫ハツノ 同内村  
ウメ 專訓佐藤馨 同川村恭一

○新堀農業補習學校  
助教兼長八重樫芳之丞 助教川  
村恭一 同山田銚三 同古澤忍  
同佐藤馨 同千葉安 囑託藤卷  
スギ

井謹二郎 同漆澤キミ 同澤田  
ユウ 同菊池ヨシ 同關均 同  
千葉運孝 同中島榮 同小瀬川  
トシ 同佐藤ウタ 同及川晃  
同佐藤隆吉 同伊藤祐平 同千  
葉哲郎 專訓村田久 訓佐々木  
文造 同佐賀マサ子 同瀬川シ  
マ 同阿部ヒデ 同八重樫美代  
尋訓市野川スミ 准訓關キタ  
代高松正

○花卷尋常高等小學校  
訓長押切恭次 訓菊池武雄 尋  
訓南館浩 訓及川ハナ 同小田  
花 同及川直 同山口弘 同松  
田シゲ 同佐野善右衛門 同大  
内篤 專訓福岡清 訓千田勇治  
同荒屋直儀 同松岡靜子 專訓  
柏葉マツ子

○花卷實業專修學校  
長兼助教押切恭次 教矢羽々サ  
メ 助教菅原カチユ 同坂本ユ  
キ 同菊池武雄 同南館浩 同  
及川直 同山口弘 同佐野善右  
衛門 同大内篤 同及川ハナ

○南城尋常小學校  
訓長伊藤賢吉 訓藤原善夫 同  
片岡マツ 尋訓稻田龍二 訓晴

○八重畑尋常高等小學校  
訓長菊池操 訓晴山喜次郎 同  
大森ツキ 同大原六郎 同千田  
末治 同島山豐吉 同菊池繁雄  
同佐藤直子 同阿部ノブ 同大  
森亮一

山屋分教場  
訓佐藤善治 代佐藤エイ

○八重畑農業補習學校  
助教兼長菊池操 教諭大森亮一  
助教照井貞 同晴山喜次郎 同  
大森ツキ 同佐藤直子 同大原  
六郎 同千田末治

○矢澤尋常高等小學校  
訓長鬼柳茂太郎 訓佐々木直幸  
同佐藤初男 訓向野與太郎 專  
訓大松澤武 訓大野アイ 同大  
石義見 同熊谷テウ 同伊藤清  
子 同吉田政幸 同鎌田トヨ  
同澤田チカ 同高橋和喜 代三  
上アサ 同渡邊英雄 同佐藤誠  
一 訓高橋安造 尋訓中村義美

矢澤分教場  
尋訓菅原大次郎 同佐藤スミ  
鳥分教場  
尋訓阿部重壽 同佐々木善吉  
訓佐藤マキ

○大迫尋常高等小學校  
訓長佐藤誠一 訓衣更着大心  
同島妙子 同大信田タヨ 同石  
杜竹次 同藤澤ノブ 尋訓川村  
倫子 尋准佐々木直人 代佐藤  
和平 專訓大信田祐造 校醫島  
山剛

○大迫實業補習學校  
助教兼長佐藤誠一 教諭大信田  
祐造 助教衣更着大心 同石杜  
竹次 同島妙子 同大信田タヨ  
助教佐々木直人

○石鳥谷尋常高等小學校  
訓長金子昌一 訓千葉周右衛門  
同大森親 同唐木誠次郎 同高  
橋徳亮 同後藤百合 同柴田キ  
× 專訓高橋俊雄 學校醫三田  
四郎

○大瀬川尋常小學校  
訓長藤原演治 訓渡邊憲二 尋  
訓熊谷良雄 同佐野エナ 校醫  
三田四郎

○大瀬川實業補習學校  
長教藤原演治 助教渡邊憲二  
同高橋倉吉 助教心熊谷良雄

六〇

山ヤヲ 代伊藤深 訓小田島通  
郎

○大迫尋常高等小學校  
訓長佐藤誠一 訓衣更着大心  
同島妙子 同大信田タヨ 同石  
杜竹次 同藤澤ノブ 尋訓川村  
倫子 尋准佐々木直人 代佐藤  
和平 專訓大信田祐造 校醫島  
山剛

○大迫實業補習學校  
助教兼長佐藤誠一 教諭大信田  
祐造 助教衣更着大心 同石杜  
竹次 同島妙子 同大信田タヨ  
助教佐々木直人

○石鳥谷尋常高等小學校  
訓長金子昌一 訓千葉周右衛門  
同大森親 同唐木誠次郎 同高  
橋徳亮 同後藤百合 同柴田キ  
× 專訓高橋俊雄 學校醫三田  
四郎

○大瀬川尋常小學校  
訓長藤原演治 訓渡邊憲二 尋  
訓熊谷良雄 同佐野エナ 校醫  
三田四郎

○大瀬川實業補習學校  
長教藤原演治 助教渡邊憲二  
同高橋倉吉 助教心熊谷良雄

○矢澤實業補習學校  
助教兼長鬼柳茂太郎 教諭佐々  
木チヨ 助教佐々木直幸 同向  
野與太郎 同大松澤武 同高橋  
安造

○八幡尋常高等小學校  
訓長玉山倉吉 訓晴山耕一 同  
高橋清一 同金子ツネ 同葛卷  
清美 同鎌田昇 同清水清助  
同高橋利 同佐々木良

○八幡農業補習學校  
教長玉山倉吉 助教晴山耕一  
同高橋清一 同葛卷清美 同鎌  
田昇 同清水清助

○湯本尋常高等小學校  
訓長富手長命治 訓菊池敏 同  
阿部キヌ 同鎌田慶藏 同中村  
昌一 同小原耕作 尋訓小川泰  
雄 訓照井サツ 同松田タキ  
同葛ノフ 同杉村ミサ 專訓高  
橋五一郎 尋訓松田靜江  
桐目分教場  
尋訓及川善之助  
北湯口分教場  
尋訓杉村正孝

○湯本農業補習學校  
校長富手長命治 助教久慈ミツ

○湯本農業補習學校  
校長富手長命治 助教久慈ミツ

○湯本農業補習學校  
校長富手長命治 助教久慈ミツ

六一

教育關係

ウメノ

○八日市尋常小學校  
訓長佐々木乙治 訓佐々木留吉  
同伊藤秀造 同稻田榮 尋訓菊  
池政太郎 專訓熊谷マキエ 校  
醫三田四郎

○八日市農業補習學校  
助教兼長佐々木乙治 助教和賀  
勇

○内川日尋常高等小學校  
訓長晴山吉郎 訓菊池武雄 同  
寺澤助治 同港沼貞三

○折壁分教場  
尋訓阿部拾三郎 同中村豐  
折壁分教場  
尋訓後藤利實  
中乙分教場  
尋准中館要助 同阿部益太郎  
代中村鶴枝

○内川日農業補習學校  
助教長晴山吉郎 助教菊池武雄  
大又分教場  
代升谷モト  
折壁分教場  
代小田島タキ  
中乙分教場  
代中館ハナ 學校醫島山剛

教育關係

同菊池敏 同小川泰雄 同照井  
 ○宮野日尋常高等小學校  
 訓長岩館正一 訓似内藤吉 尋  
 訓稻田精一 專訓葛卷一郎 訓  
 八重樫武雄 同佐々木義勝 同  
 大澤五樓 同岩間わか 同川村  
 秋子 同似内かしく 尋訓佐藤  
 シノ 代諏訪喜道  
 ○湯口尋常高等小學校  
 訓長柳田寛一 訓吉田政吉 同  
 木村善八 同小田島善一 同似  
 内忠 專訓千田兵治 訓菊池京  
 子 同煤孫クニ 專訓千田キヨ  
 ○湯口農業補習學校  
 教千田キヨ 助教木村善八 同  
 小田島善一 同千田兵治 同菊  
 池京子  
 ○前田尋常小學校  
 訓長牛崎猪三 訓小原賢一 專  
 訓下田テ  
 ○上中尋常小學校  
 訓長菅原仁太郎 訓工藤義夫  
 同今野博之 同及川田鶴 專訓  
 藤原次男 訓松川治子 學校醫  
 安藤武  
 ○寶閑尋常小學校  
 訓長小原久藏 訓菊池常五郎  
 同小澤フサ  
 ○長沼農業補習學校  
 助教兼長小原久藏 助教心菊池  
 常五郎 助教小澤フサ  
 ○江釣子尋常高等小學校  
 訓長千葉梅藏 訓高橋勘四郎  
 專訓菅原孝二 訓高橋軍治 同  
 千田成三 尋訓中野目武雄 訓  
 小澤セツ 同八重樫五一 同藤  
 枝忠孝 同齋藤齊 同鳥取亨吉  
 同山田カトリ 同阿部キミ 同  
 川原ヨシ 同伊藤キチ 小准渡  
 邊良男 代石田榮 校醫伊藤繁  
 治 學校看護婦吉田勝子  
 ○江釣子農業專修學校  
 教長千葉梅藏 教菅原孝二 助  
 教高橋勘四郎 同高橋軍治 同  
 千田成三 同小澤セツ 同山田  
 カトリ 教諭石田榮  
 ○滑田尋常小學校  
 訓長宮杜和夫 訓高田エマ 同  
 下瀬川松兵衛 同佐藤源藏 同  
 村田京  
 ○笹間尋常高等小學校  
 訓長小田島忠太郎 訓高橋清左  
 衛門 同大泉テ  
 同古川正  
 笠折周彦 同三浦新太郎 同高  
 橋タマ 同小關ノブ 尋訓佐藤  
 萬治 訓本田キヨ 尋訓菊池春  
 市 同平野勝一 同佐藤正藏  
 同阿部キキ 專訓土田ソノ 代  
 高瀬秀知 學校看護婦大川ミヤ  
 學校醫齋藤丈太郎  
 ○黒澤尻商業專修學校  
 助教長小笠原政一 助教菊池賢  
 鳴小笠原由松 同安藤賢藏 同  
 伊藤實 助教心高瀬秀知 助教  
 齋藤カメ 同菊池榮子 學校醫  
 齋藤丈太郎  
 ○鬼柳尋常高等小學校  
 訓長高橋久吉 訓菊池旋一 同  
 後藤ミヨシ 同畑本定雄 同龜  
 ケ森ヨシ 同小原忠夫 尋訓小  
 澤又兵衛 專訓千田キキ  
 ○鬼柳農業補習學校  
 助教長高橋久吉 助教龜ヶ森ヨ  
 シ 同千田キキ  
 ○岩崎尋常小學校  
 訓長藤原辨二 訓小原善治 同  
 藤原トヨ 同小林良一 同中野  
 フミ 同前田トシ 尋訓高橋徳  
 次郎 代伊藤祐策  
 菅刈場分教場  
 尋訓及川八造 尋准齋藤サカ  
 ○岩崎農業補習學校  
 長兼教藤原辨二 助教小林良一  
 同小原善治 同藤原トヨ 同中  
 野フミ 助教前田トシ 助心高  
 橋徳次郎 同齋藤サカ  
 ○煤孫尋常高等小學校  
 訓長古川萬次郎 訓小原洵 專  
 訓那須川安遠 訓多田曹輔 尋  
 訓小野孝美 小准高田清一 訓  
 佐藤靜江 同大平ひで  
 ○煤孫農業補習學校  
 助教兼長古川萬次郎 助教小原  
 洵 同那須川安遠 同多田曹輔  
 助教心小野孝美 同高田清一  
 助教佐藤靜江 同大平ひで  
 ○山口尋常小學校  
 訓長松森平吉 訓今野勝吉 准  
 訓昆野キミヨ  
 岩澤分教場  
 尋准山館イヨ 專訓小原久夫  
 ○横川日尋常高等小學校  
 訓長福地文教 訓小原芳郎 同  
 千田恭作 同中野ユキ 同中野  
 目トミ 尋准中島和平 訓砂子  
 田ミエ 尋訓武田喜一 助教川

邊利雄 代管カヨ 代松山一男  
 豎川日分教場  
 訓及川等 專訓柳トミ  
 津村田分教場  
 尋訓菊池榮五郎  
 芦谷地分教場  
 訓高橋久藏 同加藤タマ  
 網取分教場  
 訓吉田農 代藤井ソノ  
 ○横川日農業補習學校  
 助教長福地文教 助教小原芳郎  
 同千田恭作 同中野ユキ 同川  
 邊利雄  
 ○藤根尋常高等小學校  
 訓長藤本敬三 訓吉野閑 同千  
 田勇 同神原ヒサ 同大川運平  
 同渡邊初郎 同高橋幸郎 尋訓  
 菅野トクエ 訓及川タケ 代菊  
 池茂民 同藤枝玉代  
 後藤分教場  
 尋訓今野清人  
 ○藤根農業補習學校  
 校長藤本敬三 助教吉野閑 同  
 今野清人 同大川運平 同渡邊  
 初郎 同神原ヒサ 教師嶋託加  
 藤勝夫  
 ○長沼尋常小學校  
 訓長小原久藏 訓菊池常五郎  
 同小澤フサ  
 ○長沼農業補習學校  
 助教兼長小原久藏 助教心菊池  
 常五郎 助教小澤フサ  
 ○江釣子尋常高等小學校  
 訓長千葉梅藏 訓高橋勘四郎  
 專訓菅原孝二 訓高橋軍治 同  
 千田成三 尋訓中野目武雄 訓  
 小澤セツ 同八重樫五一 同藤  
 枝忠孝 同齋藤齊 同鳥取亨吉  
 同山田カトリ 同阿部キミ 同  
 川原ヨシ 同伊藤キチ 小准渡  
 邊良男 代石田榮 校醫伊藤繁  
 治 學校看護婦吉田勝子  
 ○江釣子農業專修學校  
 教長千葉梅藏 教菅原孝二 助  
 教高橋勘四郎 同高橋軍治 同  
 千田成三 同小澤セツ 同山田  
 カトリ 教諭石田榮  
 ○滑田尋常小學校  
 訓長宮杜和夫 訓高田エマ 同  
 下瀬川松兵衛 同佐藤源藏 同  
 村田京  
 ○笹間尋常高等小學校  
 訓長小田島忠太郎 訓高橋清左  
 衛門 同大泉テ  
 同古川正  
 同高橋キヲ 同伊藤隆 同佐藤  
 彌惣治 同小島孝 同中村清江  
 同高橋初右衛門 尋訓齋藤一郎  
 訓下田アキ子 專訓瀧田武男  
 蕪木分教場  
 尋訓花籠末次郎 專訓小原スク  
 横志田分教場  
 訓八重樫卯藏 代山口幸  
 ○飯豊尋常高等小學校  
 訓長伊藤良三郎 訓小原恒松  
 同渡邊ヒサ 同小野寺吉人 同  
 藤本ツタ 同小野寺義雄 尋訓  
 太田代久穂 同小笠原アイ 同  
 千田甚内 專訓菅谷勇  
 ○成田尋常小學校  
 訓長渡邊耕一 訓伊藤誠二 專  
 訓小田島ナヨ  
 ○二子尋常高等小學校  
 訓長阿部久藏 訓澤田末次郎  
 同伊藤トメ 尋訓千田助藏 訓  
 高橋六介 同小田島庄一 同千  
 田サキヨ 同小笠原ナミ 尋訓  
 佐藤七郎右衛門 訓田村備 專  
 訓及川ユミ 代久米巖尾 同伊  
 藤倉吉 學校醫小原眞人  
 ○二子農業補習學校  
 助教兼長阿部久藏 助教高橋信  
 太郎 教諭遠効元 助教澤田末  
 次郎 助教心千田助藏 助教高  
 橋六介 同小笠原ナミ 同及川  
 ユミ  
 ○更木尋常高等小學校  
 訓長及川善八 訓菅宮志 同平  
 野志美 同熊谷慶吉 同吉田重  
 之進 同高橋登利 尋訓小原陽  
 吉 代澤田宮壽  
 臥牛分教場  
 尋准遠藤重次郎  
 ○更木農業補習學校  
 教長及川善八 助教菅宮志 同  
 熊谷慶吉 同吉田重之進  
 ○黒岩尋常高等小學校  
 訓長菊池榮八 訓菊池猛敏 同  
 後藤萬志郎 同藤井シサ 代和  
 知久壽  
 平澤分教場  
 尋訓伊藤長右衛門  
 ○黒岩農業補習學校  
 教長菊池榮八 助教菊池猛敏  
 同後藤萬志郎 同藤井シサ  
 ○立花尋常高等小學校  
 訓長菊池已代治 訓藤原米吉  
 同菅原眞道 尋訓菅木次男 專訓  
 小笠原キク 校醫嶽間澤恭之助

教育關係

教育關係

○立花農業補習學校 教長菊池巳代治 助教藤原米吉 同菅原眞道 助教心菅木次男 助教小笠原キク

○大野尋常小學校 訓長長谷川慧明 訓佐藤昌平 同菅谷シマ

訓長及川録郎 訓桐野茂人 同平野金一 同及川千代子

同小林定雄 同鈴木三郎 同佐藤儀八 訓吉野金太郎 同吉田イワ 同小林正子

六四

太田分校 代菊池哲郎 同田中アサ

菊池惣左衛門 同引地晋 同及川養助 同郷家永三郎 同古玉忠夫 同大林三郎 同菅野謙

○水澤商校實踐學校 助教長及川定藏 助教大地俊太 同中野トセ 同倉成常治 同千葉モトエ

○南方尋常小學校 訓長小關圓治 訓小原精一 同佐藤嘉吉 同東野トシ 尋訓今野重郷 代村瀬タケ 校醫千田越夫

○川舟尋常高等小學校 訓長石川包 專訓高橋善二 訓鈴木勝治 同大鷹キミ子 若畑分教場

○白鳥尋常小學校 訓長佐藤伊右衛門 訓千田正吉 同菊地サナ 尋訓菅田幸男 校醫五味念八郎 齒科醫那須盛

○三ヶ尻尋常小學校 訓長小林進 訓大松澤武雄 專訓坂本三良 訓佐々木レツ

○佐倉河尋常高等小學校 訓長阿部正雄 訓佐々木義文 同郷六庄藏 尋訓三好千里 訓鈴木昇壽 同阿部東見 同片岡佐太郎 專訓岩淵秀一 尋訓伊藤國男 訓藤澤タニ 尋訓内田久代 同千葉ミサヲ 同小野寺

教育關係

○水澤尋常高等小學校 訓長及川定藏 訓倉成常治 同

○土澤尋常高等小學校 訓長佐々木俊隨 訓菊池猛 同島山善造 同武田レイ 同小原新一郎 同多田ヒデ 同菊池清志 專訓小川フミ 尋訓高橋祐平 校醫及川幸太郎

○湯本尋常高等小學校 訓長山田忠太郎 訓細井政吉

○新町尋常高等小學校 訓長小原彌右衛門 訓高橋幸一郎 同長岡タキ 同熊谷義郎 同菅野カヤ 同多田シマ 同高橋金治 同高橋要太 代菅沼清美 同柏葉幸之助 同小田島千富

六五

教育關係

孝子 訓千葉タイ 尋訓伊藤さとし  
 朽木分教場  
 尋訓木村三郎 上幅分教場  
 訓本明吉三郎 佐野分教場  
 專訓渡邊壽 八幡分教場  
 尋訓佐藤長三郎 下河原分教場  
 專訓佐々木茂 常整分教場  
 訓八幡謙三 同菊地稔  
 ○姉休尋常高等小學校  
 訓長安彦專松 訓木村儀市 訓鈴木金七 同佐藤恭助 同佐々木ツノ 同照井義一 同八重樫キミ 同高野堯 同油井長三 上楯分教場  
 訓及川三治 同穂積知子  
 ○眞城尋常高等小學校  
 訓長高梨可守 訓佐藤辰夫 同鈴木マサ 專訓高橋清見 訓菅原忠雄 同小野寺演郎 同後藤強 尋訓千田正胤 訓菅原省三 專訓及川鶴壽 尋訓吉田タネ

專訓佐藤澤子 同八重樫キヨ 瀬野分教場  
 尋訓佐藤茂 中野分教場  
 訓高橋武三  
 ○眞城農業補習學校  
 教長高梨可守 助教佐藤辰夫 同鈴木マサ 同菅原忠雄 同千田正胤 同及川鶴壽  
 ○白山尋常高等小學校  
 訓長柏山和孝 訓佐々木佐介 同阿部文夫 同佐藤國夫 同鈴木丈夫 尋訓千葉運爲 訓佐藤カノメ 同吉田千代 同千葉コウ

○古城尋常高等小學校  
 訓長吉田豊 訓阿部壽七郎 同佐藤二郎 同小丸正夫 同阿部清七 同千葉龜太郎 同千田圓治 代大内寛康 訓菅原クマヨ 同岩淵キリ 同岩淵チドリ 同千田マキノ 同及川軍平  
 ○古城農業補習學校  
 教長吉田豊 助教阿部壽七郎 同菅原クマヨ 教諭及川軍平 訓長高橋賛 訓菅原元治 同阿部時男 同及川謙助 同村上讓 右衛門 專訓佐藤一夫 訓上野郁 尋訓阿部マサノ 同佐藤キミ 河内分教場  
 訓後藤繁雄 代机地重夫 大原分教場  
 訓早川彊 尋訓早川アヤメ 大森分教場  
 尋訓千田壽  
 ○衣里尋常高等小學校  
 訓長藤野龜十郎 訓上野仙三 同鈴木兵衛 同千葉英吾 同菅原孝次 同佐藤源一郎 同佐々木智秀 同淺倉キヨシ 同伊東チヨ  
 ○北股尋常小學校  
 訓長井上徳衛 訓若槻忠明 尋訓及川忠雄 同三浦マキ 同小野寺弘  
 ○小山尋常小學校  
 訓長菊地藤吉 訓朝倉久七 同郷古要夫 專訓太田代潔 訓阿部松輔 尋訓大内誠 訓岩淵正一 代小野寺十治 訓小野寺シモ 同鼻節みち 同菊池テイモ 同榎本芳江 專訓金子トミ 代

富田ヤチホ 東堀切分教場  
 訓大川英八 同安藤ナカノ 西堀切分教場  
 尋訓千田永治 代長谷川ウタ 徳岡分教場  
 訓菅野清之助 同北村功 二ノ台分教場  
 尋訓戸田與五郎 專訓千葉武美  
 ○南都田尋常高等小學校  
 訓長佐藤整治 訓青木新之助 同大沼勝三郎 同石川彦二郎 尋訓村上順次郎 訓佐々木知里 同山崎長壽 同三浦正吉 同小野種穂 同淺利正 尋訓伊藤萬吉 同中目與一 同石川政巳 訓藤瀧タマ 同佐藤ツネヨ 同鷹嘴テル 尋訓及川マサヲ  
 ○南都田農業補習學校  
 助教長佐藤整治 教諭青木新之助 同大沼勝三郎 助教佐々木知里 同伊藤萬吉 同藤瀧タマ  
 ○若柳尋常高等小學校  
 訓長掃部春福 訓菊地太郎右衛門 專訓千田榮一郎 訓千田敦胤 同三品敬二郎 專訓岩淵秀雄 尋訓小野寺用七 同渡邊淳

一 同石川ヨコ 訓千田スエ 尋訓及川キミノ  
 ○若柳農業補習學校  
 教長掃部春福 助教菊池太郎右衛門 同千田敦胤 同三品敬二郎  
 ○愛宕尋常高等小學校  
 訓長佐藤冷 訓小幡量助 同阿部常夫 同佐々木圭治郎 同阿部こら 尋准千葉セン 校醫花山實  
 石淵分教場  
 代齋藤忠兵衛  
 ○永澤尋常高等小學校  
 訓長小野寺辰治 訓青木榮之進 同郷右近清輝 同菊地康 專訓菅原貞彦 同高橋一 同本明サメ 代三好池峰子  
 ○永澤農業補習學校  
 助長小野寺辰治 助教青木榮之進 同菊地康 同小野寺キノヘ  
 ○永徳寺尋常小學校  
 訓長渡部堅三郎 尋訓阿部長吉 同郷古多賀子  
 細野分教場  
 尋訓朝倉松治 代朝倉キノエ  
 ○永徳寺農業補習學校

助教兼長渡部堅三郎 助心朝倉松治 助教朝倉キノエ 助心朝倉キノエ  
 ○相去尋常高等小學校  
 訓長熊谷大治 訓田村長作 同佐藤富造 同高橋茂 同佐藤榮松 同阿部幸進 同松森ヒトシ 專訓小野節子 訓佐藤久 校醫佐藤龜三郎  
 ○六原尋常高等小學校  
 訓長後藤萬之助 訓高橋義祐 同郷右近正治 同倉成節子 同千葉一三 同小岩キク 尋訓和賀正雄 代藤井正秀 校醫佐藤龜三郎  
 ○六原農業補習學校  
 助教長後藤萬之助 助教高橋義祐 同郷右近正治 同千葉一三 鳴高橋ハナ  
 ○百岡尋常小學校  
 訓長菅原吉兵衛 尋訓森口精二 同鈴木静江  
 (江刺郡)  
 ○岩谷堂尋常高等小學校  
 訓長鈴木與三治 訓菊池撰二 同及川甚四郎 同菊池米穂 同今野潔 同菅原恒 同菊地藤治郎 同高橋金吾 同菅原フミエ

尋訓千田勘治 訓菅原溪陰 同小野寺吉三 同今野フミ 同大浜ハル 尋訓千田寅藏 專訓小松正 訓潮田ヨネ 尋訓羽階白系 訓三瓶トモエ 尋訓千田幸之進 訓高橋ミサ 同菊地ツタヲ 專訓菊地ミエ 同佐々木ミツ 專訓及川六三郎 學校看護婦大阪クキ 校醫及川直 同高橋久兵衛 同高橋喜七 餅田分教場  
 訓菊地勇 増澤分教場  
 尋訓菅村泰家 歌讀分教場  
 尋訓及川敬五 代安部ミヨシ  
 ○岩谷堂實業公民學校  
 助教及川六三郎 教佐々木ミツ 助教菊池撰二 囑託教師鈴木文治 同佐藤武三郎 同菊地勝雄 同菊池松次 助教及川甚四郎 同菊池米穂 同菅原恒 同今野潔 同小松正  
 ○廣瀬尋常高等小學校  
 訓長成田讓 訓及川清助 同千葉善作 同今野正庸 同村松次郎 同後藤キヨ 尋訓今春武夫

訓及川アヤ 尋准千葉定夫 專訓小原新太郎 同菊池チトセ 石澤分教場  
 尋訓大和田清信 學校醫伊東宗  
 ○廣瀬農業補習學校  
 教長成田讓 助教小原新太郎 同菊池チトセ 同及川清助 教千葉善作 助教今野正庸 同村松次郎 同後藤キヨ 同及川アヤ 助教心今春武夫  
 ○羽田尋常高等小學校  
 訓長菅原藤太郎 尋訓荒川正雄 訓菅原穩 同及川英子 同千葉佑 同及川由助 尋訓高野俊爾 訓佐藤セツ 專訓早川鏡子 草井沼分教場  
 尋訓菅原喜兵衛 黒田助分教場  
 代岩淵羊治  
 ○黒石尋常高等小學校  
 訓長千田豊三 訓千田莊一 同榊仁子 同佐々木正人 同沙田ヨネ 專訓佐々木元 同尾形昌子 同千葉キン子 高清水分教場  
 訓榎動平 尋訓板宮清盛 校醫龜井碩次

教育關係

教育關係

○黑石農業補習學校  
 助教長千田豐三 助教千田莊一  
 同柳勳平 同柳仁子  
 ○小田代尋常高等小學校  
 訓長菊池武樹 訓菊池武樹 同今野勝藏 同橋村スエ 尋訓小野寺ハヤコ  
 川内分教場  
 尋准橋村國雄 校醫達下軍吾  
 ○田原第一農業補習學校  
 助教長菊池武樹 助教菊池武樹 同今野勝藏  
 ○石谷尋常小學校  
 訓長菊池與市 訓橋本辰之進 尋訓菊池キミエ 同紺野一夫 原体分教場  
 訓若松正八 同菅原カナメ  
 ○田原第二農業補習學校  
 助教長菊池與市 助教橋本辰之進 助教心紺野一夫  
 ○人首尋常高等小學校  
 訓長澤口瀧太郎 訓佐藤東吉 同小野鐵彌 同菊池清景 同菊池卯兵衛 同吉田百志 同渡邊尙 同佐々木ヒサ 同干田幹子 同和田歌子 尋訓金盛剛 中澤分教場  
 尋訓高瀬達郎  
 學問澤分教場  
 代佐藤佑 校醫角南恂  
 ○人首農業補習學校  
 助教長澤口瀧太郎 教佐藤東吉 助教和田トキノ 同梅津善三郎 同小野鐵彌 同菊池清景 同菊池卯兵衛 同佐々木ヒサ 同干田幹子 同和田歌子  
 ○木細工尋常小學校  
 訓長大平恒郎 訓菊池久助 代菅野岩子  
 木細工分教場  
 助教大平恒郎 同菊池久助 教師菅野岩子 同佐藤ソメ  
 人首農業補習學校分教場  
 助教大平恒郎 同菊池久助 教師菅野岩子  
 ○藤里尋常高等小學校  
 訓長杉田直吉 訓境田英夫 同及川賞三 專訓懸田幸吉 訓菊地泰 同及川ツネ子 尋訓及川末雄 同菊池士 專訓佐藤ハツ子  
 ○藤里農業補習學校  
 助教中田龜三郎 同菊池ツギ  
 ○上口内尋常高等小學校  
 訓長折笠榮 訓菊池儀平 同伊東祐一 同昆野清孝 同藤澤初男 尋訓伊東祐司 訓古玉琢郎 同穴戸マツヨ 專訓後藤モ、ヨ 仁田分教場  
 訓昆野倉吉  
 下口内分教場  
 尋訓伊東軍一  
 楓木田分教場  
 尋訓及川清吾 校醫伊東宗  
 ○口内農業補習學校  
 助教長折笠榮 教小田島耕造 同菊池コズエ 助教菊池儀平 同昆野清孝 同藤澤初男 同伊東祐司 同穴戸マツヨ 同後藤モ、ヨ 校醫伊東宗  
 ○玉里尋常高等小學校  
 訓長佐藤春雄 訓金盛博禪 同及川隼人 同小笠原勝定 同川房志 專訓菊池カツ 尋訓佐藤リワ 同菊池ナルヨ 同家子清治 同菊池ナミ 同山崎ミヤ 尋訓金盛マキ  
 ○玉里農業補習學校  
 長教佐藤春雄 教菊池喜一 囀託佐藤タツヨ  
 ○稻瀨尋常高等小學校  
 訓長小澤福治 訓高橋清之丞 同羽階峰雄 尋訓小山敏己 訓高野義雄 同千葉誠 同伊藤祐喜 同菅原庄七 同新田英紀 同及川フサ 同高橋勝三郎 同阿部マサ 專訓大平キヨシ 代教藤原マサミ 專訓菊池チャ 三照分教場  
 尋訓及川庄次郎 訓高野千枝 下門岡分教場  
 尋訓佐藤昌一郎  
 內門岡分教場  
 訓上野貞雄  
 上門岡分教場  
 代及川清七  
 石關分教場  
 專訓菅原東吉 學校醫及川久一郎  
 ○稻瀨農業補習學校  
 助教長小澤福治 助教高橋清之丞 同羽階峰雄 同小山敏己 同小林晋一 教今野辰  
 ○野手崎尋常高等小學校  
 訓長菊池龜覺 訓阿部眞臣 同伊達宗成 同佐藤慶治郎 同菊池トモ 尋訓今野マサノ 訓伊達ミツ 專訓津沼秀穂 訓干

教育關係

葉ヨウ 尋訓佐藤次男 同八重櫻重雄  
 大内田分教場  
 尋訓矢吹久造  
 菅生分教場  
 代角南春瑞 學校醫石川嘉一郎  
 ○梁川農業補習學校  
 助教長菊池龜覺 教今野タケ 助教菊井清人 助教阿部眞臣 教伊達宗成 助教佐藤慶治郎 同菊池トモ 助教心今野マサノ  
 ○愛宕尋常高等小學校  
 訓長小野田政雄 訓菅原留平治 同菊池昌治 同小澤ミキ 同刈敷廣治 專訓小澤守夫 訓千葉信 同高橋トシエ 同齋藤ノリ 同小野カシク 尋訓小澤榮 專訓佐々木チャウ 代伊藤俊介 川西分教場  
 尋訓佐々木マリヤ 同及川正 二子町分教場  
 尋訓佐藤淺之助 同菅野ウタコ 校醫及川幸人  
 ○愛宕公民學校  
 教長小野田政雄 教熊谷健太郎 同岩館操 同菅原留平治 助教菊池昌治 同小澤ミキ 同刈敷一 同鈴木貞三 同阿部壽橋  
 廣治 同小澤守夫 同高橋トシエ 同小澤榮 同佐々木チャウ 助教心伊藤俊介 教師鈴木清一郎 同佐藤勘一 同及川喜代志  
 ○伊手尋常高等小學校  
 訓長小川道助 訓佐川金松 同菊田知足 同小野キヨセ 同佐藤菊藏 同和川克郎 同及川啓治 尋訓菊田キヨ 尋准中島孫兵衛 代柳田久  
 上伊手分教場  
 訓及川與吉 同境田ミヤ 尋訓中村隆 代佐川憲  
 口澤分教場  
 尋訓山内宇藏 校醫境田等  
 ○伊手農業補習學校  
 助教長小川道助 助教心柳田久 助教佐川金松 同小野キヨセ (西警井郡)  
 ○一關尋常高等小學校  
 訓長小野寺喜美治 訓小野寺省吾 同千葉伊三治 同小山孝亮 同千葉雄亮 同岩淵良介 同鈴木太郎 同若松研吉 同鈴木康 同佐藤大研 同横田文治 同及川丙午 同相原清行 同遠藤信一 同鈴木貞三 同阿部壽橋  
 同菊池正三 同千葉忠一郎 同今野キク 同高橋正 同菅原とみ 同日下律 同金野憲夫 同熊谷麗子 同佐藤正助 同蜂谷靜夫 同辰巳清藏 同安久津成 同中村たけ子 同鈴木定美 專訓三浦とよ 代遠藤幸治 同青山金一郎 學校看護婦平賀イシ  
 ○一關商業專修學校  
 助教長小野寺喜美治 助教小野寺省吾 同鈴木太郎 助教心青山金一郎 教小野かつゑ 助教持館春子  
 ○永井尋常高等小學校  
 訓長中野寅雄 訓佐藤久三郎 同千葉芳雄 同皆川一雄 同佐藤勝郎 尋訓佐藤節郎 訓岩沼ふみ 同千葉キヨコ 尋訓後藤智恵 校醫菅原忠雄  
 ○永井實業補習學校  
 助教長中野寅雄 助教佐藤久三郎 同佐藤節郎 助教心後藤智恵 囀託大澤さとし  
 ○高倉尋常小學校  
 訓長及川貞吉 訓加瀬谷多賀 代高橋隆志  
 ○高倉實業補習學校  
 校長及川貞吉 助教加瀬谷多賀 助教心高橋隆志  
 ○浦津尋常高等小學校  
 訓長細川兵市 訓加藤五一 同佐藤亨一 同小野寺丑藏 同小林車男 同小野ツヤ 同田野崎文人 同小野寺とも 訓阿部サツキ  
 ○浦津農業補習學校  
 教長細川兵市 助教佐藤亨一 同小林車男 同田野崎文人 同小野ツヤ 同小野寺とも 同阿部サツキ  
 亥年分教場  
 助教小野寺美樹 同千葉完  
 ○亥年尋常小學校  
 訓長小野寺美樹 訓千葉完 同佐藤リウ 校醫鶴浦壽之助  
 ○油島尋常高等小學校  
 訓長佐藤啓吉 訓佐々木健壽 同佐藤ゆきゑ 同鈴木みや 同佐藤毅 同鬼怒川福三郎 尋訓高橋龜雄 專訓佐藤正右衛門 蝦島分教場  
 訓佐藤伴介 專訓金澤カツ  
 ○花泉尋常高等小學校

教育關係

訓長八卷融 訓阿部文吉 同佐藤トミ 同鈴木禮治 同及川丈雄 專訓佐藤金雄 訓若松婦美子 同小野寺ふみ 代高橋武治 專訓高橋正助 准松本アイ子 校醫菅原章齋

○花泉農業補習學校  
校長八卷融 助教佐藤トミ

○金澤尋常高等小學校  
訓長岩淵喜悅 訓千葉喬枝 同菅原哲治 同佐藤コヨシ 同佐藤儀一 同菅原善巳 同岩淵朝子 尋訓高山猛 同佐々木喜一 校醫佐々木政雄

○金澤農業補習學校  
校長岩淵喜悅 教千葉喬枝 助教渡邊久治 同菅原哲治 教佐藤コヨシ 助教佐藤儀一 同菅原善巳 同岩淵朝子 同高山猛 囑阿部萬右衛門

○刈生澤尋常小學校  
訓長渡邊久治 訓渡邊ふぢゑ 代阿部良男

○老松尋常高等小學校  
訓長佐藤政義 訓佐藤東之進 同早川文夫 同及川正男 同佐藤はな 同千葉タキ 尋訓金森

松壽 學校醫千葉安治  
○老松農業補習學校  
助教長佐藤政義 助教佐藤東之進

○日形尋常高等小學校  
訓長菅原篤逸 訓熊谷熊雄 同武田敬信 同鈴木俊夫 尋訓阿部專治 訓石川サダヲ 同渡邊テヲ 尋訓柳澤眞司 尋訓加藤フチヨ 校醫千葉貞三郎

○彌榮尋常高等小學校  
訓長千葉卯仲 尋訓佐々木佐一 訓天童トキヨ 尋訓阿部芳 代千葉三郎

○平澤尋常小學校  
訓長赤塚文哉 尋訓赤塚セイ

○狐禪寺尋常高等小學校  
訓長吉野慶吉 訓千葉盛 同菅原梅手 同鈴木忠藏 尋訓佐藤新助 訓龜井川貞子 尋訓菊池芳太郎 專訓佐藤トモエ 校醫笠原英竹

○狐禪寺農業補習學校  
助教長吉野慶吉 助教佐藤新助 同菅原梅手

○瀧澤尋常高等小學校  
訓長菊池清一 訓佐々木壽美

同岩淵とし 同持節右郎 同武田正三郎 同佐藤祐夫 同佐藤勝子 尋訓新沼武子

○瀧澤農業補習學校  
助教長菊池清一 教佐々木壽美 助心持節史郎

○眞柴尋常高等小學校  
訓長佐藤武一郎 訓三浦儉吾 同千葉きよみ 尋訓千葉恭一 代太田信夫 訓小野寺玉造 校醫笠原英竹

○眞柴農業補習學校  
助教三浦儉吾 助教心千葉恭一 校醫笠原英竹

○萩莊尋常高等小學校  
訓長千葉政吉 訓高橋立 專訓小野寺孝吾 訓伊藤いよ 同北村稔 川臺分教場

○萩莊農業補習學校  
訓及川敏一 校醫工藤智雄 助教長千葉政吉 助教高橋立 同小野寺孝吾 同伊藤いよ 助教心照井八千代 囑佐々木東之 校醫工藤智雄

○西黒澤尋常高等小學校  
訓長長澤英治 訓後藤オワリ

同小岩一男 專訓伊藤吉雄 代小野寺みや

○達古袋尋常高等小學校  
訓長奥川榮作 訓後藤敬一 同菊池健次郎 代植村トセ 訓田屋正次 校醫工藤智雄

○達古袋農業補習學校  
助教長奥川榮作 助教田屋正次 助教心菊池健次郎 同植村トセ

○市野々尋常高等小學校  
訓長福山其温 尋訓福山なを 同山本將實 代松本ウラコ

○市野々農業補習學校  
助教長福山其温 助教佐々木輝男 同福山なを 囑山本將實 同松本ウラコ

○嚴美尋常高等小學校  
訓長熊谷岩門 訓鈴木佐登治 同小野文七 同鈴木幸雄 同齋藤とよ 專訓加藤さだよ 代佐藤浩 同佐藤マサノ 尋訓高橋喜吉

○本寺尋常高等小學校  
訓長千葉末藏 訓千葉一 同加藤まが木 同佐藤丹左衛門 同初貝俊吾 尋訓工藤寛 訓熊谷きみ 代小原武雄

教育關係

○本寺農業補習學校  
教長千葉末藏 助教加藤まが木 同佐藤丹左衛門 同初貝俊吾 助教心工藤寛 助教熊谷きみ 助教心小原武雄

○山谷尋常小學校  
訓長佐藤俊 訓橋本ゆき 准訓橋本俊彦

○山谷農業補習學校  
助教長佐藤俊 助教心橋本ゆき 同橋本俊彦

○山目尋常高等小學校  
訓長菅原由吉 訓藤原忠三郎 同鈴木憲司 同佐藤要一 同佐藤清人 尋訓梁川悌兒 訓榑瀬五郎 同小野寺清四郎 同小關常夫 同佐藤フサ 同金盛トメ 尋訓小野寺齊 訓小野牧子 同島津たか 同木村ナツノ 尋訓阿部トヨ

○山目實業補習學校  
助教長菅原由吉 教高橋マツ 助教鈴木憲司 同小野寺清四郎 助教心梁川悌兒

○笹谷尋常小學校  
訓長千葉健 訓鈴木キヨエ

○赤萩尋常小學校

訓長高橋武雄 專訓玉井赴夫 訓千葉廣治 同岩淵訓 尋訓熊谷育子 代堂屋又藏 校醫阿部哲夫

○中里尋常高等小學校  
訓長黒澤良助 訓千葉勇美 同及川公夫 專訓三浦重三 訓小野アヤ子 同東海林カナメ 同小野寺金治郎 同佐々木三郎 同山田信子 尋訓大槻秀雄 訓鈴木キノエ 尋訓東海林ひさお 同佐々木サト 校醫工藤智雄 同清野精啓

川邊分教場  
尋訓小野寺大造 代小野寺キヨシ

前堀分教場  
訓安彦正

○平泉尋常高等小學校  
訓長千葉吉太郎 訓千葉圭介 同志羅山頼支 同千葉スエ 同奥野金四郎 專訓菅野吉二 尋訓破石堯澄 訓今野トヨ 同藤澤フジ 同小野寺モト 同達谷窟禎子 尋訓東郷タケノ 同二宮常玄 訓千葉義子 代古川泰

衣關分教場  
訓菅野亮融

達谷分教場  
訓千葉ノブ 佐野分教場

○戸河内尋常小學校  
訓長鈴木毅 訓千葉玉子

(東磐井郡)

○千厩尋常高等小學校  
訓長岩淵俊雄 訓榑原孝 同石沼文介 同金愛眞 同村上文造 同牧野長一郎 同北村孝平 同杉村倉之助 尋訓佐藤正助 訓村澤さち 同三浦由雄 同小野寺一美 同八卷功 同千葉芳雄 同小山カツ 同菅原富美子 同本多喜子 尋訓菅原宣雄 專訓千葉チャウ 學校醫遠藤通 學校齒科醫山田靜夫

○大原尋常高等小學校  
訓長佐藤繁治 訓鈴木清一 同吉田伍一 同奥田專三 同千葉協一 同及川友助 尋訓足利繁訓佐藤豊 同熊谷榮馬 同門間繁雄 同吉田忠右衛門 尋訓山形薫 專訓佐藤ミヤノ 訓千葉

イクヨ 同菅原ハツミ 尋訓熊谷トモ子 同阿部重孝 同庄司廣志 同伊藤正 專訓小野寺恭同齋藤みよし 同渡邊光 同鈴木マツ子 尋准長坂安己 同太田周治 代池田誠

○大原實業補習學校  
長教佐藤繁治 教池田誠 同佐藤たけ 同鈴木清一 同奥田專三 助教及川友助 同佐藤豊 同山形薫 囑柳川正幹

○内野尋常小學校  
訓長勝部文質 代菅原固次郎 同及川ミキ 校醫本多清

○藤澤尋常高等小學校  
訓長齋藤恕平 訓千葉文彌 同高橋榮一 尋訓佐藤時亮 訓小山武郎 同佐藤しげの 同加藤俊吉 同金野寛 專訓岩淵敏彦 尋訓高橋喜之助 同佐藤きつの 同及川カツ 同工藤みほ子 尋訓北村孝 代山田きよみ 同上 野登

西口分教場  
訓千葉孝吾 專訓玉澤仁之 同佐藤順子 本郷分教場



教育關係

訓松谷英吾 代佐藤統助 校醫  
 佐藤慶太郎 同皆川千代雄  
 ○藤澤實業專修學校  
 長教齋藤恕平 教菅野ユミ 助  
 教千葉文彌 同高橋榮一 同佐  
 藤時亮 同加藤俊吉 同高橋喜  
 之助 同佐藤きつ 同北村孝  
 ○折壁尋常高等小學校  
 訓長小野寺省三 訓小野寺哲雄  
 同佐藤美保 同小山養作 同及  
 川文雄 同佐藤眞澄 同小山秀  
 吉 同村上リ子 代明石カナ  
 ○折壁農業補習學校  
 校長小野寺省三 助教小野寺哲  
 雄 同小山養作 同及川文雄  
 助教心加藤眞澄 同小山秀吉  
 ○濱横澤尋常小學校  
 訓長西六平 訓太田幸雄 專訓  
 三浦ヨシ  
 ○釘子尋常高等小學校  
 訓長千葉直人 訓晴山橋一郎  
 同千葉清 同上野ヤマト 代齋  
 藤清四郎 訓熊谷文之助  
 ○上折壁尋常高等小學校  
 訓長加藤義徳 訓永澤一明 同  
 木村敏子 同佐藤輝雄 准訓佐  
 藤右兵衛  
 ○小梨尋常高等小學校  
 訓長佐藤利雄 訓島山義男 同  
 齋藤忠夫 同千葉啓 同佐藤安  
 治郎 同伊藤たき子 專訓穴戸  
 とも 代廣野君平  
 ○清田尋常高等小學校  
 訓長小野寺進 訓三浦元吉 同  
 千田ミノリ 代佐藤智  
 ○南小梨尋常小學校  
 訓長佐藤昌 專訓金野富壽雄  
 代小山泰子 校醫千葉誠 看護  
 婦佐々木壽子  
 ○新沼尋常高等小學校  
 訓長藤代福次郎 訓板橋武雄  
 同千葉松雄 專訓佐藤齊 訓鈴  
 森キミ 專訓北村美佐子 專訓  
 金野久太郎  
 ○徳田尋常高等小學校  
 訓長山田秀實 訓佐藤成徳 同  
 金いわ見 同八巻博 代鳥貫正  
 明 訓初貝省吾  
 ○八澤農業補習學校  
 助教長山田秀實 助教八巻博  
 同千葉松雄 同金野久太郎 教  
 小野寺昌男  
 ○保呂羽尋常高等小學校  
 訓長及川孝一 訓千葉義一 同  
 皆川勉 同千葉繁子 尋准萩庄  
 壽世  
 ○大籠尋常高等小學校  
 訓長藤元淳七郎 訓佐藤百松  
 尋訓小野寺秀夫 同星幸夫 同  
 加藤艶子 代熊谷もりを  
 ○津谷川尋常高等小學校  
 訓長遠藤哲之助 訓島山知 同  
 遠藤信一 同今野鐵夫 同加藤  
 元子 專訓千葉京喜 代佐藤と  
 き子 校醫千葉誠  
 ○黄海尋常高等小學校  
 訓長酒井文人 訓小野寺喜平治  
 專訓東山軍伍 訓佐藤忠雄 同  
 梁田勝海 同千葉由松 尋訓松  
 本ウメヨ 訓黄海梅治 同大信  
 田タカ 同村山アイ 尋訓佐藤  
 康平 同菅原正雄 代芦豪雄  
 同小野寺美和  
 中山分教場  
 專訓鈴木吉一郎  
 深菅分教場  
 尋准三浦浦治  
 ○黄海實業補習學校  
 助教長酒井文人 助教黄海梅治  
 ○曲田尋常小學校  
 訓長伊藤正男 代橋本房雄 同  
 佐藤つを子  
 ○薄衣尋常高等小學校  
 訓長吉田文彌 訓伊藤運三郎  
 同千葉倉治 同小山己佐男 同  
 松元きよ 同佐藤大佐 同千葉  
 二三司 同鈴木薫 尋訓藤元せ  
 つ 同佐藤ヘキハ 訓吉田文子  
 代千葉内藏造 同菅原眞根 同  
 菅原マツ  
 同南分教場  
 訓菅野勇 尋准石沼勝代 校醫  
 菊田九一  
 ○奥玉尋常高等小學校  
 訓長菊池正人 訓藤野彬 同藤  
 野武男 尋訓小野寺剛 訓金和  
 男 同蜂谷ミサヨ 同太田ノフ  
 專訓太田漸 代小野寺きよへ  
 上奥五分教場  
 尋訓大原弘道 同小野寺茂雄  
 代千葉たかし  
 下奥五分教場  
 訓奥村原泉 同片岡佐藏 代菅  
 原リウ  
 ○奥玉農業補習學校  
 教菅野大治郎  
 ○磐清水尋常高等小學校

訓長松本敬止 訓菊地誠意 同  
 高橋金治 尋訓若生秀夫 訓菅  
 キヌ 尋准菅原茂 代龜卓川禮  
 智子 校醫高橋宇仲  
 ○磐清水農業補習學校  
 教長松本敬止 教菊地誠意 助  
 教高橋金治 助教心若生秀夫  
 同菅原茂 校醫高橋宇仲  
 ○門崎尋常高等小學校  
 訓長三浦謙二 訓鈴木武夫 同  
 加藤フク 同田邊廣志 同小原  
 貞助 尋訓青山高見 同佐藤英  
 夫 專訓千葉延  
 ○松川尋常高等小學校  
 訓長松川幸三 訓鈴木惠輔 同  
 千葉忠雄 同五安城秀雄 同金  
 野金三 尋訓小野寺村雄 同鈴  
 木茂美 訓松川フデ 同佐藤啓  
 子 尋訓神崎一彦 代鈴木公一  
 訓小野寺東治  
 ○相川尋常高等小學校  
 訓長小山誠訓 同龜卦川佐三  
 同岩淵貞美 同杉田勇泰 專訓  
 青野前助 尋訓菅原アキノ 同  
 龜卦川賢子 訓小原秀子 專訓  
 佐藤寛治  
 ○相川農業補習學校  
 校長小山誠一 助教龜卦川佐三  
 同岩淵貞美 同杉田勇泰 同青  
 野前助 同菅野アキノ 助教心  
 龜卦川賢子 助教小原秀子 教  
 師吉田とし子  
 ○舞草尋常高等小學校  
 訓長鈴木保治 准大峰千秋 同  
 鈴木壽龜 同菅原眞靜 尋訓青  
 山スエ 代佐藤マサ 同舞草七  
 郎  
 ○長島尋常高等小學校  
 訓長佐野勝治郎 訓山平耕一  
 同千葉音治郎 同三浦カナフ  
 同金野末男 同金野盛太郎 同  
 石川ヒサ 代赤坂隆寛  
 長部分教場  
 訓千葉澄平 尋訓菊池哲哉 同  
 佐々木キクヨ 代菊地實  
 小島分教場  
 尋訓三浦俊一 專訓伊藤六郎  
 代高橋政記 同淺利キヨ 校醫  
 小野寺純一  
 ○長島農業補習學校  
 助教山平耕一 同千葉音治郎  
 同金野末男 同金野盛太郎 同  
 菊池哲哉 同伊藤六郎 囑菊地  
 實  
 ○生母尋常高等小學校  
 訓長渡邊功 訓千葉作七郎 同  
 佐々木應助 同安部壽三良 同  
 菅野榮太郎 同佐々木ユキヲ  
 同小原タミヨ 代後藤一敏  
 母体分教場  
 尋訓小原松夫 同宮地勉 代吉  
 田正幸  
 赤生津分教場  
 訓菊地武男 同菅野健實 尋准  
 郷右近ツユ子 校醫阿曾沼磨  
 專訓及川マツ 尋訓高橋徳治  
 訓佐々木ユキヲ  
 ○田津津尋常高等小學校  
 訓長松元武夫 訓千葉温平 同  
 久慈誠 尋訓佐藤清彦 專訓村  
 上好美 同横澤鐵郎 代高橋元  
 悦 代高橋ハツヲ  
 紙生里分教場  
 尋訓大平左右治  
 夏山分教場  
 尋訓長野久雄  
 ○田津津農業補習學校  
 助教長松元武夫 助教横澤鐵郎  
 同千葉温平 助教心佐藤清彦  
 同大平左右治 同長野久雄 囑  
 託教師渡邊はるへ  
 ○長坂尋常高等小學校  
 訓長小原民雄 訓穴戸壽男 同  
 鈴木尹司 同長坂香澄 尋訓齋  
 藤實 同菅原正世 訓久慈チヨ  
 尋訓佐藤勝郎 訓高橋正子 尋  
 訓鈴木武資 尋准佐藤ステ 訓  
 千葉芳子  
 大水分教場  
 訓佐藤岩次郎 鈴木きよみ  
 ○猿澤尋常高等小學校  
 訓長金野留七郎 訓首藤四郎  
 同小野寺亮一 同菊池惣左衛門  
 同小野寺重 同千葉文 同佐藤  
 ツル 同及川シノブ 代兼平昌  
 一 同白藤五郎 同小野寺哲子  
 峠分教場  
 訓佐竹義巳  
 ○摺澤尋常高等小學校  
 訓長藤本直 訓青柳清太郎 同  
 佐藤耕平 同阿部甫 同多田弟  
 三 同小原恂治 同清水清吉  
 同菅原榮一 同小山忠子 同菊  
 池虎一郎 同吉田敦子 同稻塚  
 たまの 尋准都澤眞繁 代佐藤  
 和賀  
 ○摺澤農業補習學校  
 校長藤本直 教青柳清太郎 同

教育關係

教育關係

松川正 助教佐藤耕平  
 ○漁民尋常高等小學校  
 訓長水室清一 訓吉田亮輔 尋  
 訓蘆智一 訓菊池イソミ 訓蘆  
 フミコ 專訓菊池清一  
 ○曾慶尋常高等小學校  
 訓長佐藤正 訓熊谷三四郎 同  
 岩淵泰臣 同吉田幸八 同佐藤  
 きの 專訓小松まする 代摺元  
 隆三  
 上曾慶分教場  
 尋訓淺理三彌 代佐藤孝壽 校  
 醫加藤祐治  
 ○興田尋常高等小學校  
 訓長及川直己 訓三浦精一 同  
 青柳元 同青柳とみや 同小山  
 孝 同熊谷清吾 同千葉房夫  
 同小山昭夫 同佐藤經雄 同掛  
 川ユリ 同佐藤カノエ  
 ○興田公民學校  
 校長及川直己 助教三浦精一  
 同青柳元 同小山孝 同熊谷清  
 吾 同千葉房夫 同小田昭夫  
 同佐藤經雄  
 ○中川尋常小學校  
 訓長藤野直人 訓遠山徹英 同  
 千葉千代 同伊東鐵太郎 尋訓  
 本田武夫 代小山正 訓村上護  
 朗  
 東京畑分教場  
 尋訓佐藤茂雄 校醫小原一二  
 ○天狗田尋常小學校  
 訓長千葉武三郎 訓伊東政廣  
 同岩淵馨作 尋訓加藤ウタ子  
 小准西城摩耶子 校醫小原一二  
 ○北石尋常小學校  
 訓長鈴木松治 訓金野省平 准  
 佐藤ミキ  
 市之通分教場  
 尋准伊東鴻 校醫小原一二  
 (氣仙郡)  
 ○盛尋常高等小學校  
 訓長安部留之進 訓坂下勝三郎  
 同千葉助胤 同佐熊正夫 同松  
 本四郎 同千葉梯三郎 同西村  
 ミユキ 專訓金澤ヤエ 尋訓吉  
 田哲之助 訓長谷川のぶ子 學  
 校醫須藤規  
 ○盛女子職業補習學校  
 長教安部留之進 教坂井サダヨ  
 同鈴木周 同長谷川七郎 助教  
 大槻ミトセ 同島村ノブ 同坂  
 下勝三郎 同千葉胤助 同佐熊  
 正夫 校醫須藤規  
 ○高田尋常高等小學校  
 校長佐々木豊三郎 訓金野菊三  
 郎 同伊勢捷一 同千葉正夫  
 同佐藤陸郎 同村上利一 同菅  
 野千里 同熊谷ハツエ 同岩崎  
 六太郎 同小山昌一 專訓小綿  
 春 訓櫻田健吉 同新沼良一  
 同金野直文 同菅野チヨメ 同  
 熊谷エイ 尋訓村上金治 專訓  
 奥野カツ  
 ○氣仙尋常高等小學校  
 訓長菊池武夫 訓及川喜一 同  
 菅野肇 尋訓松坂實一 訓菅野  
 正雄 同奥野遠平 同菅野カツ  
 ノ 同菅野新三郎 尋訓小山重  
 郎 訓佐々木一枝 同菊池文子  
 專訓村上タカコ 代松峰稜威夫  
 訓金野千代治  
 長部分教場  
 訓小山尙夫 同佐々木一郎 同  
 宮城隆規 代及川シノブ 校醫  
 木島作衛  
 ○氣仙農業補習學校  
 長助教菊池武夫 助教佐藤達夫  
 教及川喜一 助教村上タカコ  
 同菅野新三郎  
 ○大船渡尋常高等小學校  
 訓長鈴木與吉 訓吉田英吉 同  
 千葉正三 同鈴木正男 同小山  
 誠之 同吉田カネ 專訓坂下コ  
 タマ 訓石橋勝治 同伊勢改時  
 訓西村喜一郎 同新沼信一 專  
 訓新沼タノヘ 訓加藤將 同佐  
 々木義美 同市川ソデ 同及川  
 たみや 尋訓黃川田寛平 訓千  
 葉加年  
 ○大船渡實業補習學校  
 校長鈴木與吉 教眞鍋南惠 助  
 教岩長彌六 同吉田英吉 同千  
 葉正三 同鈴木正男 同小山誠  
 之 同吉田カネ  
 ○末崎尋常高等小學校  
 訓長青木源治 訓菊池美信 同  
 上部與三郎 同佐藤好吉 同高  
 橋清志 同古澤一 同菅野眞  
 專訓菊池ヨシヘ 訓及川ミエ  
 尋訓藤村豊三郎 同菊池チヨミ  
 同佐藤文平 准訓菅原いはほ  
 代村上道治郎 同及川琴子  
 ○末崎農業補習學校  
 教宮崎尙  
 ○小友尋常高等小學校  
 訓長佐藤覺 尋訓佐藤丈太 訓  
 新沼鏡 尋訓菅原市二郎 專訓

七四

金濱軍治 尋訓佐々木四郎 訓  
 川越セツ 尋訓金澤繁次郎 專  
 訓吉田泰代 代河野アイ  
 ○小友農業補習學校  
 校長佐藤覺 教佐藤丈太 助教  
 新沼鏡 同金濱軍治 同川越セ  
 ッ 同吉田泰代  
 ○廣田尋常高等小學校  
 訓長渡邊良吾 訓泉田利雄 同  
 米内善次郎 同熊谷勝三 同三  
 尾庸二 同徳山ノブヘ 同神原  
 信雄 訓佐々木忠一 專訓米内  
 ちさと 訓齋藤義雄 同小畑正  
 夫 尋訓佐藤新雄 訓千葉フミ  
 同小笠原フミ 專訓千葉文哉  
 代小松義雄 學校醫國枝幸丸  
 ○廣田農業補習學校  
 長助教渡邊良吉 教須貝實 助  
 教鈴木保惠 囑小島ミサヲ  
 教米内善次郎 教熊谷勝三 助  
 教三尾庸二 同徳山ノブヘ 同  
 神原信雄 同米内ちさと  
 ○米崎尋常高等小學校  
 訓長及川仙太郎 訓菊池余一  
 同千葉壽 同千葉政徳 同黃川  
 田延平 同岩崎幹一郎 同鳥羽  
 研 尋訓本多殿 訓大坂キヨシ  
 專訓大和田ハツ子 代鈴木大三  
 郎 同鈴木ミトリ 訓新沼幸子  
 ○米崎農業補習學校  
 校長及川仙太郎 教菊池余一  
 助教千葉壽 同千葉政徳 教黃  
 川田延平 助教岩崎幹一郎 助  
 教心本多殿 助教大和田ハツ子  
 助教心金野ミトリ 助教新沼幸  
 子  
 ○矢作尋常高等小學校  
 訓長沼澤靜雄 訓紀室泰治 專  
 訓菅野堅治 訓小松勤 同阿部  
 慶子 專訓丸山リキ  
 小黒山分教場  
 尋准菅野素彦 校醫根守政規  
 ○矢作實業補習學校  
 助教長沼澤靜雄 助教紀室泰治  
 同小松勤  
 ○下矢作尋常高等小學校  
 訓長荒木榮枝 訓丸山良喜 同  
 細谷敬吉 同岩淵正雄 同大友  
 スゲノ 專訓鈴木タカオ 校醫  
 根守政規  
 ○生出尋常高等小學校  
 訓長菊池太一 尋訓上部傳次  
 同足野末雄 專訓松野トシミ  
 ○竹駒尋常高等小學校  
 訓長金米三郎 訓山崎榮吉 同  
 千葉了觀 同村上タケヲ 代菅  
 野シヅエ  
 ○竹駒農業補習學校  
 助教長金米三郎 助教村上タケ  
 ヲ 助教心菅野シヅエ  
 ○横田尋常高等小學校  
 訓長山内康雄 訓松坂正雄 同  
 新沼勝見 同菅野香畔 同佐賀  
 耕 同和地チヨミ 同藤村キヨ  
 同及川ヨシカ 同山口忠義 尋  
 准渡邊慶之進  
 ○横田農業補習學校  
 校長山内康雄 助教新沼勝見  
 同菅野香畔 同佐賀耕 助教心  
 山口忠義  
 ○世田米尋常高等小學校  
 訓長鈴木胸藏 尋訓及川一二  
 訓泉田トミコ 同佐藤善吉 同  
 菊池鎌藏 同菅野友治郎 同氏  
 家辰美 同高橋三治 同千葉蘭  
 兒 同伊藤榮二 同吉田ウメ  
 同千葉實人 同山下哲 尋訓高  
 橋純男 訓三尾喜美子 同熊谷  
 トシノ 專訓鈴木善治 同河野  
 堯子  
 川口分教場  
 訓松田太郎  
 ○世田米農業補習學校  
 長教鈴木胸藏 教澤田利衛 同  
 河野堯子 同及川一二 同泉田  
 トミコ 同松田太郎 同佐藤善  
 吉 同菊池鎌藏 同菅野友治郎  
 同氏家辰美 同高橋三治 同千  
 田蘭兒 同吉田ウメ 助教心高  
 橋純男 助教三尾喜美子 同熊  
 谷トシノ 同鈴木善治  
 ○大股尋常小學校  
 訓長島山一 訓佐々木榮吾 尋  
 准遠藤愛三 代佐々木ツルヨ  
 栗木澤分教場  
 尋准山崎玉太郎  
 ○大股農業補習學校  
 校長島山一 助教心遠藤愛三  
 助教心佐々木ツルヨ  
 ○下有住尋常高等小學校  
 訓長菊池武毅 訓菊池直吉 同  
 金野新徳 同小野ヒサ 同西館  
 キミ 尋訓岩淵深見 專訓佐藤  
 孝一 代鈴木行雄  
 ○上有住尋常高等小學校  
 訓長大和田賢次郎 訓水沼孝太  
 郎 同吉田貞男 同松田岩平  
 同菊池俊雄 同佐々木威 同佐

教育關係

七五

教育關係

々木イマ 同小原又一 同金野隆助 准訓吉田チカ 同菊池ケサノ

中塚分教場 訓菅野要一 同菊池トモ 鳴木分教場 訓千葉鬼

根岸分教場 訓本田吉三郎

○日頃市尋常高等小學校 訓長土屋均 尋訓奥山幹二 訓河野下枝 同佐藤林平 同金野德治 同佐藤八千代 專訓土屋ヨネ 尋訓金野政雄 專訓山田イチ 尋訓吉田千之 尋准伊藤鷹人

○立根尋常高等小學校 訓長小野岫 訓伊東眞一 同鈴木龍太郎 同鈴木英夫 尋訓菅生岩雄 訓佐藤タツエ 專訓小松ミツ 尋准熊谷チエ 代今野榮一

○猪川尋常高等小學校 訓長山崎英雄 訓鈴木久平 同吉田彌兵衛 同長谷川順子 尋訓木川田慶太郎 專訓今野留之進 同村上晶子 同新沼哲雄

校醫佐々木謙之助

○赤崎尋常高等小學校 訓長加藤金兵衛 訓門屋武志 同金野徹 同吉田文吉 同田代菊次郎 同加藤モトエ 專訓金ヤスヘ 尋准佐々木キヨミ 代崎山邁

○赤崎農業補習學校 教長加藤金兵衛 助教門屋武志 同金野徹

○蛸浦尋常高等小學校 訓長伊藤榮一 訓後藤英郎 同菅原勇 尋訓大坂坤五郎 訓沼田良女 專訓志田貴富 同鈴木千馨

○蛸浦農業補習學校 長教師伊藤榮一 教伊藤トモヨ 助教後藤英郎 同志田貴富 助教心大坂坤五郎

○綾里尋常高等小學校 訓長千田久松 訓柏陽三 尋訓中島眞道 訓佐々木幸一郎 同渡邊照 同千田忠治 尋訓小松慶吉 專訓柏フミ 尋訓古内民右衛門 訓熊谷トミ 同宮野キヨ 專訓千葉良治 准訓佐々木政美 代狩野増次郎 校醫木下

秀孝

○砂子濱尋常小學校 訓長菅野嘉七 准訓沼澤主計 代菅野ケイ

○越喜來尋常高等小學校 訓長小原永太郎 訓水野良民 同佐々木寛平 同及川恒二 尋訓梅内彰陽 訓高橋助五郎 同柏崎榮 同吉田慶 同松川マツエ 專訓細谷サカヨ 准訓鷲尾シゲコ

浦嶺分教場 訓佐々木眞平 同大久保ハル

○越喜來農業補習學校 長教小原永太郎 教水野良民 同梅内彰陽 助教佐々木寛平 同小原マツノ

○崎濱尋常小學校 訓長小松春吉 訓大久保眞淵 同大友善雄 專訓佐々木ニエ 校醫村上加能登

○吉濱尋常高等小學校 訓長小松善重郎 訓新沼雄四郎 同千葉重男 同伊藤清八郎 同菊池誠之 同庄司勇 同佐々木タツ 同今野吉夫 同小松フクヘ 准訓上野勇八

七六

○小白濱尋常高等小學校 訓長山裕康 訓佐々木源次郎 同田野崎東九郎 同吉田博 同柏崎勇 同木村金治郎 同小野忠男 同加藤綾子 尋訓小濱孝 專訓佐々木ハシメ 尋准井上八郎 專訓小野エン

○唐丹村實業補習學校 教長山裕康 助教佐々木源次郎 同柏崎勇 同小野忠男 助教心井上八郎 助教小野エン

○大石尋常小學校 訓長白濱廣記 尋訓杉山長四郎 代柏崎タカヨ

○大石實業補習學校 校長白濱廣記 助教杉山長四郎 助教心柏崎タカヨ (上開伊那)

○遠野尋常高等小學校 訓長沼里末吉 訓三浦榮 同菊池益治 同鯉澤德三 同新里キミ 同千葉年夫 同松田ムネ 同照井淺 同石川道雄 同小川陽一郎 同菊池節夫 同昆盛男 同菊池ムメ 同菊池ハツ 同木村政藏 同那波トシ 同葛卷サダ 同佐々木方 同柄内眞太郎

○小友尋常高等小學校 訓長水口玉吉 訓佐々木俊平 同菊池二郎 同多田キエ 同東テル

鮎貝分教場 同宮川寛一 代菅原シケン 鷹鳥屋分教場 尋准昆隆 專正日下サト 校醫柏原耕一

○小友農業補習學校 長教水口玉吉 助教佐々木俊平 同菊池二郎 同多田キエ 囀託教師菊池太郎 助教佐藤寛藏

○鯉澤尋常小學校 訓長小笠原六郎 訓野田マツ 助教長小笠原六郎

○下鯉澤尋常高等小學校 訓長鎌塚一郎 訓佐藤力 專訓千田金男 同鎌塚のぶ 迷岡分教場

教育關係

同河村精一 同高橋ワカ 同淺沼慶雄 同菊池善六 同阿部ナミ 同正木愛 同松田ヨシ 同照井キミ

○遠野實業公民學校 助教長沼里末吉 教伊手あき 助教佐々木龍三 同三浦榮 同菊池益治 同鯉澤德三 助教石川道雄 囀本問惠

○釜石尋常高等小學校 訓長高橋定之進 訓佐々木輝雄 同佐々木忠治 同齊藤金之助 同百濟晃雲 專訓小原ミヤ 訓久慈ヒデ 同藤田光太郎 同佐野長助 同千葉尙一 同藤井松男 同高橋涉 同河野トミ 專訓竹林俊雄 訓太田キエ 同村井テイ 同河村英一 同菊池フジ 訓大垣みつ 同佐々木サタヘ 同中川博 同櫻野寧 同古屋敷五郎 同櫻野ミエ 專下川原キミエ 訓百濟チヨ 同島山敬一 同石橋壽男 同岡田清之助 專訓川村喜助 訓小時田孝一 同吉田善吉 同瀬川光一 同八重櫻眞道 專訓齋藤アヤコ 同佐々木ツルノ 訓川井キミ

訓高橋アイ 同鈴木千代 專東梅實枝 訓川端キヌ 同種市チヅ 同小野寺五亥 同千葉フミ 同加藤則子 同吉田ノブ 專右田しづ 代岩館敏子

○平田尋常小學校 訓長朝倉猛雄 訓浦津守雄 同朝倉トリ

○白濱尋常小學校 訓長佐々木忠七 訓鈴木きよ 代佐々木正雄

○大槌尋常高等小學校 訓長鈴木兼三 訓金崎節郎 同菊池忠義 同金崎藤枝 同菊池イト 同後藤勝郎 同高橋長吉 同小國四郎 同大久保貞 同吉田米太郎 同大洞盛 同三浦キシ 同岡本太郎 同蛇口孝之助 同佐々木吉郎 尋訓黒澤教平 訓金野エン 專訓煙山テイ 同藤原四郎 尋准三浦良一 代田中仁一郎 同遠藤金作 訓金野ブン 校醫古谷彌四郎 一ノ渡分教場 尋訓村上仁悟 訓金濱かしは 同百濟正

○大槌水産專修學校

七七

教育關係

尋訓石龜判司 代石龜チドリ
○下鯨澤農業補習學校
助長鎌塚一郎 助教佐藤力
千田金男 助教心石龜判司
○宮守尋常高等小學校
訓長高室武八郎 訓照井健次郎
同熊谷景藏 同藤井留治 同佐藤福 同石井すみ 校醫柏原耕一

池カッ
○附馬牛農業補習學校
助教長佐々木卓良 助教工藤操
同松本信繁 同佐々木サタ
○東禪寺尋常小學校
訓長新田庄五郎 訓及川クマ
代佐々木又吉 訓小石川耕三
尋訓齋藤勇治
小出分教場
代始閣精太郎
○松崎尋常高等小學校
訓長田村貞一 訓葛卷武 同木下功 同吉田チヨ 同村上キミ
專訓鎌田昌三
○松崎農業補習學校
助教長田村貞一 助教葛卷武
同木下功 同吉田チヨ 同村上キミ
專訓鎌田昌三
○駒木尋常小學校
訓長諏訪眞麿 代及川靜
○土淵尋常高等小學校
訓長新田貞雄 訓伊達成之 尋訓男澤キエ 專訓高橋盛 訓小笠原二三男 同菊池勇夫 尋訓岩井マサ
枋内分教場
尋訓工藤彬三 同工藤ミチ

山口分教場
尋准新張鶴松
飯豐分教場
尋訓岩崎健三
琴畑出張教授所
代熊谷亮一
○青笹尋常高等小學校
訓長岩井留之助 訓佐々木清志
同外川一五郎 專訓淺沼政規
訓和田大城 同阿部トミ 尋訓昆タマエ 專訓佐々木ミキ
○青笹農業補習學校
助教長岩井留之助 佐々木清志
教淺沼政規 和田大城 阿部トミ
○中澤尋常小學校
訓長松尾吉哉 訓松尾マキ
志田藤德美
○上郷尋常高等小學校
訓長鈴木陽 訓立花精太郎 同小菅精一 同内田松雄 同昆研吉 同佐々木健一 尋訓高瀬露訓松崎ヤス 同菊池ミサホ 尋訓佐々木健吉 訓佐々木葉 尋准大里キミ 訓鈴木彦四郎 同澤里武治
細越分教場

訓大矢明三 同大矢ミノリ
來内分教場
訓菊池大等 代菊池トキ
佐比内分教場
訓松尾修三 同松尾スカ
平倉分教場
訓木下祐一
○上郷農業補習學校
長教鈴木陽 助教立花精太郎
同小菅精一 同松崎ヤス 教村上アイ
○甲子尋常高等小學校
訓長小笠原嘉六 訓照井卯三郎
專訓松田義雄 訓熊谷誌郎 同日吉マサコ 同照井フミ 尋訓見陸郎
○唄貝尋常小學校
訓長後藤四郎 專訓千葉タマ
○小佐野尋常小學校
訓長石橋徹定 訓石橋リチ 尋訓松田正志
○鶴住居尋常高等小學校
訓長倉田耕造 訓小松實 專訓佐々木軍二 訓蛇口連造 尋訓千葉正平 訓似田貝長右衛門
尋訓沼崎榮 訓川村キヨ 尋訓藤原セン 訓今野武記

兩石分教場

尋訓小笠原一郎
室濱分教場
○箱崎尋常高等小學校
訓長道又二郎 訓村上留次郎
專訓道又トミ 訓千田キミ
白濱分教場
訓宮館金見 代及川チヨ 校醫瀧美照
○橋野尋常高等小學校
訓長津田吉之助 訓駒ヶ嶺重勝
同金崎孝志 同佐々木壽美 同大森梅子 尋准小笠原清悦 代佐々木正太郎
中村分教場
代渡邊武雄
橫内分教場
尋訓前川勝夫
○栗林尋常高等小學校
訓長石川俊雄 訓伸正路昭康
尋訓伊藤清見 訓及川キマ子
准訓菊池サタ
○金澤尋常高等小學校
訓長中村久五郎 訓白澤喜一郎
同中村ツヤ 同臺野健藏 代村上孝

中山分教場

尋訓松本誠 代川崎一郎
長井分教場
代佐々木芳男
○私立釜石鑛山尋常小學校
訓長小野寺文之進 訓中市孝一郎 同高橋ミツ 同沼倉彦八郎 同小野寺勿 同佐々木省藏 專訓阿部信 訓野澤玉喜 同菊池一三 同菊池幸三 專訓渡邊ノブ 同岩淵せい 尋訓小笠原コト 訓石龜克己 同大久保タカト 同鶴田秀吾 同佐々木榮也 尋訓伊藤貞雄 訓菊池實 同佐々木勝雄 專訓野澤カッ 尋訓千枝末三 訓高橋成 尋准小幡ルキ 代森繁子
○大橋尋常小學校
訓長金野九十郎 訓小笠原利雄
專訓千葉ハシメ
(下閉伊郡)
○宮古尋常高等小學校
訓長石川耕一 訓晴山機智雄
同鈴木久哉 同下山義雄 同藤目ヤヘ 同橋場英治 同田鑽勝郎 同山村三郎 同菊池龍子 同小笠原ヒデ 尋訓大内サン

訓高橋秀藏

同上館勝 同松田武夫 同佐々木リツ 同門屋逸郎 同太田金吾 同及川登茂治 同熊谷悅次 同高橋啓吾 同中村一 同藤島忠平 同菅野政直 同永井庄藏 同濱村半藏 同木村尙文 專訓中澤壽人 訓花海キサヨ 同岡田サヨ 同清水ヤエ 尋訓及川清 訓重茂ミヤ 同沼田カチヨ 尋訓天杉てる 專訓鈴木トクエ 代中村トミ 訓高橋時四郎 同村田彌八
宮古分教場
訓菊池五十藏 同鈴木直子 同鈴木光吾 同藤澤宇吉 專訓鈴木カネ
○鉾ヶ崎尋常高等小學校
訓長高橋芳太郎 訓山根吉郎 同鳥畑澄 同館洞福太郎 同神幸平 同佐々木安治 同澤内勇三 同下山巖 同砂子勇平 同金矢克夫 同小丸恒夫 同中島玄同 同本宮正榮 同吉田利夫 尋訓中島三郎 同沼崎秀之助 准訓木村正志 訓熊谷彌生 同阿部春子 同豊川壽子 同山崎フチ 同厚海つる子 同佐藤ト

エ 訓岡田トヨ

同高平愛子
訓季村キヨ 校醫道又元吾
○鉾ヶ崎水産補習學校
助教長高橋芳太郎 教百武クニ 同齊藤アヤ 助教山根吉郎 同鳥畑澄 同岡田トヨ 同熊谷彌生 教岩間直則 助教中居善助 同金澤重兵衛 校醫道又元吾
○山田尋常高等小學校
訓長藤岡悅郎 尋訓佐藤源嗣 訓福士精太郎 同鈴木洋一郎 同佐藤善一 同古館福三郎 專訓川目ミヨ 訓佐々木忠吉 同苗代橋秀志 同鈴木直正 同森目憲一 專訓鳥居新六 訓清水百合子 同竹野サイ 尋訓武藤福壽 同昆悌志 訓關キヨ 同貫洞ミサホ 專訓山崎勝郎 尋訓湊雄一
○山田實業專修學校
校長藤岡悅郎 教菊池辰昭 同郡司機一 同福田誠二 助教鈴木洋一郎 同福士精太郎 助教心佐藤源嗣 校醫松浦敏也
○岩泉尋常高等小學校
訓長田崎清吉 訓鈴木清 同前角地誠 同戸田正志 同高橋芳

教育關係

教育關係

雄 同熊谷一 同和美作太郎  
 同工藤恒三郎 同水野文郎 同佐竹孝道 尋訓竹花武夫 訓田崎ヤヘ 同三上ソメ 同菊池シゲ  
 尋訓山本キヨ 小准三田地フミ 猿澤分教場  
 尋准山本六藏 代山本アキ 本田分教場  
 尋准箱石九助 代箱石シヅ 乙茂分教場  
 尋准箱石文治 代箱石ユウ 月出分教場  
 代加藤正男  
 ○岩泉公民學校  
 校長田崎清吉 助教佐藤榮一 教藤島ミヲ 囃小村清 同佐々木久二 同植村幸徳 助教鈴木清 同前角地誠 同有原信一 助教心佐々木祐次郎 同箱石九助 同箱石文治  
 ○二升石尋常小學校  
 訓長有原信一 同有原ナヲ 松橋分教場  
 尋訓佐々木祐次郎 代佐々木イト  
 ○崎山尋常高等小學校  
 訓長高山松助 同駒木定勝 專訓金森貞 尋准菊池春三郎 箱石分教場  
 尋訓佐藤岩根  
 ○田老尋常高等小學校  
 訓長木村清四郎 訓元田光雄 同田中六之丞 同伊藤勝郎 同越場竹治 同佐々木耕助 尋訓佐々木喜代治 訓岡田フヨ 尋訓竹花敏 同下山喜久子 尋准川上カナ 代木村仁太郎 同赤沼なつ子 同横坂コウ子 末前分教場  
 尋訓大川敏雄 代沼里キヨ 小田代分教場  
 尋准尾張幸之助 代尾張キノエ 攝待分教場  
 尋准江田菊治 代江田ミヨ 烟出張所  
 代三浦長吉 水澤分教場  
 尋准日保田勇 代日保田イス 櫻内分教場  
 尋准坂下平助 代坂下キミ 青野瀧分教場  
 尋准佐々木義雄 代佐々木イホ 校醫佐々木義治  
 ○田老農業補習學校  
 助教長木村清四郎 助教元田光雄 同田中六之丞 教囃佐藤苞  
 ○小本尋常高等小學校  
 訓長佐々木庄次郎 訓小笠原吉見 同堀内喜八郎 尋訓竹花功 訓栗谷川アサ 尋訓池澤政雄 尋准田代ヤス 小准田村アヤ 小成分教場  
 尋准佐々木太郎  
 ○小本實習學校  
 助教長佐々木庄次郎 助教小笠原吉見 同堀内喜八郎 同竹花功  
 ○中里尋常小學校  
 訓長山野目萬之助 尋訓野崎繁雄 同山野目安 校醫城間宏惠 中島分教場  
 尋訓山本彦太郎 代竹花セツ  
 ○小本實習補習學校  
 教長山野目萬之助 助教野崎繁雄 同山本彦太郎 同山野目安  
 ○田野畑尋常高等小學校  
 訓長菅原孫藏 訓新井野松藏 同三船スエ 代長岡善一郎 七瀧分教場  
 尋訓佐藤清治  
 ○羅賀尋常小學校  
 訓長佐々木恒夫 訓大澤雄三郎 訓加藤金吾 代佐々木ハナ 机分教場  
 代中島繁雄  
 ○羅賀水産補習學校  
 校長佐々木恒夫 助教心大澤雄三郎  
 ○鳥越尋常小學校  
 訓長立花大峰 專訓川畑カン  
 ○鳥越水産補習學校  
 助教關口孝平  
 ○沼袋尋常小學校  
 訓長西塔庄太郎 訓西塔カウ 代菊地吉三郎 甲地分教場  
 尋准佐々木定男  
 ○沼袋實習補習學校  
 校長西塔庄太郎 助教館下啓三 同西塔カウ  
 ○濱岩泉尋常小學校  
 訓長石川修司 訓石川ウラ 橋正平  
 ○普代尋常高等小學校  
 訓長大坪豊 訓橋場堅三 同菅原誠 同星山美代 尋訓薄衣議昭 專訓横田平助 尋准關チカ  
 ○堀内尋常小學校

八〇

訓長細越喜一 訓野田口貞男 尋准小野政夫 代細越リウ  
 ○鳥茂渡尋常小學校  
 訓長關仁太郎 訓柴内正雄 代關アサ  
 ○有藝尋常小學校  
 訓長閉伊盛 肘葛分教場  
 代岩淵英男 下有藝分教場  
 准訓岸一男 代岸サタ 鼠入分教場  
 准訓大川柳橋 代大川サタ  
 ○安家尋常高等小學校  
 訓長菊池玉治 准訓菊池チヨセ 代佐々木猛 川口分教場  
 准和山劍次郎 大平分教場  
 代七戸保三  
 ○小川尋常高等小學校  
 訓長齋藤善次郎 訓西井信男 同久保田孝 同千葉芳雄 同内藤ツヤ 小准工藤幸 代工藤千鶴  
 ○門尋常高等小學校  
 訓長中村勇平 訓工藤郡司 同中村吉郎 同馬場登美 尋訓中村タカ 國見分教場  
 代川手幸太郎 同川手ウメノ 三田貝分教場  
 小准竹花剛 尋准竹花ヒデ 中澤分教場  
 代高山隆雄 同高山ウメノ  
 ○大川尋常高等小學校  
 訓長中村中二郎 專訓永澤實則 訓八重樫忠 代中村源太郎 同三田地時郎 代八重樫シヲ  
 ○淺内尋常小學校  
 訓長森目義雄 尋准森目サタ 尋訓田代勝郎  
 ○淺内農業補習學校  
 助教長森目義雄 教師森目サタ 助教田代勝郎  
 ○釜津田尋常小學校  
 訓長藤澤九郎 尋准木村壽雄 代菊池秀男 同福士エイ  
 ○山口尋常高等小學校  
 訓長橋場武二郎 專訓千葉勝雄 訓中島康吉 尋訓鈴木清子 校醫佐々木茂樹 近内分教場  
 代川原田尙城  
 助教長木村清四郎 助教元田光雄 同田中六之丞 教囃佐藤苞  
 ○小本尋常高等小學校  
 訓長佐々木庄次郎 訓小笠原吉見 同堀内喜八郎 尋訓竹花功 訓栗谷川アサ 尋訓池澤政雄 尋准田代ヤス 小准田村アヤ 小成分教場  
 尋准佐々木太郎  
 ○小本實習學校  
 助教長佐々木庄次郎 助教小笠原吉見 同堀内喜八郎 同竹花功  
 ○中里尋常小學校  
 訓長山野目萬之助 尋訓野崎繁雄 同山野目安 校醫城間宏惠 中島分教場  
 尋訓山本彦太郎 代竹花セツ  
 ○小本實習補習學校  
 教長山野目萬之助 助教野崎繁雄 同山本彦太郎 同山野目安  
 ○田野畑尋常高等小學校  
 訓長菅原孫藏 訓新井野松藏 同三船スエ 代長岡善一郎 七瀧分教場  
 尋訓佐藤清治  
 ○羅賀尋常小學校  
 訓長佐々木恒夫 訓大澤雄三郎 訓加藤金吾 代佐々木ハナ 机分教場  
 代中島繁雄  
 ○羅賀水産補習學校  
 校長佐々木恒夫 助教心大澤雄三郎  
 ○鳥越尋常小學校  
 訓長立花大峰 專訓川畑カン  
 ○鳥越水産補習學校  
 助教關口孝平  
 ○沼袋尋常小學校  
 訓長西塔庄太郎 訓西塔カウ 代菊地吉三郎 甲地分教場  
 尋准佐々木定男  
 ○沼袋實習補習學校  
 校長西塔庄太郎 助教館下啓三 同西塔カウ  
 ○濱岩泉尋常小學校  
 訓長石川修司 訓石川ウラ 橋正平  
 ○普代尋常高等小學校  
 訓長大坪豊 訓橋場堅三 同菅原誠 同星山美代 尋訓薄衣議昭 專訓横田平助 尋准關チカ  
 ○堀内尋常小學校  
 託長澤イク  
 ○暮目尋常高等小學校  
 訓長及川儀十郎 訓照井佳七 同佐々木三郎 尋訓新山壽視 同及川サカエ  
 ○腹帶尋常小學校  
 訓長赤沼孝太郎 代赤沼サタ  
 ○刈屋尋常高等小學校  
 訓長男澤利義 訓大星哲也 同小關利治 同菊池義男 尋訓大星ハツ 准訓佐々木ハナ  
 ○和井内尋常小學校  
 訓長高見賢藏 訓阿部忠男 同照井精一 代關口フサ  
 ○川井尋常高等小學校  
 訓長晴山芳男 訓佐々木俊郎 專訓小澤四男 訓佐々木晴 准訓小山眞 同宮守毅 代宮守才 系の  
 ○箱石尋常高等小學校  
 訓長村上貞治郎 訓鎌田昌文 尋訓白間武八郎 同澤田千代見 横澤分教場  
 尋准及川立代治 代橋場キク  
 ○川内尋常高等小學校  
 訓長田代忠藏 訓波岡晋 同加藤春雄 准訓佐藤ヤヨヘ 代佐

教育關係

八一

藤一三

夏屋分教場  
 准訓佐藤幸健 代佐藤チヨ  
 ○田代尋常高等小學校  
 訓長伊藤梅吉 訓藤井ノス  
 門馬分教場  
 准訓日保田殿 代日保田サタ  
 ○小國尋常高等小學校  
 訓長道又雄一 訓菊地高夫 專  
 訓道又ヨシ 尋訓田頭大善  
 大仁田分教場  
 尋准千葉亮壽 代三浦嘉次郎  
 ○江繁尋常高等小學校  
 訓長關口慶三 訓佐々木恒 尋  
 訓高橋小一 尋訓石川ナホ  
 尻石分教場  
 代本堂杵太郎 同小原ヒサ  
 ○磯鷲尋常高等小學校  
 訓長藤根卓爾 訓内田庄助 同  
 晴山トク 同山村四郎 同中村  
 清香 同馬場澄 同粒針盛 同  
 伊東サツ  
 高濱分教場  
 訓奥山ノブ 准訓岩間藤八郎  
 代岩間正三 訓新沼伊勢治  
 白濱分教場  
 訓折笠磨 代折笠テル

○津輕石尋常高等小學校  
 訓長駒井鐵城 訓堀田正郎 同  
 西野定治 同堀田チエ 同相馬  
 計 尋訓盛合タミ 同石村清次  
 尋准田代忠郎 代中島覺壽  
 ○津輕石實業補習學校  
 校長駒井鐵城 助教堀田正郎  
 同西野定治 同堀田チエ 教師  
 千葉守  
 ○赤前尋常小學校  
 訓長齋藤文城 訓小川武司 尋  
 准湊政治 同石村千代 校醫加  
 賀賢次郎  
 ○重茂尋常高等小學校  
 訓長昆清次郎 訓本田富治郎  
 同重茂俊 專訓黑澤美和 尋訓  
 沼里吉一 訓和久日出丸  
 千鶴分教場  
 尋訓昆傳次郎 同盛合惠美治  
 代大下キクノ  
 鶴磯分教場  
 代山内昌吉 同齋藤チヨ  
 川代分教場  
 代菊池正三郎 同菊池シマ  
 ○豐間根尋常高等小學校  
 訓長和山浩二郎 訓伊東榮次郎  
 專訓遠藤文司 訓佐藤正七 同

根子ケイ 同千田勝一 尋訓熊  
 谷了 代堀合クラ 同山家フヂ  
 ○豐間根女子實業補習學校  
 助教長和山浩二郎 助教心堀合  
 クラ  
 ○荒川尋常小學校  
 訓長高津信夫 訓村上芳治 同  
 久保田源左衛門 同鈴木千代  
 ○大澤尋常高等小學校  
 訓長佐々木弘平 訓藤根百代  
 尋訓染田梧樓 尋准一條清 同  
 紺野モモヨ 專訓竹内喜美男  
 ○大澤水産補習學校  
 校長佐々木弘平 助教竹内喜美  
 男  
 ○織笠尋常高等小學校  
 訓長波岡茂樹 訓沼崎德受 同  
 小泉定男 准訓昆順一郎 代昆  
 庸一 訓竹内ハナ 專訓福田ト  
 ヨ 代田代八重 訓佐藤龜一  
 同高橋玉香  
 白石分教場  
 尋訓吉田昌藏  
 ○船越尋常高等小學校  
 訓長鈴木忠二郎 訓齋藤鐵郎  
 專訓朝倉義治 訓奥寺喜三郎  
 同菊池仁 專訓中村ハル 尋訓

伊藤淳一 同昆鐵郎 尋准中村  
 德兵衛 同菊地ツトミ  
 ○船越水産補習學校  
 助教長鈴木忠二郎 助教後藤茂  
 次郎 同齋藤鐵郎 同奥田喜三  
 郎 同朝倉義治 同伊藤淳一  
 同中村德兵衛 同小松功 同根  
 子兵衛  
 ○大浦尋常小學校  
 訓長後藤茂次郎 訓小松功 准  
 訓根子兵衛 同後藤レン  
 (九戸郡)  
 ○久慈尋常高等小學校  
 訓長及川定治 訓橋二郎治 同  
 關孝和 同兼田ツル 同三船ヤ  
 ス 同小田小三郎 同大久保石  
 藏 同欠ノ下由藏 同村田健一  
 尋訓齋藤忠雄 訓晴山和一 同  
 高山要一 同佐藤安 同千葉弘  
 見 同皆川粕造 同昆野常代  
 同三船イソ 同豊口チエ  
 畑田分教場  
 訓宮澤麟太郎  
 ○久慈尋常高等小學校  
 訓長川村善太郎 訓佐々木利男  
 同中野八次郎 同大澤重三郎  
 同橋八千代 同西チヨ 尋訓鈴

木リヤウ 校醫伊藤敏郎  
 ○枝成澤尋常小學校  
 訓長奥寺定邦 代奥寺フカ  
 ○長内尋常高等小學校  
 訓長晴山福一郎 訓砂子由次郎  
 同長内トス 同及川清四郎 同  
 瀧澤賢三郎 代赤塚朋  
 大尻分教場  
 准訓宇部正五郎 代宇部キヌ  
 ○長内農業補習學校  
 助教長晴山福一郎 助教長内ト  
 ス 同及川清四郎  
 ○輕米尋常高等小學校  
 訓長菊池安五郎 訓欠畑猛夫  
 同村田貞行 同三上由藏 同中  
 居四郎 同小野寺平作 尋訓館  
 下勝見 專訓齋藤元 代荒田政  
 四郎 同並岡武男 同梅内圓之  
 丞 訓内澤セキ 同小笠原千代  
 子 同吉田みね 尋訓堀米イシ  
 長倉分教場  
 准訓古里里太 訓久慈福雄 訓  
 齋藤齊樹 同佐藤傳  
 ○輕米實業補習學校  
 助教長菊池安五郎 助教欠畑猛  
 夫 同村田貞行 同中居四郎  
 同内澤セキ 同小笠原千代子

同吉田みね  
 ○高家尋常小學校  
 訓長菅喜三郎 訓島川繁夫 同  
 千葉葛浦  
 ○上館尋常小學校  
 訓長内澤喜一郎 尋訓石田一雄  
 同老藤勇 代山本キヨ  
 増子内分教場  
 訓佐藤正 尋准佐藤信輔 代山  
 本キヨ  
 ○笹渡尋常小學校  
 訓長小野直雄 訓小野テル 同  
 長谷山建一 校醫向井田貞吉  
 ○小久慈尋常高等小學校  
 訓長田口三郎 訓川村源三 同  
 岩間德太郎 同谷地英一 同藤  
 原カツ 專訓豐卷俊夫 尋訓兼  
 田忠三郎 尋准砂子ハル  
 ○宇部尋常高等小學校  
 訓長宇部行一 訓三浦春雄 同  
 宇部秀雄 同千葉義政 同及川  
 アサ 尋訓宮ノブ 尋准淺水一  
 二  
 ○久喜尋常小學校  
 訓長大澤清助 尋訓大橋榮八  
 代大澤キヨ 學校醫高橋正之  
 ○小袖尋常小學校

訓長久慈三男也 代吉田キヨ  
 ○野田尋常高等小學校  
 訓長關良江 訓岩泉慶作 同村  
 田忠雄 同大澤トヨ 同田中文  
 太郎 同石杜勇次郎 同三浦安  
 男 同米内富治 尋訓大澤ヒサ  
 子 訓武田チヨ 尋訓岩間一郎  
 尋准平谷ミヨ 專訓菊地一治  
 横合分教場  
 訓伊藤甚市 代横澤田タカ  
 ○玉川尋常小學校  
 尋長柴田哲郎 代柴田さだ  
 ○戸鎖尋常高等小學校  
 訓長島山國雄 訓淺沼俊二郎  
 代伊藤シモ  
 ○木賣内尋常小學校  
 訓長久慈直江 代久慈テル  
 ○端神尋常小學校  
 訓長田口利平 代田口トキヲ  
 ○深田尋常小學校  
 訓長坂川三太郎 代竹中アヤ  
 ○川井尋常高等小學校  
 訓長中野熊太 訓金澤文男 尋  
 訓虎戸コト 同佐藤重光  
 ○小國尋常小學校  
 訓長齋藤佐藏 訓石田三郎  
 ○霜畑尋常小學校

訓長村田善也 代上有谷ヤイ  
 成谷分教場  
 訓金野正藏 代山崎ヨシノ  
 ○戸呂町尋常小學校  
 訓長大村次明 訓山内久志 代  
 大村ソノ  
 ○鑿尋常小學校  
 訓長大崎甚五郎 代大澤四郎  
 同大崎ソノ 學校醫古川小寅  
 ○日野澤尋常小學校  
 訓長千葉泉 代千葉ちよ  
 ○荷輕部尋常小學校  
 訓長近藤安六 訓川村新八郎  
 代近藤ハツ  
 來内分教場  
 准訓佐藤長之助  
 ○大川目尋常高等小學校  
 訓長佐々木喜一 訓佐藤莊治  
 代佐々木平松 訓三船チヨ  
 根井分教場  
 代村田專太郎 同村田キク  
 ○山口尋常小學校  
 訓長三船樹治 訓梅津寛 同大  
 富文代 校醫伊藤敏郎  
 ○夏井尋常高等小學校  
 訓長嵯峨勇三郎 代海邊政章  
 同長村岸 訓瀬川七三男 校醫

教育關係

伊藤敏郎  
 ○川代尋常小學校 訓長主濱與市 代主濱ヨシ  
 ○平山尋常小學校 訓長橋本文次郎 專訓中村四郎  
 訓伊藤富美 准訓晴山良一  
 ○侍濱尋常高等小學校 訓長佐々木尙岡 訓上沖豐三郎  
 同大澤勝郎 同嵯峨政雄 同笹川君子 同山本ノブ  
 ○侍濱農業補習學校 助教長佐々木尙岡 助教嵯峨政雄  
 ○麥生尋常小學校 訓長菊池榮太郎 代森岩善次郎  
 同菊池イト  
 ○中野尋常高等小學校 訓長菅原正 訓宮古安雄 同漆澤榮 同久慈榮輔 同山火信一郎 同伊東千代子 同菅原壽江 代柴田ツヤ  
 ○小子尋常小學校 訓長安田誠二 訓飯塚岩男 同皆川ツサ 校醫島崎貞  
 ○種子尋常小學校 訓長下町七之藏 訓小田島哲夫 同笠水上軍次郎 同吉田耕一郎  
 專訓奧傳三郎 訓中目兵次 同小山和子 同金田一イシ  
 ○平内尋常小學校 訓長菅原寛造 訓小倉義尊 訓日ノ澤圭一 訓猪原ツエ  
 ○平内農業補習學校 助教長菅原寛造  
 ○角濱尋常小學校 訓長皆川啓藏 訓佐々木正男 同皆川スグ  
 ○角濱農業補習學校 助教長皆川敬藏  
 ○城内尋常高等小學校 訓長内澤喜祖治 訓名須川三郎 同城戸トモ 專訓惡原喜一  
 ○大和尋常小學校 訓長金野敬佐 代三川ミサヲ  
 ○宿戸尋常高等小學校 訓長羽行常雄 訓田村義郎 同小原富太郎 專訓高橋守郎 訓安藤清藏 同海邊マサヲ 中村フク 校醫橋本照治  
 ○宿戸農業補習學校 助教長羽行常雄 助教安藤清藏  
 ○大野尋常高等小學校 訓長北田政太 訓下大澤要吉 專訓大原重業 訓成田忠夫 同  
 皆川正志 同田高二郎 同上口キク 同穴戸ツギ 准訓山崎キソ  
 ○林郷尋常小學校 訓長奧寺祐三 專訓柏木岩吉 代奧寺タケ  
 ○帶島尋常小學校 訓長高橋榮一 訓高橋ミキ  
 ○水澤尋常小學校 訓長高山幸吾 訓高山タイ  
 ○向田尋常小學校 訓長小野寺政男 代柏木義雄 同小野寺ユリ  
 ○小輕米尋常高等小學校 訓長大光成五郎 訓吉田留吉 專訓坂本喜平治 代村田君子  
 ○小輕米農業補習學校 助教長大光成五郎 助教吉田留吉 助教心坂本喜平治  
 ○圓子尋常高等小學校 訓長村田貞藏 專訓本館文三 訓林健治 專訓久慈要三 代沼田正 同佐藤ユキ 訓佐々木亮三郎  
 ○小玉川尋常小學校 訓長宮本和合 准訓中村リヤウ  
 ○米田尋常小學校 訓長山田久賢 訓山田ミサヲ 代兼田直榮  
 ○晴山尋常高等小學校 訓長及川三郎右衛門 尋訓小澤清治 代菅リツ  
 野場分教場 代本多鶴次郎 同本多モト  
 ○晴山農業補習學校 助教心小澤清治  
 ○觀音林尋常高等小學校 訓長岡本英一 訓本田利吉 同岡本トク 代古里七郎  
 ○觀音林農業補習學校 校長岡本英一 助教本田利吉 同古里七郎  
 ○山内尋常高等小學校 訓長晴山誠孝 訓梶田養助 梶田ヒサ 尋訓小笠原勝郎 專訓十文字熊吉  
 大清水分教場 尋訓黑澤壽郎 准訓金原金五郎 代瀧澤ハナエ  
 ○江刺家尋常高等小學校 訓長前田禎伍 訓近藤新吉 同沼館トク 尋訓佐々木由太郎 代内田稔 訓坂川善之助

教育關係

細屋分教場 尋訓小野寺幸三  
 ○江刺家農業補習學校 教長前田禎伍 助教近藤新吉 助教心小野寺幸三  
 ○伊保内尋常高等小學校 訓長小原悟 訓浦部勝三 同大崎禎吉 同小野寺義孝 同小原ミノル 同太田代ツヨ 尋訓澁川養藏 代坪政榮 校醫川口與四郎  
 ○伊保内農業補習學校 教長小原悟  
 ○長興寺尋常小學校 訓長千葉四郎 訓村田正一 同工藤ユキ  
 ○宇堂口尋常小學校 訓長阿部種藏 訓小野寺勝 代小原貞  
 ○戸田尋常高等小學校 訓長讓原善太郎 訓戸田忠臣 同外館理平 同及川卯三郎 專訓下大澤サタ  
 山根分教場 訓佐藤タヨ  
 ○戸田農業補習學校 助長讓原善太郎 同戸田忠臣  
 ○葛卷尋常高等小學校 訓大澤耕作 訓佐々木剛一 同河野潔 同久慈三郎 同西田伴次郎 同佐藤惺 同高橋圭助 同永井光治 同久慈直一 尋訓三浦克也 訓大澤イセ 同鴨川九二井 同阿部みつ 尋訓府金トミ  
 星野分教場 尋訓吉田三郎 代久保弘勝 同馬場さよ  
 吉ヶ澤分教場 准田村元吉 代田村泰子  
 ○小田尋常小學校 訓長遠藤慶治 訓三浦不二雄 代兼田マツ  
 ○小屋瀨尋常小學校 訓長田口勇次郎 訓龜田幾子 尋訓小野寺民次郎 尋准佐藤三郎  
 ○江刺尋常高等小學校 訓長吉田秀雄 訓島山良七 尋准岩泉浩太郎 專訓伊藤モリエ 尋訓柏原盛治 尋准鎌田清之進  
 ○五日市尋常高等小學校 訓長中野國太郎 訓小向一三 同石川勤 同新井野豊吉 准訓  
 中野キヨ 代遠藤像八 馬淵分教場 准訓大平三三 專訓松坂ワカ  
 (二戸郡)  
 ○福岡尋常高等小學校 訓長千葉宗一郎 訓及川庄三郎 同瀨川勇吉 同上原孝司 同佐藤松秀 同金森良雄 同宮野テイ 同南館省一郎 同梁田喜一 同高橋岩松 同杉田アサ 同小倉イワ 同小坂謙 同中村ツヤ 同内藤けい 專訓石村マツ  
 訓菊池誠 同菅野千代子  
 ○一戸尋常高等小學校 訓長松野一郎 訓佐藤長次郎 同田中金作 同菊池精一 尋訓田村治三郎 訓佐々木重郎 同松本五郎 同梅垣久 尋訓菊池正己 代鹽谷初太郎 同田頭惣一郎 同山崎政雄 訓星山トシ 同及川ノブ 同平野雪子 同相馬スエ 訓金子君江 尋訓羽田ナホ 訓昆ミエ 同大西タカ 同木村良俊 同山本ハツヨ  
 ○一戸家政專修學校 訓長教長松野一郎 囑託教師田頭嘉二郎  
 ○堀野尋常小學校 訓長小野有三 小准高屋喜美  
 ○仁左平尋常小學校 訓長高橋留三郎 訓菅原孝 同井上仁郎 代高橋ミサホ 同武田善一  
 大萩野分教場 訓目時定一 代佐藤ツル  
 ○仁左平農業補習學校 教長高橋留三郎  
 ○坂本尋常小學校 訓長小山茂樹 專訓小山トメ  
 ○白鳥尋常小學校 訓長荒田秀次郎 專訓荒田ナミ  
 ○白鳥農業補習學校 助教長荒田秀次郎 校醫國香幾太郎  
 ○金田一尋常高等小學校 訓長菊池節太郎 同平昌治 同高橋清一 同關本ヨシノ 同千葉長治 同駒ヶ嶺健三 同和山喜一 同戸田キクノ 同小川チヨ 代佐藤孝一 同千葉盛  
 野々上分教場 尋訓小野達雄 代玉懸ミホ  
 ○長川尋常小學校 訓長小山田善吉 訓田村幸次郎

教育關係

專訓黑澤睦子  
 ○釜澤尋常小學校  
 訓長佐藤源八 訓佐藤トミエ  
 舌崎分教場  
 訓高橋堅三 同高橋ハギ  
 海上分教場  
 准訓瀨澤堅護 代國分エキヘ  
 ○上斗米尋常高等小學校  
 訓長坂本省三 尋訓工藤省吾  
 訓松田チヨ 代山田實  
 川代分教場  
 准古館善太郎 尋准太田タイ  
 根森分教場  
 代齋藤本治 同稻葉リセ  
 ○下斗米尋常小學校  
 訓長柴内八郎 尋訓沼田俊三郎  
 專訓十文字トミ  
 金田一川分教場  
 尋訓太田原儀助 尋准太田原イ  
 キ  
 ○石切所尋常高等小學校  
 訓長江六前常吉 訓佐藤松次郎  
 同十文字儀勝 同平茂次郎 同  
 國分キミ 同小川ハナヨ 同山  
 本ミツ 同淺倉圭治 准訓佐藤  
 權太郎 准訓佐藤忠功 校醫矢  
 野正生

○鳥越尋常小學校  
 訓長江六前正人 訓佐々木龜三  
 郎 准訓江六前トメ 代久慈サ  
 ヲ  
 ○檜山尋常小學校  
 訓長掛川孝平 訓高瀬勇藏 同  
 掛川トミ子  
 ○來田尋常小學校  
 訓長小野寺一二 教員田畑ミネ  
 ○岩館尋常小學校  
 訓長今野國雄 訓藤原英雄 同  
 今野チヨ  
 根反分教場  
 代竹澤德藏 同松浦ツル  
 ○中里尋常小學校  
 訓長田口圓之助 專訓今野ミサ  
 フ 代館定一  
 ○鳥海尋常高等小學校  
 訓長菅原采男 訓菊池虎太郎  
 同沼田ミチヨ 專訓岩城政行  
 ○出ル町尋常小學校  
 訓長小野信一 尋准佐藤實吉  
 專訓石輪イヨ  
 ○小友尋常小學校  
 訓長堀込俊夫 訓春日川繁治  
 同堀込フミ  
 ○女鹿尋常小學校

訓長菊池龜之助 專訓橋合孝吉  
 訓關ヨシノ  
 ○女鹿農業補習學校  
 教長菊池龜之助 助教橋合孝吉  
 同關ヨシノ  
 ○小島谷常尋高等小學校  
 訓長林源三 訓佐藤源三 同本  
 堂フミ 同木内武夫 同中島太  
 藏 同山火敬次郎 同坂本喜代  
 目 同小田島マサ 同田中館ハ  
 チエ 同外岡トシエ 尋訓中村  
 勝造  
 小繫分教場  
 准訓戸田忠彦 代駒木トヨミ  
 校醫齋藤源一郎  
 ○奥中山尋常小學校  
 訓長竹田龜治 訓森勝實 同下  
 村キミ  
 中山分教場  
 訓秋濱みつ 尋准秋濱三郎  
 字別分教場  
 代平栗澄 同澤口キヨ  
 ○平棟小學校  
 訓長小野正人 尋訓角掛健吾  
 專訓小野トヨ 代西堀岩松  
 ○姉帯尋常小學校  
 訓長菅野晋助 訓菊池盛 同神

八六  
 山トミ 同菅原實 代菅野トキ  
 フ  
 面岸分教場  
 代神永千太郎 同戸來ニヨ  
 ○冬部尋常小學校  
 訓長觸澤德三郎 訓遠藤善次郎  
 同小原盛 代平野ソメ 同中野  
 三五郎  
 ○田野尋常小學校  
 訓長河東田五右衛門 訓八重樫  
 留治 代觸澤カヲリ  
 ○御返地尋常高等小學校  
 訓長田口雄楠 訓五日市喜久雄  
 同逸見十郎 專訓山火ヒサ 訓  
 照井澄ノ 同安部アイ 同猿館福  
 美  
 似鳥分教場  
 訓佐竹俊一  
 福田分教場  
 訓稻田清志  
 足澤分教場  
 訓田村哲郎 代足澤イト  
 山田分教場  
 訓齋藤嘉一郎  
 ○淨法寺尋常高等小學校  
 訓長竹内次郎 訓駒嶺正 同太  
 田隆吉 同菅原武 同荻川コミ

同工藤廣 同吉成ハルエ 同槻  
 館清吉 同伊藤亮一 同八幡ト  
 七  
 太田分教場  
 專訓吉田義一 同菊池克惠  
 ○淨法寺農林補習學校  
 長教竹内次郎 助教駒嶺正 同  
 菅原武 同吉田ハルヨ 教伊藤  
 一亮 同八幡トセ 囑託小田島  
 閑二  
 ○岡本尋常小學校  
 訓長坂本末藏 訓一條雄 同吉  
 田イセ  
 ○川又尋常小學校  
 訓長戸來眞 代戸來レイ  
 ○大嶺尋常小學校  
 訓長小田島雷太郎 訓八重樫文  
 次郎 同市川ツネ 同渡邊ツマ  
 尋訓菊池誠二  
 ○港岸尋常小學校  
 訓長佐藤一造 訓市川孝造 尋  
 准佐藤吉藏 專訓生出こはる  
 ○荒屋尋常高等小學校  
 訓長若松德四郎 訓關誠一 尋  
 訓伊澤潤次 訓佐藤三右衛門  
 同五日市忠 同長谷山松也 同  
 志久内シマ 專訓中村ナカ 尋

准關サタ 訓大川伸一 同菅原  
 誠一 代勝又雄一郎 同大森チ  
 エ  
 ○荒澤農業補習學校  
 教員ミサヲ  
 ○畑尋常小學校  
 訓長伊藤藤吉 訓伊藤ツネ 同  
 玉川茂 同高橋勘三 同小堀喜  
 久男 代中島太三郎 同齋藤ミ  
 ヤ  
 ○田山尋常高等小學校  
 訓長小澤寛平 訓今淵勇 同花  
 籠寛一 同米川明子 尋訓小笠  
 原義美 尋准小澤サカ 代田村  
 幸雄 訓千葉憲雄  
 兄畑分教場  
 訓菅原勇 專訓澤整 同澤勇子  
 日泥分教場  
 尋訓小原繁見

林野關係  
 帝室林野局東京(盛岡市日影)  
 支局盛岡出張所(門外小路)  
 所長 從七勳八 高田 覺三  
 技手石川大介 同山田辰秀 同  
 佐賀五代吉 同田中巖 同船  
 尙志 同武居喜太郎 同佐藤享

一 同小幡栄一 同酒井源一  
 同的場三郎 同石坂彌四郎  
 雇板垣秀雄 同關口源兵衛 同  
 越口章三 同山田義三郎  
 ○久慈營林署(九戸郡久慈町)  
 署長營林署技手 鳥海 弘次  
 內務主任 笹 勝男  
 營林署主任 菅原 佐平治  
 收獲主任 又野 康秀  
 造林主任 囑託 小野 三千男  
 造林員 伊藤 敏明  
 近藤 四郎  
 久慈擔當 森林 鎌田 賢  
 區詰員 主事 村田 耕作  
 侍濱同 同 中野 定五郎  
 霜畑同 同 岩淵 文雄  
 戶鎖同 同 奥寺 留吉  
 野田擔當 雇 奥寺 留吉  
 區補助

沼宮內營林署  
 (岩手郡沼宮內町)  
 署長 營林署山林事務官  
 正七勳七 尻谷 源治郎  
 內務主任 正八 淺利 萬作  
 營林署屬 勳八 秋元 左右次  
 營林署技手

收獲主任 同 小松 六郎  
 斫伐主任 同 野原 正勝  
 雇內務 同 熊谷 一郎  
 同斫伐 同 相馬 力太郎  
 同寄木擔當區補助 同 古屋 半介  
 同斫伐 同 武石 光男  
 同收獲 同 澤口 慶藏  
 同造林 同 北本 兼松  
 同中山擔當區補助 同 安食 巖  
 同收獲 同 府金 佑吉  
 同內務 同 木村 竹次郎  
 擔當區  
 沼宮內第一 森林主事  
 竹谷 金四郎  
 同 第二 竹谷 金四郎  
 大 更 營林署屬 小岩 佐與治  
 田 頭 營林署屬 小岩 佐與治  
 寄 木 森林主事 鈴木 彦三郎  
 松 尾 同 鈴木 彦三郎  
 寺 田 同 鈴木 彦三郎  
 畑 同 武川 榮三郎  
 荒 屋 同 樋口 保次  
 淨法寺 同 齋藤 謙三  
 小島谷 同 平石 鶴治  
 中山 同 竹谷 金四郎  
 ○宮古營林署

八七





林野關係一郵便局一鐵道關係

農林省種馬育成所 (岩手郡瀧澤村)

所長 大友 和義
技師 陸軍騎兵大佐 敬二
從四勳三功五 佐原 敬二
庶務係 屬三 勳七 相田 多一郎
雇月七五 千葉 龜一
同月五五 池田 勇
醫務係 屬正六勳六 一戸 謙次
育馬係 技師 村山 豐 同横山 兵
司 同井上 征五郎
助手 兒見山 實 遠藤 作太郎 山
本治夫 林田 親男 宮澤 雄治
横山 正男 吉田 子之助 及川 傳
吉 佐久間 辰三
囑託員 瀨戶 善夫
耕作係 技師 石田 計敏
助手 門馬 二三
○岩手種馬所 岩手郡厨川村
所長 種馬所技師 三等級 岡村 貞二
正五勳五 戶島 音人
庶務係 種馬所屬 田口 助太郎
種馬係 種馬所 佐藤 新三郎
種馬所技師 勳六 赤塚 勝一

郵便局

○仙臺遞信局(仙臺市)
局長 正五勳四 安光 元一
○盛岡郵便局
局長 通信事務官 磯野 直孝
兼遞信局 七等級 磯野 直孝
事務官 從七勳八 伊藤 信明
通信書記 主事兼監査員三級 從七勳八 伊藤 信明
主事 八重樫 保衛
同 兼監査員 赤澤 正次郎
同大島 寅之丞 同公木 平仁太郎
同佐々木 佐次郎 同佐々木 耕次郎
同本多 賢三 同岩根 謹太郎
同(兼遞信局書記)工藤 信 同大里 俊郎 勳七 吉田 與五郎 藤村 政次郎 遠畑 政吉 加藤 哲郎 久喜 寅太郎 川村 忠 清水 春治 大澤 正助 菊池 長壽 長岡 一 岡本 眞輔 通信技師

鐵道關係

○仙臺鐵道局(仙臺市)
局長 正五勳四 木村 芳人
○鐵道省盛岡建設事務所
所長 技師 從五 長 屋 脩
三等一級 從五 長 屋 脩
技師 從五 長 屋 脩
三等四級 從五 千葉 菊太郎
三等五級 從五 岩崎 憲吾
屬二級 從七 佐藤 太郎
三級 正八 進藤 勝四郎
四級 石澤 清
五級 野原 信
五級 三島 源次郎
五級 石井 毅
五級 落合 武雄
五級 藤澤 三郎

九〇

擔當主任 小林 太一
遞信局技師 高橋 初五郎
遞信局技師 横山 定雄
遞信局技師 椎名 隆治
遞信局書記補 咲山 通直
長内ニキ 名郷根清 松本忠吉
藤澤五郎 櫻田專太郎 桑原慶太郎 横澤專三郎 高木仁 高橋善助 久保田武 八木良吉 八重樫功 市原知臣 古館武吉 澤口博 杉本喜助 菅原守雄 (兼)遞信局書記補清水誠一 佐々木久一郎 刈田富士雄 沼田騎 菊地作十郎 八重畑吉太郎 齋藤治右衛門 大洞又右衛門 開米次郎 鈴木寛二 小關豐 板橋安藏 工藤克郎 宮田辨五郎 工藤與久 今廣正 小野寺誠夫 齋藤夏乃 大矢正 富田幸一 田中館德藏 戶島千秋 井藤友吉 菊地榮一 阿部留五郎 菅野哲男 囑託員講師 無給 工藤 ミツ 醫師月手當三〇 工藤 全次郎 無給 宮城 一志 ○盛岡電信電話技術官駐在所 盛岡區(岩手縣内)

六級 戶田 清一
六級 田畑 留五郎
六級 大八木 茂三郎
月七一 今村 義郎
月七二 黑崎 十太郎
月七三 佐々木 善八
月七四 前澤 德太郎
月七五 須賀 芳政
三級 穴戶 忠雄
三級 本多 毅夫
三級 松本 良行
三級 遠藤 宗治郎
三級 三浦 義雄
三級 村岡 環
三級 安田 新
三級 今井 喜次郎
三級 淺原 重壽
三級 一條 修治
三級 工藤 嘉一郎
三級 岩崎 準一郎
三級 福井 亮三
三級 齋藤 源三郎
三級 小磯 小四郎
三級 福永 雅美
三級 中井 廉
三級 今岡 鶴吉
三級 川島 曾三郎

鐵道關係

正八 齋藤 良太
玉澤 佳太郎
高木 彌三郎
澤井 壯夫
星 安藏
赤坂 德三郎
吉田 元治
鐵道手 佐々木 棟一郎 篠田 藤十郎
○一ノ關支所(仙臺車掌所)
助役 書記六 佐々木 米吉
同 書記月七二 湯山 忠
車掌(運轉)鐵道手鈴木政藏 同板橋多利藏 履星四郎 同武田勢治郎 同菅原直美 同黑澤哲同木村善治 同鈴木太吉 同小野寺富吉 同中館春吉 同新妻勳 同今野正 同佐藤一夫 同熊谷新助 同岩淵貞男 同早坂磨 同鈴木正美 同三神備誠 同高橋直治 同生龜太 同千葉幸一 ○花泉驛(仙運管)
驛長 書記五 上村 正
助役 書記月宅 古山 武夫
出札掛兼電信掛、運轉掛

佐藤 三男藏
高橋 誠一
高橋 宗吾
阿部 德左衛門
遠藤 藤七
谷津 朝見
青木 弘幹
佐々木 保之助
新妻 鐵郎
喜悅 同治
履高橋 喜悅
同佐藤 德平 同千葉 貞雄 同倉元 同野田 潤
改札掛 履齋藤 勇 同佐藤 萬次郎
小荷物掛 履水谷 巳之藏 同吉岡 哲夫
貨物掛 書記犬飼 忠 同栗野 晃 同姉齒 輝夫 同小野 寺親平 履佐々木 榮 同小宮 山平治 履驛務助手 履高橋 直重 同三浦 初男
運轉掛兼助役 書記伊藤 祐雄
車號掛 鐵道手 佐々木 貞七 同小松 清藏 履千葉 廣治 同蘇武 清一

九一

操車掛兼運轉掛 履小野寺 卯三郎
同須藤 與惣治
操車掛 履熊谷 養四郎 同阿部 市治 同佐藤 繁穗 同阿部 長治
信號掛 鐵道手 千葉 龍平 履蜂谷 武雄 同鈴木 政雄 同佐々木 重造 同木須 忠之丞 同熊谷 吉雄
驛手世話役 履小原 久馬
警手 履鈴木 巳代藏 同千葉 辨志治
驛手 履小畑 末吉 同鈴木 正吾 同菅原 辨治
荷扱手 履 佐藤 卯一
轉轍手 履原田 惣之進 同千葉 長作 同三浦 松四郎 同小岩 諫 同鈴木 清三郎 同佐々木 元市 同立木 末治 同菅原 勝治 ○山ノ目驛
驛長 書記四 阿部 勘三郎
助役 書記月七 小黒 保治
出札掛 履 餘目 盛
轉轍手 履勳八 伊藤 源作 ○平泉驛
驛長 書記五 鈴木 木 開
助役 履月五三 山田 龍 勇

鐵道關係

出札兼掛電信掛、運轉掛 林 用助  
 出札掛兼 千葉 繁雄  
 電信掛 千葉 健作  
 轉手兼 千葉 亮奏  
 轉手 藤里 亮奏  
 ○前澤驛 丹野 輝雄  
 驛長書記六 菅原長之進  
 助役履月五六 運轉掛  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 齋藤 秀策  
 同 齋藤 齊  
 轉手 岩淵 小太郎  
 同 木村 久吉  
 ○真瀧驛 山 眞三  
 驛長 書記五 中 眞三  
 出札掛兼豫備 引地 文雄  
 助役 履月五七  
 ○陸中門崎驛 八木 恭策  
 驛長 書記五 千葉 重雄  
 豫備助役 履月五 千葉 重雄  
 ○陸中松川驛 鶴沼 直重  
 驛長 書記四 佐々木 清松  
 轉手 伊藤 溫治  
 同 伊藤 溫治  
 ○摺澤驛 鈴木 吉郎  
 驛長 書記五 鈴木 吉郎

出札掛兼電信掛、豫備助役 金野 利次  
 貨物掛 千葉 正志  
 ○千厩驛 藤橋 伊太郎  
 驛長 書記五 川村 昇二  
 豫備助役履月六 川村 昇二  
 出札掛 齋藤 善一  
 出札掛兼 佐々木 興藏  
 電信掛 高橋 謙  
 ○小梨驛 猪狩喜久之助  
 驛長 書記六 小野寺 德兵衛  
 轉手 永澤 耕哉  
 ○矢越驛 三好 成巳  
 驛長 書記五 永澤 耕哉  
 ○折壁驛 小野寺 德兵衛  
 驛長 書記五 永澤 耕哉  
 豫備助役 三好 成巳  
 書記月六四  
 ○一ノ關機關庫 主任 技手三 牧野 榮四郎  
 助 役 熊谷 貞治  
 書記五 鈴木 清八  
 技手三 林 伊重郎  
 技手四 同小野寺 直  
 事務員 履本宮 一  
 見 同松谷 榮治  
 技術員 技手 相澤 勝三郎  
 機關手(庫内勤務)

鐵道手橋本正治 同遠藤善助  
 履佐藤直治  
 機關手  
 技手千葉慶之助 同千葉幸一郎  
 同小岩繁太郎 同穴戶義治 同  
 及川堅夫  
 鐵道手及川貞吉 同佐々木定治  
 同菅原直三郎 同小島寅治  
 同吉田耕介  
 履齋藤 同千葉西吉 同石川  
 常一郎 同細川幸作 同菅原辰  
 造 同佐々木和平 同小野寺 政  
 雄 同積田三鬼之進 同高橋 高  
 志 同熊谷新次郎 同岩淵儀四  
 郎 同伊藤七夫 同大和金之助  
 同小野寺竹治 同熊谷惣一郎  
 同阿部金藏 同小野寺 芳美 同  
 村上喜與男 同阿部健吉 同中  
 川房雄 同針生善六 同高倉隆  
 幸 同小野寺右左美 同千葉誠  
 同阿部盛吾 同中野 一 同石川  
 源一郎 同齋藤福喜 同江本清  
 久 同本田優允 同高橋敏雄  
 同門馬富代 履 阿部 助壯  
 機關手見習 履 阿部 助壯  
 機關助手 履 阿部 助壯  
 履吉田四郎 同佐々木幸治郎

同豐村豐實 同本田英吾 同小  
 岩弘 同菅原貞次郎 同小山儀  
 一郎 同千葉喜男 同千葉啓  
 同佐藤汀 同千葉義男 同阿部  
 慶治 同菅原忠雄 同及川昌三  
 同吉田正治 同鈴木長治郎 同  
 小林章介 同佐々木直一 同菅  
 原懿 同三浦吉藏 同清水井好  
 雄 同永井登 同小原金次郎  
 同永野義男 同菅原善八 同土  
 居四一 同鈴木松之進 同千葉  
 敬之 同千葉章三 同小野寺新  
 一 同小野寺勝雄 同佐藤淺吉  
 同大宮圓治 同狩原貞雄 同渡  
 邊七 同那須勇  
 機關車検査掛  
 技手阿部定吉 同飯塚元治 同  
 長田官次 同藤秀雄  
 機關車検査掛助手  
 鐵道手佐藤勇男 履菊池善見  
 倉庫手 履鈴木重太郎 同千葉  
 清吉  
 合圖手 履伊藤惣太夫 同千田  
 榮治 同増子庄藏  
 諸機運轉手 履日野利一 同佐  
 藤寅治郎 同菊池武夫  
 炭水手世話役 履阿部馬吉 同

鐵道關係

小岩慶四郎  
 技工長 鐵道手 金子 今朝吉  
 技工 履櫻庭治左衛門 同福本石  
 五郎 同増田伊七 同佐藤重助  
 同千葉榮男 同田中正治  
 ○盛岡運輸事務所  
 (盛岡市下厨川字中川原)  
 所長 技師 四等四級 敏雄  
 正六勤六 高田 敏雄  
 庶務掛  
 主任書記一從七勤八藤原 純三  
 書記平出將三 同佐々木幸次郎  
 同瀨川喜代治 同花田新吉 同  
 津輕石小太郎 同原田耕一 同  
 齋藤喜之丞 同大山三三郎  
 鐵道手 富岡吉右衛門  
 事務履米澤末吉 同國井榮三郎  
 同高橋倉太郎 同平野健太郎  
 同川村光造 同市川俊男 同小  
 林廣  
 自動車運轉手 履谷水 德治  
 機關方 履 熊谷 熊太郎  
 守衛 履佐々木吉太郎 同太田  
 三之助  
 營業掛  
 主任書記 三 上野 半次  
 書記藤田恒幸 同長野榮治郎

同鈴木市治 同米田八郎 同伊  
 東誠 同都谷森正吉 同梅森光  
 同重石勝衛  
 事務履 橋信夫 同佐藤均  
 運轉掛  
 主任 技手一 中 島 眞  
 書記紺野政路 同長澤吉太郎  
 同太田一男  
 技手近藤智夫 同今井春雄 同  
 工藤久治 同(兼)渡邊清右衛門  
 事務履 小坂敬吉 同熊谷秀一  
 經理掛  
 主任書記二勤七 板橋 九十郎  
 書記大金昇次郎 同八重樫三郎  
 同小針久吉 同眞田壽 同豊田  
 竹司 同松田正夫 同(兼)源間  
 武雄  
 事務履 高木專二郎 同高谷三  
 九郎 同佐々木平八 同高橋孝  
 雄  
 ○盛岡車掌所  
 主任 書記三 山内 福松  
 助役書記月七三 田中 良雄  
 同 七 村上 權三郎  
 同 月六一 勤八 金田 兼藏  
 車掌(内勤)履鎌田元三 同新山  
 重兵衛

車掌(運轉) 書記 山口廉 履菅  
 原清三郎 同宮勇次郎 同田中  
 好喜 同竹澤浩 同黒澤忠雄  
 同川上浩四郎 同工藤祐雄 同  
 小笠原其助 同高原孝次郎 同  
 白澤喜平治 同吉田傳次郎 同  
 高橋千英 同阿部德三郎 同田  
 村市太郎 同戸來俊平 同小山  
 田清 同多田義隆 同猪原吾郎  
 同菊池金良 同千田喜代治 同  
 菅野二郎 同長澤覺兵衛 同小  
 原勉一 同鈴木善次郎 同甲斐  
 吉伊 同藤本利貞 同金田一義  
 雄 同小原吉郎 同田鑽久策  
 同佐々木武男 同宮野甚右衛門  
 同川崎邦義 同戸塚甚三郎 同  
 江戶義雄 同谷藤清 同奈良新  
 藏 同佐藤卓郎 同五日市八兵  
 衛 同熊谷修武 同高村正夫  
 同高橋喜雄 同澤田米次 同五  
 日市定七 同鈴木時雄 同佐藤  
 德之進 同萩野謙造 同小野寺  
 秀三郎 同藤原富彌 同小野寺  
 豐  
 車掌(荷扱)  
 書記神練兵 鐵道手川村政治郎  
 同 一戸昌壽 同阿部國治 履

千葉芳見 同菊池末吉 同晴山  
 美三郎 同駿河允 同鎌田重兵  
 衛 同山川榮藏 同猪股善太郎  
 同阿部藤治 同平澤襲之助 同  
 齋藤庄太郎 同杉山一郎 同田  
 中館利三  
 ○陸中折居驛  
 驛長 書記四 坂本 菊雄  
 助役 履月五二 佐々木 市助  
 驛手兼運轉掛 履 青沼 大吉  
 驛手 履 小原 正道  
 轉手 履 及川 市吉  
 運轉掛  
 ○水澤驛  
 驛長 書記二 野田 金次郎  
 助役 書記六八 佐々木 德彌  
 同 七 桃井 三太郎  
 豫備助役 竹村 直七  
 出札掛兼電信掛、運轉掛  
 履 佐々木久助 同佐藤勝雄  
 出札掛兼 履 佐藤 久雄  
 電信掛 履  
 改札掛兼出札 履 千葉 謙二  
 掛 履 萩原市右衛門  
 小荷物掛 履 八木澤茂助  
 貨物掛 書記 履 阿部 市太郎

鐵道關係

驛務助手 雇 大和 之夫  
 驛手 雇 小原 勇一  
 轉轍手 雇 小野寺金四郎 同金田富造 同萩原永四郎  
 ○金ヶ崎驛  
 驛長 書記四 小林 直吉  
 助役 雇月五三 小櫻 中藏  
 驛手兼運轉掛 雇 大庭 覺之丞  
 同 坂田 則治  
 轉轍手 雇 伊藤 太己治  
 ○三ヶ尻信號場  
 驛長 書記月七二 高柳 俊造  
 助役 雇月五三 柴山 武雄  
 ○黒澤尻驛  
 驛長 書記二動八 山口 良助  
 助役 書記月六七 後藤 助七  
 同 月六六 藤原 鐵郎  
 豫備助役 書記六 村岡 善助  
 雇 月四九 工藤 善助  
 出札掛兼電信掛 雇 藤島 末治  
 雇 菊池文治 同小岩忠一 同伊藤金次郎  
 改札掛兼出札掛、電信掛 雇 小菅 幸藏  
 小荷物掛 雇 高橋 德四郎  
 貨物掛 鐵道手 佐藤 重次  
 驛務助手 雇 藤田善五郎 同高橋貞  
 車號掛 鐵道手 小林 善吉  
 雇 鐵道手 工藤 權次郎  
 操車掛 鐵道手工藤雄三 雇種市愛吉 同瀧村專藏  
 信號掛兼運轉掛 雇 田中富藏 同熊谷春男  
 電話掛 雇 工藤イソ 同佐藤タダ 同及川ムメ 同和田ヒサ  
 警手 雇 高橋 清一郎  
 轉轍手 雇 阿部治郎七 同八重樫久太  
 ○村崎野信號場  
 驛長 書記六 佐々木長太郎  
 助役 雇月五二 木村 正美  
 ○花巻驛  
 驛長 書記二 島村 定  
 助役 書記月六八 松本 哲男  
 雇 月五九 倉成 敬之助  
 豫備助役 雇月三 金子 寅次郎  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 雇 佐藤盛兒 同五十嵐與惣治  
 改札掛兼電信掛 雇 高橋純治 同久保木孟雄  
 小荷物掛 雇 小松田守次郎  
 雇 岸根萬次郎 同砂金 令幸  
 貨物掛 書記 同佐々木卯吉  
 雇 佐藤新一郎  
 驛務助手 同中塚寅松  
 雇 高橋哲雄 同中塚寅松  
 警手 雇 中島 朋助  
 轉轍手兼運轉掛 雇 神貫喜助 同鎌田長松  
 雇 神貫喜助 同鎌田長松  
 ○二枚橋信號場  
 驛長 書記月七三 村山 權太  
 助役 雇月五四 佐藤 留治  
 ○石鳥谷驛  
 驛長 書記四 內村 源次郎  
 助役 雇月五六 佐藤 忠治  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 雇 齋藤喜八 同牛崎榮二  
 雇 齋藤喜八 同牛崎榮二  
 轉轍手 雇 佐々木 進  
 ○日詰驛  
 驛長 書記四 江田 耕吉  
 助役 雇月五五 齋藤 萬作  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 雇 照井 計太郎  
 出札掛兼電信掛 雇 野中 政次郎  
 轉轍手兼運轉掛 雇 野中 政次郎  
 小荷物掛 雇 高橋 佐兵衛  
 雇 岸根萬次郎 同砂金 令幸  
 貨物掛 書記 同佐々木卯吉  
 雇 佐藤新一郎  
 驛務助手 同中塚寅松  
 雇 高橋哲雄 同中塚寅松  
 警手 雇 中島 朋助  
 轉轍手兼運轉掛 雇 神貫喜助 同鎌田長松  
 雇 神貫喜助 同鎌田長松  
 ○仙北町驛  
 驛長 書記三 紀 巖  
 助役 書記月六四 根田 龍二郎  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 雇 西村清次郎 同千葉健一  
 雇 西村清次郎 同千葉健一  
 小荷物掛 雇 大庭 啓壽  
 貨物掛 雇 佐々木專五郎 同佐々木孝二郎  
 驛務助手 雇 三浦 武雄  
 轉轍手 雇 大志田三四郎 同兼平彦太郎 同中村倉治  
 ○盛岡驛  
 驛長 書記一 蒔苗 完三  
 助役 書記五 伊藤 弘  
 同 月六九 三坂 慶雄  
 豫備助役 書記月六一 齋藤 正吉

九四

同 雇月五四 小泉 命助  
 庶務掛 雇 泉山 清次郎  
 庶務掛兼改札掛 雇 藤島 末治  
 出札掛 書記 堀口 治太郎  
 雇 齋藤正人 同熊谷圓吉 同木幡一三  
 改札掛 雇月館正三郎 同菅田眞次郎 同菊池庄一 同駿河吉一 同金田一文雄  
 小荷物掛 書記 澁田 大藏  
 雇 山口政司 同小野寺確郎 同高橋誠志  
 貨物掛 書記 菊地 喜代治  
 同 古川源次郎 雇 高松良次 同北川政雄 同工藤松太郎 同澤藤省一  
 電信掛 書記 堀 武  
 雇 小原博 同大江愛次郎 同田中竹次郎 同工藤操二 同岡崎勇藏 同宮田幸一 同吉田助治  
 同馬場喜一 同日下仁平  
 同渡邊虎男 同門間茂一 同砂金光枝 同佐藤榮  
 驛務助手 雇 西條 覺治郎  
 同中塚德太郎  
 運轉掛 書記 葛西 勇五郎  
 同 大川賢次郎  
 運轉掛兼助役 書記 谷村勝太郎  
 車號掛 鐵道手 及川 伊兵衛  
 同 三浦芳太郎 雇 高橋喜代治  
 同 神山榮吉  
 操車掛 鐵道手 野中 谷藏  
 雇 橋定治 同福島助三郎 同吉田彦次郎 同中村賢吉  
 信號掛 書記 佐藤 三太郎  
 鐵道手 雇 小川 恒  
 雇 木村勇吉 同天沼彌太郎 同小笠原金太郎 同田上正成 同佐藤清之  
 電話掛 雇 本藤タカ 同吉田信  
 同 高橋ふみ 同村野タカ 同大村キク 同遠藤キミヨ 同長澤ナカ  
 驛手世話役 雇 齋藤 甚之助  
 警手鐵道手 雇 照井 末吉  
 雇 藤原干太 同花立末吉  
 整燈手 雇 菊池 儀藏  
 荷扱手 雇 吉田 藤吉  
 同 小笠原 勝郎  
 轉轍手 雇 佐々木仁右衛門  
 同 吉田良治 同泉田清之助 同  
 淺沼清吾 同田上與太郎 同熊谷三五  
 ○厨川驛  
 驛長 書記四 小野 茂雄  
 助役 雇月六〇 永井 長次郎  
 轉轍手兼運轉掛 雇 松本春藏 同江刈内與吉  
 ○瀧澤驛  
 驛長 書記四 川井 小一郎  
 助役 雇月五四 松枝 岩吉  
 轉轍手兼運轉掛 雇 田鎖高命 同立花勘次郎  
 ○好摩驛  
 驛長 書記三 村井 政治  
 助役 鐵道手 月老 菊池 吉五郎  
 豫備助役 雇 佐野川源一郎  
 雇 月五九 佐野川源一郎  
 出札掛兼電信掛 雇 都島四郎 同菊池朝男  
 小荷物掛 雇 石川 鐵次郎  
 信號掛 雇 竹田直吉 同野々村常吉  
 轉轍手 雇 佐藤 米次郎  
 轉轍手兼運轉掛 雇 竹田善一 同坂本與八  
 ○川口驛  
 驛長 書記三 川崎 儀八  
 助役 雇月五四 佐藤 政勝  
 出札掛兼電信掛 雇 都 澤  
 出札掛兼電信掛、運轉掛 雇 桑 添 榮  
 轉轍手兼運轉掛 雇 村松三太郎 同高橋 源次郎  
 ○沼宮内驛  
 驛長 書記三 從七 桐生 成雄  
 助役 書記月六〇 佐藤 恒次  
 豫備助役 雇月五 戶來 角造  
 出札掛兼電信掛 雇 竹田萬次郎 同豊川兼太郎  
 貨物掛 雇 岩井 茂治  
 驛務助手 雇 苗代澤金次郎  
 操車掛兼運轉掛 雇 竹田金次郎 同中澤千太郎  
 操車掛 雇 雇 民部田平二期 同澤瀨忠次郎  
 轉轍手 雇 岩崎壽次郎 同山口榮次郎 同松兼松 同中島末吉 同村井初太郎  
 ○御堂信號場  
 驛長 書記四 玉山 直次郎  
 助役 雇月三動八 藤原 精毅

鐵道關係

九五